

**カンボジア王国**  
**政府統計能力向上プロジェクトフェーズ3**  
**終了時調査報告書**

平成26年10月  
(2014年)

独立行政法人国際協力機構  
産業開発・公共政策部

産公
JR
14-109

**カンボジア王国**  
**政府統計能力向上プロジェクトフェーズ3**  
**終了時調査報告書**

平成26年10月  
(2014年)

**独立行政法人国際協力機構**  
**産業開発・公共政策部**

## 序 文

カンボジア王国政府の要請に基づき、日本国政府が「カンボジア王国政府統計能力向上プロジェクトフェーズ3」を行うことを決定したのに伴い、当機構は、2010年10月1日から2015年3月31日までの予定で本技術協力を行っています。

当機構は、2014年8月31日から9月13日まで終了時評価調査を実施し、これまでの活動実績、進捗状況について、総合的なレビューを行うとともに、今後の対応等について協議しました。

これらのレビュー結果は、ミニッツに取りまとめられ、調査団・カンボジア王国計画省統計局双方の合意の下に、署名交換が行われました。

本報告書は、終了時評価調査及び協議結果を取りまとめたものであり、今後の技術協力事業を効果的かつ効率的に実施していくための参考として、活用されることを願うものであります。

終わりに、これらの調査にご協力とご支援を頂いた関係各位に対し、心から謝意を表するとともに、引き続き本プロジェクトに対する支援をお願い申し上げます。

平成 26 年 10 月

独立行政法人国際協力機構  
産業開発・公共政策部長 植嶋 卓巳

# 目 次

序 文

目 次

プロジェクトの位置図

写 真

略語一覧

評価調査結果要約表

第1章 終了時評価調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成と調査期間	1
1-3 対象プロジェクトの概要	2
1-3-1 プロジェクトの要約	2
1-3-2 プロジェクト期間	3
1-3-3 プロジェクト実施機関	3
1-3-4 対象地域	4
1-3-5 対象者	4
第2章 評価の方法	5
2-1 評価手法	5
2-2 データ収集・分析方法	5
2-3 評価調査の制約・限界	6
第3章 プロジェクトの実績	7
3-1 投入実績	7
3-1-1 日本側の投入	7
3-1-2 カンボジア側の投入	8
3-2 成果（アウトプット）の実績	9
3-2-1 成果1の達成状況	9
3-2-2 成果2の達成状況	10
3-2-3 成果3の達成状況	11
3-2-4 成果4の達成状況	12
3-2-5 成果5の達成状況	14
3-2-6 成果6の達成状況	15
3-2-7 成果7の達成状況	18
3-2-8 成果8の達成状況	20
3-3 プロジェクト目標の達成度	21
3-4 実施プロセスにおける特記事項	24

第4章 評価結果 .....	25
4-1 5項目ごとの評価 .....	25
4-1-1 妥当性.....	25
4-1-2 有効性.....	26
4-1-3 効率性.....	27
4-1-4 インパクト.....	29
4-1-5 持続性.....	31
4-2 結論 .....	33
第5章 提言と教訓 .....	34
5-1 提言 .....	34
5-2 教訓 .....	35
付属資料	
1. 主要面談記録 .....	39
2. 協議議事録 (Minutes of Meeting : M/M)、Joint Terminal Evaluation Report .....	73
[Annex 1] Schedule of the Terminal Evaluation .....	118
[Annex 2] PDM Version 0.....	120
[Annex 3] Plan of Operations.....	122
[Annex 4] Assignments of the Japanese Experts.....	123
[Annex 5] List of Counterpart Personal (c/p) .....	127
[Annex 6] List of Equipment Provided.....	132
[Annex 7] List of Training in Japan and Technical Exchange in the Third Countries .....	136
[Annex 8] List of Publications.....	137
[Annex 9] List of Manuals and Documents.....	139
3. 政府統計団員所見.....	141
4. 団長所感 .....	143
5. 終了時評価グリッド.....	145

## 表 目 次

表-1 調査団の構成.....	1
表-2 データ入手手段と情報源.....	6
表-3 本邦研修及び第三国技術交換プログラム.....	7
表-4 現地活動費 .....	8
表-5 NISによるローカルコスト負担 .....	9
表-6 小地域統計サブプロジェクト実施州.....	17
表-7 人口センサス/調査実施費用のNIS負担額・割合.....	32
表-8 経済センサス/調査実施費用のNIS負担額・割合.....	32



写 真



計画省統計局（NIS）外観



刊行された州別の小地域統計レポート



州計画局小地域統計担当職員の  
業務の様子



2014 年中間年経済調査速報結果公表式典



小地域統計実施のために  
州計画局に供与された資機材



終了時評価報告書への署名

## 略 語 一 覧

略語	英文正式名	和 名
ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
ARO	Assistant Regional Officer	副地域指導官
CIES	Cambodia Inter-censal Economic Survey	中間年経済調査
CIPS	Cambodia Inter-censal Population Survey	中間年人口調査
C/P	Counterpart	カウンターパート
CSPro	Census and Survey Processing System	センサス調査処理(米国センサス局開発ソフトウェア)
CTC	Census Technical Committee	センサス技術委員会
DDG	Deputy Director General	副局長
DG	Director General	局長
EA	Enumeration Area	調査区
EC	Economic Census	経済センサス
FAO	Food and Agricultural Organization of the United Nations	国際連合食糧農業機関
FY	Fiscal Year	会計年度
GIS	Geographic Information System	地理情報システム
GIZ	Deutsche Gesellschaft für International Zusammenarbeit	ドイツ国際協力公社
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
KOICA	Korea International Cooperation Agency	韓国国際協力団
MDGs	Millennium Development Goals	ミレニアム開発目標
MEF	Ministry of Economy and Finance	経済財政省
MIC	Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
M/M	Man Month	人月
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
MOP	Ministry of Planning	計画省
NCC	National Census Committee	国家センサス委員会
NGO	Non-Governmental Organization	非政府組織
NIS	National Institute of Statistics	計画省統計局
NSC	National Steering Committee	国家運営委員会
NSDP	National Strategic Development Plan	国家戦略開発計画
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
OJT	On-the-Job Training	実地訓練



PCC	Provincial Census Committee	州センサス委員会
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス (プロジェクト概要表)
PDP	Provincial Department of Planning	州計画局
PES	Post Enumeration Survey	事後調査
R/D	Record of Discussion	討議議事録
RO	Regional Officer	地域指導官
SAS	Small Area Statistics	小地域統計
SASPO	Small Area Statistics Provincial Officer	小地域統計担当州職員
SCO	Senior Commanding Officer	シニア・コマンディング・オフィサー (NIS内の担当職員)
SCS	Simple Calculation System	シンプル・カリキュレーション・システム [(独法) 統計センター開発ソフトウェア]
Sida	Swedish International Development Agency	スウェーデン国際開発協力庁
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
UNFPA	United Nations Population Fund	国連人口基金

## 評価調査結果要約表

<b>1. 案件の概要</b>	
国名：カンボジア王国	案件名：政府統計能力向上プロジェクトフェーズ 3
分野：統計	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：産業開発・公共政策部ガバナンスグループ行財政・金融チーム	協力金額（評価時点）：約 5 億 6,000 万円
協力期間	(R/D) 2010 年 6 月
	2010 年 10 月～ 2015 年 3 月 (4.5 年間)
	先方関係機関：計画省統計局（NIS） 日本側協力機関：総務省統計局、総務省統計研修所、独立行政法人統計センター 他の関連協力： JICA 協力プログラム「政府統計能力向上プロジェクトフェーズ 1」（2005 年 8 月～2007 年 3 月）、「政府統計能力向上プロジェクトフェーズ 2」（2007 年 4 月～2010 年 9 月）
<b>1-1 協力の背景と概要</b>	
<p>カンボジア王国（以下、「カンボジア」と記す）は内戦の影響により開発が遅れており、持続的成長と安定した社会を実現するため、グッド・ガバナンスの推進を重点分野に掲げ、開発政策の立案・モニタリングのため、政府統計の実施能力向上に取り組んできた。JICA は 2005 年以降、「政府統計能力向上プロジェクト」（フェーズ 1 及び 2）を通じ、2008 年の人口センサス支援を中心に計画省統計局（National Institute of Statistics : NIS）の統計能力強化を支援してきた。これらの協力により NIS の能力は向上しつつあるが、次回的人口センサス（2018 年予定）まで、移転された技術・知識を維持することが課題であった。</p> <p>また、カンボジア政府は同国初の経済センサス（Economic Census : EC）の実施を 2011 年に予定していたため、NIS が同センサスに必要な専門技術・知識を身に付けることが喫緊の課題のひとつであった。さらに、地方分権化を推進するカンボジアにおいて、州政府が政策立案・モニタリングに統計情報の活用ができるよう州計画局の政府統計能力の向上に努める必要があった。</p> <p>上記の課題に係るカンボジア政府からわが国へ要請を受け、JICA は総務省統計局の協力を得て、2010 年 10 月から「政府統計能力向上プロジェクトフェーズ 3」を開始した。本プロジェクトは、NIS をカウンターパート（Counterpart : C/P）機関として、2010 年 10 月から 2015 年 3 月までの 4.5 年間の予定で実施している。</p> <p>今回実施した終了時評価調査は、2015 年 3 月のプロジェクト終了を控え、プロジェクト活動の実績、成果を評価、確認するとともに、今後のプロジェクト活動に対する提言及び今後の類似事業の実施にあたっての教訓を導くことを目的とした。</p>	
<b>1-2 協力内容</b>	
(1) 上位目標	
NIS 及び州計画局により有用な統計情報が提供され、中央省庁及び州政府の政策、計画、	

戦略等の立案・実施・モニタリングに活用される。

(2) プロジェクト目標

NIS 及び州計画局が、経済センサス、中間年人口調査（Cambodia Inter-censal Population Survey : CIPS）、経済統計調査及びその他統計活動を実施する能力が向上する。

(3) 成 果

- 1) NIS 及び州計画局が経済センサスをはじめ政府統計調査に関する政府統計の計画、調査実施を行えるようになる。
- 2) NIS が経済センサスをはじめ政府統計調査における集計・結果表作成を行えるようになる。
- 3) NIS が経済センサスをはじめ政府統計調査における結果分析を行えるようになる。
- 4) NIS が、経済センサスをはじめとする政府統計調査結果の提供及び政府統計に関する理解促進を行えるようになる。
- 5) NIS が経済センサスに関する小地域統計（Small Area Statistics : SAS）を実施できるようになる。
- 6) 州計画局が州レベル以下の行政単位における結果表の作成・公表を行えるようになる。  
（小地域統計サブプロジェクト）
- 7) NIS 及び州計画局が政府統計に必要な技術・知識を維持するための、仕組みが構築される。
- 8) NIS 及び州計画局の調整能力が向上する。

(4) 投入（評価時点）

1) 日本側

短期専門家派遣：31名〔152.75人月（M/M）〕

研修員受入：（本邦）12名、（第三国）15名

機材供与：2,570万円

ローカルコスト負担：9,620万円

2) カンボジア側

カウンターパート配置：2011年経済センサスのために24名、2013年中間年人口調査のために57名、2014年中間年経済調査〔Cambodia Inter-censal Economic Survey (IES)〕のために27名、小地域統計のために12名（延べ120名）

土地・施設提供：執務室、光熱水道費

ローカルコスト負担：92万7,029米ドル（2011年経済センサス、2013年中間年人口調査及び2014年中間年経済調査実施費用）

2. 評価調査団の概要	
調査者	<p>&lt;日本側&gt;</p> <p>総括 富澤 隆一 JICA 産業開発・公共政策部次長</p> <p>政府統計 金室 貴子 総務省統計局統計調査部経済統計課サービス年次統計係長</p> <p>協力企画 高附 翔 JICA 産業開発・公共政策部ガバナンスグループ行財政・金融チームジュニア専門員</p> <p>評価分析 首藤 久美子 有限会社アイエムジー上席研究員</p> <p>&lt;カンボジア側&gt;</p> <p>H.E. Ms. Hang Lina 計画省統計局（NIS）局長</p> <p>Mr. Heang Kanol 計画省統計局副（NIS）局長</p> <p>Mr. Meng Kimhor 計画省統計局副（NIS）局長</p> <p>Mr. Khin Sovorlak 計画省統計局副（NIS）局長</p> <p>Mr. Kim Net 計画省統計局（NIS）社会統計課課長補佐</p>
調査期間	2014年8月31日～9月13日
	評価種類：終了時評価
3. 評価結果の概要	
3-1 実績の確認	
(1) 投入	
<p>日本側、カンボジア側からも計画どおり十分な投入が行われた。小地域統計サブプロジェクト実施にあたって、計画していたよりも多数の地域指導官（Regional Officer：RO）と副地域指導官（Assistant Regional Officer：ARO）の州への配置が必要となったが、NISはこの状況に対応し、十分な数の人的資源を州計画局支援のために投入した。</p>	
(2) 成果	
<成果1（計画・調査実施）>	
<p>成果1は達成された。NIS及び州計画局は2011年経済センサス、2013年中間年人口調査、2014年中間年経済調査を成功裡に実施し、人口・経済調査の両方を計画・実施できるようになった。特に、2011年経済センサスに関しては、カンボジアで実施された初めての事業所に関する全数調査であったことをかんがみると、大きな成果だったといえる。</p>	
<成果2（集計・審査）>	
<p>成果2は達成された。NISは2011年経済センサス、2013年中間年人口調査、及び2014年中間年経済調査のデータ集計・統計表の作成を行った。C/Pは、その過程で、シンプル・カリキュレーション・システム（Simple Calculation System：SCS）やセンサス調査処理（Census and Survey Processing System：CSPro）といった統計ソフトウェアの使い方を学んだ。現在は、専門家からの手厚い支援を必要とせずにそれらのプログラムを使いこなすことができる。一方で、経済データに関しては、企業・事業所が多種多様な特徴をもってい</p>	

ること、コンピュータ処理による自動的なエラーの補定 (imputation) が不可能なこと、C/P 職員が経済データの扱いに不慣れなことなどから、データクリーニングに要する時間が見込みよりも大幅に (半年程度) 長くなった。

#### <成果 3 (分析) >

成果 3 は、一定程度達成されたものの、さらなる支援が必要である。2011 年経済センサス及び 2013 年中間年人口調査のデータ分析・レポート作成を行う過程で、NIS 職員の分析能力は向上した。NIS は人口調査に関しては、ほぼ自立して分析レポートを作成することができている。他方、経済調査の分析に関しては、いまだに専門家から重点的な支援が必要な状況である。これは、主に、2011 年経済センサスが、カンボジアにとって初の経済センサスであり、NIS にこれまでの経験の蓄積がなかったためである。

#### <成果 4 (結果提供) >

成果 4 はおおむね達成されたが、ウェブサイトへの情報掲載について改善すべき事項がある。NIS は統計調査結果を提供するための式典やセミナーの開催手続きを確立したほか、2011 年経済センサス、2013 年中間年人口調査に関する各種多様なレポートを刊行した。一方で、レポートの NIS ウェブサイトへの掲載については、現在のところ、2011 年経済センサスに係る 1 冊のレポートが掲載されているだけであり、より積極的な掲載が望まれる。

#### <成果 5 (小地域統計) >

成果 5 は達成された。RO・ARO は研修を受講し、小地域統計実施・指導方法を習得した。その後、RO・ARO は、州計画局に対して小地域統計を指導できるレベルになった。

#### <成果 6 (州計画局に対する研修) >

成果 6 は一定程度達成された。各州計画局に対してコンピュータ室整備のための機材供与が行われ、小地域統計に関する研修も計画どおりすべての州で実施されている。しかし、州計画局職員は、これまで能力強化研修を受けた経験が少なく、小地域統計実施能力はまだ限定的である。地方分権化を進める首相の命令により、2014 年 2 月に NIS 内に地方統計課 (Sub-national Statistics Department) が新たに設置されたので、今後は、プロジェクトの小地域統計サブプロジェクト実施経験を踏まえ、当課が来年 (2015 年) から本格的に州計画局の強化に取り組んでいくことが推奨される。

#### <成果 7 (ナレッジマネジメント) >

成果 7 はおおむね達成されたが、文書管理について改善すべき事項がある。2011 年経済センサスの際、重要な業務手続等は、各種マニュアルの形で整備され、以前と比べ、職員間での技術・知識の移転が容易になった。しかし、職員間で、主要な文書のソフトコピーの共有システムや手続きが確立されておらず、管理が十分でない状況である。また、NIS がドナーにソフトコピーの管理を依存している状況が見受けられる。

#### <成果 8 (調整)>

成果 8 は達成された。中央・州レベルに設置されているさまざまな調整メカニズムは問題なく機能している。

#### (3) プロジェクト目標の達成度

NIS・州計画局ともに、人口・経済調査及び小地域統計を実施する能力を向上させており、プロジェクト目標は、比較的高いレベルで達成できる見込みである。しかし、成果 3 (NIS の分析能力)、成果 6 (州計画局の小地域統計実施能力) については、課題が残されている。

#### (4) 実施プロセス

##### 1) 効率的な専門家派遣

専門家は短期のシャトル型で派遣されており、先方のニーズに対応した柔軟かつ効率的な派遣が可能となっている。

##### 2) 効果的な官民合同の専門家体制

専門家チームは直営の官団員と業務実施契約の民間コンサルタントで構成されており、官民合同の派遣体制が採られている。この体制により、NIS が必要とする多岐にわたる専門分野の人材を調達することが可能となり、プロジェクトの有効性向上に寄与している。

##### 3) 2013 年農業センサスの影響

農業センサスが 2013 年 4 月に急遽実施されたため、その時期、C/P 職員はプロジェクト活動に対して十分な時間を割くことができなかった。これにより、C/P の 2011 年経済センサス分析とレポート作成作業に遅れが生じた。

### 3-2 評価結果の要約

#### (1) 妥当性

妥当性は高い。プロジェクトはカンボジアの優先開発政策や日本の対カンボジア ODA 政策に合致しているほか、日本が得意とする政府統計の技術を支援しながら、NIS・州計画局職員といったターゲットグループのニーズに適切に対応した活動を展開している。加えて、本フェーズで最大の効果を引き出すことができるよう、フェーズ 1、2 との一貫性・連続性を確保しながら、継続した日本の技術協力を行うというプロジェクトのアプローチは適切だといえる。

#### (2) 有効性

有効性は比較的高い。NIS の経済データの分析能力及び州計画局の小地域統計実施能力はさらに強化していく必要があるが、概して各種調査の実施能力は向上し、関連機関との調整能力も問題ないレベルに達している。プロジェクト目標は協力期間終了時までには比較的高いレベルで達成される見込みである。

### (3) 効率性

効率性は比較的高い。投入は日本・カンボジア両国から計画どおり行われ、特に人的資源の配置が適切に行われた。各種調査が成功裡に行われ、投入に見合ったアウトプットも産出されている。他方、2013年に農業センサスが急遽実施されC/Pの業務量が増大したこと、2011年経済センサス及び2014年中間年経済調査の経済データクリーニングに時間を要したこと等の要因がプロジェクトの効率性を低下させた。

### (4) インパクト

インパクトは比較的高い。NIS・州計画局が政府統計を実施するために必要なスキルと知識を身に付けていることから、上位目標の達成の可能性は高い。ただ、課題として、統計マスタープランで計画されている今後の統計調査に必要な財政資源を獲得できるかどうかという不安材料がある。NISの経済データ分析能力と州計画局の小地域統計実施能力を今後さらに向上させていけるかどうか、上位目標達成度を左右する。なお、これまで提供された統計結果は、カンボジア国内外で、政策決定や研究等に広く参照・活用されており、正のインパクトが確認できる。

### (5) 持続性

持続性は中～比較的高程度である。政策的・組織的持続性は高いが、統計マスタープランで計画されている統計活動が適切に実施されるように財政的持続性を高めていく必要がある。NISの経済データ分析能力及び州計画局の小地域統計実施スキルが今後強化されれば、技術的持続性はさらに高まるであろう。

## 3-3 効果発現に貢献した要因

### (1) 計画内容に関すること

専門家の短期ベースの派遣や官民合同の専門家チーム構成がプロジェクトの効果発現に寄与している。

### (2) 実施プロセスに関すること

該当なし。

## 3-4 問題点及び問題を惹起した要因

### (1) 計画内容に関すること

該当なし。

### (2) 実施プロセスに関すること

該当なし。

## 3-5 結論

フェーズ1より継続して実施されているJICAの技術協力により、NIS職員の能力は確実に向上した。フェーズ3である本プロジェクトは、NIS職員だけでなく、地方の州計画局職員の

能力向上にも積極的に取り組んでいる。プロジェクトは、比較的高いレベルでプロジェクト目標を達成することができると思込まれる。成果3（NISの分析能力）及び成果6（州計画局の小地域統計実施能力）の達成度合いを高める努力がなされれば、プロジェクト目標の達成度はより高くなるだろう。

### 3-6 提言

#### <プロジェクトへの提言>

##### (1) NISの経済データ分析能力の強化

NISが政府統計を計画・実施する能力は向上したが、分析能力、特に経済統計データの分析を行う能力はまだ十分ではない。プロジェクトの残り期間で、NIS職員は専門家とともに2014年中間年経済調査の分析レポートの作成を行い、分析能力を向上させる必要がある。また、この目標達成のために、プロジェクト期間の延長をJICAとともに検討することも一考である。

##### (2) ウェブサイトを活用した統計情報の提供

プロジェクトが刊行した各種レポートをウェブサイトに掲載することにより、統計情報をより多くの関係者に、効率的に提供することができるが、現在のところ、NISウェブサイトへの統計レポートの掲載は限られている。残りの協力期間で、プロジェクトは、NIS内の関連部署とともに、クメール語で作成された小地域統計レポートを含む各種レポートをなるべく多く掲載するよう提言する。ウェブサイトへの掲載が難しい場合には、CD-ROMでデータを提供したり、NIS内に設置されている「データ利用者サービスセンター」を積極的に紹介するなど、利用者が統計データを入手しやすくなるような便宜を図るとよいだろう。また、NIS内の担当部署の責任と役割を明確化し、ウェブサイト掲載のための業務手順を確立させるべきである。

#### <NISへの提言>

##### (3) 今後の統計調査活動に必要な資金の確保

統計マスタープランや関連政令において、2017年に中間年経済調査が、2018年に人口センサスが計画されている。NISはこれらの調査実施のための十分な資金を確保するために予算計画を作成するべきである。NISは、計画省や経済財政省、そしてドナー等に対して、政府統計が政策策定・モニタリングのために欠かせないことを主張していく必要がある。

##### (4) 計画省・NISによる州計画局への支援強化

プロジェクトは小地域統計支援により州計画局の能力強化に取り組んだが、NISのこうした地方支援の活動は緒に就いたばかりである。新設された地方統計課は、プロジェクトの小地域統計支援の経験に基づき、州計画局支援のための具体的な行動計画を立てる必要がある。

また、計画省・NISは、プロジェクトが供与した資機材の維持管理費用を確保できるよう、州計画局を支援するべきである。



#### (5) 移転されたスキル・知識の維持のための情報管理

プロジェクトを通じ、重要な業務や情報は業務マニュアル等の形で文書化されたが、そうした文書の共有は主に個人ベースで行われている。また、重要な文書のソフトコピー管理に関して、ドナーへの依存度が高い状況も見受けられる。ソフトコピーの管理については、情報共有システムや手続きを改善し、組織として適切な管理を行うことが必要である。文書管理を改善することにより、統計活動に不慣れな人員に対しても効率的にスキルや知識を移転することが可能になるであろう。

#### (6) 主要なセンサスのスケジュール調整

農業センサスが予定よりも1年前倒しになり、2013年に実施された。これにより、プロジェクト活動の円滑な実施が妨げられた。このような状況を発生させないため、センサスは適切な間隔を置いて実施されるべきである。次回の農業センサスについては、次回経済センサス実施の3年後に行われるべきである。

### 3-7 教訓

#### (1) 経済センサス/調査に関する課題

人口調査とは異なり、経済調査のためのデータクリーニングには長い時間を要することが明らかになった。これは、企業・事業所が多種多様な特徴をもっていること、職員が経済データの扱いに不慣れなこと、そしてコンピュータ処理による自動的なエラーの補定が不可能なことなどの要因による。プロジェクトは、2011年経済センサス、2013年中間年経済調査実施の際にこの問題に直面し、活動に遅延が生じた。また、C/Pの分析能力向上のために十分な時間を割くことが難しくなった。

そのため、プロジェクト実施機関の経済調査経験が乏しい場合、データクリーニングのための時間を十分に取るようにすべきである。また、C/Pの基礎知識を向上させるために、会計や企業活動に関する研修を十分に行うべきである。また、案件形成の際には、C/Pやその他経済調査を実施することになる関係者が、どの程度会計・企業活動に関する基礎知識を持っているかを評価するアセスメントを実施するべきであろう。

#### (2) 他のセンサス活動との調整

2013年に急遽農業センサスが実施されたことは、C/Pの業務量増大を招き、プロジェクトに負の影響を与えた。特に2011年経済センサスの分析作業に影響が及んだ。プロジェクトの円滑な遂行が阻害されないためには、C/Pがプロジェクト外の業務として担当する他のセンサスとのスケジュール調整が重要である。

#### (3) 統計分野技術協力プロジェクトのデザイン

センサスのように、次の活動までに10年といった長い時間が空いてしまうような活動に対する技術移転を行う際には、一度限りの技術協力にとどまらず、技術の定着を図るための継続的なOJTによる支援が必要である。その点、フェーズ1から継続して中間年センサス等を含めた主要な機会に技術移転・定着の支援を行っている本プロジェクトは、プロジェクトデザインの観点から適切な支援だったといえる。

#### (4) センサス実施のための予算の確保

課題別指針『統計』（平成22年8月改訂版）にもあるとおり、途上国においては、人口センサス、経済センサスなどの大規模統計調査を実施するための経費を独自に予算化することが困難なので、ドナー間の調整や技術協力と他のスキームとの連携が重要になってくる。本プロジェクトでは国連人口基金（United Nations Population Fund : UNFPA）との共同での実施やノンプロジェクト無償資金協力見返り資金の活用など、調査実施の費用の確保が適切に行われた。一方で先方政府負担の割合は当初より増加したものの、独自で実施できるほどには至っておらず、財政的な持続性の確保の難しさが改めて確認された。統計分野の支援にあたっては、プロジェクト終了後の統計調査の財源確保についても検討する必要がある。

# 第1章 終了時評価調査の概要

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

カンボジア王国（以下、「カンボジア」と記す）は内戦の影響により開発が遅れており、持続的成長と安定した社会を実現するため、グッド・ガバナンスの推進を重点分野に掲げ、開発政策の立案・モニタリングのため、政府統計の実施能力向上に取り組んできた。JICAは2005年以降、「政府統計能力向上プロジェクト」（フェーズ1及び2）を通じ、2008年の人口センサス支援を中心に計画省統計局（National Institute of Statistics : NIS）の統計能力強化を支援してきた。これらの協力によりNISの能力は向上しつつあるが、次の人口センサス（2018年予定）まで、移転された技術・知識を維持することが課題であった。

また、カンボジア政府は同国初の経済センサスの実施を2011年に予定していたため、NISが同センサスに必要な専門技術・知識を身に付けることが喫緊の課題のひとつであった。さらに、地方分権化を推進するカンボジアにおいて、州政府が政策立案・モニタリングに統計情報の活用ができるよう州計画局の政府統計能力の向上に努める必要があった。

上記の課題に係るカンボジア政府からわが国へ要請を受け、JICAは総務省統計局の協力を得て、2010年10月から「政府統計能力向上プロジェクトフェーズ3」を開始した。本プロジェクトは、NISをカウンターパート（C/P）機関として、2010年10月から2015年3月までの4.5年間の予定で実施している。

今回実施した終了時評価調査は、2015年3月のプロジェクト終了を控え、プロジェクト活動の実績、成果を評価、確認するとともに、今後のプロジェクト活動に対する提言及び今後の類似事業の実施にあたっての教訓を導くことを目的とした。

## 1-2 調査団の構成と調査期間

調査団の構成は表-1のとおり。

表-1 調査団の構成

<日本側>

担当分野	氏名	所属・役職
総括	富澤 隆一	JICA 産業開発・公共政策部次長
政府統計	金室 貴子	総務省統計局統計調査部経済統計課サービス年次統計係長
協力企画	高附 翔	JICA 産業開発・公共政策部ガバナンスグループ行財政・金融チームジュニア専門員
評価分析	首藤 久美子	有限会社アイエムジー上席研究員

<カンボジア側>

氏名	所属・役職
H.E. Ms. Hang Lina	計画省統計局（NIS）局長
Mr. Heang Kanol	計画省統計局（NIS）副局長
Mr. Meng Kimhor	計画省統計局（NIS）副局長
Mr. Khin Sovorlak	計画省統計局（NIS）副局長
Mr. Kim Net	計画省統計局（NIS）社会統計課課長補佐

2014年8月に文献調査や国内における関係者インタビュー等を開始し、その後、2014年8月31日から9月13日にかけて現地調査を行った。詳しい現地調査日程については付属資料2「協議事録 ANNEX 1」を参照のこと。

### 1-3 対象プロジェクトの概要

#### 1-3-1 プロジェクトの要約

プロジェクトは、プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）初版であるバージョン0（2010年6月10日）に基づいて実施されていた。PDMバージョン0に記載されたプロジェクトの要約は以下のとおり。

##### (1) 上位目標

NIS及び州計画局により有用な統計情報が提供され、中央省庁及び州政府の政策、計画、戦略等の立案・実施・モニタリングに活用される。

##### (2) プロジェクト目標

NIS及び州計画局が、経済センサス、中間年人口調査、経済統計調査及びその他統計活動を実施する能力が向上する。

##### (3) 成果

- 1) NIS及び州計画局が経済センサスをはじめ政府統計調査に関する政府統計の計画、調査実施を行えるようになる。
- 2) NISが経済センサスをはじめ政府統計調査における集計・結果表作成を行えるようになる。
- 3) NISが経済センサスをはじめ政府統計調査における結果分析を行えるようになる。
- 4) NISが、経済センサスをはじめとする政府統計調査結果の提供及び政府統計に関する理解促進を行えるようになる。
- 5) NISが経済センサスに関する小地域統計を実施できるようになる。
- 6) 州計画局が州レベル以下の行政単位における結果表の作成・公表を行えるようになる。  
(小地域統計サブプロジェクト)
- 7) NIS及び州計画局が政府統計に必要な技術・知識を維持するための、仕組みが構築される。
- 8) NIS及び州計画局の調整能力が向上する。

##### (4) 活動

###### 【1 計画・調査実施】

- 1-1 経済センサス及びその他統計調査の企画及び調査の実施
- 1-2 経済センサスの統計調査の調査区設定の実施
- 1-3 経済センサスの統計調査の調査区の維持・管理

###### 【2 集計、審査】

- 2-1 NISにおける経済センサスに関する統計調査の集計システムの構築

- 2-2 統計調査の集計の実施
- 2-3 統計調査の個別データの審査
- 2-4 統計調査の結果表の作成及び審査

**【3 分析】**

- 3-1 調査集計結果の分析

**【4 結果提供】**

- 4-1 経済センサス報告書の編集
- 4-2 経済センサス結果の CD の作成
- 4-3 経済センサス結果のウェブコンテンツの作成
- 4-4 経済センサス結果に基づく統計地図の作成
- 4-5 経済センサス結果に基づくセンサスアトラスの作成
- 4-6 主要関係省庁及び州政府（計画局含む）に対する経済センサスの結果利用・分析に係る研修
- 4-7 2011 年経済センサス結果公表時にワークショップを開催
- 4-8 2013 年中間年人口センサス結果公表時にワークショップを開催
- 4-9 2014 年経済統計調査結果公表時にワークショップを開催
- 4-10 プロジェクト広報のためのセミナー開催

**【5 小地域統計】**

- 5-1 経済センサスの Village 別詳細集計システムの構築
- 5-2 中央省庁及び州政府（計画局を含む）を対象とした、経済センサスの Village 別詳細集計結果の利用・分析に係る研修実施

**【6 州計画局に対する研修】**

- 6-1 NIS のリージョナル・オフィサーを対象とした、州計画局研修のインストラクターになるための研修実施
- 6-2 2008 年人口センサス及び 2011 年経済センサス（2009 年事業所リスティング含む）データに関する結果表作成の研修実施
- 6-3 2008 年人口センサス及び 2011 年人口センサス（2009 年事業所リスティング含む）に関する結果提供についての研修実施

**【7 ナレッジマネジメント】**

- 7-1 政府統計調査詳細手続関連の文書の作成及び維持・管理

**【8 調整】**

- 8-1 統計調査実施上必要とされる各種会議への参加

1-3-2 プロジェクト期間

2010 年 10 月～2015 年 3 月（約 4.5 年間）

1-3-3 プロジェクト実施機関

計画省統計局（NIS）

1-3-4 対象地域

カンボジア全土

1-3-5 対象者

計画省統計局（NIS）職員、州計画局統計担当職員

## 第2章 評価の方法

### 2-1 評価手法

プロジェクト終了まで残すところ約半年となり、協力期間終了時にプロジェクト目標がどれだけ達成されるか、上位目標の達成見込みはどの程度か、協力期間延長の必要はないか等を判断する時期を迎えた。プロジェクト終了を控えたこの時期に終了時評価を行うことにより、プロジェクト活動の実績・成果の評価・確認を行い、また、今後の提言及び他の類似事業の実施にあたっての教訓も導き出すこととした。

本終了時評価では、『新 JICA 事業評価ガイドライン第1版』（2010年6月）に従い、プロジェクトの実績と実施プロセスを把握したあと、以下の評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点から分析を行った。

#### ① 妥当性 (relevance)

プロジェクトのめざしている効果（プロジェクト目標や上位目標）が、受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か、公的資金である政府開発援助（ODA）で実施する必要があるかといった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う視点。

#### ② 有効性 (effectiveness)

プロジェクトの実施により、本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされているのか（あるいは、もたらされるのか）を問う視点。

#### ③ 効率性 (efficiency)

主にプロジェクトのコストと効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいはされるか）を問う視点。

#### ④ インパクト (impact)

プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的、間接的效果や波及効果をみる視点。予期していなかった正・負の効果・影響を含む。

#### ⑤ 持続性 (sustainability)

援助が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか（あるいは持続の見込みはあるか）を問う視点。

本評価はプロジェクト終了前の評価調査のため、④インパクト、⑤持続性に関しては、評価時点での予測となっている。終了時評価では、これまでの実績を確認し、5項目に従った評価を行い、提言と教訓を引き出すことを目的とした。

評価実施に際し、プロジェクト管理のための要約表である PDM に基づき、計画の達成状況や達成見込みを調べるための評価グリッドを作成し、具体的な評価設問を定めた。

本プロジェクトでは、プロジェクト開始前に作成された PDM バージョン 0 を使用していた。したがって、終了時評価調査では、PDM バージョン 0 に基づいて情報を収集・分析した。

### 2-2 データ収集・分析方法

調査では、さまざまな情報源から、複数のデータ収集手法を用いて情報収集を行った。調査手

法及び情報源のトライアングレーションが可能となり、調査の信頼性を高めることができるからである。

今回の調査、特に現地調査では、定量的なデータとともに、定性的な情報の収集にも注力している。定量的なデータは既存の資料で既にある程度入手可能だったのに対し、定性的な情報、特にプロジェクト実施にあたっての貢献要因・阻害要因といった詳細な情報については、現地調査における情報収集が不可欠だったからである。したがって、インタビュー、観察、そして自由記述欄を多く設けた質問票調査など、定性的な情報を引き出すための手法を中心に調査がなされた。以下の表－２に、調査手法と情報源をまとめた。

表－２ データ入手手段と情報源

データ入手手段	情報源
文献・資料調査	政策文書、プロジェクト関連資料、プロジェクト報告書、JCC 等各種会議議事録等
質問票調査	プロジェクト専門家、カウンターパート (C/P)
インタビュー	プロジェクト専門家、C/P、カンボジア中央・州政府関係者、他援助機関等
観察・インタビュー	NIS、プノンペン市計画局、コンポンスプー州計画局、プレイヴェン州計画局、2014 年中間年経済調査速報結果公表式典

文献・資料調査は、主に現地調査前に国内で行い、プロジェクトのアウトプットと実施プロセスを中心に確認した。また、現地調査開始前に質問票をプロジェクト専門家 7 名及び C/P 4 名に対し電子メールで配布し、調査団の現地入り前に質問票を回収した。現地入りしてからは、質問票配布先やその他関係者に対してインタビューを行い、補足情報の収集を行った。質問票の配布先でない政府関係者等に対しても、それぞれ 1 時間程度のインタビューを行った。

評価者は NIS のほか、プノンペン市計画局、コンポンスプー州計画局、プレイヴェン州計画局の様子も観察し、州計画局関係者に対し臨機応変にインタビューを行いながら定性データを中心に情報収集した。さらに、「2014 年中間年経済調査速報結果公表式典」にも参加し、プロジェクトの活動の様子を観察した。

上記のデータ収集により得られた情報は、「2－1 評価手法」で示した評価 5 項目ごとに分析された。最終的なデータの分析結果は、「4 評価結果」に示した。

### 2－3 評価調査の制約・限界

時間や資源の制約からすべての専門家や C/P に対してインタビューを行うことは不可能だった。また、プロジェクトの主要受益者である州計画局については、すべてを訪問するのは不可能であった。現地滞在期間が限られていたため、調査で訪問した州は主に首都プノンペンの近隣州だった。

こうしたサンプルの偏りの問題を克服するために、文献調査や関係者インタビューによって関連情報を収集したりするなどの方策を取った。調査では、プロジェクト実施に直接携わっている多数の C/P 職員やプロジェクト専門家から情報を得ることができたので、調査枠組みのなかで得られた収集情報は一定の信頼性と妥当性を維持しているといえる。



## 第3章 プロジェクトの実績

### 3-1 投入実績

#### 3-1-1 日本側の投入

##### (1) 専門家派遣

プロジェクト開始以降、チーフアドバイザー、集計/審査、センサス/調査計画策定、地図作成、小地域集計/業務調整、結果分析といった分野の短期専門家 31 名が派遣された。先方のニーズに合致した技術が提供できるように、専門家は、総務省統計局及び民間組織の混成チームとして派遣されている。これまで投入された人/月（Man Month：M/M）は 152.75<sup>1</sup>である。C/P へのインタビューでは、プロジェクト専門家はセンサス計画・実施に関して高度な専門知識を備えているとともに、業務に対する高い熱意をもっているという評価が定着していた。

専門家の投入に関する詳細は、付属資料 2. 協議議事録 ANNEX 4 を参照のこと。

##### (2) 研修員受入

これまで 12 名の C/P が本邦研修を受講し、延べ 15 名の C/P が第三国で開催された技術交換に参加した（表-3。詳細については付属資料 2. 協議議事録 ANNEX 7 を参照）。

本邦研修に参加した C/P は、インターネットや電子メールを活用した調査手法、企業・事業所データベース構築といった研修で学んだ新たなスキルや知識を帰国後の業務で活用している。第三国の技術交換に参加した C/P は、相手国でカンボジアにおける業務の説明発表を行ったり、さまざまな質問に回答したりすることで、情報共有をしたり、新たな知識を得たりすることができた。カンボジアと社会経済状況が似ている東南・南アジアの第三国での技術交換では、C/P にとって直接参考になる情報が数多く得られたとのことだった。

また、こうした研修の参加者は、帰国後、関係者や各種会議出席者に研修で学んだことを広く伝えようと努力しており、研修のインパクトは受講者にとどまることなく、広く関係者に及んでいるといえる。

表-3 本邦研修及び第三国技術交換プログラム

研修テーマ	開催国	期間	参加者数
中間年人口調査の調査計画	日本	3週間 (2011年1月)	3
中間年人口調査の集計	日本	3週間 (2012年1月)	3
カンボジア経済調査の調査計画	日本	3週間 (2013年1月)	3
カンボジア経済調査の集計	日本	3週間 (2014年1月)	3

<sup>1</sup> 国内における業務 1.93M/M を含む。

スリランカセンサス・統計局との技術交換（小地域統計、人口センサス、産業センサス）	スリランカ	5日間 (2011年5月)	3
インドネシア統計局との技術交換（小地域統計）	インドネシア	5日間 (2011年9月)	3
ラオス統計局との技術交換（人口センサス、経済センサス、小地域統計）	ラオス	5日間 (2012年11月)	3
ミャンマー統計局との技術交換（人口センサス、経済センサス、小地域統計）	ミャンマー	5日間 (2013年5月)	3
ネパール統計局との技術交換（人口センサス、経済センサス、小地域統計）	ネパール	5日間 (2014年5月)	3

### (3) 供与機材

パソコン、ソフトウェア、コピー機等、総額 2,567 万 4,000 円分<sup>2</sup>の機材がこれまで 24 州計画局に供与された。これらの機材は日常的に使用されており、維持管理状況もおおむね良好である。供与機材の詳細については、付属資料 2. 協議議事録 ANNEX 6 を参照のこと。

### (4) 現地活動費

これまで 9,626 万 1,000 円が現地活動費として支出された（表－4）。

表－4 現地活動費<sup>3</sup>

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次 <sup>4</sup>	計
2,865 万 3,000 円	1,383 万 2,000 円	2,477 万 5,000 円	2,900 万 1,000 円	9,626 万 1,000 円

## 3-1-2 カンボジア側の投入

### (1) 人員配置

NIS の職員延べ 120 名（2011 年経済センサスのために 24 名、2013 年中間年人口調査のために 57 名、2014 年中間年経済調査のために 27 名、小地域統計のために 12 名）がコア C/P として活動し、専門家から技術移転を受けている。そのほかにも付属資料 2. 協議議事録 ANNEX 5 に示した人員が C/P として活動を行っている。

### (2) ローカルコスト負担

プロジェクト期間中、2011 年経済センサス、2013 年中間年人口調査、2014 年中間年経済調査の 3 つの主要なセンサス・調査活動が行われたが、NIS は表－5 のとおり、コストの一部を負担した。NIS は、3 つの調査合計で 92 万 7,029 米ドルを負担し、これは調査に係る全コストの約 19% に相当する。

<sup>2</sup> 4 年次支出予定の 536 万 8,000 円を含む。

<sup>3</sup> 1 年次は 2010 年 10 月から 2011 年 3 月まで、2 年次は 2011 年 4 月から 2012 年 4 月まで、3 年次は 2012 年 5 月から 2013 年 6 月まで、4 年次は 2013 年 8 月から 2015 年 3 月までを指す。

<sup>4</sup> 4 年次は見込みの支出額

表－５ NIS によるローカルコスト負担

	総費用（米ドル）	NIS 負担額（米ドル）	NIS 負担割合
2011 年経済センサス	3,537,577	706,327	20%
2013 年中間年人口調査	1,156,667	147,615	13%
2014 年中間年経済調査	316,328	73,087	23%
計	5,010,572	927,029	19%

(3) 土地・建物・設備

カンボジア側は、プロジェクトに対し、これまでプロジェクトの執務スペースを提供してきたほか、執務に必要な光熱水道費の負担を行ってきた。

3－2 成果（アウトプット）の実績

3－2－1 成果 1 の達成状況

成果 1 は「【計画・調査実施】NIS 及び州計画局が経済センサスをはじめ政府統計調査に関する政府統計の計画、調査実施を行えるようになる」である。

指 標	達成状況
1-1.作成したヴィレッジ地図及び調査区地図の数	<p>&lt;2011 年経済センサス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Village 地図：1 万 4,104 枚</li> <li>・ 調査区地図：1,550 枚</li> </ul> <p>&lt;2013 年中間年人口調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Village 地図：955 枚</li> <li>・ 調査区地図：955 枚</li> </ul> <p>&lt;2014 年中間年経済調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Village 地図：553 枚</li> <li>・ 調査区地図：553 枚</li> </ul>
1-2.作成したヴィレッジ地図及び調査区地図を利用した統計調査数	<p>【2010 年度】</p> <p>2011 経済センサス＝1 件</p> <p>【2011 年度】</p> <p>2011 経済センサス事後調査＝1 件</p> <p>2013 中間年人口調査プリテスト＝1 件</p> <p>【2012 年度】</p> <p>2013 中間年人口調査＝1 件</p> <p>【2013 年度】</p> <p>2014 中間年経済調査プリテスト＝1 件</p> <p>2014 中間年経済調査＝1 件</p>

成果 1 は達成された。

2011 年経済センサス、2013 年中間年人口センサス、2014 年中間年経済調査など、主要な統計調査が計画どおり実施された。上表に記載された Village 地図や調査区地図等の成果品リストに示されたように、NIS 及び州計画局は、これらの調査を成功裡に実施することができた。2011 年経済センサスがカンボジアで実施された初めての事業所に関する全数調査であったことを

かんがみると、これらの調査を円滑に行うことができたというのは、大きな成果だったといえる。

専門家や C/P によると、成果 1 の成果要因のひとつとして挙げられるのは、NIS と州計画局間の技術的指導系統と行政的指揮命令系統が明確で、問題なく機能していることである。NIS と州計画局は日常的に種々の業務を行っており、コミュニケーションも良好である。

調査が実施された際には、州センサス委員会が各州に設置され、調査活動の指揮を行った。NIS はこうした州レベルの関係機関と連携し、人的・技術的支援を提供した。また、中央・州レベルのさまざまな連携体制及び技術及び手続きに関するマニュアルの整備等により、各種調査は円滑に計画・実施された。

### 3-2-2 成果 2 の達成状況

成果 2 は「【集計、審査】NIS が経済センサスをはじめ政府統計調査における集計・結果表作成を行えるようになる」である。

指 標	達成状況
2-1.結果表数	<p>&lt;2011 経済センサス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・速報結果=7 表、統計地図 6 図</li> <li>・National Report=134 表、統計地図 10 図</li> <li>・National Profile=641 表</li> <li>・Provincial Profile=1 地域当たり 580 表(各州及び各 District)</li> <li>・州別分析レポート=全国分 57 表と各州分 55 表(District 別)</li> <li>・分析レポート(全 11 種類)=526 表</li> <li>・Census Atlas=153 図</li> </ul> <p>&lt;2013 中間年人口調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Statistical Atlas=66 図</li> <li>・National Profile=85 表</li> <li>・分析レポート(JICA 支援分 4 種類)=92 表、統計地図 16 図</li> </ul> <p>&lt;2014 中間年経済調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・速報結果=7 表</li> </ul>
2-2.個別データの作成件数	<p>&lt;2011 経済センサス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所数=50 万 5,134 件</li> </ul> <p>事後調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所数=5,000 件</li> </ul> <p>&lt;2013 中間年人口調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物数=9 万 5,300 件</li> <li>・世帯数=2 万 8,650 件</li> <li>・世帯員数=12 万 8,619 件</li> <li>・死亡者数=543 件</li> </ul> <p>&lt;2014 中間年経済調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所数=約 1 万 2,200 件</li> </ul>

成果 2 は達成された。

NIS 職員は、集計・審査する技術を身に付けた。人口調査については、NIS 職員は CSPro という集計プログラムを操作し、データエントリー、符号付け、データクリーニング、表作成といった作業を専門家の助けをほとんど必要せずに行うことができる。一方、経済センサス/調査については、独立行政法人統計センターが開発したシンプル・カリキュレーション・システム (Simple Calculation System : SCS) と呼ばれるソフトウェアが、汎用の集計ソフトウェアとして導入された。NIS 職員は SCS の活用のための訓練を受け、表作成ができるまで能力を向上させた。こうした集計プログラムは適切に保存されている。

ただ、経済センサス/調査のデータクリーニングには計画よりも半年ほど長く時間を要するという問題が生じている。これは、企業・事業所が多様な特徴をもっていること、コンピュータによるエラーの補定 (imputation) が不可能なこと、C/P 職員が経済データの扱いに不慣れなことなどが主な要因となっている。こうした課題を抱えながらも、NIS 職員は、経済調査のデータ処理の技術・知識を十分学ぶことができている。

以上のことから、NIS 職員は、データ集計・審査の能力を向上させたと判断してよい。

### 3-2-3 成果 3 の達成状況

成果 3 は、「【分析】NIS が経済センサスをはじめ政府統計調査における結果分析を行えるようになる」である。

指 標	達成状況
3-1.NIS 及び州計画局により作成、公表された分析レポートの数	<2011 経済センサス> ・分析レポート=11 種類 ・州別分析レポート=24 州 <2013 中間年人口調査> ・分析レポート (JICA 支援分) =4 種類

成果 3 は一定程度達成されたものの、さらなる支援が必要である。

NIS は専門家の支援により、2011 年経済センサス及び 2013 年中間年人口調査の種々の分析レポートを作成した。NIS は 1998 年の内戦終結後初の人口センサス以来、今回が 4 回目<sup>5</sup>の人口センサス/調査だったことから、2013 年中間年人口調査については、データ分析・レポート作成を大きな困難なく実施することができた。このことから、人口調査についてはこれまでに蓄積された経験や知識等により、十分な分析能力を獲得することができたと判断してよい。

一方、経済センサスの実施は NIS にとって初めての経験であった。2011 年経済センサスについては、専門家が用意した雛形に従い、1 州につき 3、4 名の NIS 職員が分析レポート執筆を担当した。草案は専門家が確認・最終化し、カンボジアの 24 州 (当時) すべてをカバーする州別分析レポートが刊行された。11 の重要分野についての分析レポート<sup>6</sup>についても、同様の手

<sup>5</sup> 内戦前の 1962 年、カンボジアで初の人口センサス (当時の人口は現在の 4 割弱の 570 万人) が実施された。内戦終結後は、1998 年に人口センサス、2004 年に中間年人口調査、2008 年に人口センサスが実施され、今回、2013 年にプロジェクト支援による中間年人口調査が実施された。

<sup>6</sup> 11 種のレポートのタイトルは次のとおり。(1) 産業別分析、(2) 産業別比較分析、(3) 規模別比較分析、(4) 大中小及び零細産業、(5) 製造業、(6) 食料品製造業、(7) 繊維製品製造業、(8) 卸売・小売業、(9) ビジネスにおける女性、(10) ストリート・ビジネス、(11) 国民経済計算への適用。

続きにより作成され、数名の NIS 職員は、300 名程度が参加したセミナーで分析結果を発表した。以上のような活動を経て、NIS 職員の分析能力は向上したが、経済調査に必要な分析能力は職員によってばらつきが激しく、職員の多くは、専門家の支援がまだ必要な段階にある。

NIS 職員の経済データ分析に必要なスキルや知識は、2014 年中間年経済調査の分析レポートを書いていく過程でさらに向上させることができると考えられるが、その作業は今後行われる予定で、評価実施時点ではまだ開始していなかった。

### 3-2-4 成果 4 の達成状況

成果 4 は、「【結果提供】NIS が、経済センサスをはじめとする政府統計調査結果の提供及び政府統計に関する理解促進を行えるようになる」である。

指 標	達成状況
4-1. 刊行物、CD、ウェブサイト、統計地図及びセンサスアトラスの数	<p>&lt;2011 経済センサス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Preliminary Results of Pilot Survey of 2011 Economic Census of Cambodia</li> <li>• Preliminary Results of the 2011 Economic Census of Cambodia</li> <li>• Preliminary Results of the 2011 Economic Census of Cambodia (No.2)</li> <li>• 速報結果に基づく揭示用統計地図 (11 枚)</li> <li>• National Report on Final Census Results</li> <li>• District and Commune Report on Final Census Results</li> <li>• 確報結果に基づく揭示用統計地図 (21 枚)</li> <li>• National Profile (3 分冊)</li> <li>• Provincial Profile (各州 2 分冊)</li> <li>• Provincial Report (各州 1 冊)</li> <li>• Village Profile (2 分冊)</li> <li>• Analytical Report (11 種類)</li> <li>• Census Atlas</li> <li>• 事後調査 (Post Enumeration Survey : PES) レポート</li> <li>• Census Organization and Administration Report</li> </ul> <p>&lt;2013 中間年人口調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Provisional Report</li> <li>• 速報結果に基づく揭示用統計地図 (7 枚)</li> <li>• Final Report</li> <li>• 確報結果に基づく揭示用統計地図 (12 枚)</li> <li>• National Profile (2 分冊)</li> <li>• Analytical Report (11 種類、うち JICA 支援分 4 種類)</li> <li>• Statistical Atlas</li> </ul>

4-2.研修受講者数	<p><b>【2010年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>延べ約 560 名 [EC2011 研修、コンピュータ・プログラミング研修/データクリーニング研修、地理情報システム (Geographic Information System : GIS) 研修]</li> </ul> <p><b>【2011年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>延べ約 600 名 (PES 研修、内容検査・符号付け研修、データ入力研修、GIS 研修、SAS 研修)</li> <li>2011 経済センサス第 1 回 Provincial Report 作成研修、受講者数：72 名 (2012 年 4 月)</li> </ul> <p><b>【2012年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2011 経済センサス第 2 回 Provincial Report 作成研修、受講者数：72 名 (2012 年 8 月)</li> <li>延べ約 79 名 (CIPS2013 調査区設定研修)</li> <li>延べ約 2 名 (CIES2014 標本設計研修)</li> <li>延べ約 354 名 (SAS 研修)</li> </ul> <p><b>【2013年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>延べ約 925 名 (CIES2014 研修)</li> <li>延べ約 55 名 (SAS 研修)</li> </ul> <p><b>【2014年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>延べ約 200 名 (CIES2014 分析)</li> <li>延べ約 44 名 (SAS 研修)</li> </ul>
4-3.研修受講者の結果提供の準備・実施方法及びツールについての理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>2011 経済センサスの各種報告書の作成、結果解説セミナーでの発表資料の作成等を通じ、結果提供の準備・実施方法についての理解が進んだ。</li> <li>2013 中間年人口調査の各種報告書の作成、結果解説セミナーでの発表資料の作成等を通じ、結果提供の準備・実施方法についての理解が進んだ。</li> </ul>
4-4.開催されたワークショップ、セミナーの数	<p><b>【2010年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2011 年経済センサス Pilot Survey 結果報告セミナー [2010 年 10 月 27 日 (水)、受講者数：約 170 名]</li> </ul> <p><b>【2011年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2011 経済センサス速報結果公表セミナー (2011 年 8 月 8 日、受講者数：約 270 名)</li> <li>2011 経済センサス事後報告会 (2011 年 8 月 8～9 日、受講者数：約 110 名)</li> <li>2011 経済センサス確報結果公表式典 (2012 年 3 月 13 日、受講者数：約 650 名)</li> <li>2011 経済センサス確報結果公表セミナー (2012 年 3 月 13～14 日、受講者数：約 250 名)</li> </ul> <p><b>【2012年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2011 経済センサス分析結果解説セミナー (2013 年 3 月 15 日、受講者数：約 250 名)</li> </ul> <p><b>【2013年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2011 経済センサス Kandal 州結果解説セミナー (2013 年 5 月 27 日、受講者数：約 80 名)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2013 中間年人口調査速報結果公表セミナー（2013 年 8 月 15 日、受講者数：約 180 名）</li> <li>・ 2013 中間年人口調査確報結果公表セミナー（2013 年 11 月 25 日、受講者数：約 300 名）</li> </ul> <p><b>【2014 年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2013 中間年人口調査分析結果解説セミナー（2014 年 6 月 6 日、受講者数：約 180 名）</li> </ul>
--	---

成果 4 はおおむね達成されたが、ウェブサイトへの情報掲載について改善すべき事項がある。NIS は統計調査結果を提供するための式典やセミナーの開催手続きを中央・州の両レベル<sup>7</sup>で確立した。こうした式典は関係政府機関等から 300 名規模の参加者を集めた。

NIS は、さらに、2011 年経済センサス、2013 年中間年人口調査に関する各種多様なレポートを刊行した（刊行物のリストについては付属資料 2. 協議議事録 ANNEX 8 参照）<sup>8</sup>。NIS のウェブサイトや CD の形でも統計結果の提供を行っている。こうした情報提供の手続きについては、専門家の支援なしに行うことができている。

NIS のウェブサイトは、メインのサイトである「[www.nis.gov.kh](http://www.nis.gov.kh)」と、国連の支援で開設されているメタデータを掲載するレポジトリ（データ貯蔵庫）サイト「<http://nada.nis.gov.kh>」の 2 つがあるが、これら 2 つのサイトに掲載されているのは、調査時点では 2011 年経済センサスに係るレポート「Economic Census 2011: National Report on Final Census Results」1 冊のみであった<sup>9</sup>。NIS の方針として、一般利用者の利用を促進するために、ウェブサイトにてできるだけ多くの情報を掲載するとしていることから、今後、より積極的な掲載が望まれる。

### 3-2-5 成果 5 の達成状況

成果 5 は、「【小地域統計】NIS が経済センサス<sup>10</sup>に関する小地域統計を実施できるようになる」である。

指 標	達成状況
5-1.経済センサスに関する、District、Commune、Village 及び調査区別の小地域統計表数（作成された数、公表された数）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ District・Commune ごと 1 表（最終センサスレポート）</li> <li>・ District ごと 580 表（州プロファイル）</li> <li>・ 1 州につき District ごと 57 表（州レポート）</li> <li>・ District ごと 62 表、Commune ごと 62 表（センサスアトラス）</li> </ul>
5-2.研修の受講者数	<p><b>【2011 年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小地域統計第 1 ステージ RO/ARO 研修、受講者数：18 名（2011 年 5～6 月）</li> <li>・ 小地域統計第 1 ステージ RO/ARO refresher 研修、受講</li> </ul>

<sup>7</sup> 州におけるセミナーはカンダル州のみで実施された。

<sup>8</sup> こうした刊行物は、州計画局のほか、関連政府組織に配布された。また、NIS 内に設置されているデータ利用者サービスセンターに保管され、閲覧・貸出・販売が行われている。

<sup>9</sup> プロジェクトで作成されたレポートやデータ等の情報は、日本の総務省統計局のウェブサイトでも数多くが公開されている。これについては「4-1-4 インパクト」で説明する。

<sup>10</sup> 小地域統計実施に際しては、2011 年経済センサスだけでなく、2009 年に実施された全国事業所リスティングで得られたデータも利用している。



	<p>者数：18名（2012年8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域統計第2ステージシニア・コマンディング・オフィサー（Small Commanding Officer：SCO）研修、受講者数：7名（2011年11月）</li> <li>・小地域統計第2ステージ RO/ARO 研修、受講者数：12名（2011年11～12月）</li> <li>・第1回 GIS 研修、受講者数：3名（2011年8月22日～23日）</li> <li>・第2回 GIS 研修、受講者数：6名（2011年11月）</li> <li>・第3回 GIS 研修、受講者数：2名（2012年3月）</li> </ul> <p><b>【2012年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域統計第1ステージ RO/ARO 研修、受講者数：27名（2012年8～9月）</li> <li>・小地域統計第2ステージ RO/ARO 研修、受講者数：18名（2012年10月）</li> </ul> <p><b>【2013年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域統計第1ステージ RO/ARO 研修、受講者数：15名（2013年8～9月）</li> <li>・小地域統計第2ステージ RO/ARO 研修、受講者数：10名（2013年10月）</li> </ul> <p><b>【2014年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域統計第1ステージ RO/ARO 研修、受講者数：12名（2014年5～6月）</li> <li>・小地域統計第2ステージ RO/ARO 研修、受講者数：8名（2014年6～7月）</li> </ul>
5-3.研修受講者の理解度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NIS 担当職員の小地域統計の作成、分析及びその記述等についての理解が進んだ。</li> <li>・NIS 担当職員の GIS についての理解が進んだ。</li> </ul>

成果5は達成された。

2011年経済センサスのあと、小地域統計表作成のための活動がNISにとって初めて実施された。NISのRO、AROは、研修受講及び専門家の指導を経て、小地域統計の表作成ができるようになった。RO、AROは小地域統計指導官として必要なコンピュータスキルを習得・維持しており、州計画局職員に対して指導ができるレベルに達した。

### 3-2-6 成果6の達成状況

成果6は、「【州計画局に対する研修】州計画局が州レベル以下の行政単位における結果表の作成・公表を行えるようになる（小地域統計サブプロジェクト）」である。

指 標	達成状況
6-1.州計画局向けに実施した研修数	<p><b>【2010年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3回：2011年経済センサス説明会、第1回地方職員研修、第2回地方職員研修</li> </ul>

	<p><b>【2011 年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンダル州における小地域統計オープニング式典</li> <li>・3 回：事後調査研修</li> <li>・小地域統計第 1 ステージ研修（2011 年 8～9 月）</li> <li>・小地域統計第 2 ステージ研修（2011 年 12 月）</li> </ul> <p><b>【2012 年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域統計第 1 ステージ研修（2012 年 9～10 月）</li> <li>・小地域統計第 2 ステージ研修（2012 年 10 月）</li> </ul> <p><b>【2013 年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域統計第 1 ステージ研修（2013 年 8 月）</li> <li>・小地域統計第 2 ステージ研修（2013 年 10 月）</li> </ul> <p><b>【2014 年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域統計第 1 ステージ研修（2014 年 5 月）</li> <li>・小地域統計第 2 ステージ研修（2014 年 7 月）</li> </ul>
<p>6-2.研修を受講した州計画局の職員数</p>	<p><b>【2010 年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2011 年経済センサス説明会議：受講者数＝約 170 名</li> <li>・第 1 回地方職員研修：受講者数＝72 名</li> <li>・第 2 回地方職員研修：受講者数＝72 名</li> </ul> <p><b>【2011 年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事後調査研修：受講者数＝72 名（2011 年 6 月 27 日～28 日）</li> <li>・小地域統計第 1 ステージ研修：受講者数＝6 州 18 名（2011 年 8～9 月）</li> <li>・小地域統計第 2 ステージ研修：受講者数＝6 州 18 名（2011 年 12 月）</li> </ul> <p><b>【2012 年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域統計第 1 ステージ研修：受講者数＝9 州 27 名（2012 年 9～10 月）</li> <li>・小地域統計第 2 ステージ研修：受講者数＝9 州 27 名（2012 年 10 月）</li> </ul> <p><b>【2013 年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域統計第 1 ステージ研修：受講者数＝5 州 15 名（2013 年 8 月）</li> <li>・小地域統計第 2 ステージ研修：受講者数＝5 州 15 名（2013 年 10 月）</li> </ul> <p><b>【2014 年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小地域統計第 1 ステージ研修：受講者数＝4 州 12 名（2014 年 5 月）</li> <li>・小地域統計第 2 ステージ研修：受講者数＝4 州 12 名（2014 年 7 月）</li> </ul>
<p>6-3.結果表作成、結果公表に関する研修受講者の理解度</p>	<p>各州計画局職員（2011 年度 6 州、2012 年度 9 州、2013 年度 5 州、2014 年度 4 州）の小地域統計の作成、分析及びその記述等についての理解が進んだ。</p>

6-4.結果表数（作成された数、公表された数）	<p>SAS Report の収録結果表数＝1州当たり 13 表、統計地図＝1州当たり 12 図</p> <p>【2011 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6 州合計の表数＝78 表</li> </ul> <p>【2012 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9 州合計の表数＝117 表</li> </ul> <p>【2013 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 州合計の表数＝65 表</li> </ul> <p>【2014 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 州合計の表数＝52 表</li> </ul>
-------------------------	---

成果 6 は一定程度達成された。

小地域統計サブプロジェクト<sup>11</sup>は、2つのステージに分かれた研修を州計画局に提供することにより実施された。第1ステージでは、州計画局に資機材を供与してコンピュータ室の改装を行ったほか、基礎的な統計、表作成、地図作成及びインターネット利用方法等を指導した。第2ステージでは、グラフ作成、分析手法、データ審査、レポート作成を指導した。

小地域統計サブプロジェクトは、カンボジアの全州<sup>12</sup>で、毎年 4 から 9 州を対象に表－6 のスケジュールで行われた。

表－6 小地域統計サブプロジェクト実施州

年 度	州 数	州 名
2011 年度	6	Takeo, Kampong Cham, Kandal, Preah Sihanouk, Battambang, Siem Reap
2012 年度	9	Banteay Meanchey, Kampong Chhnang, Pursat, Kampong Thum, Kep, Koh Kong, Kratie, Mondulhiri, Pailin
2013 年度	5	Kampomg Speu, Svay Rieng, Phnom Penh, Otdor Meanchey, Preah Vihear
2014 年度	4	Prey Veng, Ratana Kiri, Stung Treng, Kampot

小地域統計サブプロジェクトにより、州計画局の施設・職員の能力が改善したことは明らかである。例えば、2009 年時点では、州計画局が保有していたコンピュータは全国で 38 台しかなく、1州につき 1、2 台のコンピュータしかなかった計算になる。この数少ないコンピュータは統計以外のさまざまな用途で使われていた。

プロジェクトはこうした状況を改善するために、1州に 2 台ずつデスクトップコンピュータを供与し（計 48 台）、統計に必要なソフトウェアをインストールした。そのほか、コピー機、

<sup>11</sup> 1年目に、専門家はシニア・コマンドニング・オフィサー（Senior Commanding Officer : SCO）に対して小地域統計の指導を行った。その後、SCO は、RO・ARO を毎年指導し、次に RO・ARO が州計画局に赴き、各州 3 名の小地域統計担当者（Small Area Statistics Provincial Officer : SASPO）を指導した。具体的には、エクセル、ワード、アークマップ、インターネットの接続、生データの扱い方・処理の仕方等を指導した。小地域統計の表作成、地図作成、州別プロフィール作成指導の際には、SCO が専門家とともに州計画局を訪れ、助言を行った。

<sup>12</sup> 表に記載された州の合計は 24 州である。2013 年 12 月にコンボンチャム州が 2 州に分割されたため、現在の州数は 25 州である。旧コンボンチャム州の 2 州については、現在、州計画局の執務室を整備している最中である。この 2 州の計画局に配属されている職員のうち、1 名はコンボンチャム州職員だった際に、小地域統計サブプロジェクトの研修を受講している。

プリンター、スクリーン、ホワイトボード、机と椅子等も設置した。州計画局の統計担当職員は、これまでコンピュータを使用した経験がほとんどなかったが、マイクロデータを処理し、雛形を利用しながら小地域統計レポートを作成できるようにまで成長した。州において統計レポートを作成することは、カンボジアにとって初の試みであり、まだ情報量は十分ではないものの、地方政府、非政府組織（Non-Governmental Organization：NGO）、研究者、企業等が必要とする地域レベルの統計情報を提供することができるようになった。

しかし、州計画局の統計担当者のコンピュータスキルやデータ処理能力は高まったとはいえ、まだまだ十分なレベルではなく、NIS からの手厚い支援が必要な状況である。NIS は 2014 年 2 月に地方統計課（Sub-national Statistics Department）と呼ばれる新たな部署を設置し、約 30 名の課員が地方統計の促進を行うこととなった。ただし、これは、NIS が地方統計強化の必要性を自ら気づいて新部の設置を決定したわけではなく、地方分権化を進める首相命令により、すべての省庁において地方出先州局の強化を担当する部局の新設が進められたものである。今後は、プロジェクトの小地域統計指導の経験を活用して、地方統計課が州計画局の強化に一層取り組んでいくことが期待される。

### 3-2-7 成果 7 の達成状況

成果 7 は、「【ナレッジマネジメント】NIS 及び州計画局が政府統計に必要な技術・知識を維持するための、仕組みが構築される」である。

指 標	達成状況
7-1. 詳細手続きに関し整備した各種資料数	<p>&lt; 2011 経済センサス &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Supervisor's Manual</li> <li>• Enumerator's Manual</li> <li>• Duties of Census Officials Engaged in the Local Organization</li> <li>• Supplementary Explanations and Questions &amp; Answers</li> <li>• Manual Editing and Coding Manual</li> <li>• Editing Rules for Data Entry and Computer Editing</li> <li>• Enumerator's Manual (Post Enumeration Survey)</li> <li>• Supervisor's Manual (Post Enumeration Survey)</li> <li>• Duties of SCO and DPDP</li> <li>• Editing and Coding Manual</li> <li>• Manual on Data Entry System</li> <li>• Report on Local Activities in the 2011 Economic Census</li> <li>• Post Enumeration Survey, Tabulation plan, 2011 Economic Census of Cambodia</li> <li>• Consistency check for Business Hours (Q8)</li> <li>• List of Classification items and Statistical Tables</li> <li>• Statistical Table Format</li> <li>• Handbook of the Implementation on Data Analysis</li> <li>• Handbook of Financial ratios on Data Analysis</li> </ul> <p>&lt; 2013 中間年人口調査 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Manual on Mapping Work</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Report on Local Activities in the CIPS2013</li> <li>&lt;2014 中間年経済調査&gt;</li> <li>• Outline of the CIES2014</li> <li>• Sampling Design for the CIES2014</li> <li>• Duties of RO/ARO and DPDP</li> <li>• Supervisor's Manual</li> <li>• Enumerator's Manual</li> <li>• Supplementary Explanations and Questions &amp; Answers</li> <li>• Implementation Plan of Pretest for the CIES2014</li> <li>• Implementation Plan of Mapping Work for the CIES2014</li> <li>• Manual on Mapping Work for CIES2014</li> <li>• List of Large-size Establishments</li> <li>• Report on Survey Activities by RO/ARO/DPDP/Supervisor/ Enumerator</li> <li>• Manual on Manual Editing and Coding</li> <li>• Manual on Data Entry</li> <li>• Computer Edit Rules</li> <li>&lt;SAS&gt;</li> <li>• Basic Document for Producing Small Area Statistics in Provinces</li> <li>• SAS Subproject for Improvement of Statistical Technology in Provincial Developments of Planning</li> <li>• Basic Document for Producing Small Area Statistics in Provinces</li> </ul>
--	--

成果7はおおむね達成されたが、文書管理について改善すべき事項がある。

本成果は、マニュアルの整備や管理を強化することにより、NIS と州計画局におけるナレッジマネジメントを推進しようというものである。「Report on Organization and Administration」といったセンサス実施のための各種マニュアルがプロジェクトによって作成され、重要な手続きや手順、改善提言等が文書化された。組織として蓄積したノウハウが文書化されたため、技術や知見を職員間で共有することが以前よりも容易になった。特に、カンボジアにとって初の経験となる 2011 年経済センサスについては、運営手続き・手順が積極的に記録・文書化された（文書化された詳細リストについては、付属資料2. 協議議事録 ANNEX 9 参照）。

NIS 職員とのインタビューによると、プロジェクトが作成したマニュアル類は個人のコンピュータ上に保存されており、共有フォルダーの使用等はほとんどされていないとのことだった。電子メールによる関係者への文書の配布といった、職員間で文書を共有する手続きは広く行われているものの、最新版文書の紛失や混乱はたびたび発生している。また、NIS 職員の文書管理に関する当事者意識は十分でなく、プロジェクト専門家や他ドナーの専門家等にソフトコピーの保存・管理を過度に依存する傾向がある。将来、センサス/調査実施時に発生する文書改訂に備え、NIS は当事者意識をもって、個人ベースではなく、組織としてソフトコピーを適切に管理していくべきである。

3-2-8 成果8の達成状況

成果8は、「【調整】NIS及び州計画局の調整能力が向上する」である。

指 標	達成状況
8.1.関係機関との会議記録	<p>以下のとおり、関係機関との会議の内容はすべて議事録に残されている。</p> <p>&lt;JCC&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回合同調整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC）（2010年10月12日）</li> <li>・第2回JCC（2011年3月11日）</li> <li>・第3回JCC（2012年3月9日）</li> <li>・第4回JCC（2012年12月14日）</li> <li>・第5回JCC（2014年3月14日）</li> </ul> <p>&lt;2011 経済センサス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回国家運営委員会（National Steering Committee：NSC）（2010年10月15日）</li> <li>・第4回センサス技術委員会（Census Technical Committee：CTC）（2010年10月22日）</li> <li>・第5回CTC（2010年12月13日）</li> <li>・第3回国家センサス委員会（National Census Committee：NCC）（2011年2月10日）</li> <li>・第6回CTC（2011年3月6日）</li> <li>・第7回CTC（2011年6月3日）</li> </ul> <p>&lt;2013 中間年人口調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回CIPS-TC（2011年5月19日）</li> <li>・第2回CIPS-TC（2011年8月15日）</li> <li>・CIPS会議（NIS、UNFPA and JICA）（2011年8月29日）</li> <li>・第3回CIPS-TC（2011年12月8日）</li> <li>・第4回CIPS-TC（2012年2月9日）</li> <li>・第5回CIPS-TC（2012年9月19日）</li> <li>・第6回CIPS-TC（2012年12月5日）</li> <li>・第7回CIPS-TC（2013年2月8日）</li> </ul> <p>&lt;2014 中間年経済調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回CIES-TC（2012年8月21日）</li> <li>・第2回CIES-TC（2013年3月11日）</li> <li>・第3回CIES-TC（2013年8月21日）</li> <li>・第4回CIES-TC（2013年10月14日）</li> <li>・第5回CIES-TC（2013年12月13日）</li> </ul>
8.2.関係機関との調整会議数	<p>【2010年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回NSC準備会議（2010年10月14日）</li> <li>・第4回CTC準備会議（2010年10月21日）</li> <li>・2011年経済センサスPilot Survey結果報告セミナー準備会議（2010年10月26日）</li> <li>・調達関連説明会議（2010年12月3日）</li> <li>・評価関連説明会議（2010年12月3日）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3回 NCC 準備会議 (2011年2月9日)</li> <li>【2011年度】</li> <li>・ UNFPA 専門家との協議</li> <li>【2012年度】</li> <li>・ UNFPA 専門家との協議</li> </ul>
--	--

(注) NCC 及び CTC の各会合の前には準備会合が開かれている。また、PCC 会合の開催回数は州によって異なり、プロジェクトで記録は取っていない。

成果 8 は達成された。

各種調査実施のためのさまざまな調整メカニズムが中央・州の両方のレベルで確立している。中央レベルでは、統計調整委員会という常設委員会が、政府統計の全体の調整を行っている。また、それぞれの調査ごとに国家運営委員会 (National Steering Committee : NSC)、国家センサス委員会 (National Census Committee : NCC)、センサス技術委員会 (Census Technical Committee : CTC) が設置されている。こうした調整機能は、委員会開催時だけでなく、結果公表のためのセミナーの開催等の活動実施によってさらに強化されている。

州レベルでは、州知事が委員長を務める州センサス委員会 (Provincial Census Committee : PCC) が設置され、センサス実施のための調整メカニズムとして機能している。州計画局がこの委員会の事務局を務めているほか、各関係省庁の出先機関である州局が委員となっている。州知事が委員長を務めていることや、州計画局が熱心にセンサス実施を指揮していることから、全国的に州センサス委員会は十分機能している。

### 3-3 プロジェクト目標の達成度

「NIS 及び州計画局が、経済センサス、中間年人口調査、経済統計調査及びその他統計活動を実施する能力が向上する」が本プロジェクトのプロジェクト目標である。

指 標	達成状況
1. 経済センサス、中間年人口調査、経済統計調査その他統計調査の計画・データ収集、集計、分析、結果提供、及び結果の利活用を行う能力のある NIS の職員数	下表<指標 1 に関する能力評価結果>参照
2. 経済センサス及び人口センサスの結果表作成、結果提供、利用についての訓練を受け、州計画局を対象に実施する研修で指導員となるに十分な能力を身に付けた RO、ARO の数	<2011 経済センサス> [調査担当] ・ RO 数 : 24 ・ ARO 数 : 84 [Provincial Report 作成担当] ・ RO 数 : 24 ・ ARO 数 : 48 <2013 中間年人口調査> ・ RO 数 : 24 ・ ARO 数 : 72 <2014 中間年経済調査> ・ RO 数 : 24 ・ ARO 数 : 72

	<小地域統計> [第1ステージ担当] ・RO数：24 ・ARO数：48 [第2ステージ担当] ・RO数：24 ・ARO数：24
--	---

<指標1に関する能力評価結果>

2011年経済センサス	
ベースライン調査結果	エンドライン調査結果
2010年12月調査実施 カッコ内の数字は調査対象者人数 (a) Management (4) 3.70 (b) Economic Census & Economic Statistics (4) 3.53 (c) Planning and Implementation (2) 3.72 (d) Census Mapping (2) 3.21 (e) Sampling (2) 3.00 (f) Analysis and Releasing (2) 3.24 (g) Tabulation/Receipt and Manual Editing / Coding (2) 3.24 (h) Tabulation / Data Entry / Computer Editing (5) 3.26	2014年9月調査実施 カッコ内の数字は調査対象者人数 (a) Management (4) 3.78 (b) Economic Census & Economic Statistics (4) 3.75 (c) Planning and Implementation (2) 3.85 (d) Census Mapping (2) 3.27 (e) Sampling (2) 3.29 (f) Analysis and Releasing (2) 3.65 (g) Tabulation / Receipt and Manual Editing / Coding (2) 3.72 (h) Tabulation / Data Entry / Computer Editing (5) 3.63
2013年中間年人口調査	
ベースライン調査結果	エンドライン調査結果
2012年12月調査実施 カッコ内の数字は調査対象者人数 (a) NIS コアスタッフ (57) 3.54 (b) RO/ARO (96) 3.00 (c) 州計画局 (61) 3.11	2014年9月調査実施 カッコ内の数字は調査対象者人数 (a) コアスタッフ (56) 3.90 (b) RO/ARO (96) 3.17 (c) 州計画局 (61) 3.78
2014年中間年経済調査	
ベースライン調査結果	エンドライン調査結果
2013年9月調査実施 カッコ内の数字は調査対象者人数 (a) NIS コアスタッフ (26) 3.55 (b) RO/ARO (96) 3.18 (c) 州計画局 (72) 3.06	2014年9月調査実施 カッコ内の数字は調査対象者人数 (a) NIS コアスタッフ (26) 3.73 (b) RO/ARO (96) 3.23 (c) 州計画局 (72) 3.65
小地域統計	
ベースライン調査結果	エンドライン調査結果
カッコ内の数字は調査対象者人数 2010年12月調査実施 (対象6州) (a) NIS コアスタッフ (6) 3.27 (b) RO/ARO (30) 2.80	2014年9月調査実施 カッコ内の数字は調査対象者人数 (a) NIS コアスタッフ (11) 3.82 (b) RO/ARO (120) 3.60



(c) 州計画局 (24) 2.65 2011年12月調査実施 (対象9州) (a) NIS コアスタッフ (7) 3.38 (b) RO/ARO (45) 3.09 (c) 州計画局 (36) 2.47 2012年12月調査実施 (対象5州) (a) NIS コアスタッフ (6) 3.47 (b) RO/ARO (25) 3.45 (c) 州計画局 (20) 2.55 2014年12月調査実施 (対象4州) (a) NIS コアスタッフ (6) 3.69 (b) RO/ARO (20) 3.47 (c) 州計画局 (16) 1.88	(c) 州計画局 (91) 2.98
--	--------------------

<レーティング解釈>

- 5：センサスや統計調査の担当分野について、独自に業務を遂行できる。
- 4：センサスや統計調査の担当分野について、マニュアルや資料を参照しながらであれば独自に業務を遂行できる。
- 3：センサスや統計調査の担当分野について、専門家のアドバイスがあれば、マニュアルや資料を参照しながら業務を遂行できる。
- 2：センサスや統計調査の担当分野について、専門家のアドバイスのほか、若干の業務支援があれば、マニュアルや資料を参照しながら業務を遂行できる。
- 1：センサスや統計調査の担当分野について、専門家のサポートがなければ全く業務を遂行できない。

プロジェクト目標は、比較的高いレベルで達成できる見込みであるが、成果3 (NISの分析能力)、成果6 (州計画局の小地域統計実施能力) については、課題が残されている。

プロジェクト目標の達成状況を判断するために設定されている2つの指標の達成状況をみると、調査計画、データ処理、分析、結果提供等について訓練を受けたNIS職員が数多くいることがみて取れる。

「指標1に関する能力評価結果」の数字が示すように、NIS・州計画局職員は、プロジェクト期間中に行われた各種調査の実施経験を経て、確実に能力を向上させている。しかし、これまでも触れたように、NIS職員の経済調査に関する分析能力は十分とはいえない状況である。

また、2番目の指標であるRO・AROに関する指標をみると、州計画局を支援するに足る十分な技術を身に付けたことが分かる。しかし、成果6で検証したように、州計画局は、小地域統計を実施するにあたって、RO、AROの手厚い支援を必要としている状況である。RO、AROの知識や指導能力は十分であるが、州計画局の技術レベルは十分とはいえない。

2011年経済センサス、2013年中間年人口調査、2014年中間年経済調査の実施を通じて、NIS職員も、州計画局職員も、それぞれの調査計画・実施能力を向上させたことは疑いようがない。中央・州ともにこうした調査に関しては問題なく実施できる実力をもっている。プロジェクト目標をより高いレベルで達成するためには、成果3 (NISの分析能力) と成果6 (州計画局の小地域統計実施能力) の継続した強化が必要であり、前者についてはプロジェクトが、後者については

新設された地方統計課が中心となって取り組んでいくべきである。

### 3-4 実施プロセスにおける特記事項

プロジェクトの実施プロセスについて、以下の特記事項が挙げられる。

#### (1) 日本人専門家の適切な派遣

長期間の張り付けではなく、シャトル型で専門家が派遣される形態だったことから、カンボジア側の統計活動のスケジュールに合わせて、必要時に短期集中で複数名の専門家の派遣を行うなど、適切な投入を実施することができた。こうした派遣形態により、限られた国内人材を効率的に専門家派遣することができた。

#### (2) 官民合同の専門家体制

官民合同の専門家の体制を採ったことにより、広く専門家人材を集めることが可能となり、専門家の派遣を容易かつ効果的なものにした。

#### (3) 農業センサスの 2013 年実施による影響

国際連合食糧農業機関（Food and Agricultural Organization of the United Nations : FAO）等の支援による農業センサスが 1 年前倒しになり、2013 年に急遽実施された。その間、C/P が多忙になり、2011 年経済センサスのためのデータ分析、レポート作成への従事が不十分になった。

## 第4章 評価結果

### 4-1 5項目ごとの評価

#### 4-1-1 妥当性

要約：妥当性は高い。プロジェクトはカンボジアの優先開発政策や日本の対カンボジア ODA 政策に合致しているほか、日本が得意とする政府統計の技術を支援しながら、NIS・州計画局職員といったターゲットグループのニーズに適切に対応した活動を展開している。加えて、本フェーズで最大の効果を引き出すことができるよう、フェーズ 1、2 との一貫性・連続性を確保しながら、継続した日本の技術協力を行うというプロジェクトのアプローチは適切だといえる。

#### (1) カンボジア開発計画との整合性

カンボジア政府は、国家戦略開発計画（National Strategic Development Plan : NSDP）において、質の高い統計情報等による根拠に基づいた政策策定や意思決定を行うことが重要であるとしている。統計マスタープラン（2008-2015 年）では、カンボジアの国家統計システムに関して、2011 年経済センサス、2013 年中間年人口調査、2014 年中間年経済調査といった活動を含めた長期的かつ包括的な活動計画を定めている。また、これらの統計活動は、2005 年に制定された統計法によって実施の正当性が担保されている。統計法はまた、NIS に対し、政府統計及び統計システム全体の開発についてより広範囲の役割を課している。

また、カンボジア政府は現在、地方分権と権限の分散（Decentralization and Deconcentration）を進めているが、NSDP においても、グッドガバナンスの推進を開発政策の中心に据え、州政府等の地方行政機能の強化の重要性を明言している。

プロジェクトは、政府統計能力向上を中央及び州政府において進めてきており、国家統計システムに関するカンボジア政府の政策的優先方針と合致した取り組みだといえる。

#### (2) 日本の援助政策との整合性

対カンボジア国別援助方針（2012 年）において、日本はカンボジアのガバナンス強化に貢献することをめざしている。特に、制度改善や人材育成等の分野で、行政機能の強化を重視している。

対カンボジア王国事業展開計画（2012 年）では、本プロジェクトを「法整備・行政機能プログラム」の一環として、グッドガバナンス強化のための支援と位置づけている。

このような日本の ODA 政策的文脈から判断して、プロジェクトは、日本のカンボジアに対する援助政策と強い整合性を保持しているといえる。

#### (3) プロジェクト対象者のニーズへの合致

プロジェクトの対象者は、NIS 職員（約 300 名）及び州計画局職員（約 150 名）である。プロジェクトは、主要なセンサスや調査実施を支援することで対象者の能力向上を図っている。NIS 及び州計画局は、統計活動の計画・実施、データ集計、分析、結果提供、そして組織としての知見の蓄積や関連機関との調整といった分野での能力が十分ではないこ

とが認識されており、こうした分野を強化するためのニーズが高かった。また、対象者の能力向上は、カンボジアによる根拠に基づいた政策策定・意思決定の実現に寄与するためには欠かせないものであることから、プロジェクトの活動領域は適切に設定されているといえる。

フェーズ 1、2 と比較すると、本フェーズは州計画局への能力強化実施という点から支援対象を拡大させた。カンボジアの地方分権化の流れに合わせ、州計画局職員の能力強化へのニーズがフェーズ 2 の後半に強く聞かれるようになったことから、こうしたアプローチは適切だったといえる。州計画局に対しては小地域統計を支援したが、昨今、特定地域の統計情報へのニーズが中央・地方政府、NGO、ドナー、民間企業等の多くの組織間で高まっていることから、小地域統計への支援も妥当だったといえる。

以上のように、プロジェクトは国家統計システムの強化というニーズに対応した取り組みを展開していると判断できる。

#### (4) 日本の技術の優位性

プロジェクト専門家チームは、総務省統計局など、日本のセンサス実施や統計情報分析等の業務経験が豊富な人員で構成されている。専門家は、日本の統計システム従事経験で培ったスキルや知識を C/P に技術移転する目的で派遣された。具体的には、総務省統計局が実施している経済センサスのノウハウが調査票設計やマニュアルに反映された。集計では、独立行政法人統計センターで開発したフリーソフト（SCS）を NIS に紹介・導入し、研修を実施したうえで、実務での使用を実現させた。以上により、本プロジェクトは、日本がもつ政府統計に関する技術・知識を十分生かした協力だといえる。

#### (5) 実施方法の適切性

プロジェクトは、カンボジアにおける統計分野の技術協力プロジェクトのフェーズ 3 として、フェーズ 1、2 から継続して実施されている。フェーズ 1 では、主に NIS や関係省庁の職員に対して統計研修を実施し、フェーズ 2 では、2008 年の人口センサス実施を通じて能力強化を図った。こうした NIS に対する技術協力の 3 番目のフェーズとして、本プロジェクトは NIS 職員のみならず、州計画局職員に対しても、主に 2011 年の経済センサスを中心とした能力強化を行っている。フェーズ 3 の技術協力はカンボジアが国家統計システムを強化させるために必要かつ重要であり、特に①経済センサスの実施には人口センサスとは異なった技術的知識やスキルが必要とされていたこと、②州計画局の能力強化は、カンボジアの地方分権の流れのなかで喫緊の課題とされていたこと、の 2 点から実施妥当性が高いものであった。

よって、プロジェクトは前フェーズの流れを汲み、一貫性・継続性を維持した適切なアプローチを採用して行われたといえる。

#### 4-1-2 有効性

要約：有効性は比較的高い。NIS の経済データの分析能力及び州計画局の小地域統計実施能力はさらに強化していく必要があるが、概して各種調査の実施能力は向上し、関連機関との調整能力も問題ないレベルに達している。プロジェクト目標は協力期間終了時までには比較的高い

レベルで達成される見込みである。

#### (1) プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト目標は、「NIS 及び州計画局が、経済センサス、中間年人口調査、経済統計調査及びその他統計活動を実施する能力が向上する」である。これまでの活動の進捗と成果の出状況をかんがみると、プロジェクトは協力期間終了までに、比較的高程度プロジェクト目標を達成できると判断できる。

プロジェクトは、主要な統計活動を通じて、カンボジアの政府統計を支援することにより、NIS 及び州計画局の能力強化に貢献しているといえる。特に、カンボジアにとって初の試みである 2011 年経済センサスを成功裡に完遂させたことは特筆に値する。プロジェクトは中央政府職員のみならず、全国の州計画局に対しても、小地域統計研修を実施することにより、表・地図作成等の能力を向上させた。小地域統計サブプロジェクトでは、各州が小地域統計レポートを作成したが、この刊行物は今後、地方政府や非政府組織の根拠に基づく意思決定を促進していくことと期待される。さらに、統計実施のための調整メカニズムも、中央・州両方のレベルで強化された。

残された課題は、NIS の経済データに関する分析能力が十分でなく、専門家らのさらなる技術支援が必要なことである。また、州計画局が、小地域統計を自立して行うためのスキルや知識はまだ足りない。後者については、NIS や計画省が、新設された地方統計課を有効に活用していくことで、中・長期的に解決していく課題だと思われる。

#### (2) プロジェクトマネジメントシステム

専門家と C/P との間では、会議、電子メール、非公式の打合せなど、さまざまな場面において、緊密なコミュニケーションが取られ、プロジェクトの円滑な進行を可能にした。また、2011 年経済センサスをはじめとした各種センサス・調査、さらには研修実施にあたっては、NIS と州計画局との間の指揮命令系統は、明確かつ実効性が高く、プロジェクト活動は大過なく進行していった。センサス/調査実施においては短期間に多大な業務量が発生するが、プロジェクト関係者の役割や責任について混乱が生じることもなかった。

中間レビュー調査では、NIS のプロジェクトに対するオーナーシップが不足しているとの指摘がなされたが、その後の 2014 年中間年経済調査実施に際して、NIS が積極的に活動実施の指揮を取り、オーナーシップの向上が確認できた。

以上のことから、NIS の組織的コミットメントと専門家チームの協力により、プロジェクトは円滑に進行してきたといえる。

#### 4-1-3 効率性

要約：効率性は比較的高い。投入は日本・カンボジア両国から計画どおり行われ、特に人的資源の配置が適切に行われた。各種調査が成功裡に行われ、投入に見合ったアウトプットも産出されている。他方、2013 年に農業センサスが急遽実施され C/P の業務量が増大したこと、2011 年経済センサス及び 2014 年中間年経済調査の経済データクリーニングに時間を要したこと等の要因がプロジェクトの効率性を低下させた。

### (1) 日本側からの投入

C/P へのインタビューによると、プロジェクト専門家の専門分野は、NIS と州計画局職員の能力向上ニーズに合致したもので、期待された成果の創出に貢献しているとのことだった。専門家は、官民合同の専門家チームから成っており、政府統計の分野で、十分な専門知識やスキルをもっていると先方から認知されている。

本邦研修や第三国での技術交換活動は、データ収集・集計の最新手法・スキルを学ぶ機会を提供（本邦研修）したり、近隣諸国において統計担当政府職員と知識や経験を共有する機会を提供（技術交換）したりしており、プロジェクト活動の円滑な遂行に寄与している。

JICA から NIS と州計画局に対する財政的・物的支援は、カンボジアのセンサス/調査実施、及び各州における小地域統計実施のために必要不可欠なものであった。

### (2) カンボジア側からの投入

C/P 配置は延べ 120 名にのぼり、プロジェクト活動を効果的なものにした。これらの C/P のほかにも、RO・ARO が各州にそれぞれ配置されたため、プロジェクトが全国的なインパクトを与えるのに寄与した。RO・ARO の配置人数は当初予定していたよりも大幅に増員された。これは、小地域統計実施にあたって、州計画局が予想以上に NIS からの技術的支援を必要とすることが活動開始後に明らかになったからである。全く初めての試みだったにもかかわらず、すべての州計画局から地域統計レポートが無事作成・提出されたことをかんがみると、人員の増加に比例した成果を産出することができたと判断するのが妥当である。

一方、カンボジア側からプロジェクトに対する財政的貢献度は、NIS の 3 種のセンサス/調査費用負担割合が全体の 13% から 23% であったことを考えると決して高いとはいえない（表-5）。残りの費用はプロジェクトや日本の見返り資金、そして国連人口基金（United Nations Population Fund : UNFPA）等の他ドナーからの拠出によって賄われた。

### (3) 効率性の促進・阻害要因

各特定分野を担当する専門家が短期ベースで派遣されたため、C/P のさまざまなニーズに対応した技術移転が可能になった。これには政府統計の専門知識をもった人材に関する特殊な背景が存在する。政府統計実施スキル・知識は、計画・調査実施・集計・審査・地図作成・分析等の調査の各段階の技術分野に専門化・細分化されている。一人の専門家が、政府統計実施に必要なすべての専門知識をもっていることは極めて稀である。少数の専門家を長期にわたって派遣すると、C/P のニーズに応えられない状況が決して低い頻度で発生する。こうした特殊な状況を考慮すると、短期専門家をそれぞれの技術分野のニーズに合わせて派遣する方が効率的だといえる。

2013 年中間年人口調査を実施した際には、JICA は UNFPA と財政・技術協力を共同で行った。具体的には、UNFPA が調査実施費用の 63% を負担し、JICA が 24% を負担した。技術支援に関しては、UNFPA が 9 冊の分析レポート監修を担当し<sup>13</sup>、JICA は 4 冊を担当

<sup>13</sup> ただし、そのうち 4 冊は調査時点で未完だった。

した。このことは、本調査の効率的な実施を実現させた。

他方、これまで触れたように、農業センサスが2013年に実施されたことは、その時期のC/Pの業務量の増大を招き、2011年経済センサスの分析に費やす時間を十分に割くことができない状況が発生させた。経済データの分析に関する専門家からC/Pへの技術移転は、この間一定程度妥協せざるを得なくなった。

2011年経済センサスと2014年中間年経済調査では、人口調査と異なり、企業・事業所が多種多様な特徴をもっていること、NISから調査員に至るまで、調査実施者が経済データを扱った経験がほとんどなかったこと、そしてコンピュータによるエラー補定(imputation)ができなかったことなどにより、データクリーニングに予想以上の時間を要した。この結果、効率性の低下を招いた。

#### 4-1-4 インパクト

要約：インパクトは比較的高い。NIS・州計画局が政府統計を実施するために必要なスキルと知識を身に付けていることから、上位目標の達成の可能性は高い。ただ、課題として、統計マスタープランで計画されている今後の統計調査に必要な財政資源を獲得できるかどうかという不安材料がある。NISの経済データ分析能力と州計画局の小地域統計実施能力を今後さらに向上させていけるかどうか、上位目標達成度を左右する。なお、これまで提供された統計結果は、カンボジア国内外で、政策決定や研究等に広く参照・活用されており、正のインパクトが確認できる。

##### (1) 上位目標の達成見込み

プロジェクトの上位目標は、「NIS及び州計画局により有用な統計情報が提供され、中央省庁及び州政府の政策、計画、戦略等の立案・実施・モニタリングに活用される」である。上位目標の達成度を測定するための指標は、「(1) NIS及び州計画局が提供する統計情報が政策、計画、及び戦略等に利活用された数」「(5) NIS及び州計画局が実施した統計調査の数」「(3) NIS及び州計画局が提供した統計結果の数」の3つが設定されている。

NIS・州計画局ともに政府統計を実施する能力を高めたことをかんがみると、プロジェクト終了後も統計情報を関係省庁や州政府等に提供し続けていくことができると見込まれる。残された課題としては、1番目にNISの経済データ分析能力、2番目に州計画局の小地域統計実施能力、そして3番目に今後予定されている統計活動を実施するための資金の確保が挙げられる。上位目標の達成度は、こうした課題を今後数年でどの程度解決していけるかに左右されるだろう。

プロジェクトがこれまで支援した2011年経済センサス及び2013年中間年人口調査のデータについては、近年、関係省庁、州政府といった政府関係機関が、政策モニタリング等の活動で活用している。具体的には、NSDP、ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)モニタリング、四辺形戦略(Rectangular Strategy for Growth, Employment, Equity and Efficiency)、地方分権・権限移譲のための改革、ASEANフレームワーク等において活用が確認されている。NISが、プロジェクト終了後も、これまでのように調査の実施・結果提供を継続していくのであれば、統計情報は現在と同様にさまざまな機関に活用されるであろう。したがって、上位目標の達成可能性は比較的高い。

## (2) 期待されたインパクト

プロジェクトが集計し、セミナーや刊行物、ウェブサイトといった媒体で提供されたセンサデータは、これまで世界銀行、国連開発計画（United Nations Development Programme：UNDP）等の国際機関や国内機関による各種研究に引用されている。2011年経済センサスのデータを引用している代表的な文献を以下に示した（2014年7月18日時点）。

1. CAMBODIA INVESTMENT GUIDEBOOK, January 2012（Council for the Development of Cambodia :CDC）（Chapter 7）
2. WORLD BANK EAST ASIA AND PACIFIC ECONOMIC UPDATE 2012, VOL. 1: Capturing New Source of Growth（The World Bank）（p.44）
3. CAMBODIA DEVELOPMENT REVIEW VOLUME 16, ISSUE 1, JANUARY-MARCH 2012（Cambodia Development Resource Institute: CDRI）（p. 14）
4. Cambodia: MDGs ACCELERATION FRAMEWORK REPORT. May 2013: Promoting Women's Economic Empowerment（UNDP Cambodia）（p. 13）
5. Delivering Financial Services through Mobile Phone Technology: a Pilot Study on Impact of Mobile Money Service on Micro-entrepreneurs in Rural Cambodia（University Australia）（p.4）
6. Business Overview, CAMBODIA BUSINESS OPPORTUNITY（Cambodia Investor Club）
7. CAMBODIA: WOMEN IN BUSINESS, May 12, 2013（Southeast Asia Globe）
8. Women's work on Asia, Cambodia, March 8, 2013: Cambodian Women and the Economy（Future Challenges）
9. Open Development Cambodia census - ncdd - wells, Jun 28, 2012（Open Development Cambodia）（p.5, p.6）
10. Newsletter, March 2012（Kas Cambodia Office）（p.6）
11. Evidence from Cambodia, March 2014（Econstor）（p.5）

本プロジェクトの協力機関のひとつである日本の総務省統計局は、プロジェクトの最新情報や各種統計調査結果を定期的に同局ウェブサイトに掲載している。日本語ページ<sup>14</sup>の閲覧件数は2013年度の累計が26万318であった<sup>15</sup>。NISのウェブサイト<sup>16</sup>に掲載されている2011年経済センサスの統計結果レポート<sup>17</sup>の閲覧件数は2014年から9月上旬までの約9カ月間でおよそ4,000だった<sup>18</sup>。こうした多数の閲覧件数は、プロジェクトに関するデータや情報が、カンボジア国内外で頻繁に参照・利用されていることを示している。

また、このことに関連して、終了時調査中に得られた追加的情報がある。それは、近年、NIS、プロジェクト事務所、JICAカンボジア事務所、カンボジアの他省庁等が、国内外の企業や投資家、研究機関等から経済センサス/調査の統計結果を提供してほしいという問い

<sup>14</sup> <http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/phase3.htm>

<sup>15</sup> 英語のページも開設されているが、調査時には閲覧件数に関するデータを入手することはできなかった。

<sup>16</sup> [www.nis.gov.kh](http://www.nis.gov.kh)

<sup>17</sup> レポート名は、NIS（2012）“Economic Census of Cambodia: National Report on Final Census Results”であり、ウェブアドレスは、[http://www.nis.gov.kh/nis/EC2011/EC2011\\_Final\\_Results.pdf](http://www.nis.gov.kh/nis/EC2011/EC2011_Final_Results.pdf)である。

<sup>18</sup> 同レポートは、NISが管理するもうひとつのサイト（<http://nada.nis.gov.kh/>）にも掲載されているが、こちらのサイトでの閲覧件数に関するデータを入手することはできなかった。



合わせを受けているということである。明らかに、経済に関する統計結果の需要は、カンボジア経済の成長に合わせて確実に増しており、この点から、プロジェクトが経済センサス/調査を支援してこのような統計情報を提供できるようになったという事実は、大きな成果であり、特筆に値するといえる。

### (3) 予期しなかった正負のインパクト

センサス/調査計画・実施に係る多くの業務手続・手順は記録され、マニュアルや手引きの形で文書化された。そうした文書をプロジェクト関係者が参照しているのは当然であるが、プロジェクト外の関係者、例えば 2013 年農業センサスの関係者等も参照し、必要に応じて活用していることが確認された。

また、州計画局では、小地域統計研修を受講してインターネット、文書作成・表作成ソフトウェアの使い方を学んだ州計画局職員が、統計以外の日常業務にもコンピュータスキルを活用しており、彼らの業務の効率性向上に寄与している。また、このようにスキルを向上させた職員は、他の州計画局職員に対してコンピュータ操作を指導することもあるとのことだった。

以上が予期しなかった正のインパクトであるが、予期しなかった負のインパクトについては特に確認されなかった。

### (4) 上位目標達成のための外部要因

上位目標達成のための外部要因として PDM で挙げられているのは、「政策立案者が統計情報の重要性について認識する」と「必要な予算が確保される」の 2 点である。前者についていえば、「(1) 上位目標の達成見込み」や「(2) 期待されたインパクト」でも説明したように、これまで提供された統計情報は既に政策策定に利活用されている。後者の予算に関する問題は、これまでカンボジア政府が負担した各種主要センサス/調査の負担割合は 2 割程度と低迷しており、不確実要素である。このことについては、次節の「持続性」の中の「(3) 財政面での持続性」で詳しく取り上げることとする。

## 4-1-5 持続性

要約：持続性は中～比較的高程度である。政策的・組織的持続性は高いが、統計マスタープランで計画されている統計活動が適切に実施されるように財政的持続性を高めていく必要がある。NIS の経済データ分析能力及び州計画局の小地域統計実施スキルが今後強化されれば、技術的持続性はさらに高まるであろう。

### (1) 政策・組織体制面の持続性

カンボジア政府は、統計マスタープランや統計法を既に整備しており、政策面での持続性は確保されている。また、こうした統計活動に対する政策的なコミットメントは、NIS の組織体制にも反映されているといえる。NIS の職員数は年々増加しており、州計画局を支援する専門部署である地方統計課も 2014 年 2 月に新たに設置された。組織体制面での持続性も確保されているといえるだろう。

中間レビュー調査では、プロジェクト運営にあたり、NIS が主体性に欠ける局面が多々

あった旨指摘された。しかし、プロジェクト後半に実施された 2014 年中間年経済調査に際しては、計画・実施のイニシアティブを NIS 自らが取り、十分なオーナーシップが発揮された。

以上により、政策・組織体制面の持続性は高いと判断する。

## (2) 技術面での持続性

NIS 及び州計画局の技術力は確実に向上し、また、業務マニュアルやデータ収集や処理に必要な各種ツールも開発され、適切に使用されている。しかし、最新版文書のソフトコピーに関しては、組織としてではなく、個人ベースで共有・管理されているのが現状であり、その点は技術的持続性に関するマイナス要素である。

総合的にみて、NIS も、州計画局も、今後自立して統計活動を継続していくことができるだろう。今後の主な課題としては、これまでも述べてきたように、NIS の経済データ分析能力と州計画局の小地域統計実施能力の今後一層の強化である。

## (3) 財政面での持続性

持続性のなかでも、財政的持続性は比較的大きな懸念事項である。以下の表-7、表-8 で示したように、NIS は人口、経済センサス/調査ともに、年々実施費用負担割合を増やすよう努力を続けている。

表-7 人口センサス/調査実施費用の NIS 負担額・割合

	NIS 負担額	総費用	NIS の負担割合
2008 年人口センサス	683,383	6,624,876	10%
2013 年中間年人口調査	147,615	1,156,667	13%

(額の単位：米ドル)

表-8 経済センサス/調査実施費用の NIS 負担額・割合

	NIS 負担額	総費用	NIS の負担割合
2011 年経済センサス	706,327	3,537,577	20%
2014 年中間年経済調査	73,087	316,328	23%

(額の単位：米ドル)

しかし、センサスや調査は JICA や UNFPA、スウェーデン国際開発協力庁 (Swedish International Development Agency : Sida) といったドナーからの資金提供に強く依存している状況は変わらない。C/P へのインタビューによると、次回、2018 年に実施される予定の人口センサスに関しては、必要な資金が 1,100 万米ドルと見込まれているが、そのうち、政府予算で賄われるのは 400 万米ドルになる予定だという。実際にこの額の確保が実現すれば、政府負担額は全体の 35% となり、前回の 2008 年人口センサス負担割合の 10% から増加することになる。

ただ、政府負担割合が増えたとしても、NIS が不足分をドナー等から調達できるかどうかについては、いまだ不確実性が残っている。2018 年人口センサスだけでなく、2023 年

中間年人口調査、2017 年中間年経済調査、2021 年経済センサスなど、予定されている政府統計に必要な資金を調達できるかどうかは、NIS や計画省が、他省庁やドナー等に対して、統計の重要性を効果的に訴えていけるかどうかにより大きく左右されるだろう。

州レベルの財政的持続性についても不安材料がある。州計画局に対しては、小地域統計実施のためにコンピュータ、コピー機等の資機材が提供されたが、それら資機材の維持管理費（修繕費、コピー機トナー、プリンターカートリッジ、ソフトウェアのバージョンアップ・更新等の比較的高額な消耗品費）については、現在はプロジェクトが負担している。プロジェクト終了後も、維持管理費が確保できるよう、計画省・NIS は州計画局と経済財政省間の調整を支援するなど、必要な対策を講じるべきである。

#### 4-2 結 論

フェーズ 1 より継続して実施されている JICA の技術協力により、NIS 職員の能力は確実に向上した。フェーズ 3 である本プロジェクトは、NIS 職員だけでなく、地方の州計画局職員の能力向上にも積極的に取り組んでいる。プロジェクトは、比較的高いレベルでプロジェクト目標を達成することができると思われる。成果 3（NIS の分析能力）及び成果 6（州計画局の小地域統計実施能力）の達成度合いを高める努力がなされれば、プロジェクト目標の達成度はより高くなるだろう。

## 第5章 提言と教訓

### 5-1 提言

#### <プロジェクトへの提言>

##### (1) NIS の経済データ分析能力の強化

NIS が政府統計を計画・実施する能力は向上したが、分析能力、特に経済統計データの分析を行う能力はまだ十分ではない。プロジェクトの残り期間で、NIS 職員は専門家とともに2014年中間年経済調査の分析レポートの作成を行い、分析能力を向上させる必要がある。また、この目標達成のために、プロジェクト期間の延長を JICA とともに検討することも一考である。

##### (2) ウェブサイトを活用した統計情報の提供

プロジェクトが刊行した各種レポートをウェブサイトに掲載することにより、統計情報をより多くの関係者に、効率的に提供することができるが、現在のところ、NIS ウェブサイトへの統計レポートの掲載は限られている。残りの協力期間で、プロジェクトは、NIS 内の関連部署とともに、クメール語で作成された小地域統計レポートを含む各種レポートをなるべく多く掲載するよう提言する。ウェブサイトへの掲載が難しい場合には、CD-ROM でデータを提供したり、NIS 内に設置されている「データ利用者サービスセンター」を積極的に紹介するなど、利用者が統計データを入手しやすくするような便宜を図るとよいだろう。また、NIS 内の担当部署の責任と役割を明確化し、ウェブサイト掲載のための業務手順を確立させるべきである。

#### <NIS への提言>

##### (3) 今後の統計調査活動に必要な資金の確保

統計マスタープランや関連政令において、2017年に中間年経済調査が、2018年に人口センサスが計画されている。NIS はこれらの調査実施のための十分な資金を確保するために予算計画を作成するべきである。NIS は、計画省や経済財政省、そしてドナー等に対して、政府統計が政策策定・モニタリングのために欠かせないことを主張していく必要がある。

##### (4) 計画省・NIS による州計画局への支援強化

プロジェクトは小地域統計支援により州計画局の能力強化に取り組んだが、NIS のこうした地方支援の活動は緒に就いたばかりである。地方統計課は、プロジェクトの小地域統計支援の経験に基づき、州計画局支援のための具体的な行動計画を立てる必要がある。

また、計画省・NIS は、プロジェクトが供与した資機材の維持管理費用を確保できるよう、州計画局を支援するべきである。

##### (5) 移転されたスキル・知識の維持のための情報管理

これまで、重要な業務や情報は記録され、業務マニュアル等の形で文書化されたが、そうした文書の共有は主に個人ベースで行われている。また、重要な文書のソフトコピー管理に関して、ドナーへの依存度が高い状況も見受けられる。ソフトコピーの管理については、情

報共有システムや手続きを改善し、組織として適切な管理を行うことが必要である。文書管理を改善することにより、統計活動に不慣れな人員に対しても効率的にスキルや知識を移転することが可能になるであろう。

#### (6) 主要なセンサスのスケジュール調整

農業センサスが予定よりも1年前倒しになり、2013年に実施された。これにより、プロジェクト活動の円滑な実施が妨げられた。このような状況が発生させないため、センサスは適切な間隔を置いて実施されるべきである。次回の農業センサスについては、次回経済センサス実施の3年後に行われるべきである。

## 5-2 教訓

本プロジェクトから得られた教訓は以下のとおり。

### (1) 経済センサス/調査に関する課題

人口調査とは異なり、経済調査のためのデータクリーニングには長い時間を要することが明らかになった。これは、企業・事業所が多種多様な特徴をもっていること、職員が経済データの扱いに不慣れなこと、そしてコンピュータ処理による自動的なエラーの補定が不可能なことなどの要因による。プロジェクトは、2011年経済センサス、2013年中間年経済調査実施の際にこの問題に直面し、活動に遅延が生じた。また、C/Pの分析能力向上のために十分な時間を割くことが難しくなった。

そのため、プロジェクト実施機関の経済調査経験が乏しい場合、データクリーニングのための時間を十分に取るようにすべきである。また、C/Pの基礎知識を向上させるために、会計や企業活動に関する研修を十分に行うべきである。また、案件形成の際には、C/Pやその他経済調査を実施することになる関係者が、どの程度会計・企業活動に関する基礎知識をもっているかを評価するアセスメントを実施するべきであろう。

### (2) 他のセンサス活動との調整

2013年に急遽農業センサスが実施されたことは、C/Pの業務量増大を招き、プロジェクトに負の影響を与えた。特に2011年経済センサスの分析作業に影響が及んだ。プロジェクトの円滑な遂行が阻害されないためには、C/Pがプロジェクト外の業務として担当する他のセンサスとのスケジュール調整が重要である。

### (3) 統計分野技術協力プロジェクトのデザイン

センサスのように、次の活動までに10年といった長い時間が空いてしまうような活動に対する技術移転を行う際には、一度限りの技術協力にとどまらず、技術の定着を図るための継続的なOJTによる支援が必要である。その点、フェーズ1から継続して中間年センサス等を含めた主要な機会に技術移転・定着の支援を行っている本プロジェクトは、プロジェクトデザインの観点から適切な支援だったといえる。

#### (4) センサス実施のための予算の確保

課題別指針『統計』（平成 22 年 8 月改訂版）にもあるとおり、途上国においては、人口センサス、経済センサスなどの大規模統計調査を実施するための経費を独自に予算化することが困難なので、ドナー間の調整や技術協力と他のスキームとの連携が重要になってくる。本プロジェクトでは UNFPA との共同での実施やノンプロジェクト無償資金協力見返り資金の活用など、調査実施の費用の確保が適切に行われた。一方で先方政府負担の割合は当初より増加したものの、独自で実施できるほどには至っておらず、財政的な持続性の確保の難しさが改めて確認された。統計分野の支援にあたっては、プロジェクト終了後の統計調査の財源確保についても検討する必要がある。

## 付 属 資 料

1. 主要面談記録
2. 協議議事録 (Minutes of Meeting : M/M)、Joint TerminalEvaluation Report
3. 政府統計団員所見
4. 団長所感
5. 終了時評価グリッド

## 1. 主要面談記録

### 「カンボジア王国政府統計能力向上プロジェクトフェーズ 3 終了時評価調査」面談記録

2014年9月

有限会社アイエムジー  
評価分析コンサルタント 首藤久美子

※別途記載がなければ、各記録の文責は首藤。敬称略。

1. 9月1日：西文彦専門家（チーフアドバイザー）
2. 9月1日：H.E. Mr. San Sy Than, Secretary of State, MOP
3. 9月1日：Mr. Meng Kimhor, Deputy Director General, NIS
4. 9月1日：Mr. Khin Sovoriak, Deputy Director General, NIS
5. 9月2日：Mr. Kim Chandina, Director, Phonm Penh Municipality PDP
6. 9月2日：Mr. Chhean Sam Ath, Director, Kampong Speu PDP
7. 9月2日：Mr. So Tonnere, Deputy Director, Department of Economic Statistics, NIS
8. 9月2日：H.E. Mr. Hor Darith, Under Secretary of State, Ministry of Planning (MOP)
9. 9月3日：Mr. Kim Net, Deputy Director, Department of Social Statistics, NIS
10. 9月3日：Mr. They Kheam, Director, Department of Demographic Statistics Census and Survey, NIS
11. 9月3日：Mr. Pich Poth, Director, Sub-national Statistics Department, NIS
12. 9月3日：Mr. Panhara Oukchay, Deputy Director General, NIS
13. 9月3日：Ms. Heng Mala, Data User Service Center, NIS
14. 9月3日：Mr. Saint Lundy, Director, ICT Department, NIS
15. 9月4日：伊藤彰彦専門家（総括）
16. 9月4日：山内晶仁専門家（集計/審査/小地域集計/結果分析/センサス/調査計画策定）
17. 9月4日：西文彦専門家（チーフアドバイザー）
18. 9月4日：水田広実専門家（調査実施管理/小地域集計）
19. 9月4日：廣畑伸雄専門家（結果分析/センサス/調査計画策定）
20. 9月5日：Mr. Yi Sokha, Population & Development Analyst, UNFPA
21. 9月5日：Mr. Russell Schmieder, Chief Advisor, Institutional Capacity Building Project at NIS, Sida
22. 9月5日：西文彦専門家（チーフアドバイザー）
23. 9月8日：H.E. Chhay Than, Senior Minister, Ministry of Planning (MOP)
24. 9月9日：プロジェクト終了時評価調査キックオフ会議
25. 9月9日：Mr. Sok Kosal, Deputy Director General, NIS and Mr. Buoy Somethea, Deputy Director, Department of Demographic Statistics Census and Survey, NIS
26. 9月9日：Mr. Chan Samath, Deputy Director, Sub-national Statistics Department, NIS
27. 9月10日：Samrath Makara, Director, Prey Veng PDP and Khim Sokha, Planning Officer
28. 9月11日：H.E Ms. Hang Lina, Mr. Heang Kanol, Mr. Khin Sovorlak, Mr. Kim Net
29. 9月12日：在カンボジア日本大使館 實取直樹一等書記官、和田孝行二等書記官
30. 9月12日：プロジェクト JCC メンバー

日時	2014年9月1日 9:00～10:30	
訪問機関	プロジェクト専門家	
場所	NIS	
参加者	面談相手	西文彦専門家（チーフアドバイザー）
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<成果6（SAS）関連情報> ・ 1998年に人口センサスが実施された際、100台ほどPCが州に供与された。また、2010年に内務		



省のプロジェクト National Committee of Democracy and Development (NCDD) により、州に PC が 180 台入った。しかし、この 180 台の PC は統計活動用途ではないため、統計担当職員が使用することはほとんどなかった。

- ・ 州計画局 (Provincial Department of Planning : PDP) では、コミューンの下の村 (Village) ごとにデータを収集して、コミューンごとのデータベースをつくっている (Commune Database : CDB と呼ばれている)。紙ベースで調査票に記入された情報を NIS が PC に入力し、SAS サブプロジェクトで地方に還元している。なお、全国には 1 万 4,000 村あるので、1 万 4,000 枚の調査票回答が存在する。
- ・ SAS サブプロジェクトは、さまざまな統計レポートを州が独自につくれるようにするというのが目的。これまでは NIS が全国分を入力・管理しており、地方では紙ベースのデータ収集しかしていなかった。
- ・ SAS 実施の予算は、これまではプロジェクトが負担してきた。今後は NIS の負担で実施していくことになるが、実施のための PC 等のインフラは既に整っているため、さほど追加コストはかからないはず。
- ・ SAS は統計マスタープランでは計画されていない。もともとは地方からプロジェクトへの要望として上がってきたもの。フェーズ 1、2 は中央を中心に実施したので、そのころから地方に対しても支援してほしいという要望があった。そこで、フェーズ 3 では地方にも支援の手を伸ばすべきという流れになった。
- ・ 企業が工場立地を計画する際等に SAS のデータを利用するといったことを想定している。企業は立地予定地の半径数 km くらいの小さい地域の人口情報を入手したいと考える。そうした地方企業のニーズに対して、地方で対応できるようになるのが理想。なお、これまで作成した SAS レポートを実際に地元で誰が利用しているかについては、これまで特に情報収集はしていない。
- ・ SAS サブプロジェクトでは、プロジェクトが用意したテンプレートに従って表作成をしたのみだが、将来的には州のニーズに応じて、それぞれの PDP が適宜カスタマイズしてさまざまな統計レポートをつくれるようになるのが理想。プロジェクトで実施した、マイクロデータからテーブルをつくる技術を身に付けていればそのような応用は可能である。
- ・ SAS レポートの提出が終わっていない 1 州は遠隔地の州であるが、他の遠隔地の州はきちんと提出しているので、一概に遠隔地にある州だからといって能力が低いとはいえない。それよりも PDP の Director のリーダーシップの差が大きいと考える。また、もともとの個々人の PC スキルの違いも大きい。PC に長けた人が州に誰か一人でもいればよいのだが、一人もいない場合には周りに訊ける人がおらず、作業が進まない。RO、ARO は第 1 ステージ、第 2 ステージと決められた期間派遣されたが、それだけでは足りず、特別に 1 週間程度再度派遣して手取り足取り指導する場合もある。
- ・ ソフトウェアのコマンドは英語で表示されるため、英語力が低い場合、作業が進まないといったケースもある。
- ・ SAS 研修で得たスキル (WORD のスキルなど) は他の通常業務にも活用されている。

#### <RO、ARO>

- ・ NIS と PDPs の SAS 実施における役割分担は、NIS 職員は講師として (RO、ARO) 指導役。PDPs は研修を受けたあとに表作成、地図作成、レポート (データに関する簡単なコメント付き) にまとめるまでを実施。
- ・ RO、ARO はセンサスのときだけの一時的 (3 カ月程度) 肩書きであり、通常は課長補佐やビューローチーフ (係長) 等の立場にいる。
- ・ 日本で同様の調査実施の際には、市区町村を集めて説明会を行い、手引書を渡せばよい。カンボジアの PDP の能力は高くないため、中央に集めて説明会を開くだけでは実施は難しく、州に中央から人 (RO、ARO) を派遣し、直接支援をしないと実施できない。RO・ARO は州を支援するほか、PDP (調査員とスーパーバイザー) がきちんと調査を実施するかを監視するという目的ももっている。

#### <成果 3 : NIS の分析能力>

- ・ NIS 職員には、推計方法を理解し・使用することと、それに応じた分析能力が求められる。例えば、人口推計等で複数の推計方法を知っていて、そのなかでどれが最も良いか等を状況に応じて判断できなければならない。データの誤りを指摘できるようになるほか、国際標準に沿った分析をして、国民の基本ニーズに対応できるようにならなければならない。実際に求められるのは将

来予測が多い。

- ・ 2008年の人口センサスの分析はUNFPAの専門家が実施した。2013年のCIPSではこれを基に（UNFPAが実施した分析をテンプレートとして活用して）NISが実施した。
- ・ NIS職員が分析したデータを専門家がみると、エラーが数多く見つかった。専門家がかなり手を入れた。次のセンサスも専門家の手を入れずに完璧なものができるとは思えない。
- ・ フェーズ3では、調査実施に対し日本は資金を提供しているので、分析レポート等の結果を出さずにクローズするのはよくないと考える。この部分を1年間の延長でケアしていきたい。
- ・ 成果3のNISの分析能力には個人差があるが、その差はその人の意欲の差。JICAのトレーニングに興味をもつかどうかに差があり、手当のみをあてにしている人もいる。C/Pのリストに入っていないけれどもやる気のある人については積極的に研修をするなどしている。一方、C/Pリストに入っているにもかかわらず研修に来ない人もいる。あとで聞くと、その時間にアルバイトをしていたといった回答がある。

#### <成果1の解釈と情報マネジメント>

- ・ 成果1は、スケジュール作成、ワークプランを作成、予算表作成、調査票作成等を示している。実施段階ではどんな調査員を雇うかの判断も必要であるし、調査票の物理的な配布（枚数予測が実は難しい）、回収した質問票の保管管理などのロジ的な部分での細かなノウハウが必要。
- ・ プロジェクトでこうした手順は多くが文書化された。それまでは（2008年のときなどは）情報が散在していて一元化されていなかった。
- ・ マニュアル類の共有についてだが、完璧ではないものの、NISのHPにさまざまな文書がアップされるようになってきた。しかし、タンザニア連合共和国（以下、「タンザニア」と記す）でC/Pのサーバーがダウンして、バックアップも取っておらず、一瞬ですべての文書が消失した例があるので、日本の総務省HPにも文書をアップするようにしている。
- ・ NISにイントラネットはあるが、1人1台PCになっていないので、あまり機能していない。
- ・ 州のPCとNISはつながっておらず、電子メールのやり取りをしているだけ。

#### <NIS側のオーナーシップ>

- ・ 2013年CIPSではUNFPAの専門家の張り付けが少なくなり（UNFPAの予算不足のため）NISが自分たちでやらざるを得なくなった。
- ・ CIES 2014の際、会議を開くにも専門家が議事次第をつくったり、ワークプランをつくったりしなければならなかったが、EC2011の際にはほぼこちらが丸抱えだったので、それから比べるとかなり改善された。
- ・ 課長以下は、ドナーが入っているプロジェクトに関しては「外国人がいるんだから外国人がやればいい」という意識でいることが多い。自分たちがオーナーシップをもつべきと思っている人は少ない。また、オーナーシップをもつべきと分かっている人がいたとしても、周りがなかなか動いてくれないから、頑張ってもできないという面もある。

#### <Sub-National Statistics Department>

- ・ SAS実施デザインの中にはSub-National Statistics Departmentは入っていなかったため、この部署とはこれまで特に一緒に仕事をしていない。今後、この部署がRO、ARO派遣の担当になると聞いている。

#### <低い給与水準>

- ・ 公務員給与は、去年から20～30ドル増額があり（州職員も同様）若干状況は良くなっていると思う。しかし、ドナーへの甘えの体質が根本にあるのでなかなか態度は変わらない。
- ・ 最低賃金が月100ドルだったのが150ドルになった。しかし、物価も同時に上がっているのであまり昇給の実感はないのではないか。

日時	2014年9月1日 10:30～11:30	
訪問機関	計画省（Ministry of Planning : MOP）/ NIS	
場所	MOP	
参加者	面談相手	H.E. Mr. San Sy Than, Secretary of State, MOP（1年半前までNIS局長）
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		

< 専門家に対する評価 >

- ・ JICA 専門家は、他ドナーと異なり、C/P に対してしっかりと技術移転をしてくれるので感謝している。
- ・ WB や UNFPA とともに働いた経験があるが、専門家が自分たちだけで業務をして、去ってしまうので、技術移転になっていないと感じる。

< 本邦研修・第三国技術交換に対する評価 >

- ・ 自分はフェーズ 1 の際に本邦研修に行ったが、今後すべきことが何であるか（今後の課題）等について知識を得た。
- ・ 技術交換では、他国と学び合うことができた。ベトナム社会主義共和国、ラオス人民民主共和国（以下、「ベトナム」「ラオス」と記す）などは、今でも継続してカンボジアの経験から学んでいる。

< 資金確保 >

- ・ 次回人口センサスは 2018 年に実施されることとなっており、1,150 万ドルの資金が必要と見込んでいる。MOP は経済財政省に予算確保を申請したところ、今年 6 月に経済財政省から、最低 400 万ドルを政府で用意するとの回答を得ることができた。経済財政省はセンサスの重要性を十分認識している。UNFPA からは 200 万ドル得られる見込みであり、JICA から 200 万ドル程度を期待している。ほかにも、オーストラリア、Sida、韓国国際協力団（Korea International Cooperation Agency : KOICA）等にも支援を依頼するつもり。
- ・ 経済センサスも 2021 年に実施される予定で、人口センサスと同様に政府予算は増えると思うが時期尚早で今はまだ分からない。

< 経済調査活動頻度 >

- ・ JICA には経済調査は毎年したいと言っているのだが、最低でも 2~3 年ごとに実施するべきだと考える。

< PDP の強化 >

- ・ SAS により、PDP も能力が向上したほか、PC ルームが改善した。しかし、SAS への予算は少なかつたので、今後さらに PDP を強化していき、2018 年までに十分な能力にまで引き上げたい。
- ・ PDP からは、経済・人口センサスだけでなく、保健や労働分野等についても、WHO や ILO 等から支援を受けてさまざまな統計をしたいという声が上がっている。そうした場合、地元の NGO とともに調査を実施していきたいと考えているようだ。
- ・ 州の間の能力の差はリーダーシップの差のほかに、州知事のサポートの違いなどさまざまな要因がある。
- ・ PDP 強化のために、新部署 Sub-national Statistics Dept. を設立したので、今後地方への支援は強化される。しかし、JICA の財政・技術支援があればさらによいと考ええる。
- ・ MOP が州への予算を増加させているので、PDPs の供与機材の維持管理費は州政府が負担するはず。
- ・ 州知事が議長をしている州センサス委員会（PCC）は、一定程度機能していると考ええる。センサスによっては（農業センサスのように）時間が足りない場合があり、PCC は苦勞しているようだが、時間に余裕があれば機能する。PCC 運営に関する Decree も整備された。
- ・ SAS レポートのユーザーは、第一に州政府及び中央政府。第二に NGO や企業。

< 情報マネジメント >

- ・ 農業センサスでは手順はほとんど文書化されなかつた。JICA の支援で経済センサス実施の際に手順書等の多くが文書化された。他ドナーも、その後、経済センサスの文書を他のプロジェクトの参考にしている。
- ・ 農業センサスは 1 年間の準備期間がなく、7 カ月で慌てて実施しなければならなかつたので、文書化がなかなかできなかつた。
- ・ もともと、2009 年に農業センサスを実施する予定だったが、その年には実施が叶わず、FAO が提供した 400 万ドルの資金を無効になる前に消費する必要があつたため、2013 年に慌てて実施した。

< 成果 3（NIS の分析能力） >

- ・ フェーズ 1、2 の時代からも分析能力の低さの問題があつた。職員が皆意欲が高いわけではなく、学ぼうとする意欲が低い人もいる。特に低い給与水準が問題。また、マネジメント（労務管理）も良くない。20% の昇給があつたので、少しは改善されていると感じる。また、プロジェクトから追加の手当でももらえるのでそうした場合にはモチベーションが向上する。

日 時	2014年9月1日 14:00～15:10	
訪問機関	NIS	
場 所	NIS	
参 加 者	面談相手	Mr. Meng Kimhor, Deputy Director General, NIS
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<p>&lt;C/P への技術移転状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家はC/Pに対して技術移転をしてくれているが、C/Pの能力が低い場合、移転は難しい。</li> <li>・ 専門家は派遣期間が短いため、C/Pに対して十分な指導ができない場合もある、派遣期間中にレポートを仕上げなければならず、それに忙殺され、C/Pとの時間が十分取れないケースもある。</li> <li>・ C/Pの英語の問題もあるほか、手当を期待する人もいるので、そうした場合には技術移転はなかなか進まない。</li> </ul> <p>&lt;本邦研修・第三国技術交換に対する評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2014年1月に本邦研修を受講。ネパール技術交換にも参加。</li> <li>・ 日本では、経済・人口センサスの分析法やSASの重要性を学んだ。日本でのSAS事例についても、実際にサイト訪問をして学んだ。日本では地方分権が進んでいるが、カンボジアはまだ中央集権的なので、そこが大きな違いだと思った。カンボジアではまだ州でマネージすることは難しい。</li> <li>・ 日本ではさらに、経済センサスの分析モデルなどを新しい知識として学んだ。こうした研修は、本邦研修でより効果的に学べると思う。カンボジア国内で同じ講義を受けたとしても受講者のレベルに差があるので、講師が低いレベルに合わせざるを得ず、自分が知りたい知識を学ぶことは難しい。また、参加者のなかには熱心でない人も多い。日本で研修を受けた方が集中して学べる。</li> <li>・ ネパールでは二国間の経験の学び合いができた。ネパール連邦民主共和国（以下、「ネパール」と記す）の、中央から州に至るまでのスタッフマネジメント（労務管理）は学ぶべきところが多いと感じた。カンボジアでは州職員は午前中しか働かなかったりするほか、全く出勤しない場合もある。また、NIS内でも、ITスキルがある者がICT関連部署に配属されていないなど、適材適所ができていないといった問題があると感じる。</li> </ul> <p>&lt;Sub-national Statistics Department&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新部署 Sub-national Statistics Department を兼務している。2月に設立されたが、今は計画段階で、企画や予算計画を練っているところ。例えば、コア指標を村から収集することを計画している。</li> <li>・ 新部署も政府予算を既に獲得しているが、予算規模が小さいため、全国で活動を実施するのは今のところ難しく、年に5州程度ずつ実施していく予定。</li> <li>・ 予算に関しては、ドナーから財政的支援が得られるのではないかと期待している。</li> <li>・ 新部署には30名配属されているが、今は全員兼務であり、他のプロジェクトに従事しているケースが多い。本格稼働は来年（2015年）からで、来年からは30名はフルタイムで新部署の活動に従事できるはず。新部署のために新たなプロジェクトを立ち上げ、UNFPA（人口センサス関係）やFAO（農業センサス関係）に支援を依頼する予定。ドナーからは財政・技術両方の支援を検討している。</li> </ul> <p>&lt;PDPの状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PDP事務所は昔と違い停電も少なく、インターネット接続も問題ない。</li> <li>・ NISとPDPsをつなぐイントラネットはない。電子メールでやり取りをしている。日常的に、PDPから電話でマニュアル類の提供を依頼されたりする。</li> </ul> <p>&lt;成果6（PDPのSAS能力）、PCC&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクト実施後、PDPの能力が向上した。プノンペン市やプノンペン近郊の州は能力が高い傾向にある。北東州が最も課題が多い。</li> <li>・ ROやAROがきちんと調査が実施されているかどうかを監視していて、問題がある場合には中央に報告し、その後、MOPが州に対して警告を行う。</li> <li>・ PCCはそこそこ機能しているが、州による。あまりPCCが機能していない州は、政治的な影響によりうまくいかないケースが多い。また、センサス以外に、他の緊急の業務がある場合もセンサス活動が停滞するケースがある。州によっては、センサスの重要性が理解されていないケースも</li> </ul>		

ある。

<成果3：NISの分析能力>

- ・ さまざまな経済センサスの分析方法を学んだことにより、自分自身の分析能力は向上したと考える。しかし100%の自信ではなく、60～70%程度。今でも頻繁にメールで専門家に質問している。
- ・ プロジェクト期間を延長してくれれば、もっとNIS職員の分析能力を向上させることができる。
- ・ NISの職員の分析能力は低い人も大勢いる。おそらく、NISのなかで自分を含めて5名くらいしかきちんと分析ができる人はいない。
- ・ 自分が他の人に分析方法を教えようとしても、学ぶ気がない人もいる。NISの職員でありながら、NGOや民間企業と業務委託契約を結んでいてNISの業務に熱心でない人も多い。例えば、NIS職員間で会議しようとしても不在のときが多いので、前広にアポを取っておく必要がある。

<PDPの供与機材維持管理>

- ・ PDPsの機材維持のための資金は今後用意しないといけない。MOPから得られるはずだが、1年前から予算申請し(8～9月ごろのはず)確保する必要がある。

<JICAへの要望>

- ・ 分析能力強化とSASに対する技術・財政支援を今後も継続してほしい。SASは地方分権化の流れで今後ますます重要になってくる。また、分析能力向上支援はOJTと1～2週間程度の短期研修(上級者コース)実施が望ましい。

日時	2014年9月1日 15:30～17:00	
訪問機関	NIS	
場所	NIS	
参加者	面談相手	Mr. Khin Sovoriak, Deputy Director General, NIS
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<2014年5月ネパール技術交換>		
・ ネパールに対し、特に、経済センサスについての説明を行った。どのように計画を立てたか、実施をしたかについて説明した。ネパールからは課題や成果について質問を受けた。		
・ 2011年経済センサスの準備段階としてEstablishment Listingを2009年に実施したことを説明した。また、州レベル職員に対しての研修を行ったことなども説明した。そうした実施手法についての情報が参考になったようだ。ネパールも経済センサスを計画しており、カンボジアの情報が参考になっている。		
・ 統計法、そしてその下のsub-decreeに基づいて経済センサスを実施したことを説明したところ、大変興味をもって聞いていた。ネパールにも統計法があるようだが、カンボジア統計法の方が良いとのコメントだった。カンボジアの統計法をベンチマークとして使えると感じたようだ。		
・ 質問票やEstablishment Listingのフォームも実際に見せて情報提供した。広報活動のためのポスター等も写真で見せた。また、先方の要望に基づき、追加のマテリアルを帰国後にネパールに対して提供した。		
<専門家に対する評価>		
・ C/Pを巻き込んで指導するので、パフォーマンスが良い。		
・ 州・Districtを実際にC/Pとともに訪ねて関係者にインタビューし、現場の声を聞くところが良い。課題を発掘することができる。インタビューのあとにはC/Pと振り返りの議論をするので、フラックに意見交換ができる。		
・ シャトル型の派遣に関して特に問題を感じたことはない。短期集中で業務を行っているので効率的。		
<自身の能力向上>		
・ センサスの企画(予算計画等)・準備・実施の手順を学ぶことができた。		
・ 関係者との調整能力も向上したほか、速報報告会等で多数の参加者を前にプレゼンをするスキルが高まった。レポート作成力も高まった。		
・ まだ弱い部分は、データ分析やレポート作成。分析・レポート作成には、経済に関する知識・理解も必要なのでまだまだ難しい。		

- ・ 自分以外の職員も分析能力はまだ弱い。今後、もっと分析能力の高い人の人数を増やす必要がある。
- ・ NIS 内で 10 名程度の職員は IT スキルや表作成に関してある程度の力が付いてきたが、英語力が足りない等の課題を抱えている。お互いが、それぞれの弱みを補完するように分担して業務を行っている。
- ・ 1 年間プロジェクト期間が延長されれば、これまで研修を受けた人の分析能力はかなり向上すると思う。

<情報マネジメント>

- ・ 経済センサスのマニュアルや研修教材が作成された。2009 年リスティングの際に作成された文書を更新して 2011 年の経済センサス関連文書がつけられたが、こうした作業は専門家とともに C/P が実施した（専門家がドラフトし、C/P と打ち合わせて最終化）。
- ・ プロジェクト終了後は、センサス活動が実施される都度、その時点での担当者がマニュアルを更新していくことになる。
- ・ 文書は、イントラネット上ではなく、自分ともう一人の担当職員が保管（共にセンサス責任者）している。自分の PC にソフトコピーを保管しているほか、ハードコピーも書棚に保管している。
- ・ NIS 内部の人やライン省に対して、必要に応じてソフトコピーを渡している。自分が異動する際には、後任にこれらのハード・ソフトコピーを渡すことになる。
- ・ これまで必要な文書を NIS で探して見つからなかった経験がある。①自分が持っているはずのデータが、自分の PC の中でフォルダーを見つけれない。②他の人が持っている文書について、担当者だと目される人に問い合わせても「自分は持っていない」と言われた。あるいは、持っている人が特定できても、その人が地方出張中などで送ってもらうまでにずいぶん待たなくてはならない、など。ただし、文書は通常、複数の人が持っているのどちらか一方の担当者を捕まえれば入手できる。

<JICA への要望>

- ・ データ分析とレポート作成能力は特に強化していく必要があるので OJT と実務研修の支援をしてほしい。
- ・ センサスは次の活動までに 5～10 年といった長い間隔が空いてしまうので、スキルが定着しない。間隔が長く空かないように、分析活動を継続して行い、レポート作成作業に従事して実務経験を積むべきだと思う。

日 時	2014 年 9 月 2 日 8:00～9:40
訪問機関	Phnom Penh Municipality PDP
場 所	Phnom Penh Municipality PDP
参加者	面談相手 Mr. Kim Chandina, Director, Phnom Penh Municipality PDP Mr. Tith SaraTh, Deputy Director, Phnom Penh Municipality PDP Mr. Uong Rhanna, Deputy Director, Phnom Penh Municipality PDP Mr. Ros Sary, Deputy Director, Phnom Penh Municipality PDP （その他、統計担当職員 3 名と PC ルームにて適宜質疑応答）
	面談実施者 首藤、Mr. Ham（通訳）（同行者：伊藤専門家、Mr. An）
	収集資料 N/A
面談内容	
<プノンペン市 PDP> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総務・財務課、計画課、統計課、モニタリング評価課で構成されている。</li> <li>・ 以前は給与・労務課もあったが、Ministry of Public Civil Services に移管された。</li> <li>・ 職員数は 26 名。うち統計課配属は 3 名。District にも Office of Planning and Statistics がある。</li> </ul> <PC ルームの観察及び質疑応答> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PC ルーム供与機材の維持管理予算は別途設けておらず、事務所全般の維持管理予算から捻出することになる。</li> <li>・ 機材が供与されたからといって、それに係る特別な維持管理費用の増額予算請求は行っていない。毎年事務所設備の維持管理費用を増額させるよう努力しているが、なかなか認めてもらえず、十分な額が得られていない。</li> </ul>	

- ・ 現在、コピー機にエラーが出るトラブルがあり、またエアコンも一定時間経過すると冷たい風が出て来ないトラブルを抱えている。これまで修理は呼んでいない（注：コピー機のエラーメッセージについては、マニュアルを読んでトラブルシューティングをすべきところ、マニュアルは封が切られておらず、これまで一度も参照されていないことが分かった）。
- ・ 供与された 2 台のデスクトップ PC にインストールされているウィルス対策ソフトウェア（KasperSky）は既に期限が切れており、PC は何のプロテクションもない状況（注：一人の統計担当職員は、期限が既に切れていることを知っていて何もしていなかった。また、期限が切れておらずプロテクトされていると勘違いしている統計職員もいた）。
- ・ 供与 PC は、統計専用 PC として扱っており、他の業務には使用していない。
- ・ 統計担当職員は 3 名。SAS 研修ではインターネット接続や WORD の使い方を学び、それらのスキルは他業務（インターネット検索など）にも活用している。また、学んだパソコンスキルを他の職員に教えることもある。
- ・ 統計担当職員が SAS 作業上、不明なことが出てきた場合には、RO、ARO に電話し、電話で助言をもらっている。場合によっては、RO、ARO に PDP まで来てもらって指導してもらっている。
- ・ （観察記録）PC ルームの状況は良好だったが、研修マニュアルや、機材マニュアル類は整理されておらず、どこに何を保存しているかについて混乱があった。

#### <センサス調整機能>

- ・ 州レベルの調整メカニズムである PCC は、各種センサスの調整を行っている。市長が議長。副市長が副議長。PDP が常任メンバーであり事務局も務めている。
- ・ これまで人口、経済、農業の 3 つの大きなセンサスが行われ、それぞれのコミティに関係するメンバーが集められた（しかし、実際はほとんどが同じメンバー）。
- ・ 3 つのセンサスのほかにも PCC の調整により Cambodia Socio-Economic Survey 2012 (CSES)、Labor Survey や Cambodia Demographic and Health Survey が実施された。内務省が全体をコーディネートし、州政府が調整を行う。PDP からレターを District に出して協力を呼び掛けている。
- ・ 州レベルの PCC のほか、District レベルでも「サブコミティ」が、センサスごとに組織された。PDP の出先事務所が District にも設置されているので、サブコミティとも調整ができています。

#### <調整・センサス実施の課題>

- ・ 調整の課題は、紙ベースのレターを発信しなければならないので、連絡の伝達が遅くなること。
- ・ 内務省と MOP の両方がセンサス実施に絡んでいるため、混乱が起こることがある。MOP が技術面をケアする立場だが、市は基本的に内務省の指示に従う。内務省の全面的な協力がなく、経済センサスでビジネスにアクセスできないといった問題が生じる。実際、ビジネスにアクセスできなかったため、PDP が NIS に状況を説明し、MOP→内務省→プノンペン市というルートで協力依頼のレターを送ってもらった。この際、NIS は PDP に協力的だった。
- ・ RO・ARO のシステムは PDP へのサポートという面でよく機能しているが負の側面もある。RO・ARO のシステムがなかった時代には、州の supervisor が自分の役割をはっきり認識していたが、今は自分の役割がなくなったかのように感じてしまう。RO・ARO と Supervisor との間でコミュニケーションがある様子で、まるで NIS 職員だけがスーパーバイズしているように感じる。PDP から少なくとも 1 名は監督する立場に立つべきで、NIS からは、ROI 名だけの派遣で十分なのではないか。
- ・ 調査時にはマテリアルや機材の不足の問題が起こる。
- ・ 調査の際、調査員、チームリーダーの手当てが十分でないという問題もある。
- ・ PCC は市長が議長なので問題なく調整できるが、実際に調査段階になると、調査回答者の協力がなかなか得られない。特に皆、自分のビジネスで忙しく、センサスの重要性を理解していない。こちらがいくら目的を説明しても協力したくないという態度である。調査回答者の仕事が終わって家に帰ってくるまで調査員が待たなくてはならないといった問題が生じる。

#### <情報マネジメント>

- ・ ハードコピーを共通キャビネットに保管している。電子メールで受け取った文書はすべてプリントアウトして保管している。特に文書・情報管理の面で問題は感じていない。

#### <インパクト>

- ・ SAS レポートが印刷されたら、市と District に配布される予定。
- ・ 市・District の投資開発計画（Investment Development Plan）策定に活用される。さらに、市の 5 年開発計画にも利用されるだろう。

<その他提言・要望>

- ・ ソフトウェアやソフトウェア・アップデートの研修をしてほしい。
- ・ 技術的な統計研修をもっとしてほしい。

日時	2014年9月2日 11:00～12:30	
訪問機関	Kampong Speu PDP	
場所	Kampong Speu PDP	
参加者	面談相手	Mr. Chhean Sam Ath, Director, Kampong Speu PDP Mr. Hak Chan Soheat, Statistics Officer, Kampong Speu PDP Ms. Sam Solida, Statistics Officer, Kampong Speu PDP
	面談実施者	首藤、Mr. Ham (通訳) (同行者：伊藤専門家、Mr. An)
	収集資料	N/A
面談内容		
<p>&lt;コンボン・スプーPDP&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員数は30名。課の構成はプノンペン市PDPと同様。</li> <li>・ 統計課には統計担当職員3名、課長 (Deputy Director) 1名が配置されている。</li> </ul> <p>&lt;PCルームの観察及び質疑応答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SAS研修で学んだ知識・スキルは、他業務に活用できている。例えば、コミュニケーションデータベース (CDB) や Commune Development Investment Plan で表作成をするなどに役立っている。</li> <li>・ PCルーム供与機材の維持管理予算は別途設けておらず、事務所全般の維持管理予算から捻出することになる。</li> <li>・ 機材が供与されたからといって、それに係る特別な維持管理費用の増額予算請求は行っていない。毎年維持管理費用を増額させるよう努力しているが、なかなか認められず、十分な額が得られていない。</li> <li>・ すべての供与機材はトラブルなく使えている。ただ、デスクトップPCはWifiにつながらないので困っている。</li> <li>・ 供与された2台のデスクトップPCのウィルス対策ソフトウェア (KasperSky) は既に期限が切れており、PCは何のプロテクションもない状況。また、1台については、インストールされているはずのKasperSkyが削除されていた (注：統計担当職員は、期限が切れておらずプロテクトされていると勘違いしていた)。</li> <li>・ 統計担当職員がSAS作業上、不明なことが出てきた場合には、RO、AROに電話し、電話や電子メールで助言をもらっている。特に地図作成が難しく、問い合わせることが多い。RO、AROは非常によく助けてくれる。</li> <li>・ (観察記録) PCルームの状況は良好で、研修マニュアルや、機材マニュアル類は整理されて保管されていた。2013年1月に今の新事務所に移ってからは停電もなく、十分な電力が供給されているとのこと。</li> </ul> <p>&lt;PCC&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 州レベルの調整メカニズムであるPCCはよく機能している。農業センサス実施の際にはさまざまな実施上の問題があったがコミティの尽力により解決できた。</li> </ul> <p>&lt;PDPのSAS能力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な研修を受けただけなので、まだ十分ではない。今後、さらに統計・コンピュータ・地図作成研修を実施してほしい。プノンペンで研修するのではなく州で実施してくれた方が、多くの職員が受講できるので助かる。</li> <li>・ 3名の統計担当職員のうち2名は入社2年目。SAS研修を受講したのは統計課課長 (DD) (女性) を含めた4名。4名全員が研修内容をよく理解し、実際に作業をしてみてさらに理解が深まった。</li> <li>・ 4人全員がコンピュータの予備知識があった。うち1名は大学でコンピュータを専攻した。彼はコンピュータに詳しいので、他の職員にも教えられる。</li> </ul> <p>&lt;情報システム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マニュアル等の文書は紙ベースで共有キャビネットに保管している。DDが管理責任者。ソフトコピーは、各PC上で保存している。</li> <li>・ 文書管理について特に問題は感じていないが、以前、外付けドライブにデータのバックアップを</li> </ul>		



取っておらず、PC からデータが消えてしまった経験がある。以降、外付けドライブにバックアップを保存するようにしている。

<NIS からの支援>

- ・ RO、ARO の支援体制は問題ない。

<SAS レポート>

- ・ 将来、これまで行われたセンサデータを使って PDP で分析や新たなレポート作成を行っていきたいと考えている。しかし、取り組む時間はあるものの、予算がない。新たな活動に対する予算を州政府から承認してもらうのは難しい。
- ・ SAS レポートの利用者は District、州のライン Department、ドナー、NGO を想定している。実際、これまで州内 NGO やプノンペン NGO、大学生、州政府・ライン Department から、州の統計データを提供してほしいと頼まれたことがある。今後、SAS レポートが印刷されると、より詳細なデータを提供できるようになる。

日 時	2014 年 9 月 2 日 15:00～16:00	
訪問機関	NIS	
場 所	NIS	
参 加 者	面談相手	Mr. So Tonnere, Deputy Director, Department of Economic Statistics, NIS
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<専門家に対する評価>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一緒に働きやすい。経験や知識を学ぶことができている。責任感をもって仕事に取り組むことを教えてもらっている。活動のステップを見せてくれて、それを見習うことができるので、自信をもって自分で仕事に取り組むことができる。課題解決方法を示し、自分たちで解決するように働きかけてくれる。</li> <li>・ 専門家の派遣期間に集中してエラーを潰したり、共同で問題を解決したりと、効率的に取り組んでいる。</li> <li>・ 短期シャトル型の派遣でも問題ないが、重要なイベントの際にはもう少し長くいてほしい。派遣されていないときでも、メールで連絡が取れるので特に問題は感じていない。</li> </ul>		
<本邦研修・第三国技術交換に対する評価>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に本邦研修が有意義で、さまざまな経験と知識を得ることができた。</li> <li>・ 技術交換では、カンボジアとは異なる状況で適用できないことも多いが、互いに学ぶことが良い。</li> </ul>		
<プロジェクトの成果と課題>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EC2011 と CIES2014 の大きな成果は、実施のプロセスを一つ一つ学ぶことができたこと。</li> <li>・ 表やグラフや地図を活用しながら分析を行うことを学んだ。レポートを作成することは NIS にとって全く新しい経験だった。これまでレポート作成の経験はほとんどなかった。</li> <li>・ レポート作成については、まだ 100% の自信はない。特に、経済センサスのデータと他のセンサスのデータをつなげて考えることが苦手で、支援がまだ必要。</li> <li>・ 分析レポートを書けるのは NIS のなかで 10 名以上いる。書けることは書けるが、正確な分析ができたかどうか、自分たちでは判断できない。</li> <li>・ 1 年間協力期間が延長されたら分析能力は向上すると思うが、それでも 100% にはならないと思う。しかし、延長期間中に自立できるように最善の努力をするつもりだ。</li> </ul>		
<能力のばらつき>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 皆が知識習得に熱心なわけではない。特に JICA と一緒に仕事をするには punctuality が要求される。時間に厳しい人でないといけないし、英語力も必要。またもともと知識が低い人もついていけない。</li> </ul>		
<NIS の課題>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NIS 側のオーナーシップは向上した。活動実施に関しては NIS は自立できているが、政府予算の不足が問題で、いまだにドナーに頼らなくてはならない。</li> </ul>		

<PDP>

- ・ 統計実施の理解が低い PDP がある。アドミン面では NIS が PDP を支援できるが、技術面で支援は困難。理解が低い州は国境近くの遠隔地。プノンペンセミナーに招待しても、彼らは発言をほとんどせず、理解しているのかしていないのか分からない。
- ・ PDP ディレクターのなかには技術力が非常に低く、自立して業務を行えず NIS に全面的に支援を求めるケースも多い。
- ・ Sub-National Statistics Department の今の状況はよく分からない。まだ活動は始まっていないと思う。

<給与水準>

- ・ 低い給与水準は問題であるが、それが大きな意欲の低下につながっているとは考えてない。JICA のプロジェクトや他のドナーのプロジェクトに参加すると意欲が向上する。

<情報マネジメント>

- ・ マニュアル類は自分たちだけでアップデートできる。アップデートの作業は、個人ではなく、NIS 職員が数名チームを組んで行っている。チーム内で知識をシェアしている。
- ・ 今回のセンサスで作成したマニュアルは、次回のセンサスまで保管しておく。ハードコピーを自分の執務室と DUSC (Data User Service Center) にデポジットするほか、ソフトコピーを自分の PC に保存している。
- ・ イン트라ネットがあるかどうかはよく分からない。自分はイン트라ネットを使っておらず、文書は自分の PC に保存している。

<JICA への要望>

- ・ 協力期間を延長してほしい。NIS は JICA からの財政・技術支援が必要。特に資金援助が必要。

日 時	2014 年 9 月 2 日 14:00~14:40	
訪問機関	Ministry of Planning (MOP)	
場 所	Ministry of Planning (MOP)	
参 加 者	面談相手	H.E. Mr. Hor Darith, Under Secretary of State, Ministry of Planning (MOP)
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<プロジェクトの成果>		
・ 人口センサス、経済センサスという大きな調査を円滑に実施できたことがプロジェクトの大きな貢献。NIS だけでなく、政府全体のデータ収集・政策策定に貢献した。		
・ プロジェクトは組織開発と能力強化に貢献した。計画、データ収集、集計等が問題なくできるようになった。しかし、まだ分析が弱い。データ集計も人によってはまだ弱い。		
・ 協力期間が 1 年延長されれば、CIES2014 の分析が進み、職員の能力も向上するはず。		
<将来の資金確保>		
・ 将来のセンサス実施には、ドナーからの財政支援が必須だと考える。経済財政省は、毎年 NIS への予算を増額してくれているが、まだセンサスを自力で実施できるほどの予算はついていない。		
・ UNFPA は人口センサスを継続的に支援してくれると思う。		
・ Demographic and Health Survey には韓国、UNDP、ユニセフ、UNFPA など多数のドナーが支援しているので、この支援は継続するだろう。		
・ 農業センサスは FAO が支援した。将来もおそらく支援してくれるだろう。		
・ しかし経済センサスは日本しかスポンサーがいないので、他ドナーが支援してくれるかどうかは分からないし、厳しいと思う。		
・ Cambodia Socio-Economic Survey (CSES) は Sida が 10 年ほど支援している。JICA と同様、分析やレポート作成の技術支援も行っており、JICA の支援と似ている。		
<SAS>		
・ プロジェクト終了後、SAS 継続実施には資金はさほど必要ない。州で自立してできるだろう。		
<情報システム>		
・ イン트라ネットがあるかどうかはよく分からない。NIS の HP はあるが、あまり使わないのでよく分からない。		

<要望>

- ・ 2年に一度ほど経済調査をしたいので JICA に財政支援をしてほしい。できれば毎年実施したい。

日時	2014年9月3日 9:00~10:00	
訪問機関	NIS	
場所	NIS	
参加者	面談相手	Mr. Kim Net, Deputy Director, Department of Social Statistics, NIS
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<担当業務>		
・ 主に SAS を担当しているほか、プロジェクトの全体の調整を担当している。		
<SAS の成果>		
・ ①SASPO の能力強化、②機材供与、③SAS レポートの作成、の3つの成果を得られたと考える。		
・ SAS レポートは、NGO や民間企業、コミュニティベースのアソシエーション（公式な登録のない小規模なグループを含む）に使われている。		
・ ある州で、プノンペン投資家はその州でビジネスを始めたいと言って PDP にデータ提供を依頼したケースがあると聞いている。縫製会社が工場の立地検討の際にもデータ提供を PDP に依頼したと聞いている。データをほしがるのは比較的大きな企業で、小さな商店や会社は SAS へのニーズはない。		
・ このようなリクエストがありながらも、これまでは PDP はニーズに合ったデータを提供することができなかった。これまで、データは州合計で集計され（NIS が作成したもの）、地域の詳細データは集計されていなかったためである。今後は SAS レポートにより、より地元のニーズに合ったデータが提供できるようになる。		
・ PDP はこれまで表やチャートを使ったデータを扱ったことはあったが、地図を作製したのは全くの初めての経験。カンボジアで初めてコミュニケーションレベルの地図情報が作成されたことになる。地図に関しては、特にコミュニティワーカーや地元 NGO が非常に感謝していると聞いている。		
<SAS の課題>		
・ SAS 研修では PDP 職員から地図ソフトウェアの使用が難しいという声をたくさん聞いた。ArcView の使い方についての研修は4時間しか実施しなかったため、彼らが理解するのは難しいと思う。また、ソフトウェアのコマンドはすべて英語なので、英語力の低さが障害となるケースも多い。ArcView については、もっと研修時間を増やしてほしいという要望が届いている。		
・ SAS の課題は資金不足。SASPO の技術・分析能力についてもまだ低い。		
・ 遠隔地の州は特に能力が低い。Director のリーダーシップや能力も大きな要因。		
・ 縁故により、能力がない人が高い地位に就く問題も大きい。能力が高いのに、組織のなかでは力をもたないケースは州だけでなく、中央でも見受けられる。		
<Sub-national Statistics Department>		
・ 新部署である Sub-national Statistics Department の部長と話し合い、先月、SAS 第2ステージを実施した際に、新部署の部長も参加してもらった。そして SAS 研修を含む PDP の強化は将来はこの部署が担っていくということで話し合った。その際、SAS に対してドナーの支援があればさらに良いという話になった。		
・ 政府は地方分権を進めているので、新部署の役割は今後大きくなる。新部署の設置は非常に良い一歩だと思うが、予算が実際にいくらかにつくかについてが懸念事項。		
・ 新部署の部長には外部資金を調達するように助言し、政府予算も十分獲得するように言った。		
・ 新部署がやるべき仕事は多い。人もカネも必要。GIS ビューロには4、5名が配属されているが、1名しか GIS ソフトウェアの使い方を知らない。経済ビューロにしても、JICA プロジェクトにかかわったことがない人や新人が多いので、経済センサスに必要な知識が不足している。		
<州レベルのコーディネーション>		
・ PCC は基本的に問題なく機能している。		
・ 中央（NIS 職員や RO/ARO）と PDP とでは、場合によってはミスコミュニケーションが発生したり、NIS と PDP のスタッフの間で役職の上下で個人的な摩擦が生じることがある。PDP は MOP		

<p>の下であって、NIS の下ではないという意識がある。NIS が PDP に対して「命令」は出せず、「依頼」するというスタンス。</p> <p>&lt;経済センサス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済センサスはさまざまなレポートにまとめられ、広く配布されている。非常によく使われていると聞いている。政策立案者はもちろん、投資家によく使われている。</li> </ul> <p>&lt;JICA への要望&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ センサスへの継続した技術・財政支援とともに、SAS 支援により地方分権化を支援してほしい。</li> </ul>
---

日 時	2014 年 9 月 3 日 10:30~11:20	
訪問機関	NIS	
場 所	NIS	
参 加 者	面談相手	Mr. They Kheam, Director, Department of Demographic Statistics Census and Survey, NIS
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<p>&lt;担当業務&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CIPS2013 を JICA とともに実施した。</li> </ul> <p>&lt;CIPS2013&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2013 年農業センサスと CIPS2013 とは多少オーバーラップがあったが、準備段階に少々影響しただけで大きな負の影響はなかった。</li> <li>・ CIPS2013 実施の際には、UNFPA と JICA とで調整をしながら資金調達をした。</li> <li>・ JICA の CIPS2013 への技術支援は分析レポート支援が特に良かった。テンプレートやサンプルは既にあったが、NIS 職員は、英語力が足りず、特に新入りの職員は自立して分析を行うのは困難だった。そこで JICA の支援は役に立った。</li> <li>・ NIS の職員は、給与が低いのであまり熱心に働かない。JICA 専門家に業務の一部を担ってもらう必要があった。</li> <li>・ JICA の支援により、技術的なライティングスキルが向上したほか、データの正確性向上にも寄与した。</li> </ul> <p>&lt;課 題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の課題は、新入りの職員が 2018 年の人口センサスまでに能力を備えておかなければならないこと。既存職員はスキルの維持について問題ないが、新入りの職員は課題。</li> <li>・ UNFPA は、資金不足のために 2015 年にすべての支援をリプログラムすると聞いている。UNFPA はカンボジアに対して 10 年も支援しているので、今後は他の国が優先されるかもしれない。UNFPA から財政支援が得られなくなる可能性がある。</li> <li>・ 2018 年の人口センサスに関して、ドナーのコミットはまだどこからも得られていない。Sida の CSES (Cambodia Socio-economic Survey) も支援が終わることから、Sida からの支援もあまり期待できないかもしれない。</li> </ul> <p>&lt;情報マネジメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マニュアル類はすべて 2013 年の CIPS 時にアップデートしているので、次のセンサスで問題なく使える。</li> <li>・ 最新版ハードコピーは DUSC にデポジットしている。</li> <li>・ ソフトコピーは UNFPA 専門家が一括して持っている。NIS 職員も持っているが、各自の PC に散在している形で保存している。</li> <li>・ NIS にイントラネットはない。NIS の HP は NIS 職員がパスワードでアクセスできる。容量が小さいことから、HP に掲載しているデータは一般市民向けで、詳細データはアップされていない。そのため、自分はあまり HP を使っていない。</li> <li>・ イントラネットがあるとよいが、容量が大きくなれば使いづらい。大きな容量は維持費が嵩むと聞く。DUSC に紙ベースで保管しておくほうが、結局はコスト効率性が高い。</li> <li>・ マニュアル改定が必要なセンサス実施時には Technical Committee が設置されるので、各コミティが必要なマニュアルのソフトコピーを持っている人を探すことになる。2013 年の CIPS の際には、</li> </ul>		

ドナーから個人的にソフトコピーをもらうことが多かった。2013年はすべて必要なソフトコピーを見つけることができ、紛失したものはなかった。

<州レベルの調整・実施>

- ・ PCCは問題なく調整できている。
- ・ RO・AROの州への派遣も効果的に行われている。
- ・ 州のセンサス実施技術力はまだ低い。

<SASのニーズ>

- ・ これまでは国レベルの統計データしかなく、頻繁に苦情を受けてきた。
- ・ 州レベルのGDPや貧困率のデータへのニーズが大きい。特に教育、保健関係のデータのニーズが強い。
- ・ JICAのSASで状況は良くなっているが、データがまだ足りない。今後強化していく必要がある。
- ・ SASは新部署Sub-National Statistics Deptが取り組む業務だが一朝一夕に進むわけではなく、目的を達成するには数十年という単位で時間が必要だろう。

<JICAへの要望>

- ・ センサスへの財政・技術支援を続けてほしい。

日時	2014年9月3日 11:20~12:00	
訪問機関	NIS	
場所	NIS	
参加者	面談相手	Mr. Pich Pothy, Director, Sub-national Statistics Department, NIS
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<Sub-national Statistics Department 概要>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新部署の人員は、計30名。Demographic、Economic、Social、Geographicの4課（ビューロ）があるが、各ビューロに担当者が5名程度配置されている。今も人事が流動的で確定していない。</li> <li>・ 来年（2015年）1月から予算が付き、活動が開始する予定。</li> <li>・ スタッフは現在はそれぞれ別のプロジェクトに従事しており、1月からはフルタイムで新部署で働く予定。</li> </ul>		
<予定されている活動>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新部署の業務範囲は、demographic &amp; housing、economic、agriculture、industry、trade、tourism、telecommunication、GDP CPI Social Statistics、Education、labor force、health、culture、information、religion、SASのデータ収集・集計・分析。村レベルのデータ village leaderへのヒアリングによって収集する。</li> <li>・ 今年（2014年）2月に設立されたが、今年部の予算はゼロで、現在、自分と数名が中心となり、来年の活動計画と予算計画を策定中。毎年5州ずつ活動を実施していく予定で、概算ではあるが、1つの州当たり9万ドルの予算を見込んでいる。9万ドル×5州=45万ドル/年。しかし、予算は満額回答が得られるとは思えない。</li> <li>・ 5州はまだ選定していないが、国道5号線の近辺の州を考えている。</li> <li>・ 基本的にJICAのSASサブプロジェクトを続ける形での活動を考えている。</li> <li>・ 5州に対し、PDP職員への研修とデータ収集実施、セミナー等の活動を考えている。</li> <li>・ 経済、人口、農業センサスで収集されたデータを使ってPDPが分析レポートを作成することになる予定で、そのための能力強化を行う。</li> <li>・ 予算はPDP職員への手当、研修費のほか、分析レポートの印刷費やプリンタートナー・ソフトウェアライセンス更新費等の機材O&amp;Mに使われる。</li> <li>・ 活動にはFAOやJICA等のドナーの支援を検討する予定。特にJICAからの支援を期待している。JICAとは一番長い付き合いなので、ドナーのなかでもJICAへの信頼が一番強い。</li> <li>・ 新部署のスタッフの技術力は十分ではないが今後努力する。ドナーから技術支援が得られればなお良い。</li> </ul>		

<PDP の状況>

- ・ 遠隔地の PDP は概して能力が低い。インフラも劣悪で、停電が多い、インターネットが繋がらないなど問題が多い。
- ・ 遠隔州に比べると、プノンペンに近い州は能力が高いケースが多いが、それでもまだ十分ではない。英語力、ライティング力、コンピュータスキル、特に分析スキルが弱い。また、地図作成については、ほとんどの州が十分ではない。
- ・ Geographic ビューロが地図作成を指導するが、5名は他部署からの異動者で GIS の専門家ではない。5名のうち、1名 (Deputy Director) しか ArcView を使えない。

<JICA への要望>

- ・ JICA の支援を継続してほしい。新部署には PC が 1 台もないので、供与してほしい。

日時	2014 年 9 月 3 日 14:00~15:00	
訪問機関	NIS	
場所	NIS	
参加者	面談相手	Mr. Panhara Oukchay, Deputy Director General, NIS
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<担当業務>		
・ NIS の Website (www.nis.gov.kh) 管理と電子媒体での統計レポートの配布を担当。		
<NIS の Website>		
・ NIS は成果品をすべて Web で配布するという方針。		
・ Web 上で、Consumer Price Index (CPI)、National Account などは定期的に掲載している。そのほか、各種調査・センサスは、それぞれの公式リリースのあとで Website にアップしている。		
・ どのページがアクセスが多いかについては把握している。CPI は毎月リリースしているので、最もアクセスが多い。CSES も毎年リリースしているので、アクセス数が多い。		
・ EC 2011 のデータはレポート 1 本がアップされているだけ。これまでに (今年 1 月からの累計) 3,000~4,000 ページビュー。EC2011 のチームがもっと掲載したいと伝えてきたら掲載するが、特にそうした要望はこれまでに来っていない。		
・ サーバーのキャパシティ・容量は問題ないので、データはたくさん掲載できる。各部署に Web にもっと情報を掲載するように会議等の場で働きかけている。		
・ NIS のサイトへは 8 月単月で英語・クメール語を合わせて 20 万ヒット、4,000 ビジットがあった。海外からのアクセスの方が多い。		
・ NIS はローカルユーザーを対象に積極的に情報を公開しようという方針なので、(1 月の英語サイトに引き続き) 5 月にクメール語のウェブサイトを開始した。		
・ SAS レポートはまだ Web に掲載されていない。掲載するように会議のたびにすべての職員に働きかけている。なぜ掲載リクエストがないのか分からない。		
<今後の Web の方向性>		
・ レポートを掲載するだけでなく、もっとダイナミックなものにしたい。ユーザーが生データにアクセスできるようにしたい。		
・ 情報掲載も迅速・定期的にした。		
・ Sida が Web メンテナンスを財政支援している。しかし、来年 Sida のプロジェクトは終了するので、年間数百ドルのサーバー管理費を捻出しなければならない。		
<2013 年 1 月本邦研修>		
・ 東京と高知を訪ねた。高知大学では Web でどのように統計情報を公開するか等を学んだ。		
<JICA へのコメント>		
・ プロジェクトは NIS を長年にわたって支援していて、さまざまな改善がなされた。特に職員の能力強化、特に特定技術分野の向上に寄与した。今後も特に新入りの若手職員を訓練してほしい。		

日時	2014年9月3日 15:00～16:00	
訪問機関	NIS	
場所	NIS	
参加者	面談相手	Ms. Heng Mala, Data User's Service Center (DUSC) , NIS
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<p>&lt;業務内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DUSCではライブラリアンとして仕事をしている。</li> <li>・ 2008年の人口センサスの調査員の経験もある。</li> </ul> <p>&lt;DUSC&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DUSCでは各種統計レポートを販売している(注:冊子に値段は印刷されていないが、ライブラリアンが価格リストを持っている)。</li> <li>・ 外部の訪問者(特に学生が多い)はここで冊子を参照する。無料の貸し出しも行っている。</li> <li>・ 学生は、携帯端末で必要なページを撮影するので、ほとんど冊子は買わない。</li> <li>・ 今日昨日も売り上げゼロ。8月は1カ月に2冊売り上げただけ。</li> <li>・ 1日の訪問者は平均2名ほど。訪問者は大学生が一番多い。冊子を購入するのはNGOやライン省、企業など。</li> <li>・ NIS職員には無料で貸し出し、あとで返してもらっている。</li> <li>・ DUSCが扱っている統計レポートが、一般の書店でも売っているかどうかは知らない。</li> <li>・ CIPS2013レポートは5ドルで販売している(注:他のJICAが支援した統計レポートはDUSCにあったものの、いくらかで販売するかは価格リストに掲載されていなかったため不明。ライブラリアンも分からないとの回答だった)。</li> <li>・ 特定の地域のデータを求める訪問者・電話での問い合わせ者があるが、そうした要望に合う出版物はないので断っている(注:JICAのSASについてはライブラリアンはほとんど知らなかった)。</li> <li>・ 「建設に関するデータがほしい」と言われたこともある。「ビジネスをするのでどこがよいか」という問い合わせも受けたことがある。こうした問い合わせを受けた場合には、Statistics Standard and Analysis Dept.に問い合わせた資料がないかどうか聞いている。</li> <li>・ ソフトコピーで情報がほしいというユーザー(リサーチャーや企業)もいた。その際にはICT部を紹介した。</li> </ul>		
観察記録		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SASレポートは、まだDUSCに置かれていなかった。</li> <li>・ 蔵書カタログはなく、分類ラベルも貼られていなかった。</li> <li>・ 統計レポートがさまざまな場所に散在していて、すべての種類が網羅されているようには感じられなかった。</li> </ul>		

日時	2014年9月3日 16:00～17:00	
訪問機関	NIS	
場所	NIS	
参加者	面談相手	Mr. Saint Lundy, Director, ICT Department, NIS
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<p>&lt;NISのICT&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NISにはイントラネットはない。イントラネットを検討したことはあるが、NIS内で話し合った結果、E-mailでやり取りをすれば十分であるとの結論に至った。</li> <li>・ 1つのサーバーにつながっているの、部内ではシェアしようと思えばできる。ICTは部内でシェアフォルダーをつくっているが、他部署は自分のPCに保管している様子。</li> </ul> <p>&lt;SASの公開&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SASレポートは将来Webには掲載するかどうかはよく分からない。JICAが担当しているのであ</li> </ul>		

まり感知していない。将来、Sub-national Statistics Dept.が掲載を Web 管理者に依頼することになるだろう。

- ・ SAS レポートを Web に掲載することは特に問題ないと思うが、大きなファイルはリソースを使うから厳しいのではないかと。州、District、コミュニケーションレベルまでならば掲載できると思う。
- ・ ソフトコピーは無料で配布されるべき。一方で、ハードコピーは販売する必要がある。印刷の予算は限られていて、政府予算がないためである。印刷物はすべてドナーの支援に頼っている。唯一の例外は National Account と CPI 関係出版物だけで、これらには政府予算が付いている。
- ・ ローカル NGO もインターネットを使っている。しかし NGO はハードコピーを好むし、ソフトコピーは「オフィシャルではない」という感覚なので、やはりハードコピーを印刷する必要がある。一方で、大学生やリサーチャーはハードコピーを必要としていない。

<2012年1月本邦研修>

- ・ SAS と CIPS2013 データ分析について学んだ。神戸を訪れ SAS について学んだ。カンボジアよりもずいぶん技術が進んでいるという印象を受けた。カンボジアでは、多くの作業を紙ベースで行っているが、日本では PC 上でエラー訂正ができ、進んでいると思った。
- ・ シンプル・カリキュレーション・システム (Simple Calculation System : SCS)システムを学んだ。Excel やアクセスを使った処理の仕方も学んだ。こうしたデータ処理の手法について学んだことが一番役に立っている。

<JICA への要望>

- ・ Web、GIS、インターネット関係の研修をしてほしい。デスクトップでなく、ラップトップ PC がほしい。

日時	2014年9月4日 9:00~10:00	
訪問機関	プロジェクト専門家	
場所	NIS	
参加者	面談相手	伊藤彰彦専門家（総括）
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<Web への掲載>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統計レポートは一般の書店では販売していない。</li> <li>・ Web にレポートがあまりアップされていないのは、手間がかかる、意欲が足りない等の要因があるだろう。また、Web 担当者副局長 (Deputy Director General : DDG) と ICT 部とでの意思疎通が不足している可能性がある。Web 掲載に関しては Web 担当 DDG と ICT 部、さらに各統計担当部との間で TOR が不明確な状況のようだ。</li> <li>・ SAS レポートのハードもソフトも出揃っているのは 19 州ある。ソフトコピーは NIS の Web には掲載されていない。クメール語なので、日本の総務省の HP にも掲載されていない。</li> <li>・ Output 4 (dissemination) を担当している専門家は西専門家、伊藤専門家、山内専門家。</li> </ul>		
<ICT 部と他部署のデマケ>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2009 年以前は各部署に ICT 機能が散在していた。2009 年に ICT 部が誕生し、ICT 部がすべての調査に関してデータエントリーを担当するようになった。データ処理も ICT 部で行う。なお、人口センサスは無料ソフトウェア CSPro により computer imputation (コンピュータによる補定) が適用できるが、経済センサスはコンピュータによる imputation ができないので紙の調査票に戻って誤りを見つけて再入力をしている。</li> <li>・ 調査計画・調査実施・分析・レポート・Web 掲載指示は、各センサス担当部 (Economic Statistics Dept.等) が担当している。ドキュメントの Web への掲載依頼は、ICT 部を通してではなく、Web 担当 DDG にセンサス担当部が直接依頼するルートになっていると思う。</li> </ul>		
<農業センサスの影響>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2013 年の農業センサス実施は、EC 2011 の分析に影響が出た。EC2011 は、2012 年にデータ処理を行い、2013 年に分析を行う予定だったが、2013 年 4 月に農業センサスが本格開始されたため、C/P が多忙になってしまった。それにもかかわらず、ほとんど遅れずに分析レポートが (表面的には) 完成したのだが、その裏には日本人専門家が当初計画よりも大分手を掛けたという状況が</li> </ul>		



<p>ある。技術移転の面では質が下がったといえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家の業務量が増えたもうひとつの要因は、EC がカンボジアとして初めての試みだったため、データクリーニングに思いのほか時間がかかったということがある（人口センサスと異なり computer imputation ができないので）。思った以上にエラーが出た。</li> <li>・ 1年の協力期間延長で達成できることは、専門分野の分析レポートの紙ベースの刊行に対して財政支援ができる（印刷代）ということが大きい。CIES 2014 のクリーンデータがまだできていないので、今年度中に分析レポートを書くのは難しい。1年延長をして初めて CIES 2014 の結果分析に取り掛かれる。</li> </ul> <p>&lt;NIS 側のオーナーシップ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ セミナー準備・実施・プレゼンは自らやるようになった。組織として動けるようになったといえる。プロジェクト前半でもある程度はできていたと思うが、後半はより改善された。</li> </ul> <p>&lt;RO・ARO&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ RO・ARO (technical line で動いている) を増員したのは良いことだと思うが、プノンペン市 PDP では Administrative Line と摩擦が生じているという話を一昨日聞いたので両面があるのだと思う。</li> <li>・ 調査の際の RO・ARO と、州分析レポート執筆の RO・ARO は人が違う。また、SAS の RO・ARO も別の人がアサインされる（同じ人の場合もある）。</li> </ul>
--

日時	2014年9月4日 10:00～11:00	
訪問機関	プロジェクト専門家	
場所	NIS	
参加者	面談相手	山内晶仁専門家（集計/審査/小地域集計/結果分析/センサス/調査計画策定）
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<EC 2011>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済センサスのデータクリーニングには、想定よりはるかに長い時間がかかった。これまで NIS には、経理関係の調査事項（売上高、経費等）のクリーニング経験が全くなかったことが大きな要因。</li> <li>・ 日本人専門家の間でも consistency check のルールを一からつくらなければならなかった。C/P がカンボジアの状況を踏まえたうえでルールに従って具体化していったのだが、NIS が出してきたルールが簡単過ぎた。漏れも多く、専門家が練り直した。</li> <li>・ EC 2011 の報告書自体はスケジュールどおりに完成させることができた。つまり、速報や確報公表は、計画していたスケジュールどおり行うことができたが、確報公表後もデータクリーニングを続けざるを得ず、最後に出た報告書（national profile など）は確報時の数字と違う部分も出てきてしまった（日本ではそのようなことは起こらない）。</li> </ul>		
<分 析>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NIS の分析力の向上はなかなか思うように進まなかった。Provincial Report については、RO1 名と ARO2 名が1つの州を担当し、集合研修を2回行ったあとにレポートを書いたのだが、州によって質の差が出た。英語で書いてもらったので差が出たという要素もある。表・グラフ作成はテンプレートを使って問題なくできたが、分析文章に誤りが多かった。見本で渡した解説文章を単純にコピペした例もあった。ドラフトが出てきたあとは、OJT で個別に指導をした。</li> </ul>		
<RO・ARO の指導力>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ RO と ARO の州への指導力は、調査の実施指導に関しては（州からのフィードバックの内容から判断するに）、おおむね問題なくできていると考える。</li> <li>・ RO と ARO の SAS 指導に関しては、調査の実施指導とは異なり、分析に関する指導なので、RO・ARO 自身の経験が不足していて困難を感じた人もいた。ただ、RO・ARO の指導力の問題とともに、もともとの州の能力の問題もある。なお、分析レポートについては、SASPO が作成したドラフトを RO・ARO がチェックし、その後、SCO が最終チェックした。</li> </ul>		
<Web への掲載>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポートなど、さまざまなデータを日本の総務省の HP に掲載している。NIS のサイトにはほと</li> </ul>		

んど掲載されていないが、今後載せるべきだと思う。

- ・ ただ、実際に誰が掲載の手続きをするのかは分からない。たとえば、SAS レポートを掲載するとなると、SAS の担当部署は人口系と経済系両方のデータを扱っているので、担当部署もまたがる。ただし、新部署が機能するようになれば、新部署が SAS の担当になるだろう。

#### <経済調査の成果と課題>

- ・ 経済センサス (EC)、CIES の 2 つを実施したが、NIS は EC の経験を生かして CIES を円滑に進めることができた。計画・実施は思った以上にスムーズだった。CIES が大過なく実施できたのには、EC でマニュアルの整備が進んだことが大きい。
- ・ 一方で、マニュアルの最終版の管理が弱いという課題が残っている。専門家がきちんと最新版を持っていた一方、NIS では古い版しか持っていない状況があった。
- ・ 中間レビューで指摘を受けたこの情報システムに関する問題は、プロジェクト後半でも改善されなかった。LAN が活用されていないので、徹底するのは難しいだろう。メールでの関係者への文書配布については、きちんと皆に CC をしてシェアするといった努力は行われている。
- ・ 最終版については、一式を CD に焼いて担当職員に渡しているが、そのまま個人の引き出しにしまわれてしまうという状況である。
- ・ C/P は、我々のプロジェクトだけに集中して関与する時間が少ない。
- ・ SAS の研修で SCS マニュアルをクメール語に翻訳する際、ICT 部署が工夫して理解を進めるために図等を交えた分かりやすい資料を作成していた。

#### <持続性>

- ・ 財政的持続性が一番の問題。技術的にはある程度自立してできる。
- ・ データクリーニング作業はどこまでやってもきりがない部分がある。C/P だけでデータ内の矛盾を発見するのはまだまだかもしれないが、手順は完全に理解している。

#### <専門家の構成・派遣>

- ・ 官団員は、日本の統計ソフトウェアやノウハウの技術を使って C/P を指導している。こうしたセンサス統計に関するノウハウや技術は民には存在しない。一方で、民団員は官側の派遣が足りないのを補う役割を果たしている (民の方が機動的に対応できる)。また、民の方はそれぞれの分野に特化した分析のノウハウがある。特に経済分野の分析ノウハウをもっている。
- ・ 専門家 M/M は不足しており、自社負担や、(M/M の付いていない) 国内作業が多かった。

#### <UNFPA>

- ・ UNFPA とは CIPS 2013 で資金面で協力した。
- ・ UNFPA と JICA とでは、調査員等に支払う手当の基準が違っていたため、調整が大変だった。
- ・ UNFPA と JICA のデマケは Technical Committee ではっきりと決められたので、混乱は全くなかった。
- ・ UNFPA はどこまでレポートの中身に関与しているのか疑問。UNFPA が担当しているレポートでは、初歩的な誤りが見つかったりした。UNFPA は人的資源が不足していて、中身までチェックする時間のあるコンサルタントがいないのかもしれない。また、そこまで時間を掛けようという気もないのかもしれない。

日 時	2014 年 9 月 4 日 11:00~12:00	
訪問機関	プロジェクト専門家	
場 所	NIS	
参 加 者	面談相手	西文彦専門家 (チーフアドバイザー)
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<Web 掲載>		
・ 総務省 HP へのカンボジア統計情報の掲載の際、例えば人口センサスの結果は何万表にも及び、そのボリュームのデータを Web に掲載するには、技術力も手間も必要だった (手間=情報の正確性の確認作業等)。同様のことを NIS の HP で行うとしたら同じように手間が必要。		
・ また、Web への情報掲載には、各担当が html に加工してから Web 担当者に渡し、アップしてもらい必要があるが、そうした html に加工する技術は NIS の各部にはほとんどない (ただし、PDF		

を掲載するだけであれば容易)。

- ・ プロジェクトとしては、総務省 HP に多くの情報をしっかりと掲載しているので、NIS の HP の方への掲載はあまり厳しくは行っていない。
- ・ 政府や NGO が、ソフトコピーよりもハードコピーを好む理由としては、印刷物に直接サインができることや、ハードコピーは容易に改竄ができないという安心感があるためだろう。メールや CD でソフトコピーを渡した場合には、容易にデータの改竄ができてしまう。ただし、Web に掲載されているソフトコピーであれば、基本的に誰でもそのサイトに行けば正規にアップされていることを確かめることができるので、ハードコピーと同様のオーソリティをもつ。

#### <出版物の配布>

- ・ SAS レポートはプロジェクト予算の制約から、1 州につき、20 部印刷するのみ。そのうち 10 部は州に渡し、残り 10 部は JICA や大使館に配布したり、プロジェクト等で保管したりしている。
- ・ PDF は州が持っているのもっと部数がほしいのであれば、カンボジア政府の予算（州負担でも NIS 負担でもよい）で自由に必要な部数を印刷してください、ということになっている。基本的にクメール語の冊子はカンボジア政府負担で印刷してくださいという約束。
- ・ 外部に PDP が冊子を販売するとしたら、価格は PDP が決める。

#### <中間年経済調査 (CIES) >

- ・ CIES は 3 年ごとに実施することになっているので、今回は 2017 年に実施予定。人口調査は 5 年に一度だが、経済の方が変動が激しいため、実施頻度がより高い。
- ・ CIES の実施年は統計法や統計マスタープランに書かれていないが、関係者の共通認識である。
- ・ 経済センサスが中間年調査を 2 回実施することに関しては法令化されていない。ただ、統計法に 1 回は必ずやることと書いてある。
- ・ 2014 年に CIES を実施することについては前年に政令が出た。2017 年に実施することについてはまだ政令は出ていない。2016 年には政令が出るはずだが、予算のめどが付かないと政令は出ない。
- ・ 2017 年 CIES の予算確保のためには、来年 (2015 年) から予算獲得のために NIS が動かなくてはならない。
- ・ CIES2014 は従業員数 50 名以上の事業所 (中企業) については 100% 行った。50 名未満 (小企業・零細企業) は 2%。大企業 (100 名以上) のみならず、中企業以上をカバーしたということは大きな成果。
- ・ 2017 年 CIES の際、予算の制約があれば、それに応じてサンプルサイズを小さくすることになる。
- ・ 人口調査は経済調査よりもサンプル数は大きいですが、抽出率でいえば、CIPS2013 は 1%。一方で CIES2014 は 2% であり、CIES が 2 倍だった。

#### <UNFPA>

- ・ 人口調査は、UNFPA との共同実施により、JICA の経済負担・労力が単純に言えば半分で済んだ。半分の負担でも、大きくアピールができたことが連携のメリット。広報効果としてはコスト効率性が高いといえる。
- ・ 実際には、何かと UNFPA を立てる必要があるのも、技術面やロジ面で妥協する局面もあった。連携イコール妥協という側面がある。
- ・ 例えば技術面では、国連が開発したシステムをどうしても使いたいと言われたので、日本のシステムではなく、国連の集計システムで集計をした。JICA 専門家はそのシステムを熟知しているわけではない。日本のシステムの場合は Excel に結果表が出てくるが、国連のシステムはテキストで出てくるので加工が困難だった。その後、CSV で出してくれるようにはなったので、Excel で使えるようになった。
- ・ UNFPA は 1998 年の人口センサスは 100% コスト負担をした。しかし、2008 年は半分。そして、2018 年は 10 億円のうち 2 億円 (無償) しか出せないと言っている。縮小の流れ。

#### <円借款>

- ・ MOP は、円借款でセンサスを実施するべく 15 億円の円借款を提案したが、経済財政省に却下された。そのため、JICA に円借款を申請できなかった。

日 時	2014年9月4日 14:00～15:00	
訪問機関	プロジェクト専門家	
場 所	NIS	
参加者	面談相手	水田広実専門家（調査実施管理/小地域集計）
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<p>&lt;活動の進捗&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SAS サブプロジェクトについていえば、計画よりも遅れたということはなく、むしろ前倒しでできた。リノベーションについては先方の事務所引越等事情で翌年に後ろ倒しした州があるが、その後計画とおりにできたので問題なかった。</li> </ul> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経済センサスはカンボジアにとってゼロからのスタートということを考えれば、大躍進だったといえる。</li> </ul> <p>&lt;PDP 供与機材の使用・管理状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SAS サブプロジェクトとして供与した機材の O&amp;M の記録をきちんとつけるようにと PDP に言っているが、記録は取られていない様子で、回収できていない。</li> <li>O&amp;M の予算手当についても、きちんと行うように言っているが、実際にできているかどうか懸念している。</li> <li>SAS サブプロジェクトの供与機材に限らず、NIS 局長に常日頃から機材の O&amp;M を自助努力で取り組むようにと伝えているが、ない袖は振れないというのが現実。</li> </ul> <p>&lt;NIS・PDP 職員の状況・手当&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>NIS も PDP も給与が低いいため、多くが副業をしていてプロジェクト活動に 100% 専念はできていない。</li> <li>職員の多くはカネに執着している。研修参加に対して手当を出しているが、単価が低いといった不平が出たりした。単価については NIS とメモランダムを交わし、JICA カンボジア事務所に Endorse してもらっているため、額は変えられない。</li> </ul> <p>&lt;調査の手当&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CIPS 2013 の際には調査員が徒歩では行けない場所もあり、移動に思った以上に費用がかかった。州内で、「移動のための予算が不足していて調査ができない（自己負担になってしまう）」という声が上がったことがあったが、プロジェクトとしては規定の額以上を払うわけにはいかず、NIS 局長に伝えて解決するように働きかけた。選択肢としては①政府予算で追加予算をつける、②要求を却下する、の 2 つがあったかと思うが、②の抑え込む形になった。そもそも、「移動に予算以上の費用を要する」という話も、遠隔地なので、本当かどうかは確かめようがない。</li> </ul> <p>&lt;UNFPA&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CIPS2014 は UNFPA と協力して行ったが、調査員への手当の単価は UNFPA と JICA とで差があった（UNFPA が 1 日数ドル多かった）。その調整で苦労した。結局、折り合いがつかずに、UNFPA と JICA とで担当州を分けた。予想どおり JICA の担当州から不満の声が出たようだが、心配したほどではなかったと聞いている。</li> </ul> <p>&lt;C/P の能力等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>NIS のコアスタッフに関しては（やる気があるかどうかは別として）、おおむね予想どおりの能力レベルだった。一方、SASPO はばらつきが大きくあり、思ったよりもずいぶん能力が低いと感じる州もあった。</li> <li>SAS レポートはクメール語で出てくるが、最初のころは英訳して内容をチェックしていた。その際、かなりひどいと感じた。SASPO の能力だけでなく、きちんとやろうという意欲が低かった可能性がある。</li> <li>NIS 職員は Kim Net や Khin Sovorlak などは忙しいなりに一生懸命やっていると思う。</li> <li>カンボジアの政府は、カネの力で要職についている職員が多いというのが現実で、必ずしも能力・やる気のある人が上の地位についているわけではない。</li> <li>現在の NIS 局長は以前 CIPS の DDG だった。彼女なりに一生懸命やっているが、出張が多く、なかなかつかまらないので、プロジェクトとしてはやりづらい局面もある。承認待ちで時間がかかることもある。</li> </ul>		

- ・ 以前の局長 (H.E. Mr. San Sy Than, Secretary of State, MOP) は、叩き上げの人で、実務をよく知った素晴らしい局長だった。今の局長は前局長と比べられることが多く、気の毒ではある。

<持続性>

- ・ NIS に新任の職員が来たとしてもマニュアルがあるし、ベテランがいるので自助努力で技術移転できるだろう。
- ・ 調査・センサス実施の (資金的な) 自助努力は必要だが、そればかりに重きを置くのは現実的ではない。5年後、10年後の調査実施の際に、他ドナーから資金が調達できれば、外部資金を調達できたという意味で、それはそれで自助努力といえるのではないか。

<専門家>

- ・ 専門家は非常に一生懸命で自分の時間を削ってでも活動に尽力している。

日時	2014年9月4日 15:30~16:30	
訪問機関	プロジェクト専門家	
場所	NIS	
参加者	面談相手	廣畑伸雄専門家 (結果分析/センサス/調査計画策定)
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A

面談内容

<M/M・現地業務費>

- ・ 専門家 M/M はタイトだった。契約締結の際に 15% から 20% 程度の M/M が削減ということになった。経費も同様に 10~20% ほど絞らなくてはならなかった。
- ・ 毎年自社負担で追加 M/M を投入している (平均して 1~2M/M/年程度)。経費の削減分は報告書の印刷部数を減らしたり、カラー印刷の冊子を限定的にするなどしてやりくりをしている。

<経済センサス・調査>

- ・ 今年度内で CIES 分析レポートを作成するのは無理。10 月末までにデータクリーニングを終わらせる予定だが、それはあくまでも努力目標で実際は難しいだろう。12 月までかかる見込み。その後、分析作業を始めるので、年度内で終わらせるのは無理。
- ・ EC2011 でもデータクリーニングに時間がかかった。そのため、半年ほどスケジュールの遅延があった。
- ・ これは、経済センサスならではの課題。人口センサスの場合はデータの間違いがあっても (例えば世帯数が本当は 7 人のところ、9 人と記載するなど)、大きな影響はあまり発生しない。経済センサスの場合は、1 億円の売り上げと 100 億円の売り上げとでは違いは大きい。経済センサスの場合、エラーが結果に与える影響度が大きい。
- ・ 読み書きができる人が調査員として雇われる。農村部の場合、小学校教員等が調査員をするケースが多い。経済センサスの場合、教員のようにビジネスを知らない人が調査員としてデータ収集をすると、データの明らかな間違いに気づかないまま記載してしまう。
- ・ 調査・データ入力・処理にはさまざまな人がかかわっているが、調査員が桁が多い数字を書く、ドルでなくてリエルで記載する等のミスをしたりしたあと、そのミスに誰も気づかずに、だいたあとになって集計結果がおかしいということでもうやく気づくといったケースが頻繁に発生する。日本人が処理しているのであれば、すぐに気づく話。既にさまざまな処理を経てしまっからエラーに気づくと、エラーの出所を探さなくてはならない。最終的に紙の調査票を引っ張り出すところまでしなければならず、エラーの原因を突き止めるのに多くの時間を費やさなければならない。
- ・ このような経済センサス特有の難しさは実施前に予想していて、それを見越した研修も行った。C/P にもこうした点を留意するように伝えたが、NIS 職員自身、経済のバックグラウンドがある人が多いわけではないので、限界がある。
- ・ こうした困難な状況下できちんと成果品をつくることができた。専門家も、C/P もよくやったと思う。

<経済センサスの価値、日本企業の動向>

- ・ カンボジアにどのような産業やビジネスがどこにあるかが分かるので日本をはじめとした企業

にとって役に立つ。

- ・ 政府が産業政策を策定する際にも、どの州にどの産業がどの程度あるかが分かるので、より良い計画が立てられる。
- ・ 特に日本企業にとって必要だと思われるレポートを JICA 事務所と JETRO に置いている。
- ・ カンボジア投資委員会に Japan Desk が設置され、JICA 職員と専門家 1 名が常駐しているが、そこにも報告書類を置いている。日本から年間 500~1,000 社やって来ると聞いている。
- ・ 統計資料は日本企業がカンボジアを知るために必要。貿易会社、投資を考えている会社（イオンや工場から、ラーメン屋に至るまで）が利用している。
- ・ 『投資ガイドブック（日本語。日本政府が何億円も掛けて作成。人口・経済センサスのデータを活用）』という出版物が出ているが、いつのまにか（著作権を無視して）中国語にすべて翻訳されていると聞いている。
- ・ カンボジアで日本企業がビジネスを本格的に開始したのは 2010 年ごろから。それ以前は視察に来て「よく分からない」ということで投資をしていなかった。2010 年に円高になったことから特に海外に日本企業が進出してきたということもある。カンボジア投資委員会も JETRO もこのころから事務所を置きはじめた。
- ・ 視察に来るのは大企業の場合は課長や次長の中間管理職。2010 年以前は、こうした中間管理職が出張から帰ったあと、会社に見せる物が全くないという状況だった。今はさまざまな統計データを持って帰って投資を検討してもらうことができる。
- ・ 政策にデータを反映させることができるかどうかは政府の能力によるが、データは必要であることは間違いない。
- ・ 例えば、今後 ASEAN 内の関税率がゼロになるのだが、特定の品目についてはこれをブロックして保護することができる。どの品目をブロックすべきか、についてカンボジア政府が決める際、まずはカンボジアでは何が作られているかを知らなければならない。国家 5 年計画を策定する際にも、根拠に基づいて優先産業を決めることができるようになる。有効にデータが引用されて政策に反映される、というのはこれから。今年、ちょうど 5 年計画をつくり始めていると思うので、統計データが引用されるのではないかな。

#### <分析能力>

- ・ NIS の分析力にはばらつきがある。特定テーマについて 10 冊ほどレポートをつくっているが、1 つの報告書につき 3 名の C/P が担当している。合計で必要な人数は 30 名だが、人数が足りなく、20 名程度で分担して作成することになった。人によっては掛け持ちで担当している。その 20 名の能力に大きな差がある。
- ・ 下位の職員のレベルはかなり低い。20 名のうち、ある程度自立して分析ができるようになった人は 7、8 名程度。英語力の問題もある。
- ・ 人口センサスは実生活に結びついたデータなので、特に専門知識がなくてもデータをある程度分析できる。一方、経済センサスはビジネスの知識が必要で、経済・経営学部卒でないといけない面がある。
- ・ 会社の決算報告書を理解していないと難しいと認識している。そのため、簿記や会計についての研修を行った。しかしそもそも簿記や会計学などは大学で 1 年間かけて学ぶくらい、必要な知識が多く、理解するのに時間がかかる。短期の研修でカバーできることは限られている。
- ・ 今回も C/P から要望があって、予定はしていなかった追加の研修を来週月曜の午後と火曜の午前で実施することにした。企業経営の話をする予定で、結果分析のために必要な知識。
- ・ 1 年の延長をするとしたら、その間に、上位の人たちに対して追加的に指導し、次のセンサスの際にリーダーシップを取ってもらえるようする。同時に、下位の人たちの底上げも多少しないといけないと思う。

#### <C/P の状況>

- ・ 1990 年代から NIS に勤務している人は、さほど業務量が少なく過ごしてきたので、最近になっていきなり業務が増えたという感覚だろう。
- ・ 民間の方が給与が高いため、人材確保は難しい。優秀な人は国際 NGO や国連に移ってしまう。JICA 事務所のカンボジア人スタッフも同じ状況だと聞いている。
- ・ センサスに関しても、供与機材・建物の O&M に関しても、いまだに日本の財政支援をあてにしている。たとえば、この NIS の建物は日本の見返り資金で建てられたが、エレベーターが壊れた際に、「壊れたので直してくれ」と日本人に言いに来た（その後、Sida に頼り、Sida が修理した）。

<PDP への機材供与>

- ・ PDP への機材供与は手間暇がかかった。プノンペンの業者にコピー機、PC 等を注文したのだが、在庫は持っておらず、シンガポールに発注を掛けなければならなかった。
- ・ 今後、コピー機やプリンターのトナーやカートリッジを購入する際は、各州では入手不可能なので、プノンペンの業者に発注しなければならない（各州で調達できるコピー機やプリンター、消耗品などは存在しない）。新部署 Sub-national Statistics Dept.がそうした部分のケアもしっかりやっていく必要がある。

日 時	2014 年 9 月 5 日 14:00～15:00	
訪問機関	UNFPA	
場 所	UNFPA	
参 加 者	面談相手	Mr. Yi Sokha, Population & Development Analyst, UNFPA
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<p>&lt;担当業務&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2011 年 1 月からこれまで UNFPA で人口センサス・CIPS を担当している。そのほか、NIS と Migration Survey も行った。現在は、Cambodia Demographic and Health Surveys のデータ収集を支援しているところ。</li> </ul> <p>&lt;CIPS 2013&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CIPS2013 では、NIS・JICA とともに実施し、ポジティブな結果が得られた。三者で協議を重ねて円滑な実施のために協力した。</li> <li>・ CIPS2013 の際には、3 名の短期専門家（インド人、米国人、スウェーデン人）を雇用した。短期専門家はそれぞれ 1 週間程度の滞在に加え、帰国後電子メールでの指導を行った。自分は全体の調整を行った。</li> <li>・ UNFPA は、JICA とはアプローチが異なった。UNFPA は NIS が主体的に実施するよう、hands-on アプローチを採った。NIS 職員が実施し、UNFPA はそのあとでチェックをする役割。JICA は専門家が多数いて、執筆を専門家自らが行っていた。JICA は、NIS 職員に対する CD をあまり行わなかった。JICA は、レポートの執筆だけでなく、計画・調査実施・分析などすべての過程で NIS よりも専門家がイニシアティブを取って行っていた。JICA はあまり CD を行っていないので、JICA も UNFPA のアプローチを採るべきだと考える。</li> <li>・ CIPS の分析レポートは、JICA と分担して行った。JICA が担当した分析レポートは、表・数字が多く、分析文章が少ないと感じた。</li> <li>・ JICA プロジェクトの強みは、NIS との関係が緊密なこと。また、他の主要な関係者とのネットワーキング（特に他のドナー）が強いこと。</li> <li>・ 日本人専門家は、英語が第一言語ではないので、NIS 職員との英語のコミュニケーションで苦勞していると感じる。UNFPA のスタッフはカンボジア人及び英語がほぼネイティブの専門家なので、その点の苦勞はない。</li> </ul> <p>&lt;将来の NIS への援助&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ UNFPA の 3 年計画では、今後、ナレッジマネジメントと CD、アドボカシーを強化する流れ（統計分野だけでなく、UNFPA が行うすべての支援において）。これまでは、サービス・デリバリーも行っていたが、今後は行わず、CD に重点を置く。</li> <li>・ NIS に関しては、人口センサスの技術支援を続けていく。また、統計に関するアドボカシーも支援していく。つまり、根拠（統計データ）に基づく政策立案のために、NIS が議員に対して働きかけるといったアドボカシーの支援も行っていく。これまではデータ収集の支援が中心だったが、これからはデータの利用支援に移っていく。</li> <li>・ 2018 年の人口センサスにいくら支援するかはまだ決まっていない。包括プラン策定を当該年の 2 年前に行うので、2016 年に決めることになる。</li> <li>・ 公式ではないが、試算によると次回人口センサス実施には 1,200 万ドルが必要。前回は費用の半分を UNFPA が支援したが、今後どうなるかは未定。増額はあり得ない。50%以下になることは確実。</li> </ul>		

- ・ UNFPA は、MOP だけでなく、内務省や社会福祉省なども支援しなければならないので資金が不足している。ただし、NIS に対する技術支援の予算は確実に確保する。CIPS と同様の技術支援を 2018 年にも行うようになるだろう。
- ・ 経済センサスへの支援は UNFPA はまず無理。例えば、Cambodia Demographic and Health Survey (CDHS) には UNFPA は 100 万ドル以上 (50%以上) 支援していて、こうした調査の方が UNFPA にとって優先課題。

<他ドナー>

- ・ ドイツ国際協力公社 (Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit : GIZ) は以前はセンサスを支援していたが、今は保健分野に関心が移っている。KOICA、アジア開発銀行 (Asian Development Bank : ADB) は経済センサスへの支援に興味があるかもしれない。

<NIS の能力>

- ・ NIS の低い英語力はプロジェクトを行ううえでの阻害要因となっている。
- ・ 一般的に政府職員は給与水準が低く、意欲が低い。人材育成のシステムが弱いことも負の要因。
- ・ 政府職員は、離職率も一般的には高いが、NIS の定着率は良い (しかしあまり働かない)。
- ・ 意欲が低いので、成果品完成に時間がかかる。
- ・ 人口調査に関しては、NIS 職員のうち、10 名ほどは分析レポートを自分たちで書けるが、それでも英語の間違ひは多い。データ処理に関しては 5、6 名が自立してできる。サンプリングは問題ない。特に弱いのはデータの分析とレポート作成だといえる。

<その他>

- ・ 個人的に経済財政省の幹部と話したが、借款についてはインフラ開発のみで、統計分野のローンはダメだとのこと。
- ・ インドとの南南協力が有益。UNFPA はまだ実施していないが、近隣国のスタディツアーなども効果的。
- ・ UNFPA を含めた国連は、現在組織改革をしているので、将来については不確実な部分が多い。職員と長期契約を結ばない方向で動いており、自分も 1 年ごとの契約。今後いつまでいられるかわからない。

日時	2014 年 9 月 5 日 15:30~16:30	
訪問機関	Sida	
場所	NIS	
参加者	面談相手	Mr. Russell Schmieder, Chief Advisor, Institutional Capacity Building Project at NIS, Sida
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<プロジェクト実施体制>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期専門家は自分一人 (今年 4 月に赴任)。去年までは、2~3 名の長期専門家がいた。</li> <li>・ 現在、2~5 名の短期コンサルタントがいて、1 回の滞在は 2~3 週間ほど。</li> </ul>		
<Sida の NIS への支援の成果と課題>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Sida は Output-based でありながら CD を重視した支援を行っている。CD には多くのリソースと時間を必要とする。</li> <li>・ これまで 8 年ほど Cambodia Socio-economic Survey (CSES) の支援をしていて、今は成果と課題が混在している状態。</li> <li>・ NIS の CD については確実な成果を上げている。CSES 実施に関して、質問票デザイン、データ収集、データクリーニング、分析、レポート作成のすべての過程において NIS は進歩した。なかでも一番進歩したのはデータ収集。8 年前の NIS の能力はゼロに等しかった。全くフィールド調査ができなかった。</li> <li>・ まだ自立していないのはデータクリーニングと、分析、レポート作成。分析とレポート作成の能力を比較すると、レポート作成能力よりも分析能力の方が高い。レポート作成に関しては、NIS 職員の英語力の低さが足を引っ張っている。</li> <li>・ レポートは 10 種類作成しており (10 分野)、それぞれの冊子を NIS 職員 2~3 名が担当している。</li> </ul>		



<p>NIS 職員がドラフトを作成し、Sida 専門家が校閲を行っている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Institutional Capacity Building Project at NIS は、今はフェーズ3であり、6 カ月間の延長を検討している。2015 年末に終了する予定だったが、その後6 カ月延長する可能性が高い。延長期間中に分析・レポート作成を行う予定。</li> </ul> <p>&lt;CSES 以外の NIS への支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ National Account と Management of NIS の支援も行っているが、成果はなかなか出ていない。特に、Management に関しては、NIS の政策策定・人事に関する改善を行おうとしているが難しい。</li> <li>・ NIS は MOP の下部組織であり、独立していない。こうした組織体制は international principle に反しており、政治的制圧を受けやすい。</li> <li>・ 人事に関しては、能力に応じた新規採用手順を確立させた（先進国では当たり前の手順だが）。しかし、センサスの調査員を採用する際には NIS はこの手順に従って行っているが、NIS 職員採用時にはできていない。いまだに縁故採用が幅を利かせている。また、汚職の問題も多い。</li> </ul> <p>&lt;将来の NIS への資金援助計画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2018 年人口センサスに Sida がどの程度資金援助をするかについては自分は全く分からない。（注：Sida の関係者に問い合わせるとのこと）</li> <li>・ Sida は Results strategy for Sweden's international aid in Cambodia 2014-2018 を策定している（注：3 ページの文書のため、詳細な記述ではない<sup>1)</sup>）。人口・経済センサスへの支援もこの方針に沿ったものとみなされれば、支援する可能性はあるだろう。ちなみに、この戦略は「general or sectoral budget への支援は行わない」と明言している。</li> </ul>
--

日 時	2014 年 9 月 5 日 15:00～15:30	
訪問機関	プロジェクト専門家	
場 所	NIS	
参 加 者	面談相手	西文彦専門家（チーフアドバイザー）
	面談実施者	首藤
	収集資料	N/A
面談内容		
<p>&lt;人口センサス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口センサスは 1998 年の初の実施からこれまでに 4 回実施の実績があるため（1998 年、2004 年中間年、2008 年、2013 年中間年）、NIS の人口センサス実施能力は経済センサス実施能力と比べて格段に上。また、人口センサスを担当する職員と経済センサスを担当する職員は異なる。</li> <li>・ 人口センサスへの技術支援については、以前は UNFPA が丸抱えだったが、大分支援を縮小させたこともあり、NIS は自立して実施するようになった。</li> <li>・ 人口センサスに関しては、NIS のオーナーシップは強いといえる。CIPS2013 実施の際も、経済センサスのときと異なり、NIS が会議議事次第設定、議事録作成・配布等を言われなくても自律的に行っていた。</li> <li>・ 人口センサス・調査のレポートに関しては、既にこれまでのレポートのテンプレートがあるので、表作成等などは問題なくできるし、文章も書ける。</li> <li>・ 分析能力も経済調査に比べれば高い。しかしそれでも、ケアレスミスが多かったのが、100%NIS だけでできるということではない。2018 年の人口センサスも、技術的なフォローが必要である。レポートは英語で作成するために、NIS にとって難しいという面もある。</li> <li>・ UNFPA は人口センサスだけでなく、Cambodia Demographic and Health Survey 等も支援しているので、カンボジア人のコンサルタントを毎年 NIS に常駐させている。</li> </ul>		

<sup>1)</sup> <http://www.regeringen.se/content/1/c6/24/53/78/9af98f1e.pdf>

日時	2014年9月8日 16:00~17:00	
訪問機関	Ministry of Planning (MOP)	
場所	Ministry of Planning (MOP)	
参加者	面談相手	(計画省大臣への表敬訪問) H.E. Chhay Than, Senior Minister, Ministry of Planning (MOP)、その他 C/P (MOP、NIS 局長等) 4名
	面談実施者	富澤、金室、高附、首藤 (及び通訳、プロジェクト専門家)
	収集資料	N/A
面談内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>カンボジアの発展は日本の協力と切り離しては考えられない。インフラ等のハードに加え、ソフト面もともに支援してもらっている。フンセン首相も日本の援助を感謝している。</li> <li>日本政府は人口調査を含め、財政・技術支援、NIS への建物建設等の支援をしてくれている。本邦研修も行われた。こうした支援により、NIS の能力が向上した。技術支援をしてくれているプロジェクト専門家には感謝の意を表したい。</li> <li>経済センサス・調査の実施はカンボジアにとって全く初めての経験だったので、特にこれらの技術支援を有難く思っている。支援のお陰で豊富なデータを得ることができた。</li> <li>中小企業支援に関しては、MOP は、工業省等の関連ライン省と国家政策達成のために産業支援に積極的に取り組んでいるところである。近年、工業セクターが強くなりつつあり、農業セクターから工業セクターへの移行が確認できつつある。</li> <li>統計分野では、地方分権の進展や地方の民主化等のプロセスのなかで、今後も能力強化を行っていく必要がある。M&amp;E のツールとして必要であり、統計をこれまで以上に政策決定・モニタリングに活用していく必要がある。</li> <li>州レベル職員の能力はまだ十分でないことは認識しており、今後強化が必要だと考える。</li> <li>日本とカンボジアのパートナーシップは強く、今後も NIS への支援を期待している。カンボジアは、内紛が終わってからこれまで 15 年しか経過していないため、まだ弱い部分が多く残されている。</li> </ul>		

日時	2014年9月9日 9:00~12:00	
訪問機関	NIS	
場所	NIS	
参加者	面談相手	プロジェクト終了時評価調査キックオフ会議 (NIS 局長ほか NIS の C/P 4 名が出席)
	面談実施者	富澤、金室、高附、首藤 (ほか、プロジェクト専門家、林 JICA カンボジア事務所企画調査員)
	収集資料	各種進捗報告プレゼンテーション資料
面談内容		
<p>(キックオフ会議では、調査団から終了時評価調査の趣旨・手法の説明を行い、NIS から活動の進捗・成果報告のプレゼンテーションがなされた。ここでは、NIS のプレゼンテーションや、質疑応答等のやり取りのなかから、これまでの現地調査では得られなかった新たな情報・意見等を中心に記載することとする)</p> <p>&lt;EC 2011&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(Hang Lina 局長) カンボジア初の経済センサスであり、JICA の支援があったからこそ成功裡に実施できた。EC 2011 実施後、首相をはじめ、経済財政省、租税総局等から経済センサス結果の問い合わせを頻繁に受けた。MOP 大臣からは、ポケット版の経済統計ブックレットがほしいといった声も聞かれた。(西専門家) ポケット版についてはプロジェクトで作成が予定されていなかったため、これまでアクションを起こしていなかった。しかし必要なのであれば、NIS の自助努力で作成することを考えたうえで、難しいとなったら JICA に正式に相談してほしい。CIES2013 分析レポート等の他の優先活動もあるので、それとの兼ね合いも考慮する必要がある。</li> <li>(富澤次長) 質問票のなかのいくつかはバランスシートや資産額等を聞いており、経営・会計の知識がない調査員には情報を収集するのは難しいのではと感じる。大学の研究者等の専門家から技術支援を得ているのか。(Khin Sovorlak) 指摘のように難しいことに加え、これらの質問は企業・事業所にとってセンシティブでもある。大企業・中企業に対しての調査は、調査員は行わず、</li> </ul>		

小企業に対して調査を行っている。RO・AROが大・中企業を調査しているが、JICA 専門家が RO・ARO を研修で指導している。また、企業の会計データについては、コピーをもらい、質問票に転記するほか、コピーを質問票に添付した形で提出するようにしている。RO・ARO でも、情報を収集することが難しい場合もあるので、その場合には NIS の中央職員が特別チームを結成して現場を訪ねる等のフォローアップをしている。督促状等のフォローアップをしないと企業はなかなか情報を出さない場合がある。工業省や社会福祉省の協力を得て経済統計の法的根拠を示した督促状を発信した。

#### <CIPS 2013>

- ・ (Meng Kimhor) UNFPA 支援の分析レポートはまだ完成していない。今後取り組む予定。

#### <SAS>

- ・ (Hang Lina 局長) 現在、PDP 職員は表やグラフを作成する能力を身に付けたか? (Kim Net) SAS は PDP 局長のリーダーシップと SASPO (州で3名。2名がコア。1名がアシスタント) の能力が鍵となる。コンポントム州では、地元 NGO がコンポントム州 PDP に統計データを提供するように依頼し、リクエストに応じることができた。コンポンチャム州、プノンペン市も能力が高い。遠隔地の州は弱い傾向にある。北部、西部の州では PDP 局長のリーダーシップと SASPO のレベルが低い。こうした州では全くコンピュータに触れたことがない人を SASPO として任命したりしている。
- ・ (Kim Net) コンポンチャム州は2つに分かれたので、JICA から追加支援をしてほしいとの州からの要請があった。

#### <統計結果の提供>

- ・ (Hang Lina 局長) 以前は Web には出版物のタイトルしか掲載していなかった。しかし、ドナーの支援もあり、最近 Web に種々の情報を掲載するようになった。クメール語については Web はないので (注: この認識は誤り。クメール語は5月に開設された)、将来も掲載する予定はない。
- ・ (富澤次長) SAS レポートはクメール語で作成されているが、英語は作成する予定はないか? (Hang Lina 局長) 翻訳できればよいが、多忙であり、資金もない。(富澤次長) 出版物については、少なくとも Web に購入方法や価格を掲載しておくのがよいのではないか。(Hang Lina 局長) そうしたい。
- ・ (Kim Net) 統計データはユーザーからの要望が多いので、将来は NIS 内に、広報を専門とした部署を立ち上げるといったことも考える必要があるのではないか。そうすれば統計情報の提供が容易になる。
- ・ (Meng Kimhor) 人口データの生データについて多くの人から提供の依頼を受けた。大臣にも稟議したが、10%ほどしか提供できないことになった。他の国でもほとんどが生データの提供はしていない。中華人民共和国 (以下、「中国」と記す) は1%程度。(富澤次長) 生データは秘匿性の問題があるが、レポートは積極的に提供していくべき。(Meng Kimhor) レポートについては、Web にアップロードするよう NIS 内で依頼をしたが、まだアップされていない。動きが遅い。
- ・ (Hang Lina 局長) Web は ICT 部がアップロードを担当。しかし、それぞれの部に担当者1名が任命されていて、その担当者が ICT 部にアップロードを依頼する手続きになっている。
- ・ (Meng Kimhor) UN 支援で運営されている [nada.nis.go.kh](http://nada.nis.go.kh) のウェブサイトには手法に関する文書やメタデータを掲載するサイトと認識している。NIS としては、[nis.go.kh](http://nis.go.kh) のサイトにすべての情報を掲載したいと考えている。[nada](http://nada.nis.go.kh) へはリンクを貼る。どちらのサイトも ICT 部が管理を担当している。Panhara DDG は ICT 部の上司の立場 (注: しかし実際は Panhara が一人で管理しているという発言が聞かれた)。

#### <ソフトコピーの管理>

- ・ (Hang Lina 局長) ソフトコピーは個人の PC で管理しているので、どれが最新版か分からなくなるという課題を抱えている。(Meng Kimhor) 部でシェアフォルダーをつくるように改善している。しかし、情報の秘匿性・保護には注意しなければならない。(西専門家) 10年前に文書管理の研修を実施した。

#### <新部署 Sub-national Statistics Department>

- ・ (Hang Lina 局長) 首相のリクエストによって NIS だけでなく、すべての MOP 省内の組織に地方支援を行う部署が設置された。そうした経緯で Sub-national Statistics Department が NIS 内に誕生した。SAS は、Sub-national Statistics Department の担当業務になる。JICA の SAS サブプロジェクト

トの経験があるので、それを生かしていきたい。JICA も可能ならば支援してほしい。

- ・ (Meng Kimhor) 州はインフラも良くなってきていて、Sida の支援もあり、PDP 職員のキャパも向上している。Sub-national Statistics Department は来年 (2015 年) の計画を立てているところで、SAS サブプロジェクトで行われた研修を参考に、詳細活動計画を立てていく。

<プロジェクトの延長>

- ・ (富澤次長) JICA の技プロ予算が限られているという現状をまず理解してほしい。詳細については午後協議したい。

<第三国研修の受け入れ>

- ・ (Hang Lina 局長) 2015 年アセアン統合が進む。カンボジア政府は、統計だけでなく、どのセクターもアセアン諸国と協力をするべきだとのことで、アセアンと交流する研修予算を手当てしつつある。(富澤次長) アセアン以外の国とはどうか。(Hang Lina 局長) アセアンに限らず、他の国とも協力したい。スリランカ民主社会主義共和国 (以下、「スリランカ」と記す) やバングラデシュ人民共和国 (以下、「バングラデシュ」と記す) などもよいと思う。しかし具体的な方法についてはまだよく分からない。
- ・ (Hang Lina 局長) 統計法改訂や NSDP の作成も実施している最中で、それに応じた予算計画を進めているところ。統計活動については、ベトナムは世銀から統計活動資金を獲得したと聞いている。カンボジアもそうした可能性を探っている。

<NIS 職員の能力>

- ・ (Meng Kimhor) 分析レポート作成は難度が高いので、職員の一部は意識的に避け、簡単な仕事に従事する傾向がある。
- ・ (Hang Lina 局長) さまざまなバックグラウンドをもった人が NIS に新入職員として入ってくるのでスキルを高めるのに時間がかかる。
- ・ (Hang Lina 局長) 人口については海外大学から人口統計の修士号を取得した職員が 2 名いるが、経済調査の方にはそうした専門知識をもっている職員がいない。現在、2 名 MBA を受講中の者がいるので、今後、こうした職員が経済知識について他の職員に教えることができると期待している。

日 時	2014 年 9 月 9 日 14:00~14:30	
訪問機関	NIS	
場 所	NIS	
参加者	面談相手	Mr. Sok Kosal, Deputy Director General, NIS and Mr. Buoy Somethea, Deputy Director, Department of Demographic Statistics Census and Survey, NIS
	面談実施者	金室 (記録)
	収集資料	N/A
面談内容 <b>Capacity of Analysis on CIPS</b>		
(CIPS2013 Data Analysys Seminar のプレゼン資料の内容から、二人とも十分な分析能力があると考えられる。面談時間の都合上、合同でのインタビューとした。)		
○Mr.Sok Kosal		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1998 年から人口センサスを担当、UNFPA の協力も受けている。</li> <li>・ 人口センサスの分析レポートの作成担当であり、セミナーでプレゼンテーションも行った。こういった分析レポートの作成には、さほど時間はかからない。</li> <li>・ 特定の NIS スタッフ (部下のもよう) に、分析レポートの作成方法を教えている。</li> <li>・ 人口センサスのほかに、Socio-Economic survey も担当しており、こちらの分析レポートも作成している。経済センサスの分析レポートは、これまで依頼がないので作成したことはないが、これまでの経験から、問題なく作成できると思う。</li> <li>・ Cambodian Demographic and Helth Survey の分析レポートの作成予定もある。</li> <li>・ NIS では、Establishment booklet をつくる予定である。</li> <li>・ データの保管については、データを Web にすべて (統計表及び Raw Data) 載せるのがよいと思う。</li> <li>・ JICA のスタディツアーで、1 カ月間日本に滞在したことがある。そのときに、事業所に関する多</li> </ul>		

くのことや産業分類などについて学ぶことができた。また、地図の作成や ICT 技術、レポートの作成方法など、JICA からは多くのことを学んだ。

- ・ UNFPA は 1998 年から 2008 年まで、人口センサスの支援を行ってくれたが、今後の支援は縮小される予定である。そのため、JICA にも引き続きサポートしてほしい。

○Mr.Buoy Somethea

- ・ 2004 年から人口センサスの担当。
- ・ 本邦研修において、VBA (Visual Basic for Application)、GIS などのたくさんの知識を得た。
- ・ 分析レポートの作成方法は、Mr.Sok Kosal からも教えてもらった。
- ・ JICA からは、ICT に関する知識をたくさん学んでおり、能力向上のために、これからも引き続き、サポートを続けてほしい。

○その他

- ・ 共有サーバはない。ICT 部署は持っているようだが、使わせてもらえない。また、インターネットアクセスも職員が個人で用意している。トラブルが発生した職員がいた場合には、スタッフ同士で助け合っている。

日 時	2014 年 9 月 9 日 14:40～15:20	
訪問機関	NIS	
場 所	NIS	
参 加 者	面談相手	Mr. Chan Samath, Deputy Director, Sub-national Statistics Department, NIS
	面談実施者	金室 (記録)
	収集資料	N/A
面談内容 <b>Capacity of Analysis on CIES</b>		
(Mr. Try Socheat の代わりにインタビューを行った。Mr.Khin Sovorlak は業務多忙につき、インタビューできず)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在は、Sub-national Statistics Department の所属となっているが、以前は経済センサス及び農業センサスの実施部局におり、経済センサスの分析レポートを作成した。</li> <li>・ いろいろなプロジェクトで専門家がやって来るが、分析レポートの作成は、EC2011 が初めてであり、良い経験であった。</li> <li>・ 人口センサスの分析レポートを作成したことはない。現在も農業センサスに携わっているため忙しく、そのレポート作成に EC2011 の経験が生かせると考えている。 (農業センサスは、速報公表：2014 年 8 月、確報公表：2014 年 11 月とのこと)</li> <li>・ 経済センサスの分析レポートは、新旧データを比較して書けばよいと考えている。もともと、経済を学んでいたの、レポート作成がそれほど難しいとは思わない。</li> <li>・ 費用面でのサポートがあれば、技術サポートがなくても、経済センサスの分析レポートを作成できる NIS スタッフは何名かいると思う。</li> <li>・ 実際には行っていないが、分析レポートの作成方法を教えるとしたら、自分の場合は、概要の分析方法は教えられるが、詳細分析の方法は無理だと思う。</li> <li>・ JICA のサポートはとても良く、たくさんのことを学べる。これからも引き続き支援してほしい。特に詳細分析に関する知識は充分でない。</li> <li>・ Sub-national Statistics Department の機材は充分でない。執務室も用意してもらえよう願っている。</li> <li>・ 以前から SAS を担当しており、3Province (Takeo, Stun Tram, 他) に講師として派遣された。Province の職員には、集計方法、GIS、地図の作成が難しいだけでなく、パソコン自体を使うのが難しい人もいる。その一方で、Province に大学出でコンピュータの知識がある新人職員がいる場合もあり、上のクラスのスタッフに教えるより、簡単である。こういった新人職員は、この 10 年くらいの間に増えてきている印象がある。</li> <li>・ 農業センサスと経済センサスの結果は似ているので、農業センサスの結果も SAS の対象にできる</li> </ul>		

と思う。

- ・ 技術支援は必要。ステップバイステップで行わないと忘れてしまう。
- ・ 情報の管理方法としては、印刷物で充分。ICT 部で、次の調査まで、電子媒体の資料を保管すると聞いている。また、Web の管理も ICT 部の担当である。

日 時	2014 年 9 月 10 日 9:00～10:30	
訪問機関	Prey Veng PDP	
場 所	Prey Veng PDP	
参 加 者	面談相手	Samrath Makara 局長 Khim Sokha Planning Officer
	面談実施者	富澤、金室、高附（記録）、（西専門家、床専門家）、Mr. Kim Net(通訳)
	収集資料	N/A
面談内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PDP の職員は 46 名（女性 11 名） うち District レベルは 17 名（女性 2 名）。部局は、Administration office, Statistics office, M&amp;E office, Planning office の 4 つ。そのうち統計課の職員は 13 名で、3 つのセクション（経済統計、社会統計、ジェンダー統計）がある。</li> <li>・ CDB（コミュニケーションデータベース）は、毎年作成。行政レポートから作成している。Planning Office が主管。</li> <li>・ SAS：地図作成に関する研修は十分ではない。追加の研修が必要。英語が大きな障壁となっている。プログラム（excel も）が英語なので苦勞している。多くの職員は英語の能力が低い。土・日を活用し英語のクラスに行っている。</li> <li>・ 供与機材：SCS は難しいが、分からないときは SCO、RO、ARO に聞くことができる。既に 5～6 回電話で聞いている。メールはあまり使っていない。インターネットは、プロジェクトでモデムを供与している。プリペイド式なので、ポータチャがなくなった際の予算が課題である。機材供与に関する予算は問題ない。</li> <li>・ マニュアル：マニュアル類は書類棚にまとめて整理している。ソフトコピーはプロジェクトで外付け HD を供与している。</li> <li>・ PCC：部局が参加しており、うまく調整・協力ができている。会議などにも参加し情報共有している。</li> <li>・ データ提供：ユーザーはコミュニケーションレベルのデータを求めることが多い。プロジェクトのおかげで、短時間でコミュニケーションレベルの必要なデータを提供することができる。民間企業からの問い合わせもあるが、NGO が多い。30 以上の NGO があり、公表セミナーをやる際は招待している。彼らにはハード・ソフトでデータを提供しているので、問い合わせはない。省庁等に Low データを提供する際は、オフィシャルレターを求めている。</li> </ul>		

日時	2014年9月11日 9:00～12:00	
訪問機関	NIS	
場所	NIS	
参加者	面談相手	H.E Ms. Hang Lina, Mr. Heang Kanol, Mr. Khin Sovorlak, Mr. Kim Net
	面談実施者	富澤、金室、高附（記録）、首藤、林企画調査員、西専門家
	収集資料	N/A
面談内容 Discussion regarding JER and extension of the project		
<p>【JERの協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JERについては、協議を行い、適宜修正を行った。</li> </ul> <p>【延長に関する協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口センサスと同様に、分析レポートが必要である。もし可能なら分析レポートを支援してほしい。能力が低いので JICA にすべてのレポート作成を要請している。JICA は何冊のコピーを提供してくれるのか？</li> <li>・ 予算制約があるため、すべての支援をすることは難しい。支援の優先順位があれば教えてほしい。</li> <li>・ 優先順位は、①Analysis on 17 industries、②Analysis on large, medium and small industry、③Textile industries、④Women in business、⑤Statistical Atlas、⑥Comparative analysis by industry。</li> <li>・ 将来的には JICA カンボジアの戦略は変わるかもしれないが、JICA は既に 10 年協力しており、他の分野の優先順位が上がっており、統計分野のプライオリティが下がっている。（富澤）</li> <li>・ 支援にはニーズと優先順位が必要である。人材育成にどのくらいの支援が必要か。議論のスタートは技術的な支援であり、財政的にいくらではない。（林）</li> <li>・ 人口センサスでは C/P がドラフトを書き、専門家に見てもらった。経済センサスもそのような形でチャレンジしたい。</li> <li>・ 延長はまだ決まっていないので、プロジェクト終了までにできるだけ準備を進めてほしい。しかし、予算は限られているので 1 年以上の延長は難しい。そのあとの専門家派遣は難しい。</li> <li>・ 優先順位と理由を書いた文書をカンボジア事務所に提出してほしい。望むらくは 9 月末までに延長の可否を判断し、期間や投入量を決めたい。（富澤）</li> <li>・ 来週中にはレターを提出する。（Hang Lina）</li> </ul>		

日時	2014年9月12日 10:30～11:30	
訪問機関	在カンボジア日本大使館	
場所	在カンボジア日本大使館	
参加者	面談相手	在カンボジア日本大使館 實取直樹一等書記官、和田孝行二等書記官
	面談実施者	富澤、金室、高附、首藤（記録）（プロジェクト西専門家、床専門家）
	収集資料	N/A
面談内容		
<p>（評価結果を「現地調査報告書」「評価調査結果要約表」「団長所感」を用いて調査団から説明。その後質疑応答）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ （實取一等書記官）評価結果を聞くと C/P の技術力が確かに向上したことが理解できた。実際、センサスを実施してみても、現場でデータを取るのが難しいということはなかったか。</li> <li>・ （富澤次長）例えば、ミャンマー連邦共和国（以下、「ミャンマー」と記す）では民族問題等もあり、特定の民族からはデータが取れないといった問題が発生する。そういう面ではカンボジアは特に問題は発生しなかったと理解している。より課題として認識されているのは、取ったデータを利用者にどのように提供するか、の方である。</li> <li>・ （西専門家）経済センサスの場合、事業所が 50 万件あるが、1,000 件しか財務諸表を作成していなかった。また、事業所の約 8 割が従業員 2 人以下の零細企業なので、帳簿さえつけておらず、事業主も売り上げを正確に把握していないという状況があった。また、人口センサスの場合には、自分の年齢がはっきり分からない人も多かった。インドネシア共和国（以下、「インドネシア」と記す）のような中進国でさえ、誕生日を「1月1日」と答える人が多いことをかんがみると、カンボジアの状況は推して知るべし、というところがある。</li> </ul>		

- ・ (首藤) 現場ではロジ面で困難が伴ったと聞いている。遠隔地や山間部で移動が困難だったり、川に分断されているため小舟を借り上げなければならなかったり、とかなり移動コストが必要になったという話だった。
- ・ (西専門家) トンレサップ湖周辺では、季節によって移動する人も多い。モンドルキリ州などの山間部で経済調査をした際には、山道を何度も通わないと回答が得られないといった状況もある。
- ・ (和田二等書記官) プロジェクト終了後、センサス・調査実施の際には、C/P だけで調査を実施できるか。
- ・ (富澤次長) 調査計画・実施・集計の一連の作業は C/P だけで実施できるだろう。ただ、資金的な問題があるほか、評価結果で触れたように、分析には専門知識が必要であり、困難が予想される。アフリカなどでは、分析の部分は外部の研究者に依頼している国もある。
- ・ (西専門家) 調査の方法はマニュアル化されているので、8、9割は自分たちでできるだろう。表作成もできるだろうが、それに対して分析コメントを作成することは難しく、さらに英語でコメントを書くとなるとさらに高いレベルが求められる。ただ、プロジェクトで既に見本を見せているので、次回以降はそれを例として参照しながら、ある程度自分たちでできると思われる。
- ・ (實取一等書記官) 今後、選挙支援をどう進めるかが検討されている。カンボジアでは戸籍登録ができていないため、例えば、人口センサスを活用できれば効率的ではないかと考えるが、そうした可能性についてどう考えるか。
- ・ (富澤次長) 今回、プレイベン州を訪問した際、センサスといった活動以外に、日常的に住民データを集めようという動きがあると聞いた。将来的には可能なのかもしれないが、センサスと選挙のための住民登録とでは目的が異なるので、どう調整していくかが課題だろう。
- ・ (西専門家) 既に潰れてしまった話であるが、次回人口センサス時に、住民基本台帳を整備し、さらに、そこから選挙人名簿を作成するという動き・考えは確かに存在した。カンボジア計画省は、この考えを実現すべく、円借款の申請を試みたが、カンボジア経済財政省は、円借款はインフラ整備のみにしか申請しないという理由で承認しなかった。一方、他の国、例えばインドでは人口センサス時に住民基本台帳を整備している。インドでは、指紋認証等を取り入れ、登録の重複をなくすようにしている。
- ・ (和田二等書記官) 今回実施された 2014 年中間年経済調査では、GDP 寄与率等の分析が行われるのか。
- ・ (西専門家) 2011 年経済センサスでは、GDP に関する分析レポートを刊行した。今回も当初予定には含まれているが、昨日のプロジェクト期間延長の議論の際、GDP に関する分析レポート、NIS が優先的に作成するレポートのなかには選ばれなかった。
- ・ (富澤次長) 昨日の協議でのレポート選択は拙速に行われたので、来週の半ば(9月16日、17日ごろ)までにNIS局長からJICAカンボジア事務所長宛てにレポートの優先順位とその選択理由を記載したレターを提出することでNISと合意している。NISがもう一度じっくり考えた結果、異なるレポートが優先レポートとして選ばれる可能性はある。
- ・ (和田二等書記官) 農業センサスの結果は既に出ているのか。農業センサスの結果と経済センサスの結果を分析すれば、カンボジアの経済活動についての実態がみえてくるだろう。
- ・ (西専門家) 農業センサスの結果は今年(2014年)12月に出ると聞いている。
- ・ (實取一等書記官) 評価レーティングについてだが、何段階評価なのか。
- ・ (首藤) 技プロ事後評価と異なり、中間レビュー、終了時評価にはレーティング基準が定められていない。一方で、これまで20件余の技プロ評価を実施してきたコンサルタントとして、本プロジェクトは、成果産出・能力向上の観点から、上位に位置する優良プロジェクトであると感じている。
- ・ (實取一等書記官) プロジェクトの問題として、情報の共有が弱いということだが、具体的にどのような課題があるのか。
- ・ (富澤次長) 情報インフラの未整備や、不明瞭な責任体制など、組織として体制が整っていないと感じている。
- ・ (西専門家) Webの管理責任者がNISに2名しかおらず、また、この2名は、プロジェクトのフェーズ1で情報システムの研修をした際に受講していない人である。また、外部(ドナー等)に対して、内部のマニュアルを提供したり、利用者のニーズに合わせて集計した情報を提供したりする場合には、個人的に報酬がもらえるということもあり(途上国ではそうしたことはよく行わ



れている)、内部の人間同士で情報を共有したくないという考えをもつ人もいると考えられる。他方、Web での情報提供については、NIS のサーバーだけに頼ってしまうとシステムが脆弱なので（ウィルス対策も十分ではない）サーバーダウン等のトラブルが発生する可能性があり、プロジェクトとしては、日本の総務省統計局のサイトに数多くの統計結果を掲載するようにしている。

- ・（富澤次長）基本的に、NIS はデータの利用者のニーズを考えるとといった意識はまだなく、ユーザーフレンドリーな考え方になっていない。
- ・（金室係長）現在のところ、NIS は政府向けに統計データの提供をすることだけを考えている。また、特に地方にデータを提供する際には、ソフトよりもハードコピーの方が需要が高かった。NIS は、まだソフトで利用者にデータを渡すということの重要性を認識していない様子。
- ・（實取一等書記官）データの取り扱いというのは、NIS にとどまらず、途上国では難しい問題。カンボジアでは、個人情報の漏洩は日常茶飯事なので課題は多い。

日時	2014年9月12日 15:00～15:30	
訪問機関	NIS	
場所	NIS	
参加者	面談相手	プロジェクト JCC メンバー
	面談実施者	富澤、金室、高附、首藤（記録）
	収集資料	N/A
面談内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・（Hang Lina 局長）評価結果で説明があった提言についてはすべて取り組んでいきたいと考えている。特にセンサス実施の予算計画については、既に計画省経由経済財政省から増額の確約を取り付けている。あとは毎年ごとの詳細予算計画を承認してもらう手順となっている。</li> <li>・（竹内次長）財政的持続性は重要なので、今後も努力を続けてほしい。また、現在、民間企業が経済センサスデータに大変興味をもっている。積極的に提供して欲しい。</li> <li>・（Hang Lina 局長）JICA の予算が厳しいことは理解している。とはいえ、まだ技術支援は必要。分析レポートは職員が自分で執筆するので、専門家に内容チェックをお願いしたい。</li> <li>・（林企画調査員）NIS は既に情報の「宝」をもっている。こうした宝を Web 等で出さない手はない。Web に情報が掲載されていれば、訪問した人は、必ずリピーターになり、訪問件数が増える。研究者等が NIS のサイトを参照すれば、文献リストに NIS の Web サイトが掲載されることになり、NIS が経済財務省に対して統計情報の重要性を説明する際に、主張の根拠となる。</li> <li>・（Hang Lina 局長）政府内では既に EC2011 の情報が役立っているという声があり（租税総局など）、今後情報の提供を強化していきたい。NIS の各部に Web への情報提供を担当する職員を 1 名ずつ任命した。</li> <li>・（Meng Kimhor 副局長）Sub-national Statistics Department はまだ新しく、活動が本格的に開始していないが、プロジェクトの SAS の経験を土台にして取り組んでいきたい。既に各 PDP にコンピュータ室が整備されていたので、活用していく。</li> <li>・（富澤次長）JICA の支援予算は、対象国の開発の度合いが進むとそれに応じて減額される。NIS はこれまでの技術協力により、政府統計能力の向上については目標のレベルに達したと判断し、協力が一旦終了となる。一方、地方分権化など新しい分野で、地方部の統計整備が必要となった場合等には、NIS と内務省が JICA 事務所と協議したうえで新しい協力が検討される可能性がある。また、将来的に、南南協力といったこれまでと異なった形で NIS を支援していく可能性がある。</li> <li>・（Panhara Oukchay 副局長）NIS は Web に積極的に情報を公開していくポリシーである。NIS 内のすべての部と、すべてのプロジェクトから Web 掲載情報を収集し、アップロードしていくつもりだ。英語だけでなく、クメール語も開設し、地方のニーズにも応えていきたい。また、Web は、NIS 内部・外部両方のニーズに応えていきたい。</li> </ul>		

2. 協議議事録 (Minutes of Meeting : M/M)、Joint Terminal Evaluation Report

MINUTES OF MEETINGS  
BETWEEN THE TERMINAL EVALUATION TEAM OF  
THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY AND  
THE AUTHORITIES CONCERNED OF  
THE ROYAL GOVERNMENT OF CAMBODIA  
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR  
THE PROJECT ON IMPROVING OFFICIAL STATISTICS IN CAMBODIA PHASE 3

The Terminal Evaluation Team (hereafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Ryuichi TOMIZAWA, visited the Kingdom of Cambodia from 31 August to 12 September 2014, for the purpose of the terminal evaluation of "The Project on Improving Official Statistics in Cambodia Phase 3" (hereafter referred to as "the Project").

During its stay, both the Team and authorities concerned of the Royal Government of Cambodia (hereafter referred to as "both sides") had a series of discussions and exchanged views on the Project. Both sides jointly monitored the activities and evaluated the achievements based on the Project Design Matrix (hereafter referred to as "PDM version 0").

As a result of discussions, both sides agreed upon the matters referred to in the Joint Terminal Evaluation Report for the Project as endorsed by JCC (Joint Coordinating Committee) on 12 September 2014.

Phnom Penh, 12 September 2014



---

Mr. Ryuichi Tomizawa  
Team Leader  
The Terminal Evaluation Team  
Japan International Cooperation Agency  
Japan



---

H.E. Ms. Hang Lina  
Director General  
National Institute of Statistics  
Ministry of Planning  
Kingdom of Cambodia

JOINT TERMINAL EVALUATION REPORT  
ON  
THE PROJECT ON IMPROVING OFFICIAL  
STATISTICS IN CAMBODIA PHASE 3

Phnom Penh, September 12, 2014

National Institute of Statistics, Ministry of Planning,

The Government of Kingdom of Cambodia

and

Japan International Cooperation Agency



## TABLE OF CONTENTS

Abbreviation/ Acronyms.....	3
Summary of Evaluation .....	4
1. Introduction .....	11
1.1. Objective of the evaluation study .....	11
1.2. Members of the evaluation team .....	11
1.3. Schedule of the study .....	11
2. Outline of the Project .....	12
2.1. Background of the Project .....	12
2.2. Summary of the project .....	12
3. Method of evaluation.....	14
3.1. Five evaluation criteria .....	14
3.2. Data collection methods and analysis.....	15
3.3. Limits and constraints of the study.....	16
4. Project performance and implementation process.....	16
4.1. Inputs from Japan .....	16
4.1.1. Dispatch of Japanese Experts .....	16
4.1.2. Training of C/P in Japan and Technical Exchange in Third Countries .....	16
4.1.3. Machinery and equipment provided by Japan .....	17
4.1.4. Local cost borne by Japan .....	18
4.2. Inputs from Cambodia.....	18
4.2.1. Assignment of C/P .....	18
4.2.2. Local cost borne by Cambodia .....	18
4.2.3. Facilities provided by Cambodia.....	18
4.3. Achievement of Outputs.....	19
4.3.1. Output 1 .....	19
4.3.2. Output 2.....	19
4.3.3. Output 3.....	21
4.3.4. Output 4.....	21
4.3.5. Output 5.....	23
4.3.6. Output 6.....	24
4.3.7. Output 7.....	26
4.3.8. Output 8.....	27
4.4. Achievement of the Project Purpose .....	28
4.5. Implementation process.....	30
5. Evaluation results .....	31

5.1. Relevance .....	31
5.2. Effectiveness .....	33
5.3. Efficiency .....	34
5.4. Impact.....	36
5.5. Sustainability.....	38
6. Conclusions .....	40
7. Recommendations .....	40
8. Lessons Learned.....	42

## TABLES

Table 1 Data collection methods and source of information .....	15
Table 2 C/P Training in Japan and Technical Exchange in Third Countries.....	17
Table 3 Local cost borne by Japan.....	18
Table 4 Local cost borne by NIS .....	18
Table 5 NIS' share of cost for population surveys.....	39
Table 6 NIS' share of cost for economic surveys .....	39

## ANNEXES

ANNEX 1: Schedule of the Terminal Evaluation

ANNEX 2: PDM

ANNEX 3: PO

ANNEX 4: Assignments of the Japanese Experts

ANNEX 5: List of Counterparts

ANNEX 6: List of Equipment Provided

ANNEX 7: List of Training in Japan and Technical Exchange in Third Countries

ANNEX 8: List of Publications

ANNEX 9: List of Manuals and Documents

## Abbreviation/ Acronyms

ARO	Assistant Regional Officer
C/P	Counterpart
CIES	Cambodia Inter-censal Economic Survey
CIPS	Cambodia Inter-censal Population Survey
CJCC	Cambodia-Japan Cooperation Center
CSPro	The Census and Survey Processing System
CTC	Census Technical Committee
EA	Enumeration Area
EC	Economic Census
EL	Establishment Listing
FAO	Food and Agricultural Organization of the United Nations
FY	Fiscal Year
GIS	Geographic Information System
JCC	Joint Coordinating Committee
M/M	Man Month
MDGs	Millennium Development Goals
MIC	Ministry of Internal Affairs and Communications
MOP	Ministry of Planning
NCC	National Census Committee
NIS	National Institute of Statistics
NSC	National Steering Committee
NSDP	National Strategic Development Plan
ODA	Official Development Assistance
OJT	On-the-Job Training
PCC	Provincial Census Committee
PDM	Project Design Matrix
PDP	Provincial Department of Planning
PES	Post Enumeration Survey
PO	Plan of Operation
R/D	Record of Discussions
RGC	Royal Government of Cambodia
RO	Regional Officer
SAS	Small Area Statistics
SCS	Simple Calculation System
SCO	Senior Commanding Officer
Sida	Swedish International Development Agency
UNDP	United Nations Development Programme
UNFPA	United Nations Population Fund

## Summary of Evaluation

<b>I. Outline of the Project</b>	
Country: Cambodia	Project title: The Project on Improving Official Statistics in Cambodia Phase 3
Issue/Sector: Economic Policy	Cooperation scheme: Technical Cooperation Project
Division in charge: Public Governance and Financial Management Division	Total cost (at the time of evaluation): Approx. 560 million yen
Period of Cooperation	(R/D) June 2010 October 2010- March 2015 (4.5 years)
	Partner Country's Implementing Organization: National Institute of Statistics, Ministry of Planning  Supporting Organization in Japan: Statistics Bureau of the Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC), Statistical Research and Training Institute of MIC, and National Statistics Center
<b>Related Cooperation:</b> The Project on Improving Official Statistics in Cambodia Phase 1 (August 2005 - March 2007) and Phase 2 (April 2007 - September 2010)	
<b>1. Background</b> The development of official statistics in Cambodia was significantly delayed due to the civil war. Since the 1990s, the official statistics have been gradually developed by the support of the United Nations and other international development partners. JICA has supported the improvement of the capacity of National Institute of Statistics (NIS) since 2005 through its two phases of technical cooperation projects which focused on the 2008 Population Census. As a result, statistical capacity of NIS has improved. However, the challenge was how to sustain skills and knowledge that were transferred by the previous projects until the forthcoming 2018 Population Census. Furthermore, the Royal Government of Cambodia (RGC) scheduled its first economic census in 2011. Acquisition of necessary skills and knowledge for conducting this census was one of NIS's pressing issues. On the other hand, the Government's decentralization policy required the provincial governments to improve their capacity for compiling statistics at provincial level so that they could make full use of the statistical information for their policy making and monitoring. Under these circumstances, RGC requested a technical cooperation project to further improve capacity of statistical staff in NIS and Provincial Departments of Planning (PDPs) and to assist smooth implementation of the 2011 Economic Census and other activities. JICA responded to the request and launched a technical cooperation project, "The Project on Improving Official Statistics in Cambodia Phase 3", for four and a half years from October 2010 to March 2015.	
<b>2. Project Overview</b> (1) Overall Goal Statistical results provided by NIS and provincial planning departments will be utilized for planning and implementation of policies, plans, and strategies of line ministries and provincial governments. (2) Project Purpose NIS and provincial planning departments will be able to implement the Economic Census, inter-censal population survey, economic statistics survey, and other statistical activities. (3) Outputs 1) NIS and provincial planning departments will be able to conduct planning and implementation of statistical surveys. 2) NIS will be able to conduct data processing.	

- 3) NIS will be able to conduct analysis.
- 4) NIS will be able to conduct dissemination.
- 5) NIS will be able to conduct small area statistics.
- 6) Provincial planning departments will be able to tabulate and scrutinize data.
- 7) NIS and provincial planning departments will be able to keep institutional memory.
- 8) NIS and provincial planning departments will be able to conduct coordination.

(4) Inputs

**Japanese side:**

Short-term Expert: 31 (152.75 M/M) Trainee received: 12 trainees (in Japan), 15 trainees (in third countries)	Equipment: 25.7 million yen Local cost: 96.2 million yen
--	---

**Cambodian side:**

Counterpart personnel (C/P): 24 for EC 2011, 57 for CIPS 2013, 27 for CIES 2014, and 12 for SAS (a cumulative total of 120) Land and facilities: Office space and necessary facilities including utility cost	Local cost: 927,029 US dollars for EC 2011, CIPS 2013, CIES 2014 implementation
--	---

**II. Evaluation Team**

Members of Evaluation Team	The Japanese side		
	Mr. Ryuichi Tomizawa	Leader	Deputy Director, Industrial Development and Public Policy Department, JICA
	Ms. Takako Kanamuro	Official statistics	Chief of Annual Service Statistics Section, Statistics Bureau, Ministry of Internal Affairs and Communications
	Mr. Sho Takatsuki	Evaluation planning	Associate Experts, Industrial Development and Public Policy Department, JICA
	Dr. Kumiko Shuto	Evaluation analysis	Senior Consultant, IMG Inc.

The Cambodian side

H.E. Ms. Hang Lina	Director General, National Institute of Statistics, Ministry of Planning
Mr. Heang Kanol	Deputy Director General, National Institute of Statistics, Ministry of Planning
Mr. Meng Kimhor	Deputy Director General, National Institute of Statistics, Ministry of Planning
Mr. Khin Sovorlak	Deputy Director General, National Institute of Statistics, Ministry of Planning
Mr. Kim Net	Deputy Director of Social Statistics Department, National Institute of Statistics, Ministry of Planning

Period of Evaluation	August 31 – September 12, 2014	Type of Evaluation: Terminal Evaluation
----------------------	--------------------------------	---

**III. Results of Evaluation**

**1. Project Performance**

1-1. Inputs

Inputs both from the Cambodian and Japanese sides were provided sufficiently as planned. The



assignment of Regional Officers (ROs) and Assistant Regional Officers (AROs) required more human resources on the Cambodian side than originally planned because the implementation of the Small Area Statistics (SAS) subproject was very much demanding in terms of support from NIS. NIS was able to dispatch required workforce (ROs and AROs) to Provincial Departments of Planning (PDPs) for smooth execution of planned activities.

#### 1-2. Outputs

##### (1) Output 1 [Planning and implementation of statistical surveys]

Output 1 is achieved. NIS and PDPs are now able to conduct both population and economic censuses/surveys building on their experience of successfully completing EC 2011, CIPS 2013 and CIES 2014. In particular, considering the fact that EC 2011 was the first census of this kind ever undertaken in Cambodia, smooth planning and implementation of this census as well as other inter-censal surveys should be regarded as a significant achievement.

##### (2) Output 2 [Data processing]

Output 2 is achieved. NIS processed data and produced statistical tables for EC 2011, CIPS 2013 and CIES 2014. In the process, NIS staff has learned how to use statistical software including SCS and CSPro. They are now able to operate these programs without much help from the Experts. Data cleaning for the economic census and survey, however, took much longer time than anticipated due to the heterogeneous characteristics of establishments, the inapplicability of computer error imputation, the C/P's unfamiliarity with economic data.

##### (3) Output 3 [Analysis]

Output 3 is achieved to some degree and further assistance is necessary. NIS' analytical capacity has been improved by going through the process of analyzing data and writing reports for EC 2011 and CIPS 2013. NIS is now able to analyze data and produce reports on its own for population censuses and surveys. On the other hand, analyzing data and producing reports for economic censuses and surveys still need much help from the Experts since EC 2011 was the first economic census ever conducted in Cambodia and NIS still needs practice and assistance to conduct analytical work on economic data.

##### (4) Output 4 [Dissemination]

Output 4 is achieved with some minor issues regarding the use of the Websites. NIS has established procedures to disseminate statistical results through means such as ceremonies and seminars. It also successfully published a large number of reports on EC 2011 and CIPS 2013. Posting publications on the Websites, however, needs to be conducted more actively since only one report on EC 2011 is currently posted on NIS' Websites.

##### (5) Output 5 [Small Area Statistics (SAS)]

Output 5 is achieved. Regional Officers (ROs) and Assistant Regional Officers (AROs) of NIS were trained and successfully learned SAS. They are now able to teach SAS to PDPs.

##### (6) Output 6 [Trainings of provincial planning departments (PDPs)]

Output 6 is achieved to some degree. Although necessary equipment/ machines and all the planned training programs were given to PDPs throughout the country, PDPs' capacity to work on SAS is still limited since they had very little training prior to the Project's SAS training. NIS's newly-established Sub-national Statistics Department has an important role to play in strengthening PDPs' capacity from next year, building on the Project's experience on SAS.

##### (7) Output 7 [Institutional Memory]

Output 7 is achieved with some minor issues regarding document management. Important operating procedures were recorded and a variety of manuals and instructions were produced particularly during EC 2011. Technical/knowledge transfer among staff members are now easier than before. However, softcopies of the important documents are not so well managed since file sharing systems and procedures are not fully established among the staff. There is also NIS' overreliance on development partners for managing softcopies.

(8) Output 8 [Coordination]

Output 8 is achieved. Various coordination mechanisms both at the central and provincial levels are functioning well without major issues.

1-3. Achievement of Project Purpose

The Project Purpose will be achieved to a relatively high degree since NIS and PDPs have built their capacity to conduct population and economic censuses and surveys as well as SAS. The challenges lie on the achievements of Output 3 (analysis) and 6 (PDPs' capacity on SAS).

1-4. Implementation process

(1) Efficient dispatch of the Experts

The Experts were dispatched on a short term basis so that human resources are used flexibly and efficiently.

(2) Effective composition of the Expert Team

The Expert Team is composed of those recruited both from the Japanese government and non-government organizations. This approach enabled the Project to secure a variety of human resources who have expertise in the areas NIS needed most support, thereby increasing effectiveness of the Project.

(3) Influence of the Agricultural Census in 2013

The C/P officials were not able to spend sufficient amount of time for the Project due to their engagement in the Agricultural Census, which was suddenly implemented in April 2013. This caused C/P staff's delay in data analysis and report-writing for EC 2011.

**2. Summary of Evaluation Results**

(1) Relevance

Relevance is high. The project is well aligned with Cambodia's development priority as well as with Japan's ODA policy towards Cambodia. The project is also appropriately responding to the needs of the target group, i.e. the statistical staff at NIS and PDPs, by mobilizing Japan's comparative advantage of expertise in official statistics. The implementation approach is also appropriate in that the consistency and continuity from Phase 1 and 2 of technical cooperation is maintained in this Phase 3 to maximize effects of continuous Japan's cooperation.

(2) Effectiveness

Effectiveness is relatively high. Although NIS's capacity in analyzing economic data and PDPs' capacity in SAS need to be further strengthened, their capacity in conducting statistical activities in general improved in a steadily manner and coordination among the stakeholders was enhanced. The Project Purpose is expected to be achieved to a relatively high degree by the end of the project period.

(3) Efficiency

Efficiency is relatively high. Inputs both from Japanese and Cambodian sides were provided in an

PJ ✓

appropriate manner, effectively leveraging on human resources they possess. Outputs were also produced sufficiently in accordance with the amount of inputs, as evidenced by successful implementation of a range of statistical censuses/surveys. On the other hand, excessive work volume caused by the Agricultural Census in 2013 and longer time required for cleaning economic data for EC 2011 and CIES 2014 hindered efficiency of the Project.

**(4) Impact**

Impact is relatively high. The attainment of the Overall Goal is realistic since NIS and PDPs have acquired skills and knowledge to conduct official statistics. The greatest remaining challenge is resource mobilization to carry out official statistical censuses/surveys planned in the Statistical Master Plan. Strengthening of NIS' capacity to analyze economic data and PDPs' capacity in SAS will also influence the level of attainment of the Overall Goal. Some positive impacts are being observed already: the statistical results disseminated by the Project are widely referred to and utilized for policy making and various research activities in and outside Cambodia.

**(5) Sustainability**

Sustainability is fair to relatively high. While policy and institutional sustainability is high, financial sustainability needs to be improved so that all the statistical activities listed in the Statistical Master Plan will be appropriately undertaken. Technical sustainability will be further enhanced if NIS' analytical capacity of economic data and PDPs' skills to conduct SAS are improved.

**3. Factors that promoted realization of effects**

**(1) Factors concerning the planning**

The dispatch of the short-term Experts, rather than long-term Experts, and the recruitment of the Experts from both the Japanese government and non-government entities raised the Project's effectiveness.

**(2) Factors concerning the implementation process**

None.

**4. Factors that impeded realization of effects**

**(1) Factors concerning the planning**

None.

**(2) Factors concerning the implementation process**

None.

**5. Conclusion**

Since Phase 1 of the Project, JICA's continuous support to NIS has been contributing to the improved capacity of NIS staff and line ministries. In this 3rd phase, the Project is actively engaged in developing capacity of not only NIS but also PDPs. It is surmised that the Project will achieve its Project Purpose to a relatively high degree by the end of the planned project period. The level of achievement of the Project Purpose will be higher if more efforts to produce Output 3 (NIS' analytical capacity) and 6 (PDPs' capacity on SAS) are made.

**6. Recommendations**

**Recommendation to the Project**

**(1) Improving NIS' analytical capacity on economic data**

It has been revealed that although NIS' capacity to plan and implement official statistical activities has been improved satisfactorily, its analytical capacity, especially the capacity to conduct economic

analysis, is still insufficient. It is recommended that NIS officers work closely with the Experts to produce analytical reports on CIES 2014 for the purpose of improving their analytical capacity in the remaining project period. An option of extending the project period to achieve that goal needs to be sought and discussed with JICA.

**(2) Disseminating statistical information widely on the Websites**

Posting statistical reports on NIS' Websites is rather limited. Posting the statistical reports produced by the Project on the Websites will facilitate wider and more efficient dissemination of the statistical information. It is recommended that the Project and NIS' relevant departments work together to post as many reports, including the SAS reports written in Khmer, as possible on NIS' Websites during the remaining project period. Where uploading of publications are difficult, alternative means of providing data such as offering data on a CD-ROM and actively introducing Data User Service Center of NIS to potential users need to be promoted so that their easy access to statistical results is facilitated. The work procedure to post statistical information on the Websites should also be established by clarifying the roles and responsibilities of concerned departments within NIS.

**Recommendation to NIS**

**(3) Securing adequate financial resources for future statistical activities**

In coming years, there are official statistical activities such as CIES 2017 and the 2018 Population Census scheduled and planned in the Statistical Master Plan and relevant government decrees. NIS should formulate a budget plan to secure adequate financial resources to conduct these activities. NIS should avidly advocate the importance of official statistics in policy-making and monitoring to concerned ministries such as Ministry of Planning and Ministry of Economy and Finance as well as to development partners.

**(4) Strengthening support to PDPs by the Ministry of Planning/ NIS**

Although the Project embarked upon capacity building of PDPs through SAS training, NIS' effort to strengthen PDPs is still in its infancy. The Sub-national Statistics Department should formulate its action plan to technically support PDPs, building on the Project's SAS experiences.

The Ministry of Planning/ NIS should also assist PDPs in securing funds for operation and maintenance of machines and equipment provided by the Project.

**(5) Information management for sustaining transferred skills and knowledge**

Although various operation manuals were produced and important activities/data was recorded in a written form during the project period, sharing information tends to be done on a personal basis. There is also NIS' reliance on development partners for managing softcopies of some important documents. NIS, as an institution, should therefore effectively manage documents, particularly electronic copies of manuals and instructions, and share them widely within NIS by improving the current data sharing system and procedure. Sharing information and subsequent transfer of technical skills and knowledge to those, for example, who are new to statistical activities should be efficiently undertaken by using documents produced by the Project.

**(6) Scheduling of major censuses**

The Agricultural Census was implemented in 2013 which was a year earlier than scheduled. This schedule change influenced negatively on smooth implementation of other statistical activities. It is recommended that a census be implemented at an appropriate interval in order to avoid such a challenging situation. For example, the next Agricultural Census, therefore, should be conducted three years after the next Economic Census.

**7. Lessons learned**

(1) Challenges of economic censuses and surveys

It has become apparent that, unlike population censuses/surveys, data cleaning for economic censuses/surveys requires a substantial amount of time due to reasons such as heterogeneous characteristics of establishments and industries, staff's unfamiliarity of dealing with economic data, and inapplicability of computer error imputation. The Project faced this problem when conducting EC 2011 and CIBS 2014 and some planned activities were delayed as a consequence. Moreover, due to time constraints caused by this problem, not enough time was secured for building C/P's capacity in data analysis.

Therefore, when a project includes a component of economic surveys/censuses which the implementing institutions have little experience of, a sufficient amount of time should be allocated for data cleaning. It is also advisable that the project offer a sufficient amount of training on accounting and business activities so that C/P's basic knowledge on economics will increase. When formulating a new project which assists economic surveys and censuses, it is recommended that a preparatory study to assess basic knowledge on accounting and business activities of C/P and other census/survey implementers be conducted beforehand.

(2) Importance of coordination with other major censuses

The sudden implementation of the Agricultural Census in 2013 gave negative impact on the project activities in that it prevented the C/P from spending sufficient amount of time for the project activities, particularly, the analysis of EC 2011 data. It has become clear that scheduling and coordination with other major statistical censuses the C/P institutions are responsible for is an important factor for smooth implementation of planned statistical activities under the Project.

(3) Importance of continuous and long-term support to official statistical activities

When providing technical assistance to long-term government activities such as censuses which tend to have an interval of ten years or so between activities, continuous guidance through on-the-job (OJT) training, rather than one-off technical support, is necessary for the skills and knowledge to take root. This Project is a continuous support from Phase 1 and 2, which aimed at developing skills and techniques of the C/P through assisting key statistical activities. Therefore, the design of the Project is considered to be appropriate for this type of assistance.

(4) Securing funds for census implementation

For the government of developing countries, financing large-scale statistical activities such as population censuses and economic censuses on their own is often very difficult. Coordinating with development partners and collaborating with various types of international assistance is critical. In this respect, this Project appropriately collaborated with UNFPA and utilized Japan's Counterpart Fund for mobilizing resources for survey implementation.

Although the share of the cost borne by the Government of Cambodia has increased in recent years, the shared amount is still not enough to cover all the necessary cost. It is reaffirmed that when providing assistance in the field of official statistics, measures to secure sufficient funds for statistical activities after the project period need to be investigated carefully and proactively.

## 1. Introduction

### 1.1. Objective of the evaluation study

Nearly four years has passed since the inception of the Project on Improving Official Statistics in Cambodia Phase 3 (hereinafter referred to as "the Project"). The Project is planned to be completed in six months, i.e. the end of March 2015. The project team has been undertaking a range of activities in order to achieve the Project Purpose. It is important for the concerned authorities to review its progress made thus far and to examine to what extent the activities have led to producing expected Outputs, thereby leading to the attainment of the Project Purpose. The examination will make it possible to judge the level of Project's success. It will also predict how much the Project is likely to achieve the overall goal three to five years after the completion of the Project.

The purpose of the terminal evaluation is to objectively evaluate the level of success of the Project and to identify the reasons behind it. Based on the results of the evaluation, the study is to give suggestions and recommendations to the concerned organizations with the aim of providing lessons learnt, which will be useful for future direction of the Project and also for similar projects.

### 1.2. Members of the evaluation team

The study team is composed of the following personnel.

Japanese side:

Mr. Ryuichi Tomizawa	Leader of the Japanese Evaluation Team	Deputy Director, Industrial Development and Public Policy Department, JICA
Ms. Takako Kanamuro	Official Statistics	Chief of Annual Service Statistics Section, Statistics Bureau, Ministry of Internal Affairs and Communications
Mr. Sho Takatsuki	Evaluation planning	Associate Expert, Industrial Development and Public Policy Department, JICA
Dr. Kumiko Shuto	Evaluation analysis	Senior consultant, IMG Inc.

Cambodian side:

H.E. Ms. Hang Lina	Director General, National Institute of Statistics, Ministry of Planning
Mr. Heang Kanol	Deputy Director General, National Institute of Statistics, Ministry of Planning
Mr. Meng Kimhor	Deputy Director General, National Institute of Statistics, Ministry of Planning
Mr. Khin Sovorlak	Deputy Director General, National Institute of Statistics, Ministry of Planning
Mr. Kim Net	Deputy Director of Social Statistics Department, National Institute of Statistics, Ministry of Planning

### 1.3. Schedule of the study

The study team started a literature review in August 2014. Subsequently, a field study in Cambodia was conducted from August 31 to September 12, 2014. For details of the study schedule see

“ANNEX 1: Schedule of the Terminal Evaluation”.

## **2. Outline of the Project**

### **2.1. Background of the Project**

The development of official statistics in Cambodia was significantly delayed due to the civil war. Since the 1990s, the official statistics have been gradually developed by the support of the United Nations and other international development partners. JICA has supported the improvement of the capacity of National Institute of Statistics (NIS) since 2005 through its two phases of technical cooperation projects which focused on the 2008 Population Census. As a result, statistical capacity of NIS has improved.

However, the challenge was how to sustain skills and knowledge that had been transferred by the previous projects until the forthcoming 2018 Population Census. Furthermore, the Royal Government of Cambodia (RGC) scheduled its first economic census in 2011. Acquisition of necessary skills and knowledge for conducting this census was one of NIS’s pressing issues. On the other hand, the Government’s decentralization policy required the provincial governments to improve their capacity for compiling statistics at provincial level so that they could make full use of the statistical information for their policy making and monitoring.

Under these circumstances, RGC requested a technical cooperation project to further improve capacity of statistical staff in NIS and Provincial Departments of Planning (PDPs) and to assist smooth implementation of the 2011 Economic Census and other activities. JICA responded to the request and launched a technical cooperation project, “The Project on Improving Official Statistics in Cambodia Phase 3”, for four and a half years from October 2010 to March 2015.

### **2.2. Summary of the project**

The Project Design Matrix (PDM) Version 0 (ANNEX 2) and Plan and Operation (PO) (ANNEX 3), which are used currently by the Project, specifies the narrative summary of the Project as follows:

#### **(1) Overall Goal**

Statistical results provided by NIS and provincial planning departments will be utilized for planning and implementation of policies, plans, and strategies of line ministries and provincial governments.

#### **(2) Project Purpose**

NIS and provincial planning departments will be able to implement the Economic Census (EC), inter-censal population survey (CIPS), economic statistics survey (CIES), and other statistical



activities<sup>1</sup>.

(3) Outputs

- 1) NIS and provincial planning departments will be able to conduct planning and implementation of statistical surveys.
- 2) NIS will be able to conduct data processing.
- 3) NIS will be able to conduct analysis.
- 4) NIS will be able to conduct dissemination.
- 5) NIS will be able to conduct small area statistics.
- 6) Provincial planning departments will be able to tabulate and scrutinize data.
- 7) NIS and provincial planning departments will be able to keep institutional memory.
- 8) NIS and provincial planning departments will be able to conduct coordination.

(4) Activities

1 [Planning and implementation of statistical surveys]

- 1-1 Plan and implement statistical surveys
- 1-2 Delineate Enumeration Areas (EAs) for statistical surveys
- 1-3 Maintain and manage the EAs for statistical surveys

2 [Data processing]

- 2-1 Develop the data processing systems of statistical surveys in NIS
- 2-2 Conduct the data processing of statistical surveys
- 2-3 Scrutinize the micro-data of statistical surveys
- 2-4 Tabulate and scrutinize the statistical tables of statistical surveys

3 [Analysis]

- 3-1 Analyze the results of statistical surveys

4 [Dissemination]

- 4-1 Compile the publications of results of statistical surveys
- 4-2 Prepare the CDs of results of statistical surveys
- 4-3 Prepare the web-contents of results of statistical surveys
- 4-4 Prepare the statistical maps of results of statistical surveys
- 4-5 Compile the census atlases of results of statistical surveys
- 4-6 Conduct training for using results of statistical surveys to line ministries concerned and provincial governments (including planning departments)
- 4-7 Hold the workshops to disseminate the result of the 2011 Economic Census
- 4-8 Hold the workshops to disseminate the result of the 2013 inter-censal population survey

---

<sup>1</sup> Other statistical activities refer to SAS.



- 4-9 Hold the workshops to disseminate the result of the 2014 economic statistics survey
- 4-10 Hold the seminar to make the Project widely known to the public
- 5 [Small Area Statistics (SAS)]
  - 5-1 Develop the village-level data processing systems of the Economic Census in NIS
  - 5-2 Conduct training for using the village-level results of the Economic Census to line ministries concerned and provincial governments (including planning departments)
- 6 [Trainings of PDPs]
  - 6-1 Conduct training for regional officers of NIS to become instructors of training for provincial planning departments
  - 6-2 Conduct training on tabulation and scrutiny of data for the 2008 Population Census and the 2011 Economic Census (including the 2009 Establishment Listing)
  - 6-3 Conduct training on dissemination of results for the 2008 Population Census and the 2011 Economic Census (including the 2009 Establishment Listing)
- 7 [Institutional memory]
  - 7-1 Develop and maintain documents on detailed procedures for statistical surveys
- 8 [Coordination]
  - 8-1 Take part in the necessary meetings for statistical surveys

### 3. Method of evaluation

#### 3.1. Five evaluation criteria

The JICA adopted “the Five Evaluation Criteria” for project evaluation. The Five Evaluation Criteria, proposed by the Development Assistance Committee (DAC) at the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD) in 1991, are meant to be used for evaluating development assistance activities. The five criteria are namely:

- 1) Relevance: A criterion for considering the validity and necessity of a project regarding whether the expected effects of a project (or project purpose and overall goal) meet with the needs of target beneficiaries; whether a project intervention is appropriate as a solution for problems concerned; whether the contents of a project is consistent with policies; whether project strategies and approaches are relevant, and whether a project is justified to be implemented with public funds of Official Development Assistance (ODA).
- 2) Effectiveness: A criterion for considering whether the implementation of a project has benefited (or will benefit) the intended beneficiaries or the target society.
- 3) Efficiency: A criterion for considering how economic resource/inputs are converted to results. The main focus is on the relationship between project cost and effects.
- 4) Impact\*: A criterion for considering the effects of a project with an eye on the longer term effects including direct or indirect, positive or negative, intended or unintended, and

5) Sustainability\*: A criterion for considering whether produced effects continue after the termination of the assistance.

\* Since the terminal evaluation study is conducted before the project has finished, these two criteria, impact and sustainability, are based on prospect rather than actual achievement.

By examining the project's progress and achievement by using these five criteria, the evaluation study ascertains the value of the project from different viewpoints. It attempts to assess performance, make a value judgment about the project, and make recommendations and draw lessons learnt.

The structure of the report is two-fold: (1) the confirmation of achievements and (2) the evaluation results based on the five evaluation criteria.

### 3.2. Data collection methods and analysis

The study team has collected both quantitative and qualitative data relevant to the Project from a range of information sources by using multiple information-gathering methods. This approach enables the study team to undertake triangulation of methods and information sources, thereby ensuring reliability of the study. The focus of the study is on the collection and analysis of both qualitative and quantitative data. Since the main purpose of the study is to make an in-depth analysis of hindering and contributing factors to project implementation, if any, and to understand reasons for having such factors, the analysis of qualitative data was particularly underscored. Thus, research methods adopted for the fieldwork period mainly centered on the qualitative data collection methods including in-depth interviews, observation, and questionnaires with many open-ended questions.

The study team formulated the Evaluation Grid based on PDM Version 0 to clarify data collection methods, the types of data to be collected and their sources of information. The following table summarizes methods used and information sources the study team accessed during the study period.

Table 1 Data collection methods and source of information

Data collection method	Source of information
Literature/document review	Various project documents and reports written by experts, meeting minutes and other documents
Questionnaires	Seven Japanese experts and four counterpart personnel (C/P)
Interviews	Project experts, C/P and staff of other related organizations
Observation and interviews	Site visits and observation of NIS and PDPs in Phnom Penh Municipality, Kampong Speu, and Prey Veng Observation of Ceremony of Releasing Preliminary Results of 2014 Cambodia Inter-censal Economic Survey (CIES)

Review of literature/documents had been undertaken before the Japanese study team visited Cambodia. The main purpose of the literature/document review was to understand the level of the

project performance and to examine the implementation process. At the same time, questionnaires were prepared for the Japanese experts and Cambodian C/P.

After the study team arrived in Cambodia, in-depth interviews were conducted with key informants such as the C/P, Japanese Experts, project beneficiaries and staff of relevant organizations including development partners. The interviews were to supplement information gathered by the literature review and the questionnaire survey. The study team also observed project activities as they occurred in a natural setting and undertook interviews at several activity sites including NIS, PDPs in Phnom Penh Municipality, Kampong Speu, and Prey Veng. The study team's visits included attending the Ceremony of Releasing Preliminary Results of CIES 2014. The information generated by these methods was then analyzed based on the five evaluation criteria.

### **3.3. Limits and constraints of the study**

Due to time and resource constraints, it was not possible to interview all the Japanese experts and Cambodian C/P who were involved in project implementation. It was not possible to visit all the PDPs, who were part of the main beneficiaries of the Project, either. Due to time limitation, PDPs visited were mostly ones near Phnom Penh.

Efforts were made, however, to gather as much information as possible by literature review or by interviewing other project stakeholders so as to reduce possible sample biases. The study team was able to gather data from the majority of the key persons directly and actively involved in project implementation. Therefore, it is reasonably said that the information collected within the evaluation framework maintains a substantial level of reliability and validity.

## **4. Project performance and implementation process**

### **4.1. Inputs from Japan**

#### **4.1.1. Dispatch of Japanese Experts**

A total of 31 short-term experts such as Chief Advisor, Data Processing/ Scrutiny, Census/ Survey Planning, Mapping, Small Areas Statistics/ Project Coordination, Data Analysis etc. have been dispatched since the inception of the Project. These Japanese Experts are recruited from both public and non-government entities in Japan so as to realize efficient and effective technical assistance to the C/P. The total Man/Month (M/M) spent is 152.75<sup>2</sup> up to the time of the Terminal Evaluation. It has been confirmed during the interviews with the C/P that the Experts possess high caliber expertise, work ethics and have strengths in census/survey planning and implementation. For more detailed information on the dispatch of the Japanese Experts, see ANNEX 4.

#### **4.1.2. Training of C/P in Japan and Technical Exchange in Third Countries**

---

<sup>2</sup> This figure includes a total of 1.93 M/M spent in Japan.

A total of 12 C/P participated in the training in Japan. In addition, a cumulative total of 15 C/P attended Technical Exchange in Third Countries as shown in Table 2. (For more detailed information, see ANNEX 7)

It is confirmed that the participants of the training in Japan have been utilizing the skills and knowledge they acquired during the training in their statistical activities back home. Such skills and knowledge include, but not limited to, using the Internet/ e-mail for collecting data and the database for the establishments, for instance.

On the other hand, the participants of the technical exchange in the third countries were able to share their knowledge to the host countries by making presentations and answering various questions the officers of the host countries asked. They were also able to learn about new information and techniques regarding official statistics from the host countries, whose socio-economic situations are fairly similar to those of Cambodia.

Furthermore, those who participated in these training courses continue to disseminate their knowledge to people concerned or those who attend relevant meetings/ conferences. It is fair to say that the training is giving impact not only to the training participants but also to wider groups of concerned people.

Training Title	Training Venue	Duration	No. of Participants
Survey Planning for the Inter-censal Population Survey	Japan	Three weeks (January 2011)	3
Data Processing for the Inter-censal Population Survey	Japan	Three weeks (January 2012)	3
Survey Planning for the 2014 Cambodia Inter-censal Economic Survey	Japan	Three weeks (January 2013)	3
Data Processing for the 2014 Cambodia Inter-censal Economic Survey	Japan	Three weeks (January 2014)	3
Technical Exchange with Sri Lankan Department of Census and Statistics on Small Area Statistics, Population Census and Industry Census	Sri Lanka	Five days (May 2011)	3
Technical Exchange with the Statistics Indonesia on Small Area Statistics	Indonesia	Five days (September 2011)	3
Technical Exchange with Lao Statistics Bureau on Population Census, Economic Census and Small Area Statistics	Lao PDR	Five days (November 2012)	3
Technical Exchange with Central Statistics Center of Myanmar on Population Census, Economic Census, and Small Area Statistics	Myanmar	Five days (May 2013)	3
Technical Exchange with Central Bureau of Statistics of Nepal on Population Census, Economic Census, and Small Area Statistics	Nepal	Five days (May 2014)	3

Table 2 C/P Training in Japan and Technical Exchange in Third Countries

#### 4.1.3. Machinery and equipment provided by Japan

Equipment and machinery including computers, software, photocopiers, etc. which are worth 25,674

*By* *AK*

thousand yen<sup>3</sup> in total, has been provided to 24 PDPs. They are generally in good condition and being used on a daily basis. For the details of the items provided, see ANNEX 6.

#### 4.1.4. Local cost borne by Japan

So far, a total of 96,261 thousand yen has been disbursed by the Japanese side for daily project operation (Table 3).

(unit: thousand yen)				
1st Year	2nd Year	3rd Year	4th Year <sup>4</sup>	Total
28,653	13,832	24,775	29,001	96,261

Table 3 Local cost borne by Japan<sup>5</sup>

## 4.2. Inputs from Cambodia

### 4.2.1. Assignment of C/P

A gross number of 24 NIS staff members for EC 2011, 57 for CIPS 2013, 27 for CIES 2014, and 12 for SAS, thus, a cumulative total of 120, have been working as “the core C/P” for respective statistical activities and received technical transfer from the Japanese Experts. Apart from these NIS staff members, other personnel shown in ANNEX 5 also work as C/P.

### 4.2.2. Local cost borne by Cambodia

NIS bore the cost for EC 2011, CIPS 2013, CIES 2014 as shown in the table below. The total cost NIS has borne so far is USD 927,029, which is about 19% of the total cost of all these three census/surveys.

	Total cost (USD)	Cost borne by NIS (USD)	NIS' share
EC 2011	3,537,577	706,327	20%
CIPS 2013	1,156,667	147,615	13%
CIES 2014	316,328	73,087	23%
<b>Total</b>	<b>5,010,572</b>	<b>927,029</b>	<b>19%</b>

Table 4 Local cost borne by NIS

### 4.2.3. Facilities provided by Cambodia

Office spaces have been provided by NIS for project implementation. NIS also bears the utility costs for such spaces.

<sup>3</sup> This figure includes the estimated amount of 5,368 thousand yen for the 4th year.

<sup>4</sup> The figure for the 4th year is an estimated amount.

<sup>5</sup> The duration of the 1<sup>st</sup> year is from October 2010 to March 2011, 2<sup>nd</sup> year from April 2011 to April 2012, 3<sup>rd</sup> year from May 2012 to June 2013, and 4<sup>th</sup> year from August 2013 to March 2015.

### 4.3. Achievement of Outputs

#### 4.3.1. Output 1

Output 1 is “[Planning and implementation of statistical surveys] NIS and PDPs will be able to conduct planning and implementation of statistical surveys as a consequence of: Delineation of EA (Enumeration Areas) is completed. The results of the delineation of EA are used for other statistical surveys (the Economic Census, inter-censal population survey, economic statistics survey).”

Objectively Verifiable Indicator	Achievement
1-1 Number of village maps and EA maps	[Economic Census (EC) 2011] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 14,104 village maps</li> <li>• 1,550 EA maps</li> </ul> [Cambodia Inter-censal Population Survey (CIPS) 2013] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 955 village maps</li> <li>• 955 EA maps</li> </ul> [Cambodia Inter-censal Economic Survey (CIES) 2014] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 553 village maps</li> <li>• 553 EA maps</li> </ul>
1-2 Number of statistical surveys in which village maps, EA maps and updated village frame are used	Eight censuses/surveys consisting of a pre-test, a pilot survey, a post enumeration survey for EC 2011 A pre-test for CIPS 2013 A pre-test for CIES 2014

Output 1 is judged to be achieved.

The main statistical activities during the project period are: EC 2011, CIPS 2013, and CIES 2014. These planned surveys and census were conducted as scheduled without major problems. NIS as well as PDPs faced no major challenges in planning and implementing these activities as is evident by tangible outputs such as village maps and EA maps which were produced during the census and surveys. Considering the fact that EC 2011 is the first census of this kind ever undertaken in Cambodia, smooth planning and implementation of this census as well as other inter-censal surveys should be regarded as a significant achievement.

According to the information provided by the C/P and Experts, the success factors for Output 1 include the effective and streamlined lines of command regarding NIS and PDPs, which encompass both technical and administrative aspects. NIS and PDPs work together on a daily basis and communication between them is smooth and effective.

Furthermore, when these surveys and censuses were conducted, the Provincial Census Committee (PCC) of each province functioned as a strong coordinating body to facilitate the province's initiatives to undertake statistical activities. NIS works closely with the provincial stakeholders including the PCCs and provides necessary technical inputs and human resources. Such collaboration among the key stakeholders as well as the development of various technical and administrative manuals enabled smooth planning and implementation of the surveys and census.

#### 4.3.2. Output 2



Output 2 is “[Data processing] NIS will be able to conduct data processing as a consequence of: As the output of the data processing and scrutiny of statistical surveys, statistical tables as well as micro-data are prepared. And the statistical tables are released (the Economic Census, inter-censal population survey, economic statistics survey).”

Objectively Verifiable Indicator	Achievement
2-1 Number of statistical tables (tabulated by NIS and provincial planning departments)	<p>[EC 2011]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 7 tables in Preliminary Results</li> <li>• 134 tables in National Report</li> <li>• 641 tables in National Profile</li> <li>• 580 tables by Province and District in Provincial Profiles</li> <li>• 57 tables of national data and 55 tables of provincial data by District in Provincial Reports</li> <li>• 526 tables in Analytical Reports (a total of 11 kinds)</li> </ul> <p>[CIPS 2013]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 85 tables in National Profile</li> <li>• 92 tables in Analytical Reports</li> </ul> <p>[CIES 2014]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 7 in Preliminary Results</li> </ul>
2-2 Number of microdata (processed by NIS)	<p>[EC 2011]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Microdata on 505,134 establishments</li> <li>• Microdata on 4,600 establishments (Post enumeration survey)</li> </ul> <p>[CIPS 2013]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Microdata on 95,300 buildings</li> <li>• Microdata on 28,650 households</li> <li>• Microdata on 128,619 household members</li> <li>• Microdata on 543 deaths</li> </ul> <p>[CIES 2014]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Microdata on about 12,200 establishments</li> </ul>

Output 2 is judged to be achieved.

During the project period, NIS successfully acquired necessary skills and knowledge for data processing. As for population census and surveys, NIS staff members are now able to operate CSPro and conduct activities such as data entry, coding, data cleaning and statistical table making without much help from the Experts. For economic census and surveys, on the other hand, NIS staff members were trained to operate software called SCS, which was developed by Japan’s National Statistics Center, and are now able to make statistical tables with the software without much difficulty. These data processing programs are managed and kept appropriately by NIS.

It is worth noting, however, that data processing, particularly data cleaning, of the economic census and survey required much longer time, as long as six months, than anticipated. It is mainly because it was NIS’ first time to process economic data on establishments of a heterogeneous nature and the staff did not have prior experience and knowledge on how to accurately record and process data. Despite unexpected length of time data cleaning required, NIS has learned the skills and knowledge of data processing for economic censuses and surveys.

Therefore, it is fair to say that NIS improved its capacity to process data for major statistical activities.

### 4.3.3. Output 3

Output 3 is “[Analysis] NIS will be able to conduct analysis as a consequence of : The results of statistical surveys are analyzed. The results of the analysis are released (the Economic Census, inter-censal population survey, economic statistics survey).”

Objectively Verifiable Indicator	Achievement
3-1 Number of reports on analysis (published and/or released) prepared by NIS and provincial planning departments	[EC 2011] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 11 Analytical Reports</li> <li>• 24 Provincial Reports</li> </ul> [CIPS 2013] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 4 analytical reports</li> </ul>

Output 3 is considered to be achieved to some degree and further assistance is necessary.

NIS has produced a range of analytical reports for EC 2011 and CIPS 2013 with the support from the Japanese Experts. NIS was able to analyze data and write reports on CIPS 2013 without much difficulty since it was their fourth time to work on population censuses and surveys since the first population census in 1998. It was evident that NIS acquired and accumulated knowhow and skills regarding population data analysis through their repeated experiences of population censuses and surveys.

As for EC 2011, three to four NIS staff members worked on each Province and wrote analytical reports of the Province in charge, using the template provided by the Japanese Experts. Their reports were checked and refined by the Experts and 24 Provincial Reports covering all the Provinces in Cambodia were published thereafter. The same procedure was applied to the production of 11 theme-specific Analytical Reports<sup>6</sup>. In connection with this latter work, some NIS staff members made presentations on their analysis at a seminar which was attended by as many as 300 participants. Their analysis and presentation skills were improved through these experiences.

The level of analytical capacity for economic censuses and surveys, however, substantially varies among the officers because most of them are still novices in the domain of economic censuses and surveys. Many of them still need considerable technical assistance from the Experts in analyzing economic data.

Their capacity, skills and knowledge with regard to analysis of economic data can be further improved by going through the process of writing more analytical reports for CIPS 2014, the process of which has not started yet.

### 4.3.4. Output 4

Output 4 is “[Dissemination] NIS will be able to conduct dissemination as a consequence of: The results of statistical surveys are disseminated by means of publication, CD, web site, statistical map,

<sup>6</sup> 11 Analytical Reports are: (1) Analysis on 17 Industries, (2) Comparative Analysis by Industry, (3) Comparative Analysis by Scale, Analysis on Large, (4) Medium & Small, and Micro industry, (5) Manufacturing Industry, (6) Food products, (7) Textile Industry, (8) Wholesale and Retail Trade Industry, (9) Women in Business, (10) Street Business, and (11) Application to National Accounts.



and census atlas. Related personnel share the common understanding in the matter of the statistical surveys (EA, the Census results, etc.) (the Economic Census, inter-censal population survey, economic statistics survey).”

Objectively Verifiable Indicator	Achievement
4-1 Number of publications, CDs, web pages, statistical maps, and census atlases (published and/or released)	<p>[EC 2011]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Preliminary Results of Pilot Survey of 2011 Economic Census of Cambodia</li> <li>• Preliminary Results of the 2011 Economic Census of Cambodia</li> <li>• Preliminary Results of the 2011 Economic Census of Cambodia (No.2)</li> <li>• 11 statistical maps based on preliminary results</li> <li>• National Report on Final Census Results</li> <li>• District and Commune Reports on Final Census Results</li> <li>• 21 statistical maps based on final results</li> <li>• One National Profiles (3 volumes)</li> <li>• Provincial Profile (2 volumes per Province)</li> <li>• Provincial Report (1 volume per Province)</li> <li>• Village Profiles (2 volumes)</li> <li>• 11 Analytical Reports</li> <li>• Census Atlas</li> <li>• PES (Post Enumeration Survey) Report</li> <li>• Census Organization and Administration Report</li> </ul> <p>[CIPS 2013]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Provisional Report</li> <li>• 7 statistical maps based on preliminary results</li> <li>• Final Report</li> <li>• 12 statistical maps based on final results</li> <li>• One National Profiles (2 volumes)</li> <li>• 11 Analytical Reports (4 out of 11 were supported by JICA)</li> <li>• Statistical Atlas</li> </ul>
4-2 Number of trainees in the training course	<p>[FY 2010]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Approximately 560 (EC 2011 training, computer programming training/data cleaning training, GIS training)</li> </ul> <p>[FY 2011]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Approximately 600 (PES training, Training for Manual Editing and Coding, data entry training, GIS training, SAS training)</li> <li>• 72 in 1<sup>st</sup> Provincial Report Writing Training for EC 2011</li> </ul> <p>[FY2012]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 72 in 2<sup>nd</sup> Provincial Report Writing Training for EC 2011</li> <li>• 79 (CIPS2013 Training for Mapping)</li> <li>• 2 (CIBS2014 Training for Sampling Design)</li> <li>• 99 (SAS training)</li> </ul> <p>[FY2013]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 925 (CIBS 2014 pretest training &amp; mapping training)</li> <li>• 55 (SAS training)</li> </ul> <p>[FY2014]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Approximately 200 (CIES 2014 analysis training)</li> <li>• 44 (SAS training)</li> </ul>
4-3 Level of understanding of the trainees short examination	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Understanding on preparation and implementation of disseminating statistical results was deepened through writing various reports on EC 2011 and developing presentation materials for result-releasing seminars</li> <li>• Understanding on preparation and implementation of disseminating statistical results was deepened through writing various reports on CIPS 2013 and developing presentation materials for result-releasing seminars</li> </ul>
4-4 Number of workshops and seminars conducted	<p>[FY 2010]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 seminar on EC 2011 (Approximately 170 participants)</li> </ul> <p>[FY 2011]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 4 seminars and workshops on EC 2011 (A total of approximately 1,280 participants)</li> </ul> <p>[FY 2012]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 seminar on EC 2011 (Approximately 250 participants)</li> </ul> <p>[FY 2013]</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 seminar on EC 2011 (Kandal) (Approximately 80 participants)</li> <li>• 2 seminars on CIPS 2013 (A total of approximately 480 participants) [FY 2014]</li> <li>• 1 seminar on CIES 2013 (Approximately 180 participants)</li> </ul>
--	---

Output 4 is judged to be achieved with some minor issues regarding the use of the Websites.

NIS has established procedures to disseminate statistical results through means such as ceremonies and seminars both at the national and provincial levels<sup>7</sup>. These events were widely attended by related officials and organizations, the number of whom can be as many as 300 at one occasion.

NIS successfully published a large number of reports<sup>8</sup> on EC 2011 and CIPS 2013 as shown in the above column for Indicator 4-1 (For a full list of publication, see ANNEX 8). NIS also disseminated data on NIS' Websites and CDs. NIS can conduct these dissemination activities independently without the help of the Experts.

However, the number of published reports posted on NIS' two Websites, "www.nis.gov.kh" and "http://nada.nis.gov.kh", are very much limited: "Economic Census 2011: National Report on Final Census Results" is the only publication posted on these Websites<sup>9</sup> so far. Since it is NIS' policy to post as much information as possible on the Websites for public use, it is recommended that the Project should post available reports on the Websites so that they will be readily available in the public domain.

#### 4.3.5. Output 5

Output 5 is "[Small Area Statistics (SAS)] NIS will be able to conduct small area statistics as a consequence of: Small area statistics of the Economic Census<sup>10</sup> are tabulated and released. The use of small area statistics is recognized by line ministries concerned and provincial governments (the Economic Census)."

Objectively Verifiable Indicator	Achievement
5-1 Number of small area statistical tables: by district, commune, village, and EA (tabulated and/or released)	[PC 2008, EL 2009] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 by District and Commune in District and Commune Report on Final Census Results</li> <li>• 580 by District per District in Provincial Profile</li> <li>• 57 by District per Province in Provincial Report</li> <li>• 62 by District and 62 by Commune in Census Atlas</li> </ul>
5-2 Number of trainees in the training course	[FY 2011] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 11 trainees in GIS trainings</li> <li>• 37 trainees (RO, ARO, SCO) in SAS trainings</li> </ul> [FY 2012] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 45 trainees (RO, ARO) in SAS trainings</li> </ul> [FY 2013] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 25 trainees (RO, ARO) in SAS trainings</li> </ul>

<sup>7</sup> A seminar at the provincial level was conducted only in the Kandal Province.

<sup>8</sup> The reports are distributed to related government offices including PDPs. They are also deposited and browsed/lent/sold at Data User Service Center in NIS.

<sup>9</sup> Though not many reports are posted on NIS' Websites, a number of publications and data are posted at the Website of Japan's Statistics Bureau. This matter will be taken up later in the analysis of "5.4. Impact".

<sup>10</sup> Apart from EC 2011, data was used from the Nation-wide Establishment Listing 2009 and the 2008 Population Census.

	[FY 2014] <ul style="list-style-type: none"> <li>20 trainees (RO, ARO) in SAS trainings</li> </ul>
5-3 Level of understanding of the trainees on the use of small area statistics	<ul style="list-style-type: none"> <li>Understanding of NIS staff on SAS writing and analysis was deepened.</li> <li>Understanding of NIS staff on GIS was deepened.</li> </ul>

Output 5 is judged to be achieved.

Tabulation of SAS was conducted for the first time after EC 2011. With the guidance from the Experts and also by attending SAS trainings organized by the Project, the NIS staff members, namely, ROs and AROs assigned to work at each province, were able to produce tabulations of SAS. The ROs and AROs maintain skills to use the computer programs for these tasks to a satisfactory level and they are now able to work on this task independently and teach PDP staff how to conduct SAS.

#### 4.3.6. Output 6

Output 6 is “[Trainings of PDPs] Provincial planning departments will be able to tabulate and scrutinize data as a consequence of: Trainings of tabulation and scrutiny of data, and disseminating results of statistical surveys for statistical staff in provincial planning departments are conducted (other statistical activities).”

Objectively Verifiable Indicator	Achievement
6-1 Number of trainings conducted for provincial planning departments	[FY 2010] <ul style="list-style-type: none"> <li>1 EC 2011 meeting and 2 provincial government officers trainings</li> </ul> [FY 2011] <ul style="list-style-type: none"> <li>1 SAS opening ceremony in Kandal</li> <li>3 post-survey training</li> <li>2 SAS trainings</li> </ul> [FY 2012] <ul style="list-style-type: none"> <li>2 SAS trainings</li> </ul> [FY 2013] <ul style="list-style-type: none"> <li>2 SAS trainings</li> </ul> [FY 2014] <ul style="list-style-type: none"> <li>2 SAS trainings</li> </ul>
6-2 Number of provincial trainees in the training course	[FY 2010] <ul style="list-style-type: none"> <li>170 in EC 2011 meeting and 144 in provincial government officers trainings</li> </ul> [FY 2011] <ul style="list-style-type: none"> <li>72 in post-survey training</li> <li>36 (from 6 Provinces) in SAS trainings</li> </ul> [FY 2012] <ul style="list-style-type: none"> <li>54 (from 9 Provinces) in SAS trainings</li> </ul> [FY 2013] <ul style="list-style-type: none"> <li>30 (from 5 Provinces) in SAS trainings</li> </ul> [FY 2014] <ul style="list-style-type: none"> <li>24 (from 4 Provinces) in SAS trainings</li> </ul>
6-3 Level of understanding of the trainees on tabulation and scrutiny of data, and dissemination of the results of statistical surveys	Understanding of PDP staff (all the 24 Provinces) on SAS writing and analysis was deepened.
6-4 Number of statistical tables (tabulated by NIS and provincial planning departments)	[FY 2011] <ul style="list-style-type: none"> <li>78 tables (6 Provinces)</li> </ul> [FY 2012] <ul style="list-style-type: none"> <li>117 tables (9 Provinces)</li> </ul>

[FY 2013]
· 65 tables (5 Provinces)
[FY 2014]
· 52 tables (4 Provinces)

Output 6 is considered to be achieved to some degree.

The SAS subproject<sup>11</sup> was undertaken by providing training in two phases. The 1<sup>st</sup> phase mainly focused on the renovation of computer rooms at PDPs by providing necessary machinery and equipment and organizing training courses on basic statistical tabulation, statistical maps, and internet use. The 2<sup>nd</sup> phase was concerned with training on graphs and analytical methods, scrutiny of data, and production of SAS reports.

The SAS subproject which covered all the Provinces in Cambodia<sup>12</sup>, was conducted every year, targeting 4 -9 Provinces each year as follows.

Year	No. of Provinces	Names of Provinces
FY2011	6	Takeo, Kampong Cham, Kandal, Preah Sihanouk, Battambang, Siem Reap
FY2012	9	Banteay Meanchey, Kampong Chhnang, Pursat, Kampong Thum, Kep, Koh Kong, Kratie, Monduliri, Pailin
FY2013	5	Kampomg Speu, Svay Rieng, Phnom Penh, Otdor Meanchey, Preah Vihear
FY2014	4	Prey Veng, Ratana Kiri, Stung Treng, Kampot

Table 5 Progress of SAS Subproject

It is evident that the PDPs' facility and staff's capacity has improved through the SAS subproject. For example, the total number of computers PDPs used before the Project's intervention was merely 38 (in 2009), which means each PDP had only one or two computers of general use. These computers were not used by statistical officers. The Project furnished all the PDPs with two desktop computers (a total of 48 computers) with software necessary for statistical work. The Project also provided a photocopier, printer, screen, projector, white board, desks and chairs for the computer room. As for PDPs' capacity, the statistical officers, who had very little experience of using a computer, are now able to process micro-data and produce SAS reports using a reporting template. It is Cambodia's first time to produce such reports and the needs of local governments, NGOs, researchers, and corporations for locally-specific statistical data are finally met, though not exhaustively.

<sup>11</sup> In the first year of the Project, the Japanese Experts trained Senior Commanding Officers (SCOs) on SAS. SCOs, then, trained ROs and AROs at NIS every year. Finally, ROs and AROs gave training at PDPs to PDPs staff in charge of SAS. The training ROs and AROs gave includes teaching of how to use Excel, Word, ArcMap, how to connect to the Internet, how to deal with raw data and how to process data. For the training on SAS tabulation, statistical map, and analysis of Provincial Profiles, SCOs together with the Japanese Experts visited PDPs for instructions and guidance.

<sup>12</sup> The total number of the Provinces listed in the table is 24. Kampong Cham Province divided into two provinces on 31 December 2013. Therefore, the current number of Provinces in Cambodia is 25. The new Provinces in former Kampong Cham are now in the process of establishing PDP offices. One of the staff members of the new PDPs was trained by the Project's SAS subproject already.

Although the PDP statistical officers considerably strengthened their computer skills and data processing skills, they still require much support from NIS. With regard to this issue, NIS established a new department called Sub-national Statistics Department<sup>13</sup> with about 30 officers in February 2014 for the purpose of improving sub-national statistics. It is hoped that this Department will follow-up on and build on the SAS subproject and further strengthen PDPs' capacity for SAS implementation after the project period.

#### 4.3.7. Output 7

Output 7 is “[Institutional Memory] NIS and provincial planning departments will be able to keep institutional memory as a consequence of: Detailed Procedures (e.g. important processes, important examples, manuals) of statistical surveys are prepared and compiled.”

Objectively Verifiable Indicator	Achievement
7-1 Number of detailed records of procedures prepared.	<p>[EC 2011]</p> <p>18 records as listed below</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Supervisor’s Manual</li> <li>• Enumerator’s Manual</li> <li>• Duties of Census Officials Engaged in the Local Organization</li> <li>• Supplementary Explanations and Questions &amp; Answers</li> <li>• Manual Editing and Coding Manual</li> <li>• Editing Rules for Data Entry and Computer Editing</li> <li>• Enumerator’s Manual (Post Enumeration Survey)</li> <li>• Supervisor’s Manual (Post Enumeration Survey)</li> <li>• Duties of SCO and Director of PDP</li> <li>• Editing and Coding Manual</li> <li>• Manual on Data Entry System</li> <li>• Report on Local Activities in the 2011 Economic Census</li> <li>• Post Enumeration Survey, Tabulation plan, 2011 Economic Census of Cambodia</li> <li>• Consistency check for Business Hours(Q8)</li> <li>• List of Classification items and Statistical Tables</li> <li>• Statistical Table Format</li> <li>• Handbook of the Implementation on Data Analysis</li> <li>• Handbook of Financial ratios on Data Analysis</li> </ul> <p>[CIPS 2013]</p> <p>2 records as listed below</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Manual on Mapping Work</li> <li>• Report on Local Activities in the CIPS2013</li> </ul> <p>[CIES 2014]</p> <p>14 records as listed below</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Outline of the CIES2014</li> <li>• Sampling Design for the CIES2014</li> <li>• Duties of RO/ARO and DPDP</li> <li>• Supervisor’s Manual</li> <li>• Enumerator’s Manual</li> <li>• Supplementary Explanations and Questions &amp; Answers</li> <li>• Implementation Plan of Pretest for the CIES2014</li> <li>• Implementation Plan of Mapping Work for the CIES2014</li> <li>• Manual on Mapping Work for CIES2014</li> <li>• List of Large-size Establishments</li> <li>• Report on Survey Activities by RO/ARO/DPDP/Supervisor/Enumerator/</li> <li>• Manual on Manual Editing and Coding</li> <li>• Manual on Data Entry</li> </ul>

<sup>13</sup> The department consists of four bureaus: Bureau of Sub-national Demographic Statistics, Bureau of Sub-national Economic Statistics, Bureau of Sub-national Social Statistics and Bureau of Sub-national Geographic Statistics.

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Computer Edit Rules [SAS]</li> <li>3 records as listed below</li> <li>• Basic Document for Producing Small Area Statistics in Provinces</li> <li>• SAS Subproject for Improvement of Statistical Technology in Provincial Developments of Planning</li> <li>• Basic Document for Producing Small Area Statistics in Provinces</li> </ul>
--	---

Output 7 is judged to be achieved with some minor issues regarding the management of softcopies of documents.

This Output is concerned with knowledge management at NIS and PDPs with a particular focus on recording work procedures and managing documents. Documents such as “the Report on Organization and Administration” for population and economic censuses and others listed in the above table were produced to record important work procedures and to put forward recommendations so that the institutions can accumulate know-how and facilitate technical/ knowledge transfer to their staff members. In particular, productions of new operation manuals for the Economic Census were avidly undertaken (For a list of manuals and documents produced, see ANNEX 9).

It has been observed and confirmed during the interviews with NIS that documents such as manuals and instructions produced by the Project are mostly saved on individual’s computers without using shared folders in the departments. Although use of e-mail for sharing documents in an electronic format is widely practiced among officers, misplacement of the latest versions of documents is not uncommon. Furthermore, there is a tendency that NIS officers rely too much on the Experts and other development partners for saving and managing the softcopies, without taking the full responsibility on their own. It is advised that NIS should take the initiative of managing the softcopies of the documents as an institution, rather than as an individual, so that future updating and revising of the documents would be easier.

#### 4.3.8. Output 8

Output 8 is “[Coordination] NIS and provincial planning departments will be able to conduct coordination as a consequence of: Necessary coordination among the related organizations for statistical surveys is properly made.”

Objectively Verifiable Indicator	Achievement
8-1 Record of meetings with the related organizations	Minutes of all the meetings listed below were kept. <ul style="list-style-type: none"> <li>• 5 JCC meetings</li> <li>• 1 NSC, 4 CTC, and 1 NCC meetings for EC 2011</li> <li>• 7 CIPS-TC meetings and CIPS meeting (NIS, UNFPA and JICA) for CIPS 2013</li> <li>• 6 CIES-TC meetings for CIES 2014</li> </ul>
8-2 Number of meetings with the related organizations (CTC, PCC, etc.)	[FY 2010] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 6 meetings for preparation of NSC, CTC, NCC and various seminars</li> </ul> [FY 2011] <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 meeting with UNFPA experts</li> </ul> [FY 2012]

Output 8 is judged to be achieved.

A range of coordination mechanisms for planning and implementing censuses and surveys were developed both at the national and provincial levels. At the national level, the Statistics Coordination Committee (SCC), which is a permanent committee, plays a role of overall coordination body for official statistics. Other coordination committees include the National Steering Committee (NSC), National Census Committee (NCC), and Census Technical Committee (CTC), which are set up for specific census and survey activities. Coordination mechanisms have been further strengthened through activities such as seminars for releasing statistical results.

At the provincial level, the Provincial Census Committee (PCC) chaired by the Governor was established. The committee members include the PDP as a secretariat, the provincial departments of line ministries, and other relevant organizations. PCCs are functioning well throughout the country with the strong initiative of the Provincial Governor and the dedication of the PDPs.

#### 4.4. Achievement of the Project Purpose

The Project Purpose is "NIS and provincial planning departments will be able to implement (1) the Economic Census, (2) inter-censal population survey, (3) economic statistics survey, and (4) other statistical activities."

Objectively Verifiable Indicator	Achievement
1. Number of capable statistical staff in NIS trained to conduct planning, data processing, analysis, dissemination, and use of the results of the Economic Census, inter-censal population survey, economic statistics survey, and other statistical surveys	See <Detailed achievement information on Objectively Verifiable Indicator 1> below for the result of assessment on capacity development.
2. Number of ROs (Regional Officers) and AROs (Assistant Regional Officers) trained to conduct tabulation and scrutiny of data, dissemination, and the use of the results of the Economic Census and the 2008 Population Census	<p>[EC 2011]</p> <p>&lt;Census implementation&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Regional Officers: 24</li> <li>• Assistant Regional Officers: 84</li> </ul> <p>&lt;Provincial report writing&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Regional Officer: 24</li> <li>• Assistant Regional Officers: 48</li> </ul> <p>[CIPS 2013]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Regional Officers: 24</li> <li>• Assistant Regional Officers: 72</li> </ul> <p>[CIES 2014]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Regional Officers: 24</li> <li>• Assistant Regional Officers: 72</li> </ul> <p>[SAS]</p> <p>&lt;1<sup>st</sup> Stage&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Regional Officers: 24</li> <li>• Assistant Regional Officers: 48</li> </ul> <p>&lt;2<sup>nd</sup> Stage&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Regional Officers: 24</li> <li>• Assistant Regional Officers: 24</li> </ul>

<Detailed achievement information on Objectively Verifiable Indicator 1>

On the scale 1- 5, 5 being the highest (5: Excellent, 4: Good, 3: Sufficient, 2: Insufficient, 1: Poor)

EC2011	
Baseline	Endline
<p>Average values of base-line in competency assessment on the personnel involved in EC2011 as of Dec 2010 are as follows. The number shown in brackets is the number of personnel who received the baseline evaluation.</p> <p>(a) Management (4) 3.70  (b) Economic Census &amp; Economic Statistics (4) 3.53  (c) Planning and Implementation (2) 3.72  (d) Census Mapping (2) 3.21  (e) Sampling (2) 3.00  (f) Analysis and Releasing (2) 3.24  (g) Tabulation / Receipt and Manual Editing / Coding (2) 3.24  (h) Tabulation / Data Entry / Computer Editing (5) 3.26</p>	<p>Average values of final-line in competency assessment on the personnel involved in EC2011 as of Sept 2014 are as follows. The number shown in brackets is the number of personnel who received the endline evaluation.</p> <p>(a) Management (4) 3.78  (b) Economic Census &amp; Economic Statistics (4) 3.75  (c) Planning and Implementation (2) 3.85  (d) Census Mapping (2) 3.27  (e) Sampling (2) 3.29  (f) Analysis and Releasing (2) 3.65  (g) Tabulation / Receipt and Manual Editing / Coding (2) 3.72  (h) Tabulation / Data Entry / Computer Editing (5) 3.63</p>
CIPS 2013	
Baseline	Endline
<p>Average values of baseline in competency assessment on the personnel involved in CIPS-2013 as of Dec 2012 are as follows. The number shown in brackets is the number of personnel who received the baseline evaluation.</p> <p>(a) NIS Core Staff (57) 3.54  (b) RO/ARO (96) 3.00  (c) PDPs (61) 3.11</p>	<p>Average values of endline in competency assessment on the personnel involved in CIPS-2013 as of Sept 2014 are as follows. The number shown in brackets is the number of personnel who received the final-line evaluation.</p> <p>(a) NIS Core Staff (56) 3.90  (b) RO/ARO (96) 3.17  (c) PDPs (61) 3.78</p>
CIES 2014	
Baseline	Endline
<p>Average values of baseline in competency assessment on the personnel involved in CIES-2014 as of Sept 2013 are as follows. The number shown in brackets is the number of personnel who received the baseline evaluation.</p> <p>(a) NIS Core Staff (26) 3.55  (b) RO/ARO (96) 3.18  (c) PDPs (72) 3.06</p>	<p>Average values of endline in competency assessment on the personnel involved in CIES-2014 as of Sept 2014 are as follows. The number shown in brackets is the number of personnel who received the final-line evaluation.</p> <p>(a) NIS Core Staff (26) 3.73  (b) RO/ARO (96) 3.23  (c) PDPs (72) 3.65</p>
SAS	
Baseline	Endline
<p>Average values of base-line in competency assessment on the personnel involved in SAS are as follows. The number shown in brackets is the number of personnel who received the base-line evaluation.</p> <p>FY2011 (6 provinces) as of Dec 2010  (a) NIS Core Staff (6) 3.27  (b) RO/ARO (30) 2.80  (c) PDPs (24) 2.65</p> <p>FY2012 (9 provinces) as of Dec 2011  (a) NIS Core Staff (7) 3.38  (b) RO/ARO (45) 3.09  (c) PDPs (36) 2.47</p> <p>FY2013 (5 provinces) as of Dec 2012  (a) NIS Core Staff (6) 3.47  (b) RO/ARO (25) 3.45  (c) PDPs (20) 2.55</p> <p>FY2014 (4 provinces) as of Dec 2013  (a) NIS Core Staff (6) 3.69  (b) RO/ARO (20) 3.47  (c) PDPs (16) 1.88</p>	<p>Average values of final-line in competency assessment on the personnel involved in Small Area Statistics (SAS) as of Sept 2014 are as follows. The number shown in brackets is the number of personnel who received the endline evaluation.</p> <p>Total average of FY2011(6 provinces), FY2012 (9 provinces), FY2013 (5 provinces), FY2014 (4 provinces) as of Sept 2014</p> <p>(a) NIS Core Staff (11) 3.82  (b) RO/ARO (120) 3.60  (c) PDPs (91) 2.98</p>



The Project Purpose is considered to be achieved to a relatively high degree except for the issues concerning analytical capacity of NIS for economic censuses and surveys and PDPs' technical skills to conduct SAS.

The two Objectively Verifiable Indicators suggest that there are a number of NIS statistical staff members who were trained to conduct planning, data processing, analysis, dissemination, and use of the statistical results. Their capacity steadily increased for each of the surveys/census as shown in the detailed capacity assessment results.

However, interviews with the project stakeholders have suggested that many of these staff members still have weaknesses in analytical skills for economic censuses and surveys as investigated earlier in the achievement of Output 3.

The second indicator on the other hand, suggests that ROs and AROs who are responsible for supporting PDPs were trained to a satisfactory level. Nevertheless, as the examination of Output 6 indicates, PDPs are still in need of much support from ROs and AROs in carrying out SAS. This situation suggests that PDPs' technical level is not sufficient yet.

It is important to recognize that both NIS and PDPs developed their capacity in planning and implementing a range of statistical activities through the process of EC 2011, CIPS 2013, CIES 2014 and SAS. They can now conduct these official statistical censuses/surveys without major issues.

The remaining challenge regarding Output 3 and 6 should be addressed both by the Project (regarding Output 3) and the newly-established Sub-National Statistics Department (regarding Output 6).

#### **4.5. Implementation process**

##### **(1) Efficient dispatch of the Experts**

All the Japanese Experts were dispatched on a short-term basis to coincide with main statistical activities flexibly. In other words, several experts were dispatched at the same time during occasions when a large volume of technical support was needed by NIS. This mode of expert dispatch enabled efficient use of human resources on the Japanese side.

##### **(2) Effective composition of the Expert Team**

The Experts were recruited both from the Japanese Ministry officials and non-government organizations. This approach enabled the Project to secure a variety of human resources who have expertise in the areas NIS needed most support. Recruitments of suitable experts in this way contributed to raising effectiveness of the Project.

##### **(3) Influence of the Agricultural Census in 2013**

There was a sudden schedule change and the Agriculture Census was carried out in 2013. Many of the C/P staff became overloaded with duties for the Agriculture Census and their activities, particularly data analysis and report-writing for EC 2011, were delayed.

## 5. Evaluation results

### 5.1. Relevance

Summary: Relevance is high. The project is well aligned with Cambodia's development priority as well as with Japan's ODA policy towards Cambodia. The project is also appropriately responding to the needs of the target group, i.e. the statistical staff at NIS and PDPs, by mobilizing Japan's comparative advantage of expertise in official statistics. The implementation approach is also appropriate in that the consistency and continuity from Phase 1 and 2 of technical cooperation is maintained in this Phase 3 to maximize effects of continuous Japan's cooperation.

#### (1) Relevance to the development plan of Cambodia

In its National Strategic Development Plan (NSDP), the Royal Government of Cambodia is adamant about formulating policies and making decisions based on evidence that quality statistical information can provide. The Statistical Master Plan (2008-2015) sets forth long-term and comprehensive action plans for Cambodia's national statistical system which covers activities including EC 2011, CIPS 2013 and CIES 2014. All of these statistical activities have a legal basis given by the country's Statistics Law enacted in 2005. The Law gives NIS a broader role in the development of official statistics and of the statistical system as a whole.

In the context of decentralization and deconcentration, the NSDP positions the promotion of good governance at the centerpiece of its development strategy and stresses the importance of strengthening local government systems such as provincial authorities.

These policy directions and development priorities of Cambodia concerning the national statistical system are, in no doubt, in alignment with the Project's aim and scope in pushing forward improving official statistics and developing capacities of both central and provincial governments.

#### (2) Relevance to Japan's ODA policy towards Cambodia

Japan's Country Assistance Policy to Cambodia (2012) promises Japan's support in strengthening governance in Cambodia. The policy underscores Japan's assistance in improving functions of public administration, specifically, in areas including system improvement and human resource development.

Japan's Rolling Plan for Cambodia (2012) positions the Project as part of Japan's program entitled "the Program for Legal and Judicial Reform and Improving Function of the Public Administration", which focuses on the acceleration of good governance.

Given this policy context, it is fair to say that the Project is highly consistent with Japan's ODA policy.

### **(3) Responsiveness to the needs of the target group**

The Project's target groups are the statistical staff in the NIS (approximately 300 people) and PDPs (approximately 150 people). The Project endeavors to develop the capacity of the target people and organizations by assisting key censuses and surveys. The Project's focus is considered to be appropriate since both NIS and PDPs recognize the needs for their building capacity of planning and implementing statistical activities. Such professional capacity development is what the target groups need to achieve the most for the purpose of contributing to the nation's evidence-based policy and decision-making.

Compared to Phase 1 and 2, this phase particularly extended its focus on PDPs' capacity development. This approach is also considered to be appropriate since there had been growing needs from NIS and the provincial governments towards the end of Phase 2 to build PDPs' capacity in statistics, particularly SAS, in line with the nation's decentralization policy. SAS is also important in that the national and local governments, NGOs, development partners, and private corporations are all in dire need of locally-specific statistical data.

Therefore, it is reasonable to say that the Project is well addressing the need of the target groups by practically pushing forward the agenda of a better national statistical system.

### **(4) Appropriateness of Japan's technical knowledge and skills**

The Expert Team is composed of personnel who have rich experience of working at Japan's Statistics Bureau and other central statistical organizations. The Experts aim at transferring technical skills and knowhow they gained in the Japanese statistical system to the C/P. For instance, the knowhow of Statistics Bureau in conducting economic censuses was effectively used in designing questionnaires and manuals. As for data processing, SCS, free software developed by Japan's National Statistics Center, was introduced to NIS and used after practical training. Thus, it is fair to say that Japan's expertise in official statistics is effectively leveraged by the Project.

### **(5) Appropriateness of the implementation approach**

This Project is a continuation of its preceding technical cooperation projects, namely, the Project on Improving Official Statistics in Cambodia Phase 1 and Phase 2. While Phase 1 dealt mainly with offering statistical training to the staff members NIS and other line ministries, Phase 2 shifted its focus on capacity building through the implementation of the 2008 Population Census. As the third phase of Japan's technical cooperation to NIS, this Project has been centering on capacity development of not only NIS staff but also PDP staff mainly through the implementation of EC 2011,

along with other key surveys such as CIPS 2013, CIES 2014 and SAS.

Japan's technical cooperation in Phase 3 is essential and critical for Cambodia's national statistical system in that (1) economic censuses/surveys requires different technical knowledge and skills from population census/surveys to carry out, and (2) strengthening capacity of the provincial governments is one of the burning issues in the context of Cambodia's decentralization and deconcentration policy.

Therefore, it is fair to say that this Project is appropriately designed in concordance with its preceding projects and the Project's implementation approach maintains consistency and continuity of the previous two phases of technical cooperation.

## 5.2. Effectiveness

Summary: Effectiveness is relatively high. Although NIS's capacity in analyzing economic data and PDPs' capacity in SAS need to be further strengthened, their capacity in conducting statistical activities in general improved in a steadily manner and coordination among the stakeholders was enhanced. The Project Purpose is expected to be achieved to a relatively high degree by the end of the project period.

### (1) Prospect of the achievement of the project purpose

The Project Purpose is "NIS and PDPs will be able to implement the Economic Census, inter-censal population survey, economic statistics survey, and other statistical activities". Judging from the progress of the project activities and the current situation of the achievements of the eight Outputs, it is fair to say that the Project is expected to achieve the Project Purpose to a relatively high degree by the end of the project period.

The Project's greatest contribution to official statistics in Cambodia is the capacity development of both NIS and PDPs through the implementation of key statistical activities. In particular, the successful implementation of EC 2011, the first economic census of this kind in Cambodia, merits due attention. The Project also uplifted PDPs' capacity, particularly in their capacity to tabulate SAS data, by giving practical training and assisting SAS implementation processes. The SAS reports produced through this activity are expected to serve the needs of various local entities, both public and private, for evidence-based decision-making. It should also be noted that coordination, both at the national and provincial levels, for the facilitation of implementing various statistical activities has been strengthened through implementing the key statistical activities.

Nevertheless, there are some remaining challenges. It has been revealed that the analytical capacity of many of the NIS staff members in terms of economic censuses/surveys is still limited and further support is needed by the Experts. The other challenge is that PDPs' skills and knowledge to tabulate and scrutinize data for SAS also have some room for improvement. This issue can be addressed and

resolved by the initiatives of Ministry of Planning/ NIS in future; in particular, by the efforts of NIS' Sub-national Statistics Department which specializes in supporting PDPs.

## **(2) Project management system**

The Project was well facilitated by smooth communication between the Experts and C/P. Communication has been active and smooth both at the official occasions such as meetings and committees and at informal settings such as face-to-face conversation and personal e-mail. Furthermore, the line of command between NIS and PDPs regarding the implementation of large-scale censuses/surveys such as EC 2011 and nation-wide training sessions such as SAS has been so clear and effective that all the project activities were conducted as planned without major challenges. There were no confusions as to roles and responsibilities of the project stakeholders despite the large work volume.

Although NIS' insufficient ownership in project management was pointed out during JICA's Mid-term Review, this issue was resolved to a large extent during CIES 2014 where NIS took the initiative to plan and conduct statistical activities.

Therefore, it can be said that the Project has been operated smoothly by the joint effort of NIS' institutional commitment and the Experts' team work.

## **5.3. Efficiency**

Summary: Efficiency is relatively high. Inputs both from Japanese and Cambodian sides were provided in an appropriate manner, effectively leveraging on human resources they possess. Outputs were also produced sufficiently in accordance with the amount of inputs, as evidenced by successful implementation of a range of statistical censuses/surveys. On the other hand, excessive work volume caused by the Agricultural Census in 2013 and longer time required for cleaning economic data for EC 2011 and CIES 2014.

### **(1) Provision of inputs – the Japanese side**

The interviews with the C/P have confirmed that the areas of expertise of the Experts are well addressing the needs of capacity development of NIS and PDPs and contributing to the generation of expected Outputs. The Japanese Experts have sufficient expert knowledge and skills in the area of official statistics. These strengths in the Japanese Experts partly come from the fact that the Expert Team is composed of both Japanese government officials and consultants.

The design and contents of the training in Japan and also the technical exchange in the third countries are effective for facilitating smooth implementation of project activities, particularly in introducing latest methods and skills of data collection and processing (training in Japan) and exchanging knowledge with statistical officers in neighboring countries (technical exchange in third

countries).

JICA's financial and material support to NIS and PDPs has also been essential and critical to the successful implementation of Cambodia's official statistical censuses/surveys and census, as well as to the facilitation of SAS at the provincial level.

### **(2) Provision of inputs – the Cambodian side**

The assignment of core C/P, which totals to as many as 120 officers (cumulative), have contributed to effective execution of project activities. Apart from these C/P, ROs and AROs in charge of each province in Cambodia are assigned to work with the Project, which has succeeded to make a nation-wide impact in terms of conducting national censuses/surveys and SAS. The number of ROs and AROs became larger than originally planned since it became apparent that PDPs needed more technical support from NIS than anticipated particularly in terms of SAS work. The increase human resource input, however, led to better outputs from PDPs in that they were able to complete SAS reports successfully. Thus, it should be regarded that outputs were generated sufficiently in accordance with the inputs.

Financial contribution from the Cambodian side to project activities, on the other hand, was rather limited in that NIS bore between 13 to 23% of the costs required to conduct the three major censuses/surveys (see Table 4). The remaining costs were covered by the Project, the Counterpart Fund of Japan and other development partners such as UNFPA.

### **(3) Contributing and hindering factors to efficiency**

As has been explained earlier in this report, the Experts specializing in specific areas were dispatched on a short-term basis, rather than on a long-term basis<sup>14</sup>, so that efficient assignments would be realized. The Experts were dispatched when technical support was most needed by the C/P. Therefore, this mode of expert dispatch contributed to increased efficiency of inputs at the Japanese side.

Collaboration with UNFPA, both financially and technically, for assisting CIPS 2013 also contributed to efficient implementation of CIPS 2013<sup>15</sup>.

On the contrary, the timing of the Agricultural Census can be considered as a factor to hinder efficiency. During that time in 2013, many C/P had to engage most of their time in the tasks related to the Agricultural Census. They, therefore, had not enough time to work on analysis of the EC 2011

---

<sup>14</sup> There is also a unique backdrop regarding human resources of experts on official statistics. The skills and knowledge of official statistics are very much specialized by nature. It is very rare for an individual to be in possession of all the expertise needed for implementing official statistics. Dispatching a long-term expert accrues risks of he or she being unable to respond to the needs of the C/P at many occasions. Given this unique context, it was more efficient to dispatch sort-term experts, rather than long-term experts.

<sup>15</sup> UNFPA bore 63% of the total cost of CIPS 2013 while the corresponding figure of JICA is 24%. As for technical support, UNFPA supervised nine analytical reports (four of them still uncompleted) and JICA assisted four analytical reports.

data and technical transfer from the Expert to C/P had to be compensated to some extent due to time limitations.

With respect to EC 2011 and CIES 2014, both census and survey required longer time than anticipated for data cleaning since establishments were more heterogeneous than people/ households and NIS, as well as enumerators, did not have much prior experience of working on economic data. This factor led to longer working days, hence lowering efficiency.

#### 5.4. Impact

Summary: Impact is relatively high. The attainment of the Overall Goal is realistic since NIS and PDPs have acquired skills and knowledge to conduct official statistics. The greatest remaining challenge is resource mobilization to carry out official statistical censuses/surveys planned in the Statistical Master Plan. Strengthening of NIS' capacity to analyze economic data and PDPs' capacity in SAS will also influence the level of attainment of the Overall Goal. Some positive impacts are being observed already: the statistical results disseminated by the Project are widely referred to and utilized for policy making and various research activities in and outside Cambodia.

##### (1) Prospect of the achievement of the Overall Goal

The Overall Goal of the Project is “Statistical results provided by NIS and provincial planning departments will be utilized for planning and implementation of policies, plans, and strategies of line ministries and provincial governments”. The numerical targets for the objectively verifiable indicators of the Overall Goal are “Number of policies, plans, and strategies which utilize the results of statistical data provided by NIS and provincial planning departments”, “Number of statistical surveys conducted by NIS and provincial planning departments”, and “Number of statistical results provided by NIS and provincial planning departments”.

Judging from the fact that NIS and PDPs gained skills and knowledge necessary for conducting official statistics, they will be able to continue providing statistical results to line ministries and provincial governments after the completion of the Project. The remaining challenges are (1) analytical capacity of NIS particularly in the area of economic data, (2) PDPs' capacity to conduct SAS, and (3) financial resources mobilization for conducting planned statistical activities in future. It is surmised that the level of achievement of the Overall Goal depends largely on to what extent NIS can solve these three issues in coming years.

It has been observed that in the last few years the results of EC 2011 and CIPS 2013 were used widely by line ministries and provincial governments in monitoring policies including the National Strategic Development Plan (NSDP), Millennium Development Goals (MDGs) Monitoring, Rectangular Strategy, National Decentralization and Deconcentration Reforms, and the ASEAN Framework, to name a few. If NIS continues providing statistical results the way it has been doing

during the project period, there is a high likelihood that they will be effectively used by policy planners for making national/provincial policies and plans, thereby achieving the Overall Goal.

## (2) Intended impact

The census data produced and disseminated by the Project in the form of seminars, Websites and printed media, has been widely cited and used for a range of studies by domestic as well as international organizations including the World Bank, United Nations Development Programme (UNDP) and so forth. For instance, as of July 18, 2014, EC 2011 was utilized by reports as listed below.

1.	CAMBODIA INVESTMENT GUIDEBOOK, January 2012 (Council for the Development of Cambodia :CDC) (Chapter 7)
2.	WORLD BANK EAST ASIA AND PACIFIC ECONOMIC UPDATE 2012, VOL. 1: Capturing New Source of Growth (The World Bank) (p.44)
3.	CAMBODIA DEVELOPMENT REVIEW VOLUME 16, ISSUE 1, JANUARY-MARCH 2012 (Cambodia Development Resource Institute: CDR) (p. 14)
4.	Cambodia: MDGs ACCELERATION FRAMEWORK REPORT. May 2013: Promoting Women's Economic Empowerment (UNDP Cambodia) (p. 13)
5.	Delivering Financial Services through Mobile Phone Technology: a Pilot Study on Impact of Mobile Money Service on Micro-entrepreneurs in Rural Cambodia (University Australia) (p.4)
6.	Business Overview, CAMBODIA BUSINESS OPPORTUNITY (Cambodia Investor Club)
7.	CAMBODIA: WOMEN IN BUSINESS, May 12, 2013 (Southeast Asia Globe)
8.	Women's work on Asia, Cambodia, March 8, 2013: Cambodian Women and the Economy (Future Challenges)
9.	Open Development Cambodia census - nccd – wells, Jun 28, 2012 (Open Development Cambodia) (p.5, p.6)
10.	Newsletter, March 2012 (Kas Cambodia Office) (p.6)
11.	Evidence from Cambodia, March 2014 (Econstor) (p.5)

The Statistics Bureau, the Ministry of Internal Affairs and Communication (MIC), Japan regularly posts latest information on project activities and census/ survey results on its Website. The total number of page views of the Japanese-language website<sup>16</sup> was 260,318 for the Japanese Fiscal Year of 2013 (April 2013 to March 2014)<sup>17</sup>. The EC 2011 report<sup>18</sup> posted on the NIS' Website<sup>19</sup> has had nearly 4,000 page view since January 2014<sup>20</sup>. This large number of page views indicates that the data and information regarding the Project are referred to and utilized by many stakeholders in and outside Cambodia.

In connection with this, it has also become evident during interviews with related organizations that NIS, the Project, JICA Cambodia Office and various ministries in Cambodia are receiving many inquiries from corporations/ investors and academic institutions, both domestic and international, regarding data on establishments in recent years. Undoubtedly, the demand for data generated by economic censuses and surveys is rapidly increasing as Cambodia's economy accelerates. In this

<sup>16</sup> <http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/phase3.htm>

<sup>17</sup> There is also an English-language Website of the same contents. However, the number of page views was not available at the time of evaluation.

<sup>18</sup> NIS (2012) "Economic Census of Cambodia: National Report on Final Census Results" URL: [http://www.nis.gov.kh/nis/EC2011/EC2011\\_Final\\_Results.pdf](http://www.nis.gov.kh/nis/EC2011/EC2011_Final_Results.pdf)

<sup>19</sup> <http://www.nis.gov.kh/>

<sup>20</sup> The same report is posted on a different Website (<http://nada.nis.gov.kh/>) managed by NISA. However, the number of page views for this Website was not available.



respect, the impact and value of the Project's economic census and survey merit special acclaim.

### **(3) Unintended impact**

Much of the work process regarding census/survey planning and implementation were documented and recorded in a form of an operation manual and instruction during the project period. It has been observed that such written documents are often referred to not only by the implementers of the target surveys and censuses of the Project, but also by the implementers and collaborators of other censuses/surveys including the 2013 Agricultural Census.

Other unintended impact includes the effect of the SAS training for the PDP staff. After learning how to use the Internet and MS WORD and EXCEL documents, the PDP officials are now able to utilize the skills not only in their statistical work but also in their other routine work, which is contributing to their work efficiency. In addition, they occasionally teach the computer skills they learned during the SAS training to other PDP officials.

### **(4) The influence of external factors on the achievement of the Overall Goal**

The identified external factors to influence the achievement of the Overall Goal in the PDM are: (1) "Policy makers will recognize the importance of statistical information" and (2) "Necessary budget will be secured". As the examination of "Prospect of the achievement of the Overall Goal" and "intended impact" delineated above clearly suggests, there seems to be little concern about the former factor since there are already quite a few policy makers who utilize the statistical information provided by the Project. The latter issue regarding budgeting, on the other hand, is worth noting since the government's share of cost-bearing for the key statistical activities hovers around 20% of the total cost. This matter is taken up in the next section as an issue of "financial sustainability".

## **5.5. Sustainability**

Summary: Sustainability is fair to relatively high. While policy and institutional sustainability is high, financial sustainability needs to be improved so that all the statistical activities listed in the Statistical Master Plan will be appropriately undertaken. Technical sustainability will be further enhanced if NIS' analytical capacity of economic data and PDPs' skills to conduct SAS are improved.

### **(1) Policy and institutional sustainability**

The Government of Cambodia has been committed to the implementation of the Statistical Master Plan and Statistics Law. This policy commitment is well reflected to NIS' institutional arrangements where the number of NIS officers is steadily increasing<sup>21</sup> and the new department, Sub-national

---

<sup>21</sup> The number of NIS officers was 191 in 2003, 309 in 2008 and 317 in 2013, according to the data provided by the

Statistics Department, specializing in supporting PDPs has been established.

Although it was pointed during the Mid-term Review that NIS' project ownership was not so sufficient, this situation has been improved to a large extent when NIS took an initiative to plan and carry out CIES 2014. Therefore, it is fair to say that policy and institutional sustainability is regarded high.

### (2) Technical sustainability

The technical capacity of NIS and PDPs is undoubtedly improved and operation manuals and necessary tools for data gathering and processing are also developed. The caveat is that sharing information and managing latest documents should be done more as an institution rather than on a personal basis. Overall, with raised capacity, NIS and PDPs will be able to continue their statistical work on their own.

The remaining challenges are, as already repeated several times in this paper, the capacity of NIS in analyzing economic data and technical capacity of PDPs in SAS implementation.

### (3) Financial sustainability

Among all the aspects of sustainability taken up in this section, financial sustainability is of biggest concern. As illustrated in the two tables below (

Table 6 and Table 7), NIS is making efforts to increase the share of cost-bearing over the years both for population economic censuses/surveys.

Table 6 NIS' share of cost for population census/survey (Unit: USD)

	Amount NIS shared	Total cost	NIS' share
Population Census 2008	683,383	6,624,876	10%
CIPS 2013	147,615	1,156,667	13%

Table 7 NIS' share of cost for economic census/survey (Unit: USD)

	Amount NIS shared	Total cost	NIS' share
EC 2011	706,327	3,537,577	20%
CIES 2014	73,087	316,328	23%

Nevertheless, there is a clear tendency that the censuses/surveys are materialized with heavy financial support from development partners including JICA, UNFPA, Sida, and so forth. According to interviews with the C/P, it is being planned that about four million dollars will be secured from the government funds for the implementation of the 2018 Population Census which will cost about 11 million dollars. If this plan materializes, the government's share will be a little more than 35% of the total cost, which is an improvement from 10% of the 2008 Population Census. However, there is still

---

Project.

uncertainty as to whether or not NIS can mobilize necessary financial resources from relevant organizations such as development partners. The success of resource mobilization for the 2018 Population Census, CIPS 2023, CIES 2017, and EC 2021 will largely depend on NIS' and MOP' advocacy efforts to the ministries and development partners.

In terms of financial sustainability at the provincial level, operation and maintenance costs for computers, photocopiers and other equipment for SAS and other statistical work need to be secured immediately because PDPs are financially relying on the Project for the costs such as repairing, updating software, and purchasing toner for photocopiers, etc. at the moment. It is recommended that the Ministry of Planning/ NIS pay due attention to this issue and take necessary coordination between PDPs and Ministry of Economy and Finance.

## **6. Conclusions**

Since Phase 1 of the Project, JICA's continuous support to NIS has been contributing to the improved capacity of NIS staff and line ministries. In this 3<sup>rd</sup> phase, the Project is actively engaged in developing capacity of not only NIS but also PDPs. It is surmised that the Project will achieve its Project Purpose to a relatively high degree by the end of the planned project period. The level of achievement of the Project Purpose will be higher if more efforts to produce Output 3 (NIS' analytical capacity) and 6 (PDPs' capacity on SAS) are made.

## **7. Recommendations**

### **Recommendation to the Project**

#### **(1) Improving NIS' analytical capacity on economic data**

It has been revealed that although NIS' capacity to plan and implement official statistical activities has been improved satisfactorily, its analytical capacity, especially the capacity to conduct economic analysis, is still insufficient. It is recommended that NIS officers work closely with the Experts to produce analytical reports on CIES 2014 for the purpose of improving their analytical capacity in the remaining project period. An option of extending the project period to achieve that goal needs to be sought and discussed with JICA.

#### **(2) Disseminating statistical information widely on the Websites**

Posting statistical reports on NIS' Websites is rather limited. Posting the statistical reports produced by the Project on the Websites will facilitate wider and more efficient dissemination of the statistical information. It is recommended that the Project and NIS' relevant departments work together to post as many reports, including the SAS reports written in Khmer, as possible on NIS' Websites during the remaining project period. Where uploading of publications are difficult, alternative means of providing data such as offering data on a CD-ROM and actively introducing Data User Service

Center of NIS to potential users need to be promoted so that their easy access to statistical results is facilitated. The work procedure to post statistical information on the Websites should also be established by clarifying the roles and responsibilities of concerned departments within NIS.

### **Recommendation to NIS**

#### **(3) Securing adequate financial resources for future statistical activities**

In coming years, there are official statistical activities such as CIES 2017 and the 2018 Population Census scheduled and planned in the Statistical Master Plan and relevant government decrees. NIS should formulate a budget plan to secure adequate financial resources to conduct these activities. NIS should avidly advocate the importance of official statistics in policy-making and monitoring to concerned ministries such as Ministry of Planning and Ministry of Economy and Finance as well as to development partners.

#### **(4) Strengthening support to PDPs by the Ministry of Planning/ NIS**

Although the Project embarked upon capacity building of PDPs through SAS training, NIS' effort to strengthen PDPs is still in its infancy. The Sub-national Statistics Department should formulate its action plan to technically support PDPs, building on the Project's SAS experiences.

The Ministry of Planning/ NIS should also assist PDPs in securing funds for operation and maintenance of machines and equipment provided by the Project.

#### **(5) Information management for sustaining transferred skills and knowledge**

Although various operation manuals were produced and important activities/data was recorded in a written form during the project period, sharing information tends to be done on a personal basis. There is also NIS' reliance on development partners for managing softcopies of some important documents. NIS, as an institution, should therefore effectively manage documents, particularly electronic copies of manuals and instructions, and share them widely within NIS by improving the current data sharing system and procedure. Sharing information and subsequent transfer of technical skills and knowledge to those, for example, who are new to statistical activities should be efficiently undertaken by using documents produced by the Project.

#### **(6) Scheduling of major censuses**

The Agricultural Census was implemented in 2013 which was a year earlier than scheduled. This schedule change influenced negatively on smooth implementation of other statistical activities. It is recommended that a census be implemented at an appropriate interval in order to avoid such a challenging situation. For example, the next Agricultural Census, therefore, should be conducted three years after the next Economic Census.

## **8. Lessons Learned**

### **(1) Challenges of economic censuses and surveys**

It has become apparent that, unlike population censuses/surveys, data cleaning for economic censuses/surveys requires a substantial amount of time due to reasons such as heterogeneous characteristics of establishments and industries, staff's unfamiliarity of dealing with economic data, and inapplicability of computer error imputation. The Project faced this problem when conducting EC 2011 and CIES 2014 and some planned activities were delayed as a consequence. Moreover, due to time constraints caused by this problem, not enough time was secured for building C/P's capacity in data analysis.

Therefore, when a project includes a component of economic surveys/censuses which the implementing institutions have little experience of, a sufficient amount of time should be allocated for data cleaning. It is also advisable that the project offer a sufficient amount of training on accounting and business activities so that C/P's basic knowledge on economics will increase. When formulating a new project which assists economic surveys and censuses, it is recommended that a preparatory study to assess basic knowledge on accounting and business activities of C/P and other census/survey implementers be conducted beforehand.

### **(2) Importance of coordination with other major censuses**

The sudden implementation of the Agricultural Census in 2013 gave negative impact on the project activities in that it prevented the C/P from spending sufficient amount of time for the project activities, particularly, the analysis of EC 2011 data. It has become clear that scheduling and coordination with other major statistical censuses the C/P institutions are responsible for is an important factor for smooth implementation of planned statistical activities under the Project.

### **(3) Importance of continuous and long-term support to official statistical activities**

When providing technical assistance to long-term government activities such as censuses which tend to have an interval of ten years or so between activities, continuous guidance through on-the-job (OJT) training, rather than one-off technical support, is necessary for the skills and knowledge to take root. This Project is a continuous support from Phase 1 and 2, which aimed at developing skills and techniques of the C/P through assisting key statistical activities. Therefore, the design of the Project is considered to be appropriate for this type of assistance.

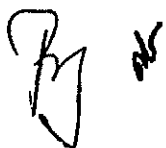
### **(4) Securing funds for census implementation**

For the government of developing countries, financing large-scale statistical activities such as population censuses and economic censuses on their own is often very difficult. Coordinating with

development partners and collaborating with various types of international assistance is critical. In this respect, this Project appropriately collaborated with UNFPA and utilized Japan's Counterpart Fund for mobilizing resources for survey implementation.

Although the share of the cost borne by the Government of Cambodia has increased in recent years, the shared amount is still not enough to cover all the necessary cost. It is reaffirmed that when providing assistance in the field of official statistics, measures to secure sufficient funds for statistical activities after the project period need to be investigated carefully and proactively.

END

By 

## ANNEX 1: Schedule of the Terminal Evaluation

Aug.31-Sep.13, 2014

Date	Day	Mitsuboshi	Mr. Komizawa, Mr. Kanemura, Mr. Takemura
Aug.31, 2014	Sun	19:25 Arrive at Phnom Penh [TG2584]	
Sep. 1	Mon	09:00-10:30 Mr. Nishi, Chief Adviser 10:30-11:30 H.E. Mr. San Sy Than, Secretary of State, MOP 14:00-15:30 Mr. Meng Kimhor, DDG, NIS 15:30-17:00 Mr. Khin Sovorlak, DDG, NIS	
2	Tue	08:00-09:30 Visiting Phnom Penh PDP 11:00-12:30 Visiting Kampong Speu PDP 14:00-15:00 Mr. So Tonnere, DD, Dept. of Economic Statistics, NIS 16:00-17:00 H.E. Mr. Hor Darith, USS, MOP	
3	Wed	09:00-10:00 Mr. Kim Net, DD, Dept. of Social Statistics, NIS 10:30-11:30 Mr. They Kheam, D, Dept. of Dem. Stat. Census and Survey, NIS 11:30-12:00 Mr. Pich Pothy, Director, Sub-National Statistics Dept. 14:00-15:00 Mr. Panhara Oukchay, DDG, NIS 15:00-16:00 Ms. Heng Mala, DUSC 16:00-17:00 Mr. Saint Lundy, Director, ICT Dept. and Mr. Lay Sophat, DD.	
4	Thu	09:00-10:00 Mr. A. Ito, JICA Expert 10:00-11:00 Mr. A. Yamauchi, JICA Expert 11:00-12:00 Mr. F. Nishi, Chief Adviser 14:00-15:00 Mr. H. Mizuta, JICA Expert 15:00-16:00 Prof. Hirohata, JICA Expert	
5	Fi	14:00-15:00 Mr. Yi Sokha, Population & Development Analyst, UNFPA Cambodia Office 15:00-15:30 Mr. F. Nishi, Chief Adviser 15:30-16:30 Mr. Russell Schmieder, Chief Advisor, SIDA	
6	Sat	Documentation	
7	Sun	Documentation	19:25 Arrive at Phnom Penh [TG2584]
		21:00-23:00 Internal Meeting among the terminal evaluation team	

ANNEX 1-1

8	Mon	09:00-12:00 Ceremony of Releasing Preliminary Results of CIES 2014 14:00-15:00 Meeting with JICA Cambodia Office 15:00-16:00 Meeting with JICA Expert 16:00-17:00 Courtesy call to H.E Chhay Than, Senior Minister, MOP	
9	Tue	09:00-12:00 Kick off meeting with NIS senior officials	
		14:00-15:30 Discussion with JICA Experts regarding the draft Joint Evaluation Report (Mr. Tomizawa, Mr. Takatsuki and Ms. Shuto)	14:00-14:30 Interview to Mr. Sok Kosal and Mr. Buoy Somehea regarding capacity of analysis on CIPS 14:30-15:30 Interview to Mr. Chan Samath regarding capacity of analysis on CIES (Ms. Kanamuro)
		16:00-17:30 Discussion with NIS regarding the draft Joint Evaluation Report (JER)	
10	Wed	09:00-17:00 Revising JER and preparing summary in Japanese (for EoJ) (Ms. Shuto)	09:00 Visiting Prey Veng PDP 14:00-14:20 Visiting the fields of Data Processing of CIES and technical guidance from JICA Expert 14:20-15:10 Interview to Mr. Meng Kimhor regarding capacity of Data Processing 15:10-16:00 Interview to Mr. Saint Lundy, Director, ICT Dept. and Mr. Lay Sophat, DD. (Mr. Tomizawa, Mr. Takatsuki and Ms. Kanamuro)
		17:00-19:00 Internal meeting for confirming JER and summary in Japanese	
11	Thu	09:00-12:00 Discussion with NIS regarding the draft JER	
12	Fri	08:30-10:00 Documentation (Final Draft of the JER) with NIS 10:30-11:30 Courtesy call to Japan Embassy 14:00-16:30 JCC, Signing of M/M 20:25 Leave for Narita/Haneda [TG2585 ]	
13	Sat	Arrive at Narita/Haneda	

\*Accommodation is Phnom Penh

ANNEX 1-2



Project Design Matrix (PDM)

Project Title: Improving Official Statistics in Cambodia Phase 3

Project Period: From October 2010 to March 2015 (4 and a half years)

Target Group: Statistical staff in the NIS, provincial planning departments

Target Area: The entire Cambodia

Ver. 0

As of June 10, 2010

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
<p><b>Overall Goal</b></p> <p>Statistical results provided by NIS and provincial planning departments will be utilized for planning and implementation of policies, plans, and strategies of line ministries and provincial governments.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Number of policies, plans, and strategies which utilize the results of statistical data provided by NIS and provincial planning departments</li> <li>Number of statistical surveys conducted by NIS and provincial planning departments</li> <li>Number of statistical results provided by NIS and provincial planning departments</li> </ul>	NIS, provincial planning departments, line ministries and provincial governments	
<p><b>Project Purpose</b></p> <p>NIS and provincial planning departments will be able to implement ① the Economic Census, ② inter-censal population survey, ③ economic statistics survey, and ④ other statistical activities.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Number of capable statistical staff in NIS trained to conduct planning, data processing, analysis, dissemination, and use of the results of the Economic Census, inter-censal population survey, economic statistics survey, and other statistical surveys</li> <li>Number of ROs (Regional Officers) and ARDs (Assistant Regional Officers) trained to conduct tabulation and scrutiny of data, dissemination, and the use of the results of the Economic Census and the 2008 Population Census</li> </ul>	NIS and provincial planning departments	<ul style="list-style-type: none"> <li>Policy makers will recognize the importance of statistical information.</li> <li>Necessary budget will be secured.</li> </ul>
<p><b>OUTPUTS</b></p> <p>1 NIS and provincial planning departments will be able to conduct planning and implementation of statistical surveys as a consequence of :            Definition of EA (Enumeration Areas) is completed. The results of the definition of EA are used for other statistical surveys. (①, ②, ③)</p> <p>2 NIS will be able to conduct data processing as a consequence of :            As the output of the data processing and scrutiny of statistical surveys, statistical tables as well as micro-data are prepared. And the statistical tables are released. (①, ②, ③)</p> <p>3 NIS will be able to conduct analysis as a consequence of :            The results of statistical surveys are analyzed. The results of the analysis are released. (①, ②, ③)</p> <p>4 NIS will be able to conduct dissemination as a consequence of :            The results of statistical surveys are disseminated by means of publication, CD, web site, statistical maps, and census atlas. Related personnel share the common understanding in the matter of the statistical surveys (EA, the Census results, etc.) (①, ②, ③)</p> <p>5 NIS will be able to conduct small area statistics as a consequence of :            Small area statistics of the Economic Census are tabulated and released. The use of small area statistics is recognized by line ministries concerned and provincial governments. (①)</p> <p>6 Provincial planning departments will be able to tabulate and scrutinize data as a consequence of :            Trainings of tabulation and scrutiny of data, and disseminating results of statistical surveys for statistical staff in provincial planning departments are conducted. (②)</p>	<p>1-1 Number of village maps and EA maps</p> <p>1-2 Number of statistical surveys in which village maps, EA maps and updated village frame are used</p> <p>2-1 Number of statistical tables (tabulated by NIS and provincial planning departments)</p> <p>2-2 Number of microdata (processed by NIS)</p> <p>3-1 Number of reports on analysis (published and/or released) prepared by NIS and provincial planning departments</p> <p>4-1 Number of publications, CDs, web pages, statistical maps, and census atlases (published and/or released)</p> <p>4-2 Number of trainees in the training course</p> <p>4-3 Level of understanding of the trainees</p> <p>4-4 Number of workshops and seminars conducted</p> <p>5-1 Number of small area statistical tables: by district, commune, village, and EA (tabulated and/or released)</p> <p>5-2 Number of trainees in the training course</p> <p>5-3 Level of understanding of the trainees on the use of small area statistics</p> <p>6-1 Number of trainings conducted for provincial planning departments</p> <p>6-2 Number of provincial trainees in the training course</p> <p>6-3 Level of understanding of the trainees on tabulation and scrutiny of data, and dissemination of the results of statistical surveys</p> <p>6-4 Number of statistical tables (tabulated by NIS and provincial planning departments)</p>	<p>NIS and provincial planning departments            NIS, line ministries, and provincial governments</p> <p>NIS and provincial planning departments            NIS</p> <p>NIS</p> <p>NIS</p> <p>NIS and provinces            NIS and provinces            short examination</p> <p>NIS and provinces            NIS and provinces            short examination</p> <p>NIS and provinces            NIS and provinces            short examination</p> <p>NIS and provinces</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Necessary coordination with relevant organizations will be conducted by NIS.</li> <li>Counterparts will stay in the proper posts.</li> <li>Necessary budget will be secured.</li> </ul>

Handwritten initials and marks at the top left of the page.

<p>7 NIS and provincial planning departments will be able to keep institutional memory as a consequence of : Detailed Procedures (e.g. important processes, important examples, manuals) of statistical surveys are prepared and compiled.</p>	<p>7-1 Number of detailed records of procedures prepared.</p>	<p>NIS</p>	
<p>8 NIS and provincial planning departments will be able to conduct coordination as a consequence of : Necessary coordination among the related organizations for statistical surveys are properly made.</p>	<p>8-1 Record of meetings with the related organizations 8-2 Number of meetings with the related organizations (CTC, PCC, etc)</p>	<p>NIS</p>	
<p>Activities</p>	<p>INPUTS</p>		<p>Important Assumption</p>
<p>1 [Planning and implementation of statistical surveys] 1-1 Plan and implement statistical surveys 1-2 Delineate EAs for statistical surveys 1-3 Maintain and manage the EAs for statistical surveys 2 [Data processing] 2-1 Develop the data processing systems of statistical surveys in NIS 2-2 Conduct the data processing of statistical surveys 2-3 Scrutinize the micro-data of statistical surveys 2-4 Tabulate and scrutinize the statistical tables of statistical surveys 3 [Analysis] 3-1 Analyze the results of statistical surveys 4 [Dissemination] 4-1 Compile the publications of results of statistical surveys 4-2 Prepare the CDs of results of statistical surveys 4-3 Prepare the web-contents of results of statistical surveys 4-4 Prepare the statistical maps of results of statistical surveys 4-5 Compile the census atlases of results of statistical surveys 4-6 Conduct training for using results of statistical surveys to the ministries concerned and provincial governments (including planning departments) 4-7 Hold the workshops to disseminate the result of the 2011 Economic Census 4-8 Hold the workshops to disseminate the result of the 2013 inter-censal population survey 4-9 Hold the workshops to disseminate the result of the 2014 economic statistics survey 4-10 Hold the seminar to make the Project widely known to the public 5 [Small area statistics] 5-1 Develop the village-level data processing systems of the Economic Census in NIS 5-2 Conduct training for using the village-level results of the Economic Census to the ministries concerned and provincial governments (including planning departments) 6 [Trainings of provincial planning departments] 6-1 Conduct training for regional officers of NIS to become instructors of training for provincial planning departments 6-2 Conduct training on tabulation and scrutiny of data for the 2008 Population Census and the 2011 Economic Census (including the 2009 Establishment Listing) 6-3 Conduct training on dissemination of results for the 2008 Population Census and the 2011 Economic Census (including the 2009 Establishment Listing) 7 [Institutional memory] 7-1 Develop and maintain documents on detailed procedures for statistical surveys 8 [Coordination] 8-1 Take part in the necessary meetings for statistical surveys</p>	<p><b>Cambodia Side</b></p> <p>Counterpart personnel</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Project Director</li> <li>Project Manager</li> <li>Other members</li> </ul> <p>Office space and necessary furnitures for Japanese experts</p> <p>Running cost for the Project activities</p> <p>Approval for the free access to the statistical data necessary for the Project activities (Economic census data, economic statistics data etc.)</p> <p><b>Japanese Side</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Experts: Chief Advisor, Data Processing/ Programming, Data Processing/Scrutiny, Census/Survey Planning, Data Analysis, Mapping, Small Area Statistics / Project Coordination</li> <li>Training in Japan (and third country) 2010FY: Population survey planning, 2011FY: Population survey data processing and analysis, 2012FY: Economic statistics survey planning, 2013FY: Economic statistics survey data processing and analysis</li> <li>Equipment Personal computers, printers, projectors, photo copiers, etc.</li> </ul>		<p>Necessary funds for the Economic Census including Counterpart Funds of Non-Project Grant Aid will be secured.</p> <p>The Cambodian Government will not cancel nor postpone the Economic Census, inter-censal population survey, and economic statistics survey.</p>

This list is subject to change through the discussion between both sides whenever the necessity arises, and it will be reflected to the annual plan of the Project.



# ANNEX 4: Assingments of the Japanese Experts

## Government-Team

Name	Technical Field	Fiscal Year / Annual Year	From	to	M/M (Man.Month)	M/M Total/FY or Annual	
Mr. Fumihiko Nishi	Chief Advisor	FY 2010	10/09/10	10/31/10	0.77	3.10	
			11/27/10	12/19/10	0.77		
			02/02/11	03/20/11	1.57		
		FY 2011	05/09/11	06/10/11	1.10	5.80	
			08/02/11	09/25/11	1.83		
			11/13/11	12/25/11	1.43		
			02/05/12	03/18/12	1.43		
		FY 2012	04/22/12	05/30/12	1.30	6.27	
			08/05/12	09/29/12	1.87		
			11/11/12	12/23/12	1.43		
		FY 2013	02/03/13	03/24/13	1.67	5.40	
			04/21/13	05/30/13	1.33		
			07/28/13	08/03/13	0.23		
			09/22/13	10/20/13	0.97		
FY 2014	11/17/13	12/22/13	1.20	2.57			
	02/02/14	03/23/14	1.67				
	05/06/14	06/08/14	1.13				
			08/10/14	09/21/14	1.43		
				<b>Total</b>	<b>23.13</b>	<b>23.13</b>	
Mr. Kiyomi Shirakawa	Data Processing/ Programing	FY 2010	10/09/10	10/23/10	0.50	1.23	
			02/27/11	03/20/11	0.73		
		FY 2011	05/22/11	06/10/11	0.67	1.13	
			11/27/11	12/10/11	0.47		
		FY 2013	02/23/14	03/16/14	0.73	0.73	
		FY 2014	05/18/14	06/08/14	0.73	0.73	
				<b>Total</b>	<b>3.83</b>	<b>3.83</b>	
Mr. Satoshi Imai	Data Processing/ Programing	FY 2010	12/08/10	12/19/10	0.40	0.40	
					<b>Total</b>		<b>0.40</b>
Mr. Akinori Sato	Data Processing/ Programing	FY 2010	02/27/11	03/20/11	0.73	0.73	
					<b>Total</b>		<b>0.73</b>
Ms. Eri Hirota	Data Processing/ Programing	FY 2011	11/27/11	12/10/11	0.47	0.93	
			03/01/12	03/14/12	0.47		
		FY 2012	05/17/12	05/30/12	0.47	0.47	
		FY 2013	10/07/13	10/20/13	0.47	0.47	
					<b>Total</b>	<b>1.87</b>	<b>1.87</b>
Mr. Hiromu Harada	Data Processing/ Programing	FY 2011	03/01/12	03/14/12	0.47	0.47	
				<b>Total</b>	<b>0.47</b>	<b>0.47</b>	
Ms. Yumi Munenobu	Data Processing/ Programing	FY 2012	05/17/12	05/30/12	0.47	0.47	
				<b>Total</b>	<b>0.47</b>	<b>0.47</b>	
Mr. Masakazu Kimura	Data Processing/ Programing	FY 2012	09/02/12	09/16/12	0.50	1.00	
			11/11/12	11/25/12	0.50		
				<b>Total</b>	<b>1.00</b>	<b>1.00</b>	
Ms. Yuki Oota	Data Processing/ Programing	FY 2012	11/11/12	11/25/12	0.50	0.50	
				<b>Total</b>	<b>0.50</b>	<b>0.50</b>	
Mr. Ichiro Murata	Data Processing/ Programing	FY 2013	10/07/13	10/20/13	0.47	0.47	
				<b>Total</b>	<b>0.47</b>	<b>0.47</b>	
Mr. Kyosuke Tomita	Data Processing/ Programing	FY 2013	02/23/14	03/16/14	0.73	0.73	
					<b>Total</b>		<b>0.73</b>
Ms. Yukako Toko	Data Processing/ Programing	FY 2014	08/10/14	09/21/14	1.43	1.43	
					<b>Total</b>		<b>1.43</b>
				<b>Total</b>	<b>1.43</b>	<b>1.43</b>	
					<b>Grand Total</b>	<b>35.03</b>	<b>35.03</b>

*Handwritten initials/signature*

Non Government-Team

Name	Technical Field	Fiscal Year / Annual Year	From	to	M/M (Man.Month)	MM Total/FY or Annual		
Mr. Akihiko Ito	Team Leader/Data Processing/Scrutiny	1st Year	10/10/10	10/29/10	0.67	1.73		
			12/05/10	12/22/10	0.60			
			02/27/11	03/12/11	0.47			
		2nd Year	04/24/11	05/21/11	0.93	3.70		
			07/17/11	08/13/11	0.93			
			11/22/11	12/18/11	0.90			
			02/16/12	03/14/12	0.93			
		3rd Year	06/03/12	06/24/12	0.73	3.70		
			07/24/12	08/22/12	1.00			
			11/11/12	12/15/12	1.17			
		4th Year	02/24/13	03/19/13	0.80	5.70		
			08/08/13	08/18/13	0.37			
			09/22/13	10/27/13	1.20			
			11/12/13	12/08/13	0.90			
			02/20/14	03/26/14	1.17			
					06/01/14	06/26/14	0.87	
					08/24/14	09/28/14	1.20	
			Total		14.83	14.83		
Mr. Nao Endo	Mapping	1st Year	10/10/10	10/23/10	0.47	0.47		
		2nd Year	10/23/11	11/05/11	0.47	1.90		
			02/01/12	03/14/12	1.43			
					Total		2.37	2.37
Mr. Atsushi Otomo	Data Processing/Scrutiny/Data Analysis	1st Year	12/05/10	12/18/10	0.47	0.47		
		2nd Year	08/21/11	09/18/11	0.96	1.93		
			03/11/12	04/08/12	0.96			
					Total		2.39	2.40
Dr. Nobuo Hirohata	Data Analysis/Census/Survey Planning	1st Year	10/10/10	10/23/10	0.47	1.33		
			12/11/10	12/22/10	0.40			
			03/06/11	03/19/11	0.47			
		2nd Year	05/18/11	06/01/11	0.50	2.30		
			08/14/11	09/04/11	0.73			
			10/23/11	11/05/11	0.47			
			02/28/11	03/16/11	0.60			
		3rd Year	05/29/12	06/10/12	0.43	3.90		
			07/08/12	07/22/12	0.50			
			08/05/12	08/19/12	0.50			
			09/26/12	10/07/12	0.40			
			11/04/12	11/14/12	0.37			
			12/06/12	12/16/12	0.37			
			01/07/13	01/13/13	0.23			
			02/13/13	02/19/13	0.23			
		4th Year	03/13/13	03/24/13	0.40	2.13		
			04/07/13	04/14/13	0.27			
			05/05/13	05/10/13	0.20			
			08/11/13	08/25/13	0.50			
			10/27/13	11/07/13	0.40			
01/12/14	01/19/14		0.27					
			03/02/14	03/09/14	0.27			
			06/22/14	06/29/14	0.27			
			08/31/14	09/12/14	0.43			
			Total		9.67	9.67		
Mr. Yasuo Ishida	Census/Survey Planning/Small Area Statistics	1st Year	10/10/10	12/19/10	2.33	4.93		
			01/02/11	03/19/11	2.60			
		2nd Year	05/16/11	07/23/11	2.33	6.97		
			08/02/11	09/10/11	1.33			
			10/01/11	11/05/11	1.17			
			11/20/11	12/02/11	0.41			
			01/09/12	01/28/12	0.65			
			02/15/12	03/16/12	1.08			
			Total		11.90	11.90		

ANNEX 4-2

Mr. Hiromi Mizuta	Project Coordination/Small Area Statistics	1st Year	10/10/12	10/28/12	0.63	3.50	
			11/28/10	12/18/10	0.70		
			01/13/11	03/18/11	2.17		
		2nd Year	05/16/11	07/02/11	1.60	7.50	
			09/07/11	11/05/11	2.00		
			11/20/11	12/21/11	1.07		
			01/19/12	04/12/12	2.83		
		3rd Year	06/03/12	09/07/12	3.23	5.63	
			09/17/12	10/13/12	0.90		
			11/04/12	12/18/12	1.50		
		4th Year	10/07/13	11/02/13	0.90	5.40	
			02/04/14	03/22/14	1.57		
			05/21/14	07/05/14	1.53		
08/10/14	09/20/14		1.40				
				<b>Total</b>	<b>22.03</b>	<b>22.03</b>	
Ms. Emi Harada	Project Coordination	2nd Year	08/02/11	08/17/11	0.53	1.00	
			03/29/12	04/11/12	0.47		
		3rd Year	01/24/13	02/05/13	0.43	1.47	
			03/10/13	03/19/13	0.33		
			05/15/13	06/04/13	0.70		
		4th Year	08/08/13	08/30/13	0.77	3.40	
			09/22/13	10/11/13	0.67		
			11/18/13	12/11/13	0.80		
			01/22/14	02/14/14	0.80		
						05/15/14	05/25/14
				<b>Total</b>	<b>5.87</b>	<b>5.87</b>	
Mr. Eishi Yasunaga	Data Analysis	2nd Year	10/23/11	11/02/11	0.37	0.60	
			03/07/12	03/13/12	0.23		
		3rd Year	07/14/12	07/25/12	0.40	1.90	
			08/07/12	08/18/12	0.40		
			09/16/12	09/22/12	0.23		
			10/20/12	10/25/12	0.20		
			11/11/12	11/18/12	0.27		
			03/12/13	03/16/13	0.17		
		4th Year	04/04/13	04/10/13	0.23	0.33	
			09/03/14	09/12/14	0.33		
				<b>Total</b>	<b>2.83</b>	<b>2.83</b>	
Mr. Jun Konishi	Mapping	2nd Year	08/02/11	08/26/11	0.83	1.90	
			02/01/12	03/03/12	1.07		
		3rd Year	08/19/12	08/26/12	0.27	0.27	
			11/14/13	11/26/13	0.43		
			02/13/14	03/15/14	1.03		
4th Year	08/27/14	09/09/14	0.47	1.93			
					<b>Total</b>	<b>4.10</b>	<b>4.10</b>
Mr. Akihito Yamauchi	Data Processing/Scrutiny/Data Analysis/Small Area Statistics	2nd Year	08/21/11	09/18/11	0.97	4.10	
			10/23/11	11/05/11	0.47		
			11/20/11	12/09/11	0.67		
			01/23/12	02/17/12	0.87		
			03/04/12	04/06/12	1.13		
		3rd Year	06/03/12	07/04/12	1.07	4.47	
			08/12/12	09/15/12	1.17		
			10/17/12	11/10/12	0.83		
			12/02/12	12/22/12	0.70		
			03/10/13	03/16/13	0.23		
			05/19/13	06/01/13	0.47		
		4th Year	08/11/13	09/07/13	0.93	6.90	
			10/06/13	11/02/13	0.93		
			11/24/13	12/21/13	0.93		
			02/02/14	03/15/14	1.40		
			05/18/14	06/14/14	0.93		
			07/06/14	07/30/14	0.83		
				08/17/14	09/13/14	0.93	
				<b>Total</b>	<b>15.47</b>	<b>15.47</b>	

ANNEX 4-3

Mr. Hisatsugu Furukawa	Data Analysis	2nd Year	10/23/11	11/03/11	0.40	0.40
		3rd Year	07/09/12	07/21/12	0.43	2.77
			08/12/12	08/25/12	0.47	
			09/17/12	09/22/12	0.20	
			10/26/12	11/17/12	0.77	
			12/15/12	12/27/12	0.43	
			01/06/13	01/13/13	0.27	
		4th Year	03/12/13	03/17/13	0.20	1.70
			10/23/13	11/02/13	0.37	
			06/04/14	06/19/14	0.53	
		08/24/14	09/16/14	0.80		
		<b>Total</b>		<b>4.87</b>	<b>4.87</b>	
Mr. Kou Sakano	Data Analysis	2nd Year	10/23/11	11/03/11	0.40	0.63
		3rd Year	02/19/12	02/25/12	0.23	1.93
			07/09/12	07/20/12	0.40	
			08/13/12	08/24/12	0.40	
			09/17/12	09/22/12	0.20	
			10/21/12	10/26/12	0.20	
			11/14/12	11/25/12	0.40	
		4th Year	01/21/13	01/30/13	0.33	1.10
			10/24/13	11/03/13	0.37	
			06/03/14	06/10/14	0.27	
		08/31/14	09/13/14	0.47		
		<b>Total</b>		<b>3.67</b>	<b>3.67</b>	
Mr. Kazuhiro Fukuyo	Data Analysis	4th Year	08/08/13	08/16/13	0.30	0.63
			08/31/14	09/09/14	0.33	
		<b>Total</b>		<b>0.63</b>	<b>0.63</b>	
Ms. Mariko Murata	Data Processing/Scrutiny	3rd Year	07/15/12	08/11/12	0.93	2.00
			10/23/12	11/09/12	0.60	
			12/23/12	01/05/13	0.47	
		4th Year	06/08/14	07/06/14	0.97	0.97
		<b>Total</b>		<b>2.97</b>	<b>2.97</b>	
Ms. Tomoko Saito	Mapping	3rd Year	08/19/12	08/25/12	0.23	0.23
		4th Year	02/23/14	03/15/14	0.70	0.70
				<b>Total</b>		<b>0.93</b>
Mr. Joji Sawada	Census/Survey Planning/Small Area Statistics	3rd Year	07/01/12	07/28/12	0.93	4.60
			08/19/12	09/22/12	1.17	
			10/28/12	11/24/12	0.93	
			12/09/12	12/27/12	0.63	
		4th Year	01/20/13	02/16/13	0.93	3.73
			08/08/13	08/31/13	0.80	
			11/10/13	12/07/13	0.93	
			01/26/14	02/26/14	1.07	
		08/17/14	09/13/14	0.93		
		<b>Total</b>		<b>8.33</b>	<b>8.33</b>	
Mr. Yoichi Nakamura	Data Analysis	3rd Year	02/17/13	03/17/13	0.97	0.97
				<b>Total</b>		<b>0.97</b>
Ms. Yasuko Hayase	Data Analysis	4th Year	01/29/14	03/28/14	1.97	1.97
				<b>Total</b>		<b>1.97</b>
<b>Grand Total</b>					<b>115.79</b>	<b>115.79</b>

B ar

ANNEX 4-4

## ANNEX 5: List of Counterpart Personnel (C/P) 2011 Economic Census of Cambodia (EC2011)

No.	Name	Title	Organization
1	H.E. Mr. San Sy Than	Former Director General	NIS
2	H.E. Hang Lina	Director General of Economic Census (DGEC)	NIS
3	Mr. Vy Heang	Director of Administration	NIS
4	Mr. Lim Penh	Director of Finance and logistics	NIS
5	Mr. Chhuon Sothy	Director of Finance and logistics	NIS
6	Mr. Hor Darith	DDG of Budget Planning, Mapping &	NIS
7	Mr. Seng Soeun	DDG of Publicity Campaign sector	NIS
8	Mr. Khin Sovorlak	DDG of Planning, Sampling, Tabulation sector and Analysis & releasing sector	NIS
9	Mr. Mich Kanthul	DD of Economic Statistics (Secretary CTC, Planning and Implementation sector)	NIS
10	Mr. Mich Kanthul	DD, Economic Statistics, Chief Planning and Implementation Sector	NIS
11	Mr. So Tonere	DDD, Economic Statistics, Vice Chief Planning and Implementation Sector	NIS
12	Mr. Sin Serey Vuth,	DDD, Demog. Stat., Census, Chief of Census Mapping Sector	NIS
13	Mr. Nan Sothara	DDD, Demog. Stat., Census, V-chief of Census Mapping Sector	NIS
14	Mr. Nith Sarun	BC, Sampling, Demog. Stat., Census	NIS
15	Mr. Som Bony	DDD, Stat. Standards & Analysis	NIS
16	Mr. So Tonere	DDD, Economic Statistics, Analysis and Releasing	NIS
17	Mr. Teav Rongsa	DDD, Stat. Stand. & Analysis, Tabulation Sector/ Receipt and Manual Editing /Coding	NIS
18	Mr. So Tonere	DDD, Economic Statistics, Tabulation Sector/ Receipt and Manual Editing /Coding	NIS
19	Mr. Teav Rongsa	DDD, Stat. Stand. & Analysis, Tabulation Sector/ Receipt and Manual Editing /Coding	NIS
20	Mr. Saint Lundy	DD, ICT, Tabulation Sector/ Data Entry, Computer Editing and Tabulation	NIS
21	Mr. Chhun Bonarith	DDD, ICT, Tabulation Sector/ Data Entry, Computer Editing and Tabulation	NIS
22	Mr. Sam Sok Sotheavuth	DDD, ICT, Tabulation Sector/ Data Entry, Computer Editing and Tabulation	NIS
23	Mr. Chao Pheav	DDD, ICT, Tabulation Sector/ Data Entry, Computer Editing and Tabulation	NIS
24	Mr. Lay Sophat	DDD, ICT, Tabulation Sector/ Data Entry, Computer Editing and Tabulation	NIS

-Number of Regional Officers (ROs) and Assistant Regional Officers (AROs) 96

-Number of Provincial Officers (PDP) 60

ANNEX5-1



### Cambodia Inter-censal Population Survey 2013 (CIPS 2013)

No.	Name	Title	Organization
1	H.E. Mr. San Sy Than	Former Director General	NIS
2	H.E. Hang Lina	Director General of CIPS 2013	NIS
3	Mr. Chhuon Sothy	Director of Administration	NIS
4	Mr. Lim Penh	Director of Finance and logistics	NIS
5	Mr. Try Meng Seang	Deputy Director of Administration	NIS
6	H.E. Mr. Seng Soeurn	Survey Coordinator	NIS
7	Mr. Meng Kimhor	Survey Coordinator	NIS
8	Mr. Sou Kimprethy	Survey Coordinator	NIS
9	Mr. Long Lok	Survey Coordinator	NIS
10	Mr. They Kheam	Survey Coordinator	NIS
11	Mr. Chhay Satia	Survey Coordinator	NIS
12	Mr. Try Meng Seang	DDD, Demog.Stat.,Census, Team Leader of	NIS
13	Mr. Seang Rith	Member of Administration Section	NIS
14	Ms. Srun Sokaun	Member of Administration Section	NIS
15	Mr. Vong Vuthy	Member of Administration Section	NIS
16	Ms. Khoun Chanavy	Member of Administration Section	NIS
17	H.E. Mr. Seng Soeurn	DDG, Team leader of Planning and Monitoring Sector	NIS
18	Mr. They Kheam	Director of Census and Survey Department, Planning and Monitoring Sector	NIS
19	Mr. Chhuon Sothy	Director of Administration of Planning and Monitoring	NIS
20	Mr. Yem Suong	Advisor to MoP, Planning and Monitoring Sector	NIS
21	Mr. Sin SereyVuth,	DDD, Demog.Stat.,Census, Team Leader of Cartography/Mapping Sector	NIS
22	Mr. Chan Nipol	DDD, Demog. Stat.,Census, Cartography/Mapping	NIS
23	Mr. Pen Socheat	DDD, Demog. Stat.,Census, Cartography/Mapping	NIS
24	Mr. Kem Sidony	Member of Cartography/Mapping Sector	NIS
25	Mr. Seang Rith	Member of Cartography/Mapping Sector	NIS
26	Mr. Vong Vuthy	Member of Cartography/Mapping Sector	NIS
27	Mr. Mao Saran	Member of Cartography/Mapping Sector	NIS
28	Mr. Sok Kosal	Sampling Sector	NIS
29	Mr. Meng Kimhor	Sampling Sector	NIS
30	Mr. They Kheam	Sampling Sector	NIS
31	Mr. Sok Kosal	DDG, Team Leader of Researching and Analysis Sector	NIS
32	Mr. Yem Suong	Advisor to MoP, Researching and Analysis Sector	NIS
33	Mr. Try Meng Seang	DDD, Demog.Stat.,Census, Researching and Analysis	NIS
34	Ms. Meas Raftimony	Member of Researching and Analysis Sector	NIS
35	Ms. Soam Somalin	Member of Researching and Analysis Sector	NIS
36	Mr. Mey Sok Seyha	Member of Researching and Analysis Sector	NIS
37	Mr. Nget Kitya	Member of Researching and Analysis Sector	NIS
38	Mr. Chheng Techchhe	Member of Researching and Analysis Sector	NIS
39	Mr. Meng Kimhor	DDG, Team Leader of Data Processing Sector	NIS
40	Mr. Saint Lundy	Director of ICT, Data Processing Sector	NIS
41	Mr. Lay Sophat	Deputy Director of ICT, Data Processing Sector	NIS
42	Mr. Chao Pheav	Deputy Director of ICT, Data Processing Sector	NIS
43	Mr. Bouy Somethea	Deputy Director of ICT, Data Processing Sector	NIS
44	Mr. Chea Kong	Data Processing Sector	NIS
45	Mr. Nou Chanra	Data Processing Sector	NIS
46	Ms. Vat Nearyratana	Data Processing Sector	NIS
47	Ms. Srun Sokaun	Data Processing Sector	NIS
48	Ms. Meas Linmoniroth	Data Processing Sector	NIS
49	H.E. Mr. Khieu Sary	DDG, Team Leader of Manual Editing and Coding	NIS

50	H.E. Mr. Vy Heang	Advisor to MoP, Vice leader of Manual Editing and Coding Sector	NIS
51	Mr. Yem Suong	Advisor to MoP, Manual Editing and Coding Sector	NIS
52	Mr. They Kheam	Chief of Editing Team	NIS
53	Mr. Sin Sereivuth	Chief of Coding Team	NIS
54	Mr. Try Meng Seang	Member of Manual Editing and Coding Sector	NIS
55	Mr. Kim Net	Member of Manual Editing and Coding Sector	NIS
56	Mrs. Meas Sambath	Member of Manual Editing and Coding Sector	NIS
57	Mr. Chour Polin	Member of Manual Editing and Coding Sector	NIS

-Number of Regional Officers (ROs) and Assistant Regional Officers (AROs) 110

-Number of Provincial Officers (PDP) 74

*By or*

ANNEX5-3

### Cambodia Inter-censal Economic Survey 2014 (CIES 2014)

No.	Name	Title	Organization
1	H.E. Han Lina	Director General of CIES 2013	NIS
2	Mr. Chhuon Sothy	Director of Administration	NIS
3	Mr. Lim Penh	Director of Finance and logistics	NIS
4	Mr. Khin Sovorlak	DDG, Senior Commanding Officer	NIS
5	Mr. Chhay Satia	DDG, Senior Commanding Officer	NIS
6	Mr. Mich Kanthul	Director of Economic Statistics Dept., Senior Commanding Officer	NIS
7	Mr. Lim Penh	Director of Statistical Analysis Dept., Senior Commanding Officer	NIS
8	Mr. So Tonnere	Deputy Director of Economic Statistics Dept., Senior Commanding Officer	NIS
9	Mr. Sin Sereivuth	Deputy Director of Census and Survey Dept., Senior Commanding Officer	NIS
10	Mr. Kim Net	Deputy Director of Social Statistics Dept., Senior Commanding Officer	NIS
11	Mr. Khin Sovorlak	DDG, budget planing, mapping and implementation	NIS
12	Mr. Chhay Satia	DDG, planning and implementation sector	NIS
13	Mr. Mich Kanthul	Director of Economic Statistics Dept., Secretary CTC, Planning and Implementation Sector	NIS
14	Mr. Mich Kanthul	Director of Economic Statistics Dept., Chief of Planning and Implementation Sector	NIS
15	Mr. So Tonnere	Deputy Director of Economic Statistics Dept., Vice-Chief of Planning and Implementation Sector	NIS
16	Mr. Sin Sereyvuth,	DDD, Demog. Stat., Census, Chief of Cartography/Mapping Sector	NIS
17	Mr. So Tonnere	Deputy Director of Economic Statistics Dept., Vice-Chief of Cartography/Mapping Sector	NIS
18	Mr. Kim Net	Deputy Director of Social Statistics Dept., Vice-Chief of Cartography/Mapping Sector	NIS
19	Mr. Khin Sovorlak	DDG, Chief of Sampling	NIS
20	Mr. Som Bony	DDD, Statistical Analysis Dept., Sampling	NIS
21	Mr. Nith Sarun	Bureau Chief of Census & Survey Dept., Sampling	NIS
22	Mr. So Tonnere	DDD, Economic Statistics Dept., Researching and	NIS
23	Mr. So Tonnere	DDD, Economic Statistics Dept., Tabulation Sector/Receipt & Manual Editing/Coding	NIS
24	Mr. Saint Lundy	Director of ICT, Tabulation Sector/Data Entry Computer Editing & Tabulation	NIS
25	Mr. Lay Sophat	Deputy Director of ICT, Tabulation Sector/Data Entry Computer Editing & Tabulation	NIS
26	Mr. Chao Pheav	Deputy Director of ICT, Tabulation Sector/Data Entry Computer Editing & Tabulation	NIS
27	Mr. Bouy Sometha	Deputy Director of ICT, Data Processing Sector	NIS

-Number of Regional Officers (ROs) and Assistant Regional Officers (AROs) 108

-Number of Provincial Officers (PDP) 74

ANNEX5-4

## Small Areas Statistics

No.	Name	Title	Organization
1	H.E. Mr. San Sy Than	Former Director General	NIS
2	H.E. Hang Lina	Director General	NIS
3	Mr. Hor Darith	Former Senior Commanding Officer	NIS
4	Mr. Kim Net	SCO	NIS
5	Mr. Sin Sereivuth	SCO	NIS
6	Mr. Chhun Bonarith	Former SCO	NIS
7	Mr. Oukchay Panhara	Former SCO	NIS
8	Mr. Bouy Somethear	Former SCO	NIS
9	Mr. Chhay Satia	SCO	NIS
10	Mr. Lay Sophat	SCO	NIS
11	Ms. Hang Phally	SCO	NIS
12	Mr. Khuom Sithana	SCO	NIS

- Number of Regional Officers (ROs) and Assistant Regional Officers (AROs) 120
- Number of Provincial Officers (PDP) 96

## ANNEX 6: List of Provided Machinery and Equipment

### List of Equipment for 6 PDPs (FY2011 Procurement purchased by the Government Team)

Year	No	Name of Item	Maker/Model	User (Location)	Quantity	Unit Price (US\$)	Total Price (US\$)
FY2011	1	Desktop PC	Dell Optiplex 380n MT	2 units of each item are being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kandal, Takeo, Preah Sihanouk, Kampong Cham, Siem Reap and Battambang (12 units in total).	12	572	6,864
FY2011	2	Microsoft License	Window-7		12	161	1,932
FY2011	3	Microsoft License	Office Pro 2010		12	349	4,188
FY2011	4	Internet Security	Internet Security		12	15	180
FY2011	5	Printer	HP Color Laserjet CP2025dn Printer	1 unit is being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kandal, Takeo, Preah Sihanouk, Kampong Cham, Siem Reap and Battambang (6 units in total). Rest of 6 units are being used in NIS central office.	12	866	10,392
FY2011	6	External Hard Disk	500GB	1 unit is being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kandal, Takeo, Preah Sihanouk, Kampong Cham, Siem Reap and Battambang (6 units in total).	6	72	432
FY2011	7	Flash Drive	Transcend Jet Flash, 4GB	2 units are being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kandal, Takeo, Preah Sihanouk, Kampong Cham, Siem Reap and Battambang (12 units in total).	12	8	96
FY2011	8	Copier	Toshiba copy machine	1 unit of each item is being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kandal, Takeo, Preah Sihanouk, Kampong Cham, Siem Reap and Battambang (6 units in total).	6	970	5,820
FY2011	9	Projector	LCD Projector		6	927	5,562
FY2011	10	Screen	2.13m x 2.13m Movable		6	135	810
FY2011	11	Pointer	2.4Ghz Wireless Pointer		6	47	282
FY2011	12	UPS	Power Tru 650VA UPS	2 units of each item are being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kandal, Takeo, Preah Sihanouk, Kampong Cham, Siem Reap and Battambang (12 units in total).	12	32	384
FY2011	13	Acrobat	Acrobat Professional 10 Win IEA00 License with DVD Set	2 units of each item are being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kandal, Takeo, Preah Sihanouk, Kampong Cham, Siem Reap and Battambang (12 units in total).	12	449	5,388
FY2011	14	Acrobat	Acrobat Professional DVD Set		12	44	528
FY2011	15	Scanner	HP scan Jet Photo scanner	1 unit is being used at SAS central office in NIS	1	174	174
FY2011	16	USB Modem	Metfone USB Internet Modem	2 units of each item are being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kandal, Takeo, Preah Sihanouk, Kampong Cham, Siem Reap and Battambang (12 units in total).	12	35	420
FY2011	17	Table	DE 48+G	2 units of each item are being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kandal, Takeo, Preah Sihanouk, Kampong Cham, Siem Reap and Battambang (12 units in total).	12	149	1,788
FY2011	18	Chair	SG138		12	45	540
FY2011	19	Whiteboard	1.2m x 2m, Movable	1 unit is being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kandal, Takeo, Preah Sihanouk, Kampong Cham, Siem Reap and Battambang (6 units in total).	6	70	420
						<b>Total Price</b>	<b>46,200</b>

**List of Equipment for 9 PDPs (FY2011 Procurement purchased by the Non Governmental**

Year	No	Name of Item	Maker/Model	User (Location)	Quantity	Unit Price (US\$)	Total Price (US\$)
FY2011	1	Desktop PC	Dell Optiplex 790 MT	2 units of each item are being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kampong Chhnang, Pursat, Pailin, Banteay Meanchey, Kampong Thom, Kratie, Mondulakiri, Kep & Koh Kong (18 units in total).	18	616	11,088
FY2011	2	Microsoft License	Window-7		18	154	2,772
FY2011	3	Microsoft License	Office Pro 2010		18	344	6,192
FY2011	4	Internet Security	Internet Security		18	11	198
FY2011	5	Printer	HP Color Laserjet CP2025dn Printer	1 unit of each item is being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kampong Chhnang, Pursat, Pailin, Banteay Meanchey, Kampong Thom, Kratie, Mondulakiri, Kep & Koh Kong (9 units in total).	9	935	8,415
FY2011	6	External Hard Disk	500GB	9	100	900	
FY2011	7	Flash Drive	Transcend Jet Flash, 4GB	2 units of each item are being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kampong Chhnang, Pursat, Pailin, Banteay Meanchey, Kampong Thom, Kratie, Mondulakiri, Kep & Koh Kong (18 units in total).	18	11	198
FY2011	8	Copier	Toshiba copy machine	1 unit of each item is being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kampong Chhnang, Pursat, Pailin, Banteay Meanchey, Kampong Thom, Kratie, Mondulakiri, Kep & Koh Kong (9 units in total).	9	1,610	14,490
FY2011	9	Projector	LCD Projector		9	920	8,280
FY2011	10	Screen	2.13m x 2.13m Movable		9	145	1,305
FY2011	11	Pointer	2.4Ghz Wireless Pointer		9	47	423
FY2011	12	UPS	Power Tru 650VA UPS		18	35	630
FY2011	13	Acrobat	Acrobat Professional 10 Win IEA00 License with DVD Set	2 units of each item are being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kampong Chhnang, Pursat, Pailin, Banteay Meanchey, Kampong Thom, Kratie, Mondulakiri, Kep & Koh Kong (18 units in total).	18	492	8,856
FY2011	14	USB Modem	Metfone USB Internet Modem		18	35	630
FY2011	15	Table	OD-IC, Size: 700 x 1200 x 750mm		18	135	2,430
FY2011	16	Chair	K338 Size: 590 x 920mm		18	45	810
FY2011	17	Whiteboard	1.2m x 2m, Movable	1 unit of each item is being used in each Statistics Office of Provincial Department of Planning in the province, such as Kampong Chhnang, Pursat, Pailin, Banteay Meanchey, Kampong Thom, Kratie, Mondulakiri, Kep & Koh Kong (9 units in total).	9	65	585
FY2011	18	Tonner	Set for Printer (CP2025dn)	9	450	4,050	
FY2011	19	Tonner	Set for Copier (Toshiba T1810D)	9	90	810	
<b>Total Price</b>							<b>73,062</b>

### List of Equipment for 5 PDPs (FY 2013)

No	Name of Item	Maker/Model	User (Location)	Quantity	Unit Price (US\$)	Total Price (US\$)
1	Desktop PC	Dell Optiplex 790MT Core i3-2120/3.30GMz/2GB	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	10	612	6,120
2	Microsoft License	Window 7 Professional SPI 64bits English	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	10	154	1,540
3	Microsoft License	Microsoft Office 2010 Professional English Attached Key PKC Micro Case	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	10	370	3,700
4	Anti-virus License	Internet Security kapersky with CD, pre-installed	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	10	13	130
5	Acrobat	Acrobat Professional 10 with IEA00 with win IEA00 DVD Set	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	10	495	4,950
6	Photo Copier	Fuji Xerox S1810 monochrome, Speed: 18ppm A4, Resolution: 600 x 600i	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	5	1,605	8,025
7	White Screen	Size: 2.13m x 2.13m, Movable	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	5	155	775
8	Flash drive	USB Memory Adata Flash drive, Capacity:4GB	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	10	12	120
9	External Hard Disk	Capacity: 500GB Interface, Interfaces: USB2.0, Transfer rates up to 480Mb/s	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	5	100	500
10	Laser Printer	HP Pro 400 M451dn	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	5	915	4,575
11	UPS	Input voltage: 220-240V, Power tree 650VA,	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	10	35	350
12	LCD Projector	Input voltage: 220-240V, Store Power: Max 15 min, 2 outputs port	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	5	915	4,575
13	Pointer	Imation wireless laser WLP1000	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	5	40	200
14	USB Modem	3G USB Modem HSUPA/UMTS 2100Hz	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	10	30	300
15	Office desk	OD-DIA 700x1200x750mm	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	10	135	1,350
16	Chair	K338 590x920mm Movable	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	10	50	500
17	White Board	1.2 x 2 m, Movable	PDPs: Phnom Penh, Preah Vihear, Kampong Speu, Svay Rieng, Otdar Meanchey	5	70	350
					<b>Total Price</b>	<b>38,060</b>

**List of Equipment for 4 PDPs (FY2014)**

No	Name of Item	Maker/Model	User (Location)	Quantity	Unit Price (US\$)	Total Price (US\$)
1	Desktop PC	Dell Optiplex 7010MT	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	8	648	5,184
2	Microsoft License	Window 7 Professional (64bits) English, DVD	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	8	170	1,360
3	Microsoft License	Microsoft Office 2013 Professional DVD	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	8	365	2,920
4	Anti-virus License	Internet Security Tranmacro	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	8	13	104
5	Acrobat	Acrobat Professional 11 with IEA00 DVD	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	8	498	3,984
6	Copier	Fuji Xerox S1810, monochrome, Speed: 18ppm A4, Resolution: 600 x 6001	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	4	1,650	6,600
7	Toner set for copier	Fuji Xerox S1810, monochrome	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	4	74	296
8	LCD Screen	2.13 x 2.13m Movable	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	4	155	620
9	Flash drive	Capacity: 4GB, Interface USB 2.0	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	8	10	80
10	External Hard Disk	Capacity: 500GB Interfaces: USB 2.0	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	4	100	400
11	Printer	HP Laser-jet Pro 400 451dn, Speed: 21 ppm color, black & white,	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	4	1,205	4,820
12	UPS	Trupower TP300P Input & output voltage: 220-240VAC Capacity:650VA	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	8	37	296
13	LCD Projector	EPSON EBS10, Brightness: 2600ANSI	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	4	930	3,720
14	Pointer	Logitech r400 2.4 GHz wireless	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	4	45	180
15	USB Modem	3G USB Modem	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	8	27	216
16	Office desk	ODD-1A 700x1200x750mm, Synthetic Wood with metal	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	8	185	1,480
17	Chair	K338 590x920mm Movable	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	8	70	560
18	White Board	1.2 x 2 m, Movable	PDPs: Prey Veng, Ratanak Kiri, Stung Treng Kampot	4	70	280
					<b>Total Price</b>	<b>33,100</b>



## ANNEX 7: List of Training in Japan and Technical Exchange in the Third Countries

Period/duration	Program	Country	Participants
January 2011 3 weeks	Survey planning for the Inter-Censal Population Survey	Japan	1. Ms. Som Somalin 2. Mr. Moeung Kongkea 3. Mr. Nou chanra
January 2012 3 weeks	Data processing for the Inter-Censal Population Survey	Japan	1. Mr. Saint Lundy 2. Mr. Lay Sophat 3. Mr. Lim Penh
January 2013 3 weeks	Survey planning for the 2014 Cambodia Inter-Censal Economic Survey	Japan	1. Mr. Ouk Chay Panhara 2. Mr. Kim net 3. Mr. Chao Pheav
January 2014 3 weeks	Data Processing for the 2014 Cambodia Inter-Censal Economic Survey	Japan	1. Mr. Hor Darith 2. Mr. Meng Kimhor 3. Mr. Chhay Satia
September 2011 5 days	Technical exchange with the Statistics Indonesia on small area Statistics	Indonesia	1. Mr. Lim Penh 2. Mr. Kim Net 3. Mr. So Tennere
May 2011 5 days	Technical exchange with Sri Lankan Dept. of Census and Statistics on population census and economic census	Sri Lanka	1. Mr. Kim net 2. Mr. So Tennere 3. Mr. Chao Pheav
November 2012 5 days	Technical exchange with Lao Statistics Bureau on Population census and economic census	Lao PDR	1. Mr. Hor Darith 2. Mr. Khin Sovorlak 3. Mr. Kim net
May 2013 5 days	Technical exchange with Central Statistical Organization (CSO) on population census, economic census, and small area statistics	Myanmar	1. Mr. Hor Darith 2. Mr. Chhay Satia 3. Mr. Kim net
May 2014 5 days	Technical exchange with Central Statistics Bureau (CBS) on population census, economic census, and small area statistics	Nepal	1. Mr. Meng Kimhor 2. Mr. Khin Sovorlak 3. Mr. So Tonnere

## ANNEX 8: List of Publications

[FY 2010]

<2009 nation-wide Establishment Listing>

- Statistical map: 33 sheets
- Nation-wide Establishment Listing of Cambodia 2009 Statistics Atlas
- 

<EC 2011 Pilot Survey>

- Preliminary Results of Pilot Survey of 2011 Economic Census of Cambodia

[FY 2011]

<EC 2011>

- Statistical map: 20 sheets
- Index map: 54 sheets
- Revised boundary map: 4 sheets
- Preliminary Results of the 2011 Economic Census of Cambodia
- Preliminary Results of the 2011 Economic Census of Cambodia Statistics Atlas
- Preliminary Results of the 2011 Economic Census of Cambodia (No.2)
- Economic Census of Cambodia 2011, National Report on Final Census Results
- Economic Census of Cambodia, District and Commune Report on Final Census Results

<SAS: Small Area Statistics>

- Small Area Statistics Reports (6 provinces)

[FY 2012]

<EC 2011>

- Economic Census of Cambodia 2011, Census Atlas
- Use of Directory of Establishments
- Organization and Administration of the Economic Census
- National Profile of Statistical Tables (3 volumes)

ANNEX 8-1

- Village Profiles of Statistical Tables (2 volumes)
- Provincial Profiles of Statistical Tables (2 volumes)
- Provincial Reports (24 volumes)
- Report on Post Enumeration Survey
- Analytical Reports for 11 themes (11 volumes)

<SAS: Small Area Statistics>

- Small Area Statistics Reports (9 provinces)

[FY 2013]

<CIPS 2013>

- Cambodia Inter-Censal Population Survey 2013, Provisional Report
- Cambodia Inter-Censal Population Survey 2013, Final Report
- Cambodia Inter-Censal Population Survey 2013, No.7, Literacy and Educational Attainment
- Cambodia Inter-Censal Population Survey 2013, No.8, Economic Activity and Employment
- Cambodia Inter-Censal Population Survey 2013, No.9, Housing and Household Amenities
- Cambodia Inter-Censal Population Survey 2013, No.10, Family and Household
- Cambodia Inter-Censal Population Survey 2013, National Profile
- Cambodia Inter-Censal Population Survey 2013, Statistical Atlas

<SAS: Small Area Statistics>

- Small Area Statistics Reports (5 provinces)

## ANNEX 9: List of Manuals and Documents

[FY 2010]

<EC 2011>

- Supervisor's Manual
- Enumerator's Manual
- Duties of Census Officials Engaged in the Local Organization
- Supplementary Explanations and Questions & Answers
- Manual Editing and Coding Manual (draft)
- Editing Rules for Data Entry and Computer Editing (draft)

[FY 2011]

<EC 2011>

- Enumerator's Manual for Post Enumeration Survey of EC 2011
- Supervisor's Manual for Post Enumeration Survey of EC 201
- Duties of SCO and DPDP
- Editing and Coding Manual
- Manual on Data Entry System
- Report on Local Activities in the 2011 Economic Census
- Post Enumeration Survey of EC 2011
- Editing Rules for Data Cleaning
- Sample of Provincial Report (Phnom Penh)

<SAS>

- SAS Work Plan
- Basic Document for Producing Small Area Statistics in Provinces
- SAS Subproject for Improvement of Statistical Technology in Provincial Departments of Planning
- Sample Report of SAS: Population, Households, and Establishments in Banteay Meanchey Province
- Presentation Materials: Outline of SAS Subproject, Points of Analytical Report and Points of Compilation of Report

[FY 2012]

<EC 2011>

- Handbook on Implementation of Data Analysis
- Handbook on Financial Ratios on Data Analysis
- Duties of RO and ARO
- Work Schedule for Compiling Provincial Reports, Provincial Profiles and Village Indicators

<CIPS 2013>

- Manual on Mapping Work

<SAS>

- SAS Work Plan
- Basic Document for Producing Small Area Statistics in Provinces
- Presentation Materials: Outline of SAS Subproject, Points of Analytical Report and Points of Compilation of Report

[FY 2013]

<CIPS 2013>

- Cambodia Inter-Censal Population Survey 2013, Report on Local Activities

<CIES 2014>

- Cambodia Inter-Censal Economic Survey 2014, Enumerator's Manual
- Cambodia Inter-Censal Economic Survey 2014, Supervisor's Manual
- Cambodia Inter-Censal Economic Survey 2014, Manual on Data Entry
- Cambodia Inter-Censal Economic Survey 2014, Manual on Editing and Coding
- Cambodia Inter-Censal Economic Survey 2014, Manual on CSIC Dictionary System
- Cambodia Inter-Censal Economic Survey 2014, Duties of RO/ARO, and DPDP
- Cambodia Inter-Censal Economic Survey 2014, Manual on Mapping Work

ANNEX 9-2

### 3. 政府統計団員所見

#### 政府統計団員所見

2014年9月25日

総務省統計局

金室 貴子

カンボジア政府統計能力向上計画フェーズ3の終了時評価調査団に政府統計専門家として参加した経験だけでなく、フェーズ1（研修計画）、フェーズ2（プログラミング）でも直営専門家として派遣された経験を踏まえて考察した内容を中心に報告する。

#### 1 統計プロジェクトにおける技術協力の特徴

カンボジア政府統計能力向上計画は、2005年8月にフェーズ1を開始してから、フェーズ3の終了する2015年3月（延長しない場合）まで、約10年にわたり実施され、成功裏に終了しようとしている。

これは、「統計」の特性を生かしたプロジェクト運営が行われた結果であると考えられる。「統計」の作成には、調査の企画・設計、実査、調査票の審査・集計、結果の分析、結果の公表などの段階があり、必要とされる知識・技術はそれぞれ異なる。また、基本的な考え方は共通するものの、調査の対象が世帯の場合（人口調査）と、事業所の場合（経済調査）でも、専門性には違いがある。本プロジェクトが成功している要因として、以下の3点が挙げられる。

- ① 成果物（調査票、マニュアル、プログラム、統計表、分析レポート等）が、調査の段階ごとに産出される。

統計調査の段階ごとに、技術協力の成果が成果物として確認できるため、C/P側では専門家への信頼が増加し、専門家側ではC/P側の技術レベルを確認して次の対応が考えられる、という好循環を生じる。

- ② 専門家は直営専門家と民間コンサルタントで構成されており、C/P側が必要とする専門分野ごとの人材を調達することが可能である。

統計調査の段階ごとに、C/P側はその分野の専門家から高い知識・技術を学ぶことができる。専門家側は本人の専門分野の知識・技術を教授すればよく、専門分野以外は他の専門家に任せることが可能である。専門家としては、統計のひとつの分野の専門知識があればよいため、若手からベテランまで専門家の人選が容易となる。

- ③ 専門家を短期のシャトル型で派遣することで、先方のニーズに対応した柔軟かつ効率的な派遣が可能である。

長期専門家の方が、C/P側との協力関係の樹立が容易な状況が考えられるが、「統計」全体について教授可能な専門家は限られ、人選が難しい。「統計」は、常に変化する調査環境や調査結果へのニーズに対応する必要があるため、短期専門家の方が、必要な知識・技術を得やすい状況もある。また、専門性や英語力は十分であっても、

技術協力に向かない人材は存在する。不幸にも、この人材のミスマッチが判明した場合に、負の影響を最小限に抑えることも可能である。

## 2 NISの「統計」能力

本プロジェクトの特徴として、実際に技術指導を受けるNIS職員が、プロジェクト開始当初からほとんど替わっていないことがある。

「統計」の作成には、知識として学習可能な部分と現場で体験して覚えざるを得ない部分がある。後者は主に実査であるが、NIS職員はセンサスなどの調査を経験し、既に必要な知識・技術を十分に有していると認められる。また、人口調査に関しては、分析等を含めた「統計」作成に必要な知識・技術を十分に習得していると認められる。

今回、経済調査に関する審査・分析能力は十分でないと評価したが、基礎的な能力は既に有していると認められる。経済調査の審査・分析能力には、必要な知識・技術が多いため、教えられるだけでなく、自助努力も重要である。初めての経済センサスでは、参考となる資料・データが存在しないため、審査・分析は困難を極めることになるが、それ以降の調査は、経済センサスの事例を参考とすることが可能である。

NIS職員の技術力を考えれば、専門家から十分に技術指導されたNIS職員が、その下の世代を育てる段階に来ていると考えられる。NIS職員と話すときさまざまな問題意識をもっていることは分かるが、その問題を解決すべく行動はしていない。特に、知識・技術の伝達をJICAの専門家に頼るのではなく、NISが自立するため、組織として次世代を育成するシステムを確立することが重要である。金銭的な自立はまだ難しいかもしれないが、技術的な自立を促すため、技術協力の終了は良い機会である。

余談であるが、今回、NISとミニッツに関する協議を行う際、予定時間よりも早く始まったことがあった。時間にルーズになりがちなこの国で、時間管理能力にも日本の技術協力の影響が現れたようである。

## 3 最後に

9月6日付の朝日新聞に「ベトナムの母子手帳に広告 JICA、事業予算不足で」という見出しを見つけた。内容は、ベトナム母子健康手帳全国展開プロジェクトで、母子手帳を全国展開するための予算を捻出するため、母子手帳に広告を載せることにし、味の素などがそれに応じたというものであった。

政府統計である以上、調査票等の調査用品に広告を載せることのメリット・デメリットを慎重に検討する必要があることはいうまでもない。しかし、不足する調査費用を、他国に援助を求めるだけでなく、国内企業から直接調達するという発想があってもいいのかもしれない。人口センサスの際に、調査への協力依頼文書に広告を入れて配布するとすれば、国内の全世帯への配布が可能なのだから。

## 4. 団長所感

### 団長所感

#### (1) カンボジア計画省統計局の統計調査実施能力

カンボジア計画省統計局（NIS）は、2005年のJICAプロジェクト開始以降、JICAをはじめとする各ドナーの協力により、2008年人口センサス（内戦終結後2回目）、2011年経済センサス（独立後初）、2013年中間年人口調査の計画、調査実施、集計・結果表作成、結果分析、公表を成功裏に実施し、2014年中間年経済調査については、計画、調査実施、集計・結果表作成の一部を終了し、本調査期間中の9月8日に速報結果公表式典が開催された。同式典には調査団も出席し、その後の計画大臣表敬では公表式典の成功裏の開催にお祝いを申し上げることができた。2005年5月に小職自身、総務省統計研修所の西研究官（現チーフアドバイザー）他と、フェーズ1の事前調査でNISを訪問し、NIS職員にコンピュータの操作能力を含む各種統計業務の能力についてヒアリングを行ってプロジェクトデザインを検討して以来、9年余りでNISの統計調査実施能力がここまで向上したことに大きな感慨を覚える。これも、総務省統計局、公益財団法人統計情報研究開発センター、(株)日本経済研究所をはじめとする官民の専門家の忍耐強く献身的な技術支援の賜物と感謝している。

9年間の協力期間は他の開発途上国においてはかなり長い協力期間であるが、内戦により国家の行政組織・人材が徹底的に破壊されたカンボジアにおいて、一から行政機関・機能を立ち上げるには相当の時間を要し、9年間は決して長期間とはいえないであろう。本終了時評価調査結果のとおり、プロジェクト目標は、NISの結果分析能力及び州計画局の小地域統計実施能力のさらなる向上の必要性を留保して、比較的高いレベルで達成される見込みである。これにより、約10年にわたるNISとの協力はいったん終了する。なお、NISの結果分析能力向上については、2014年中間年経済調査の分析レポートの作成に係る協力を1年程度の延長により行うことの可能性について今後NISとJICAで検討する予定である。今後はNISと州計画局の自助努力により、結果提供能力を含むさらなる政府統計能力向上が図られることを期待する。

#### (2) カンボジアの政府統計情報のさらなる活用促進

本案件は、フェーズ1以降、内戦後の国づくりにおいて持続的な成長と安定した社会を実現するため、中央省庁及び州政府を政府統計情報の活用の主体として、その開発政策の立案・モニタリングに活用可能な統計情報を整備するために政府統計の実施能力向上を目的としてきた。したがって、NISは統計調査結果を提供するための式典やセミナーを主体的に開催し、2011年経済センサス、2013年中間年人口調査等に関する各種多様のレポートを刊行することにより、中央省庁や州政府における政府統計情報の活用を十分に促進してきたといえる。一方、政府統計情報は、中央や地方の政府機関にとどまらず、他ドナーやNGO、民間企業や研究者・学生等にも活用されている。特に、カンボジアへの日本企業の進出がプロジェクト開始後に急激に活発になり、現在、日本企業からの統計情報の問い合わせ（特に経済調査結果）が各所に入っている。これらのユーザーに対する統計情報の活用を促進するためには、ウェブサイトへの各種レポートの掲載や、CD-ROMでのデータ提供、NIS内に設置されている「データ利用者サービスセンター」の積極的な紹介をユーザーの立場に立ち、ユーザーに使いやすい形で行っていくことが必要と思料する。



(3) NIS への協力の成果の活用―他国政府統計案件との技術交換及び南南協力

NIS への約 10 年にわたる政府統計能力向上の成果は、人口センサスや経済センサス等の統計調査実施能力を中心に、他の開発途上国の政府統計能力の向上支援に活用していくことが適切である。NIS 職員の英語力の問題や、NIS の国際的な研修実施の経験不足により、第三国専門家や第三国研修等の南南協力を、カンボジア NIS をリソースとして直ちに実施することは困難であろう。したがって、まずは、他国（現在統計案件形成中のネパールや今後案件形成の可能性のあるミャンマー等）の政府統計案件との技術交換を引き続き実施することが妥当と思料する。

最後に、本終了時評価調査団の受入れ、調査実施に協力いただいた日本大使館、JICA カンボジア事務所、プロジェクト専門家の皆様に、調査団を代表して心よりお礼申し上げます。

以上

評価グリッドーカンボジア王国政府統計能力向上プロジェクトフェーズ 3 終了時評価調査

	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	調査大項目	調査小項目				
実績の検証	投入の実績	日本側：専門家派遣、機材供与、研修員受入れ、運営コスト費 カンボジア側：C/P 配置、施設・設備、運営コスト費	計画との比較	投入実績データ、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録、投入実績データ等の資料 専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	成果1の達成度 「NIS及び州計画局が経済センサスをはじめ政府統計調査に関する政府統計の計画、調査実施を行えるようになる」	1-1 作成したヴィレッジ地図及び調査区地図の数 1-2 作成したヴィレッジ地図及び調査区地図を利用した統計調査数	指標値との比較	指標データ、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録、指標データ等の資料 専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	成果2の達成度 「NISが経済センサスをはじめ政府統計調査における集計・結果表作成を行えるようになる」	2-1 結果表数 2-2 個別データの作成件数	指標値との比較	指標データ、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録、指標データ等の資料 専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	成果3の達成度 「NISが経済センサスをはじめ政府統計調査における結果分析を行えるようになる」	3-1 NIS 及び州計画局により作成、公表された分析レポートの数	指標値との比較	指標データ、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録、指標データ等の資料 専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	成果4の達成度 「NISが、経済センサスをはじめとする政府統計調査結果の提供及び政府統計に関する理解促進を行えるようになる」	4-1 刊行物、CD、ウェブサイト、統計地図及びセンサスアトラスの数 4-2 研修受講者数 4-3 研修受講者の結果提供の準備・実施方法及びツールについての理解 4-4 開催されたワークショップ、セミナー数	指標値との比較	指標データ、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録、指標データ等の資料 専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	成果5の達成度 「NISが経済センサスに関する小地域統計を実施できるようになる」	5-1 経済センサスに関する、ディストリクト、コミュニティ、ヴィレッジ及び調査区別の小地域統計表数（作成された数、公表された数） 5-2 研修の受講者数 5-3 研修受講者の理解度	指標値との比較	指標データ、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録、指標データ等の資料 専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	成果6の達成度 「州計画局が州レベル以下の行政単位における結果表の作成・公表を行えるようになる（小地域統計サブ	6-1 州計画局向けに実施した研修数 6-2 研修を受講した州計画局の職員数 6-3 結果表作成、結果公表に関する研	指標値との比較	指標データ、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録、指標データ等の資料 専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー

	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	調査大項目	調査小項目				
	プロジェクト)」	修受講者の理解度 6-4 結果表数				
	成果7の達成度 「NIS及び州計画局が政府統計に必要な技術・知識を維持するための、仕組みが構築される」	7-1 詳細手続きに関し整備した各種資料数	指標値との比較	指標データ、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録、指標データ等の資料 専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	成果8の達成度 「NIS及び州計画局の調整能力が向上する」	8-1 関係機関との会議記録 8-2 関係機関との調整会議数	指標値との比較	指標データ、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録、指標データ等の資料 専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
実施プロセス	相手国実施機関のオーナーシップ	C/P機関がプロジェクト・マネジメントにどのような形でかかわっているか	活動実績	質問票の結果、実績報告書等	質問票、プロジェクト資料	資料レビュー、質問票、インタビュー
	関連機関との連携、関係者間コミュニケーション	関連機関とどのように連携しているか、関係者間のコミュニケーションは有効かつ円滑に行われているか	活動実績	質問票の結果、実績報告書等	質問票、プロジェクト資料	資料レビュー、質問票、インタビュー
	技術移転の方法	技術移転の方法は適切か	活動実績	質問票の結果、実績報告書等	質問票、プロジェクト資料	資料レビュー、質問票、インタビュー
	プロジェクトのマネジメント体制	モニタリングの仕組み、意思決定過程、プロジェクト内のコミュニケーションは適切であったか	進捗管理状況	プロジェクト活動状況に関するデータ、JCC開催記録、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、インタビュー
妥当性	相手国開発政策との整合性	相手国の開発政策と上位目標・プロジェクト目標が合致しているか、セクターの優先度は高いか	開発計画の内容・優先度の確認	国家及びセクター政策	各種国家開発計画、JICA事務所、専門家、C/P	資料レビュー、インタビュー
	日本の援助政策との整合性	日本の相手国に対する援助政策に合致しているか	プロジェクト開始時及び最近の援助方針	日本の援助政策、	国別援助方針、事業展開計画、JICA事務所、専門家	資料レビュー、インタビュー
	ターゲットグループ選定の妥当性	ターゲットグループ（NIS 職員約300名、全24 州の計画局統計担当職員約150 名）の選定は適切か	ターゲットグループの規模、性質が活動内容に見合ったものかどうか	事前調査、JCC等各種会議での協議内容、ターゲットグループ・専門家・C/Pの意見	事前調査報告書、プロジェクト各種報告書、JCC等各種会議議事録、ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、インタビュー
	ターゲットグループのニーズへの合致	ターゲットグループのニーズに合致しているか	ニーズとの合致度	これまでの各種調査結果、ニーズ（ターゲットグループ	プロジェクト各種報告書、JCC議事録、ターゲットグループ、専門家、	資料レビュー、質問票、インタビュー、

	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	調査大項目	調査小項目				
				からの要望) 対応状況、ターゲットグループ、専門家、C/Pの意見	C/P	
	日本の技術の優位性	プロジェクトで提供されるサービスは、日本の技術の優位性を生かしたもののか	カンボジアにおける類似支援との比較	研修資料、ターゲットグループ研修等アンケート回答、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録、ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー、
有効性	プロジェクト目標、指標、目標値、指標データ入手手段の適切性	「NIS及び州計画局が、経済センサス、中間年人口調査、経済統計調査及びその他統計活動を実施する能力が向上する」というプロジェクト目標、指標、目標値、指標データ入手手段は適切か	プロジェクト活動、アウトプットとの論理的整合性、入手された指標データの質	PDM、指標データ、専門家、C/Pの意見	PDM、指標データ 専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	プロジェクト目標の達成見込み 「NIS及び州計画局が、経済センサス、中間年人口調査、経済統計調査及びその他統計活動を実施する能力が向上する」がプロジェクト終了時までに達成されるか	・経済センサス、中間年人口調査、経済統計調査その他統計調査の計画・データ収集、集計、分析、結果提供、及び結果の利活用を行う能力のあるNISの職員数 ・経済センサス及び人口センサスの結果表作成、結果提供、利用についての訓練を受け、州計画局を対象に実施する研修で指導員となるに十分な能力を身に付けたRO、AROの数	指標との比較	指標データ、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録、指標データ等の資料 ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	目標達成の促進・阻害要因	目標達成に係る促進要因は何か	促進要因が目標達成に与える影響度	プロジェクト活動に関するデータ (C/Pの動向、プロジェクトの運営状況、意思決定システムの確認等)、 専門家、C/Pの意見	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー、
		目標達成に係る阻害要因は何か	阻害要因が目標達成に与える影響度	プロジェクト活動に関するデータ (C/Pの動向、スタッフ離職率、プロジェクト財務状況等)、 専門家、C/P	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー、

	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	調査大項目	調査小項目				
				の意見		
	プロジェクト目標に至るまでの外部条件の影響	外部条件は満たされたか、変化したか、プロジェクトへどのように影響したか、対応は適切であったか	外部環境変化のプロジェクトとの関係性	外部条件 (①関係機関との必要な調整がNISによって適切に行われる、②カウンターパートが定着する、③必要な予算が確保される) に関する情報、専門家、C/Pの意見	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料 ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
効率性	投入の適切性	日本側投入：日本人専門家	投入の量、内容、時期、計画との比較	分野、人数、派遣期間、専門分野、能力	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録、投入実績表等の資料、ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー、
		日本側投入：機材供与	投入の量、内容、時期、計画との比較	投入機材の種類、数量、金額、目的	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録、投入実績表等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー、観察
		日本側投入：研修員受入	投入の量、内容、時期、計画との比較	研修員所属機関、研修受入人数、期間、研修内容	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録、投入実績表等の資料、元研修員、ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー、
		日本側投入：運営コスト費	投入の量、内容、時期、計画との比較	活動予算額、支出額、支出内容	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録、投入実績表等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
		相手国側投入：C/P配置	投入の量、内容、時期、計画との比較	C/P配置状況、人数、能力	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録、投入実績表等の資料、ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー、

	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	調査大項目	調査小項目				
		相手国側投入：施設・設備	投入の量、内容、時期、計画との比較	施設・設備の利便性、ターゲットグループ・専門家・C/Pの認識	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録、投入実績表等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー、観察
		相手国側投入：運営コスト費	投入の量、内容、時期、計画との比較	活動予算額、支出額、支出内容	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録、投入実績表等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	投入に見合ったアウトプットの産出	プロジェクト実施のための投入に見合ったアウトプットが得られているか	投入とアウトプットの確認	アウトプット目標値の達成状況、専門家・C/Pの意見	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録、その他指標に関する資料 ターゲットグループ、専門家、/CP	資料レビュー、インタビュー、観察
	プロジェクトの進捗状況	プロジェクトは計画どおり進んでいるか	計画と活動の確認	プロジェクト報告書、専門家、C/P、ターゲットグループの意見	R/D、PDM、プロジェクト各種報告書、JCC議事録、指標データ等の資料 ターゲットグループ、専門家、/CP、サイト視察	資料レビュー、質問票、インタビュー、観察
	他のODA事業との連携	他ドナーとの協力、連携はどのように進められたか	事実確認と必要性の検証	関連事業情報	他ドナー支援に関する資料、プロジェクト各種報告書、JCC議事録等に関する資料、ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、インタビュー
	効率性を向上または阻害した要因	効率性を向上させた要因は何か	要因が効率性を向上させる影響度	プロジェクト活動に関するデータ、専門家、C/Pの意見	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
		効率性を阻害した要因は何か	要因が効率性を阻害する影響度	プロジェクト活動に関するデータ、専門家、C/Pの意見	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー

	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	調査大項目	調査小項目				
インパクト	上位目標の達成見込み 「NIS及び州計画局により有用な統計情報が提供され、中央省庁及び州政府の政策、計画、戦略等の立案・実施・モニタリングに活用される」がプロジェクト終了後3～5年に達成されるか	各種活動が継続的に実施される見込みがある。	指標データの現状把握と数値目標設定	指標データ、専門家・C/Pの認識	プロジェクト各種報告書、各種統計	資料レビュー、インタビュー
	波及効果	プロジェクトがもたらした正負の影響は何か	影響の確認	ターゲットグループ・専門家・C/Pの認識	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、ターゲットグループ、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー、
	上位目標に至るまでの外部条件の影響	外部条件は満たされたか、変化したか、プロジェクトへどのように影響したか、対応は適切であったか	外部環境変化のプロジェクトとの関係性	外部条件に関する情報（①政策立案者が統計情報の重要性について認識する、②必要な予算が確保される）、専門家、C/Pの意見	R/D、プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
持続性	組織面	C/P機関の政策的位置づけ	政策的位置づけに関する事実確認	専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
		C/P機関の経営・意思決定システム	意思決定システムに関する事実確認	専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
		C/P機関の今後の方向性	今後の方向性に関する事実確認	JICA、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
		C/P機関の人員配置の適切性	C/Pの人数、能力、モチベーション、定着率等の確認	専門家、C/P、ターゲットグループの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
		プロジェクト管理の現状	運営管理、モニタリング等の仕組みに関する事実確認	専門家、C/P、ターゲットグループの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	財政面	C/P機関の予算手当て状況	相手国側負担割合の確認	相手国側の投入実績、財務データ、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー

評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
調査大項目	調査小項目				
	財政の透明性	財務データ（収支）確認	相手国側の投入実績、財務データ、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
技術面	技術移転したC/Pの業務習得状況	C/Pの業務習熟状況	C/Pの業務に関する情報、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	運営・研修マニュアルの整備状況	運営・研修マニュアルの質と利用状況	研修・運営等に関するマニュアル、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	機材の維持管理手順の定着	機材管理手順の確認	機材維持管理に関する情報、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー
	情報マネジメント	情報マネジメント状況の確認	情報マネジメントに関する情報、専門家、C/Pの意見	プロジェクト各種報告書、JCC議事録等の資料、専門家、C/P	資料レビュー、質問票、インタビュー



